福岡大学医学部年報

令和４年度

福岡大学医学部

目　　次

はじめに …… 1

Ⅰ．医学部医学科・医学研究科
1．学科主任挨拶 …… 4
2．令和４年度医学部医学科年譜 …… 6
3．医学部（医学科）病院の教員組織 …… 7
4．入試・教務・国試 …… 20
5．学生の表彰・指導及び課外活動 …… 29
6．大学院医学研究科 …… 32
7．学位取得 …… 34
8．国際交流 …… 36
9．研究業績 …… 38
1）解剖学 …… 38
2）細胞生物学 …… 40
3）生理学 …… 42
4）生化学 …… 43
5）薬理学 …… 43
6）病理学 …… 46
7）微生物・免疫学 …… 51
8）再生・移植医学 …… 53
9）衛生・公衆衛生学 …… 55
10）法医学 …… 62
11）医学教育推進講座 …… 64
12）医学系研究・生命医療倫理部門 …… 65
13）総合医学研究センター …… 65
14）腫瘍・血液・感染症内科学 …… 69
15）内分泌・糖尿病内科学 …… 73
16）心臓・血管内科学 …… 78
17）消化器内科学 …… 82
18）呼吸器内科学 …… 95
19）腎臓・膠原病内科学 …… 99
20）脳神経内科学 …… 103
21）精神医学 …… 107

22）小児科学 …… 116
23）皮膚科学 …… 120
24）放射線医学 …… 125
25）消化器外科学 …… 129
26）呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 …… 134
27）心臓血管外科学 …… 138
28）脳神経外科学 …… 139
29）整形外科学 …… 143
30）形成外科学 …… 155
31）眼科学 …… 157
32）耳鼻咽喉科学 …… 159
33）腎泌尿器外科学 …… 161
34）産科婦人科学 …… 164
35）麻酔科学 …… 166
36）歯科口腔外科学 …… 168
37）臨床検査医学 …… 170
38）救命救急医学 …… 171
39）福岡大学病院病理部・病理診断科 …… 175
40）福岡大学病院輸血部 …… 178
41）福岡大学病院リハビリテーション部 …… 179
42）福岡大学病院総合診療部 …… 181
43）福岡大学病院薬剤部 …… 182
44）福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科 …… 184
45）福岡大学筑紫病院呼吸器内科 …… 185
46）福岡大学筑紫病院消化器内科・内視鏡部 …… 188
47）福岡大学筑紫病院小児科 …… 198
48）福岡大学筑紫病院外科 …… 199
49）福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科 …… 202
50）福岡大学筑紫病院整形外科 …… 203
51）福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳卒中センター・脳神経内科 …… 204
52）福岡大学筑紫病院泌尿器科 …… 206
53）福岡大学筑紫病院眼科 …… 207
54）福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科 …… 209
55）福岡大学筑紫病院麻酔科 …… 209
56）福岡大学筑紫病院病理部・病理診断科 …… 210
57）福岡大学西新病院循環器内科 …… 214

Ⅱ．医学部看護学科
１．学科主任挨拶 …… 217
２．令和４年度医学部看護学科年譜 …… 218
３．看護学科教員組織 …… 219
４．入学試験・教育活動・国家試験・進路支援 …… 220
５．学生の指導・課外活動 …… 227
６．国際交流 …… 228
７．総務・広報・図書・研究推進活動 …… 229
８．医学研究科看護学専攻（修士課程）…… 234
９．社会活動 …… 237
10．研究業績 …… 238

Ⅲ．福岡大学病院 …… 253

Ⅳ．福岡大学筑紫病院 …… 259

Ⅴ．福岡大学西新病院 …… 263

Ⅵ．付属施設・組織
１）福岡大学図書館医学部分館 …… 267
２）アニマルセンター …… 268
３）医学部 RI 施設 …… 268
４）福岡大学医学会 …… 269

はじめに

医学部長　小　玉　正　太

長年、医に関する倫理委員会の委員長として、多くの倫理審査に携わった経験から、常に公知すべき諸言があります。申請する方には「臨床研究は研究計画を立案し、申請書を作成する段階から（施設長認可の開始日ではなく)、既に研究は始まっている。」とお話ししています。まず、臨床研究計画書を作成すること自体が臨床研究であることを知って頂きたいと思います。さらに「研究は仮説をたてること、実験はその証明であり、論文はその二つの集大成である」と言われますが、研究成果が新しい発見であるためには、学会や査読付き論文で研究成果を公表する必要があります。ここで、仮説をたてる、実験する､論文を書く行為はそれぞれ独立したもので、サイエンティストはそれらすべてのプロセスに於いてバランスがとれた状況でなければなりません。実験はするけど論文は書かない、理論があっても行動がない、臨床はするけど研究はしない等、様々な状況が学部内で散見されます。そこで真の医学研究者は、十分な経験と文献的知識を合わせもち論文執筆を行うことが出発点であることを知って頂きたいと思います。

現在､研究における透明性や倫理性､得られたデータの品質保証や説明責任までが問われる時代になってきました。科学論文の捏造、臨床研究の金銭的疑惑等、日本での医学研究や医療倫理の在り方がマスコミを賑わしています。それに対応し、平成25年11月には､全国医学部長病院長会議から、また、平成26年２月には日本医学会から「医学研究の Conflicts of Interest（COI）マネージメントに関するガイドライン」改訂版が出版され、医学系研究の実施や推進のハードルがかなり高くなったのは事実です。平成27年４月から､「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が実質化しました。それにあわせて、本学における医に関する倫理委員会の規定改正を行い、28年９月から新しいシステムで動いています。つまり、医学部、福岡大学病院、筑紫病院およびその他の部門からでた「ヒトを対象とする臨床研究」は一つの倫理で審査されて行くことになります。平成30年４月１日から、新規に臨床研究法が施行されましたが、それに対応すべく認定倫理委員会の設置を模索しています。将来的に、大学内に研究推進部とは別に Academic Research Organization（ARO）の組織設置等が必要と考えます。

医学部では医学教育分野別評価を受審していますが、これは教育の質保障にあります。アウトカム基盤型教育を導入し、卒業時アウトカム（学修成果）として「FU-RIGHT」を掲げ、PDCA サイクル等を効率的に機能させることによって質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準にあることを福岡大学自らの責任でもって説明・証明する必要があります。教育のインプット、プロセス、アウトプットが満足されたもので、今後は教育プログラムが継続的かつ恒常的に評価・モニター・改善されなければなりません。教育改革の真只中にいる私たちは、自らを律し、グローバルな大学人として、学部および大学院教育に取り組まなくてはならない責務を負っています。そこで、この年報を活用し福岡大学医学部の質文化形成においてさらなる発展を目指したいと思います。

Ⅰ．医学部医学科・医学研究科

1．学科主任挨拶

小　玉　正　太

令和４年度にかけて継続的に取り組んだ入試・教育・研究の改善・改革を紹介します。

以前行われた入試の合否判定での指摘を真摯に受けとめ、入学センター、医学部内部構成委員に外部からの評価委員を加えた委員会で議論を行い、改革に努めてきました。第４回の教務入試検討委員会において、入試選抜での属性への対応や面接のあり方の提言がなされました。更には、Diploma Policy（DP）に合致した医学生を輩出するために、Institutional Research（IR）部門から面接点数や科目点数から問題点を抽出し Admission Policy（AP）に反映する改革を始めています。入学選抜は AP にそった学生を選抜するだけでなく、次の段階としては DP に合致すべき素養に富んだ学生を入学させる必要があります。さらに地域枠に関しては、卒後ミッションが不透明になり易かったために、福岡大学病院あるいは筑紫病院、西新病院での研修を必須とし、附属病院からの地域医療への貢献を目指すものとしています。卒前後の実習・研修も医学部の教育推進講座と連携をはかり、学外連携施設病院での実習をはじめ、病院での教育部門を再編成強化し One Team 化を推進しています。

学科カリキュラムに関しては、カリキュラム改革が浸透し解剖学は１年生から座学がスタートし、生化学も１年次になっています。M4年次には共用試験（Computer Based Testing: CBT）があり、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）と合わせて、本年度から法定化され実施されることは皆様ご存知のとおりです。昨年度同様に、外部関係者やご父兄にも出席をお願いし、進級を許可された M4学生全員および学内教職員が臨席のもと、「Student Doctor 認定式」を行う予定です。

M6学年の卒業判定は領域別試験Ⅰ～Ⅲを導入していますし、全国模試受験は卒業に必須な事項になります。再試験評価も厳しくなりましたが、今からの社会は、どこにいても試されることが要求されます。従って、そのストレスをはねのける力を養っていく必要があります。医師国家試験も平成30年春から、３日間から２日間に、500問から400問に変化し、臨床実習で経験する様々な事柄が問われるようになってきました。医学科内のカリキュラム検討委員会では学生が参加して意見を述べるようにしています。本学医学部は、日本医学教育評価機構（JACME）より、世界医学教育連盟（WFME）のグローバルスタンダードに基付く医学教育プログラムの評価認定「適合」（認定期間：2020/11/1～2027/10/31）となっています。

研究面では、医学科の若手研究者の科学研究費等の外部資金獲得状況が上がったこと、また、医学部･病院においては、研究機関研究所が産学官共同研究機関研究所が再編され学内の研究助成の見直しがなされています。

医学科の医学教育推進講座は、医学教育、クリニカルクラークシップ、分野別評価、カリキュラム全般、国家試験合格率アップ、OSCE、PCC-OSCE、PBL/チュートリアル、学生評価・教育評価、地域医療との関わり、海外実習、シミュレーションセンター、リサーチマインドの養成等、様々な課題に向かって対応していますが、これはすべての講座・病院診療科（部）の積極的な支援があって成立するものです。さらに、コロナ禍の影響で教育や働き方の概念も多くの変容を遂げました。官庁関連・全国会議や学会、授業のあり方や勤務のあり方に至るまで、多様性が問われ医学部ではその時々に最善と思われる方策を選択してきました。今後もこの経験を基に、会議体のあり方や教育現場での情報発信を臨機応変に応え、ボトムアップされた意見聴取から新たな対応とシェイプアップされた組織体への編成が必要です。

最後になりましたが、今回教育や臨床に尽力頂きました教官・事務・教育技術職員の皆様に感謝申し上げます。今後とも、福岡大学医学部医学科の発展のために、よろしくご協力お願いします。

Fukuoka University FU Medicine RIGHT
Relationship Intelligence Gentleness Health Teaching

福岡大学医学部医学科の使命（ミッション）

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部医学科の学修成果（アウトカム）

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に

❶ 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
❷ 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
❸ グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
❹ 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域（Ⅰ～Ⅵ）ごとのコンピテンシー（43項目）により達成されます。

Ⅰ プロフェッショナリズム

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。

1. 医療者として法的責任、規則を遵守できる。
2. 生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。
3. 他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。
4. 患者の個人情報保護を遵守できる。
5. 多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。
6. 患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。
7. 医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。
8. 患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。

Ⅱ 医学的知識

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。

1. 正常構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理、行動
4. 病因、構造と機能の異常
5. 診断、治療
6. 医療安全
7. 疫学、予防、公衆衛生
8. 保健・医療・福祉制度
9. 医療経済

Ⅲ 診療技術・患者ケア

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。

1. 患者から病歴を的確に聴取できる。
2. 成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。
3. 患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。
4. 診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。
5. 頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Based Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。
6. 患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。
7. POS (Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。
8. 患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。

Ⅳ コミュニケーションとチーム医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。

1. 患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。
2. 多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。
3. 他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。
4. 患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。
5. 医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。

Ⅴ グローバルな視野と地域医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。

1. 医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。
2. 地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。
3. 行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。
4. 地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。
5. 海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。
6. 国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。

Ⅵ 科学的探究心と自律学習能力

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。

1. 基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。
2. 最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。
3. ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。
4. 未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。
5. 自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。
6. 診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。
7. 学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。

（2017.5.10）

2．令和４年度　医学部医学科年譜

年月日	行　　事	付　　記
【令和４年】		
４月１日	学年始	
	入学式	
	医学部新入生歓迎式	
	医学部第51期生　110名	
	医学科新任・昇格教育職員ガイダンス	於：本館Ａ会議室
４月７日	MM1 フレッシュマンスタートアップミーティング	於：RI 大講堂
５月23日	第１回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
５月31日	教育技術職員との懇談会	於：基礎第一講義室
６月25日	MM6 父母懇談会	
７月11日	西日本医科学生総合体育大会結団式	
７月16日	地方父母懇談会（広島）	
８月７日	オープンキャンパス	
９月６日	第２回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
10月22日	第49回慰霊祭【教職員と学生のみで実施】	於：ユウベル積善社福岡斎場
11月１日	MM4 CBT	
11月12日	父母後援会総会	於：ANA クラウンプラザホテル
11月24日	第３回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
11月27日	令和５年度Ａ方式推薦入試（志願者134名・受験者131名・合格者29名）	
	地域枠推薦入試（志願者38名・受験者38名・合格者10名）	
	附属校推薦入試（志願者10名・受験者10名・合格者２名）	
12月15日	MM4 OSCE	
【令和５年】		
２月２日	令和５年度一般入試（MM 一次選考）	
	本学・東京・名古屋・大阪（志願者2,127名・受験者1,920名・合格者467名）	
２月３日	白衣授与・Student Doctor 認定式	於：RI 大講堂
２月４日	第117回医師国家試験（５日まで）受験者：新卒112名・既卒６名	
２月14日	令和５年度一般入試（MM 二次選考）（受験者380名・合格者135名）	
	共通テスト利用型Ｉ期（MM 二次選考）（受験者101名・合格者26名）	
２月24日	第４回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
３月16日	第117回医師国家試験合格発表	
	新卒112名中102名合格　合格率91.1％	
	既卒６名中３名合格　　合格率50.0％	
３月19日	卒業式	
	医学部学位記授与式	於：RI 大講堂
	医学部医学科46回生　112名卒業	
３月31日	学年終了	

〈コロナウイルス感染症により中止となった行事〉

新入生フレッシュマンキャンプ
啓明大学派遣、受入れ
医学祭
西日本医科学生総合体育大会
医学部長杯争奪ソフトボール大会
医学部長杯争奪バレーボール大会

3．医学部（医学科）病院の教員組織

令和４年４月１日現在

医学科基礎講座							
講座＼資格	教授	准教授	講師	講師４条７号		助教	
解剖学	立花　克郎		貴田　浩志	フェリル　ロリト	遠藤日富美	山﨑裕太郎	
細胞生物学	白澤　専二	角田　俊之 石倉　周平		小柳　緑 土井　佳子	吉田　和真	田中　陽子	
生理学	藤田　孝之		本田　啓	内田　俊毅		胡　耀鵬	平石　敬三
生化学	安永晋一郎		芝口　浩智	白須　直人	大野　芳典		
薬理学	岩本　隆宏	根本　隆行		喜多　知 小松　知広	篠田　康晴		
病理学	濵﨑　慎	上杉　憲子		古賀　佳織	青木光希子	武藤　礼治	
微生物・免疫学	廣松　賢治			石井　一成 伊藤　竜太 伴　文武	栗原　悠介 清水　章文	吉村　芳修	尾鶴　亮
再生・移植医学	小玉　正太	坂田　直昭		田中　智子			
衛生・公衆衛生学	有馬　久富	吉村　力	前田　俊樹	川添　美紀 佐藤　敦	阿部真紀子		
法医学	久保　真一	柏木　正之		松末　綾		ウォーターズ， ブライアンＪ.	髙山　みお
医学教育推進講座	安元　佐和	八尋　英二		武岡　宏明			
教育計画部							
医学系研究・生命医療倫理部門		今泉　聡					
人体生物系総合研究室							
生体制御系総合研究室							
病態構造系総合研究室							
病態機能系総合研究室							
先端医療科学系総合研究室							
社会医学系総合研究室							

総合医学研究センター	岩﨑　昭憲（呼吸器乳腺小児外科）
	向坂彰太郎（消化器内科学）
	林　　英之（眼科学）
	廣瀬　伸一（小児科学）
	松永　　彰（臨床検査医学）

・［　　］は休職

令和４年４月１日現在

医学科臨床講座						
資格 / 講座	教授	准教授	講師	講師４条７号	助教	
腫瘍・血液・感染症内科学	髙松　泰	田中　俊裕			茂木　愛	林　武生
内分泌・糖尿病内科学	川浪　大治		髙士　祐一			
心臓・血管内科学	三浦伸一郎	杉原　充			三根かおり	小牧　智
消化器内科学	平井　郁仁	釈迦堂　敏		石橋　英樹	船越　禎広	
呼吸器内科学	藤田　昌樹	井上　博之			井形　文保	
腎臓・膠原病内科学	升谷　耕介	安野　哲彦			氷室　尚子	冷牟田浩人
脳神経内科学	坪井　義夫	藤岡　伸助			井上　賢一	西田　明弘
精神医学	川嵜　弘詔		堀　輝	衞藤　暢明	田口　公之	林　礼雄
小児科学	永光信一郎				佐々木聡子 林　仁美	伊東　和俊
皮膚科学	今福　信一		古賀　文二	佐藤　絵美	筒井　啓太 松田　絵奈	［大賀　保範］
放射線医学	吉満　研吾		高山　幸久	浦川　博史	赤井　智春	日隈由紀枝
消化器外科学	長谷川　傑	塩飽　洋生			槇　研二 島岡　秀樹	中島　亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	佐藤　寿彦				［阿部　創世］ 上田雄一郎	緑川　健介 徳石　恵太
心臓血管外科学	和田　秀一		桑原　豪		林田　好生	松村　仁 藤井　満
脳神経外科学	安部　洋				榎本　年孝 ［高原　正樹］ ［吉永進太郎］	天本　宇昭 入江由希乃 福本　博順
整形外科学	山本　卓明		木下　浩一	村岡　邦秀	石松　哲郎	塩川　晃章
形成外科学	髙木　誠司				小柳　俊彰	
眼科学	内尾　英一			高橋　理恵	川村　朋子	原田　一宏
耳鼻咽喉科学	坂田　俊文		末田　尚之		妻鳥敬一郎	宮崎　健 前原　宏基
腎泌尿器外科学	羽賀　宣博	松岡　弘文		松﨑　洋吏	郡家　直敬	岡部　雄
産科婦人科学	宮本　新吾	四元　房典		伊東　智宏	吉川　賢一	清島　千尋
麻酔科学	秋吉浩三郎			楠本　剛	外山恵美子	［中森絵里砂］
歯科口腔外科学	近藤　誠二			喜多　涼介 吉野　綾		
臨床検査医学	小川　正浩	大久保久美子				
救命救急医学	石倉　宏恭	岩朝　光利				

• ［　　］は休職

令和４年４月１日現在

福岡大学病院										
診療科・部・センター	教授	准教授	講師			講師４条７号	助教			
腫瘍・血液・感染症内科		磯部　泰司				佐々木秀法	中島　勇太	石津　昌直	後藤　真喜	
内分泌・糖尿病内科						横溝　　久	牟田　芳実			
循環器内科			末松　保憲	有村　忠聴 加藤　悠太	桑野　孝志 志賀　悠平		平田　哲夫	森田　英剛		
消化器内科			横山　圭二			田中　　崇 芦塚　信也	久能　宣昭	土屋　直壮	高田　和英	福永　篤志
呼吸器内科		濵田　直樹				海老　規之	池田　貴登	佐々木朝矢	［中尾　明］	春藤　裕樹
腎臓・膠原病内科		三宅　勝久	伊藤　建二				［多田 和弘］			
脳神経内科						合馬　慎二 三嶋　崇靖				
精神神経科							飯田　仁志	原田　康平	吉村　裕太 畑中　聡仁	北井　良和
小児科			八ツ賀秀一	藤田　貴子	吉兼由佳子		久保田　慧	音田　泰裕 小寺　達朗	後藤　綾子 古賀　信彦	新居見俊和 ［坂口　崇］
皮膚科			［柴山 慶継］			内藤　玲子	清水　裕毅			
放射線科							肥田　浩亮	伊東　絵美	中根慎一朗	谷　　知允
消化器外科			梶原　正俊 内藤　滋俊	山田　哲平	［小島 大望］		［長野 秀紀］	佐々木貴英 棟近　太郎	橋本　恭弘 松本　芳子	渡邉　利史 ［石井 文規］
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科		吉永　康照	早稲田龍一			宮原　　聡	田中　益美	中島　裕康	［岩中　剛］	
心臓血管外科							［寺谷 裕充］	清水　真行	古井　雅人	
脳神経外科		野中　　将	森下　登史			小林　広昌	堀尾　欣伸	河野　　大		
整形外科		前山　　彰				三宅　　智 田中　　潤 萩尾　友宣	瀬尾　　哉	中山　鎭秀	廣田　高志	松永　大樹
形成外科						大山　拓人	森田　　愛	鈴木翔太郎	岡本　理沙	
眼科		尾崎　弘明					上野　智弘	小林　彩加		
耳鼻咽喉科			田浦　政彦				打田　義則			
腎泌尿器外科			中村　信之				宮崎　　健			
産婦人科		宮田　康平	漆山　大知	倉員　正光	深川　怜史	野口　幸子	平川　豊文	重川浩一郎		
麻酔科			［原賀 勇壮］				*中野 涼子 今給黎佑理	平井　規雅 佐藤　聖子	三股　亮介 熊野　仁美	柴田　志保
歯科口腔外科		梅本　丈二	瀬戸　美夏							
臨床検査部			髙田　耕平				小柳　尚子			
救命救急センター		喜多村泰輔	仲村　佳彦			星野　耕大	［山﨑 玲子］ 松岡　優太 大藏　裕子	鯉江めぐみ 高山　和之 小田　一徳	石橋　卓也 森本　紳一 泉谷　義人	村西謙太郎 髙橋　公子 川﨑　英輝
病理部		濵田　義浩								
輸血部		熊川みどり								
内視鏡部						石田　祐介				
放射線部第一　第二	長町　茂樹									
手術部		重松　研二	吉村　文博				岩下　耕平	富永　将三	南原菜穂子	
リハビリテーション部		鎌田　　聡	藤見　幹太							
総合周産期母子医療センター		廣瀬龍一郎 太田　栄治				井槌　大介	［中村 公紀］ 瀬戸上貴資	讃井　絢子 宮本　辰樹	川野　裕康	渋井　勇一
総合診療部	鍋島　茂樹						野下　育真	日吉　哲也	加藤　禎史	坂本　篤彦
臓器移植医療センター	白石　武史									
臨床研究支援センター	野田　慶太									
卒後臨床研修センター		北島　　研								
医療情報部		吉田陽一郎								
感染制御部	高田　　徹	戸川　　温								
再生医療センター		吉松　軍平								
医療安全管理部			小吉　里枝			中村伸理子				
臨床医学研究センター	志村　英生									

• ［　　］は休職

令和４年４月１日現在

筑紫病院

診療科	教授	准教授	講師	講師4条7号	助教		
循環器内科	河村　彰	池　周而	高宮　陽介	衛藤　聡	矢野　雅也	山下　素樹	
呼吸器内科	石井　寛		木下　義晃		上田　裕介	和田　健司	吉田　祐士
内分泌・糖尿病内科	小林　邦久		阿部　一朗		工藤　忠睦		
消化器内科	植木　敏晴	久部　高司	大津　健聖		小野陽一郎 石川　智士	野間栄次郎 [今村健太郎]	丸尾　達 八坂　達尚
小児科	小川　厚	井上　貴仁			[平井　貴彦] 加倉　寛也	塩手　仁也	森　さよ
外科	渡部　雅人	東　大二郎	宮坂　義浩		薦野　晃 川元　真	柴田　亮輔 [上床　崇吾]	坂本　良平 甲斐田大貴
呼吸器・乳腺外科	山下　眞一	吉田　康浩					
整形外科	伊﨑　輝昌		坂本　哲哉	野村　智洋	小阪　英智	蓑川　創	
脳神経外科	東　登志夫	新居　浩平	坂本　王哉		井上　律郎 [森永　裕介]	[光武　尚史] 花田　迅貫	平田　陽子 松田　浩大
泌尿器科				宮島　茂郎	平　浩志		
眼科		久冨　智朗			[藤田　秀昭]	海津　嘉弘	[鈴木　脩司]
耳鼻いんこう科			三橋　泰仁		佐藤　晋	[梅野　悠太]	
放射線科		高野　浩一			山本良太郎		
麻酔科				若崎るみ枝	中原　春奈	野口　紗織	村山　和哉
救急科		松尾　邦浩			安川　重義 奥田　哲	平野　陽介 髙橋　宏幸	金城　健 [武田　輝之]
内視鏡部	八尾　建史			宮岡　正喜	金光　高雄		
病理部	二村　聡		原岡　誠司		田邉　寛	吉村　雅代	
臨床検査部					太田　敦子		
感染制御部		串間　尚子					
炎症性腸疾患センター					髙津　典孝	古賀　章浩	
脳卒中センター		津川　潤			竹下　翔		
緩和ケアセンター					箱田　浩介		
臨床医学研究センター	浦田　秀則 柴田　陽三	石井　龍					

令和４年４月１日現在

西新病院

診療科		教授	准教授	講師	講師4条7号	助教		
内科	消化器		入江　真			阿部　光市	松岡　賢	
	循環器		西川　宏明	則松　賢次 井上　寛子 河野　靖 森井　誠士		二見真紀人	長田　芳久	上田　隆士
	呼吸器				赤木　隆紀	青山　崇		
	糖尿病・代謝・内分泌					福田　高士		

・[　　] は休職

医学部（医学科）病院の教員組織

所属＼資格		教　授	准教授	講　師	講師４条７号	助　教	計
医学科	基　礎	11	9	4	24	9	57
	臨　床	30	11	7	11	50（５）	109（５）
	総　研	0	0	0	0	0	0
	（小　計）	41	20	11	35	59（５）	166（５）
福大病院		6	20	29（３）	19	93(10)	167(13)
筑紫病院		13	12	9	5	54（９）	93（９）
西新病院		0	2	4	1	7	14
合　計		60	54	53（３）	60	213(24)	440(27)

教育技術職員	医学部医学科　55 ： 基礎　12　　臨床　25　　総研　5　　その他　13		
事務職	13	労務職員	2

①（　　）は再掲した休職者・休業者（[　　]、*）数。合計には休職者・休業者を含み、兼務者は除く。
②総研に医学部 RI 施設を含む。
③医学部特別寄付講座、寄付研究連携講座、アニマルセンターは除く。

寄付研究連携講座　人員一覧表

令和４年４月１日現在

所　属	寄付研究連携講座名称	教　授	講　師	講師４条７号	助 教	研究代表者	備　考
医学部	分子循環器病治療学講座					三浦伸一郎	H23．4～R 5．3
医学部	心血管病対策マネジメント講座					三浦伸一郎	R 4．4～R 9．3
医学部	心血管疾患先進治療研究講座				田代　浩平	小川　正浩	H23．4～R 5．3
医学部	がん薬物療法研究講座					髙松　泰	H24．4～R 5．3
医学部	地域・救急医療学講座					三浦伸一郎	H24．4～R 5．3
医学部	循環生理検査治療学講座					小川　正浩	H24.10～R 4．9
医学部	西日本地区周産期医療研究講座				柴田　磨己	宮本　新吾	H26．4～R 5．3
医学部	応用再生医療開発講座					小玉　正太	H27．4～R 5．3
医学部	応用異種移植発展講座					小玉　正太	R 3．7～R 8．6
医学部	ニューロサイエンス・精神医学研究講座				後藤　玲央	川嵜　弘詔	H27.10～R 5．3
医学部	呼吸睡眠医学講座					藤田　昌樹	H28．4～R 5．3
医学部	運動器先端医療開発講座				柴田　光史 土肥憲一郎 柴田　達也	山本　卓明	H28.10～R 4．9
医学部	先端スポーツ医学開発講座					山本　卓明	R 3.10～R 8．9
医学部	細胞病態解析学講座					髙松　泰	H29．4～R 5．3
医学部	腎不全総合医療学講座			渡邉　真穂		升谷　耕介	H30．8～R 5．7
医学部	手術評価医療学講座					佐藤　寿彦	H31．3～R 5．3
医学部	在宅療養支援・リハビリテーション講座					三浦伸一郎	H31．4～R 6．3
医学部	多職種連携パーキンソン病治療研究講座				長城　晃一	坪井　義夫	R 1.10～R 4．9
医学部	神経疾患遠隔診療研究講座				河田　純一 栗原可南子	坪井　義夫	R 2．4～R 5．3
医学部	下肢救済管理学講座					三浦伸一郎	R 3．4～R 8．3
筑紫病院	炎症性腸疾患先端治療学講座					植木　敏晴	H24．4～R 5．3

特別寄付講座　人員一覧

令和４年４月１日現在

所　属	特別寄付講座名称		助　教	研究代表者	備　考
医学部	地域医療管理学講座	心臓・血管内科学	出石礼仁　川井美早紀 満田寛子	小玉　正太	H22．4～R 7．3
		総合診療部	崎原永志		
		筑紫病院・消化器内科	永山林太郎　土居雅宗 天野良祐		

・任期付採用者のみ
・定員には含めない

退職者一覧

番号	所　　属	資　格	氏　名	発令日
1	福大病院 産婦人科	講師	深川　怜史	令和４年５月31日
2	医学部 耳鼻咽喉科学	助教	宮崎　　健	令和４年５月31日
3	筑紫病院 小児科	助教	加倉　寛也	令和４年６月30日
4	福大病院 脳神経外科	准教授	野中　　将	令和４年９月30日
5	筑紫病院 消化器内科	講師	大津　健聖	令和４年９月30日
6	医学部 脳神経外科学	助教	入江由希乃	令和４年９月30日
7	福大病院 総合周産期母子医療センター	助教	中村　公紀	令和４年９月30日
8	筑紫病院 臨床検査部	助教	太田　敦子	令和４年９月30日
9	西新病院 糖尿病・代謝・内分泌	助教	福田　高士	令和４年９月30日
10	医学部 心臓血管外科学	助教	藤井　　満	令和５年１月31日
11	医学部 産科婦人科学	教授	宮本　新吾	令和５年３月31日
12	福岡大学病院 臨床医学研究センター	教授	志村　英生	令和５年３月31日
13	医学部 腎泌尿器外科学	准教授	松岡　弘文	令和５年３月31日
14	福岡大学病院 輸血部	准教授	熊川みどり	令和５年３月31日
15	医学部 細胞生物学	講師 （４－７）	小柳　　緑	令和５年３月31日
16	医学部 消化器内科学	講師 （４－７）	石橋　英樹	令和５年３月31日
17	医学部 整形外科学	講師 （４－７）	村岡　邦秀	令和５年３月31日
18	筑紫病院 循環器内科	講師 （４－７）	衛藤　　聡	令和５年３月31日
19	筑紫病院 外科	講師 （４－７）	薦野　　晃	令和５年３月31日
20	医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	助教	緑川　健介	令和５年３月31日
21	医学部 病理学	助教	武藤　礼治	令和５年３月31日
22	医学部 脳神経内科学	助教	西田　明弘	令和５年３月31日
23	医学部 皮膚科学	助教	大賀　保範	令和５年３月31日
24	医学部 皮膚科学	助教	松田　絵奈	令和５年３月31日
25	医学部 脳神経外科学	助教	髙原　正樹	令和５年３月31日
26	医学部 麻酔科学	助教	中森絵里砂	令和５年３月31日
27	医学部 寄付研究連携 神経疾患遠隔診療研究講座	助教	河田　純一	令和５年３月31日
28	医学部 寄付研究連携 神経疾患遠隔診療研究講座	助教	栗原可南子	令和５年３月31日

番号	所　　属	資　格	氏　名	発令日
29	医学部 寄付研究連携 運動器先端医療開発講座	助教	柴田　光史	令和５年３月31日
30	医学部 寄付研究連携 運動器先端医療開発講座	助教	土肥憲一郎	令和５年３月31日
31	医学部 特別寄付講座 地域医療管理学講座	助教	満田　寛子	令和５年３月31日
32	医学部 特別寄付講座 地域医療管理学講座	助教	崎原　永志	令和５年３月31日
33	医学部 特別寄付講座 地域医療管理学講座	助教	土居　雅宗	令和５年３月31日
34	医学部 特別寄付講座 地域医療管理学講座	助教	永山林太郎	令和５年３月31日
35	福岡大学病院 循環器内科	助教	森田　英剛	令和５年３月31日
36	福岡大学病院 循環器内科	助教	矢野祐依子	令和５年３月31日
37	福岡大学病院 放射線科	助教	伊東　絵美	令和５年３月31日
38	福岡大学病院 脳神経外科	助教	小田　一徳	令和５年３月31日
39	福岡大学病院 麻酔科	助教	中野　涼子	令和５年３月31日
40	福岡大学病院 救命救急センター	助教	川﨑　英輝	令和５年３月31日
41	福岡大学病院 救命救急センター	助教	髙橋　公子	令和５年３月31日
42	福岡大学病院 救命救急センター	助教	高山　和之	令和５年３月31日
43	福岡大学病院 手術部	助教	南原菜穂子	令和５年３月31日
44	福岡大学病院 総合周産期母子医療センター	助教	渋井　勇一	令和５年３月31日
45	筑紫病院 小児科	助教	笹岡　大記	令和５年３月31日
46	筑紫病院 小児科	助教	森　　さよ	令和５年３月31日
47	筑紫病院 脳神経外科	助教	平田　陽子	令和５年３月31日
48	筑紫病院 脳神経外科	助教	松田　浩大	令和５年３月31日
49	筑紫病院 脳神経外科	助教	光武　尚史	令和５年３月31日
50	筑紫病院 脳神経外科	助教	森永　裕介	令和５年３月31日
51	筑紫病院 泌尿器科	助教	平　　浩志	令和５年３月31日
52	筑紫病院 眼科	助教	海津　嘉弘	令和５年３月31日
53	筑紫病院 眼科	助教	鈴木　脩司	令和５年３月31日
54	筑紫病院 眼科	助教	藤田　秀昭	令和５年３月31日

番号	所　　属	資　格	氏　名	発令日
55	筑紫病院 救急科	助教	金城　　健	令和５年３月31日
56	西新病院 循環器〈消化器（心臓血管・リズムセンター）〉	助教	二見真紀人	令和５年３月31日

休職者一覧

番号	所　　属	資　格	氏　名	休職期間	備　　考
1	福大病院 皮膚科	講師	柴山　慶継	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡中央病院出向
2	福大病院 消化器外科	講師	小島　大望	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	小倉記念病院出向
3	福大病院 麻酔科	講師	原賀　勇壮	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	北九州市立医療センター出向（延長）
4	医学部 脳神経外科学	助教	高原　正樹	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	佐世保中央病院出向（延長）
5	医学部 脳神経外科学	助教	吉永進太郎	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	佐世保中央病院出向（延長）
6	医学部 皮膚科学	助教	大賀　保範	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	高木病院出向（延長）
7	医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	助教	阿部　創世	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡青洲会病院出向
8	医学部 麻酔科学	助教	中森絵里砂	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡中央病院出向（延長）
9	福大病院 呼吸器内科	助教	中尾　　明	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	医療法人西福岡病院出向
10	福大病院 腎臓・膠原病内科	助教	多田　和弘	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	済生会二日市病院出向 ※採用と同時に休職
11	福大病院 小児科	助教	坂口　　崇	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡中央病院出向
12	福大病院 消化器外科	助教	石井　文規	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡徳洲会病院出向
13	福大病院 消化器外科	助教	長野　秀紀	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	白十字病院出向
14	福大病院 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	助教	岩中　　剛	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡東医療センター出向
15	福大病院 救命救急センター	助教	山﨑　玲子	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡赤十字病院出向
16	筑紫病院 消化器内科	助教	今村健太郎	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	芦屋中央病院出向
17	筑紫病院 小児科	助教	平井　貴彦	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	都城市郡医師会病院出向（延長）
18	筑紫病院 外科	助教	上床　崇吾	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	直方病院出向
19	筑紫病院 脳神経外科	助教	光武　尚史	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	亀田総合病院出向（延長）
20	筑紫病院 脳神経外科	助教	森永　裕介	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	獨協医科大学病院出向（延長）
21	筑紫病院 眼科	助教	鈴木　脩司	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	聖マリア病院出向
22	筑紫病院 眼科	助教	藤田　秀昭	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡山王病院出向（延長）
23	筑紫病院 耳鼻いんこう科	助教	梅野　悠太	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	福岡徳洲会病院出向（延長）
24	筑紫病院 救急科	助教	武田　輝之	令和４年４月１日～ 令和５年３月31日	田川市立病院出向
25	福大病院 循環器内科	講師	志賀　悠平	令和４年７月１日～ 令和５年３月31日	訪問診療メディカルハートクリニック福岡出向

番号	所　　属	資　格	氏　名	休職期間	備　　考
26	医学部 脳神経外科学	助教	天本　宇昭	令和４年10月１日～ 令和５年９月30日	河野脳神経外科病院出向
27	福大病院 脳神経外科	助教	堀尾　欣伸	令和４年10月１日～ 令和５年９月30日	青洲会病院出向
28	福大病院 心臓血管外科	助教	寺谷　裕充	令和５年１月１日～ 令和５年３月31日	長崎大学病院出向（延長）

復職者一覧

番号	所　　属	資　格	氏　名	発令日	備　　考
1	医学部 皮膚科学	講師 （４－７）	内藤　玲子	令和４年４月１日	福岡中央病院出向より復帰
2	福大病院 消化器外科	助教	橋本　恭弘	令和４年４月１日	大阪日赤病院出向より復帰
3	福大病院 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	助教	中島　裕康	令和４年４月１日	福岡東医療センター出向より復帰
4	福大病院 救命救急センター	助教	鯉江めぐみ	令和４年４月１日	沖縄県立宮古病院出向より復帰
5	福大病院 救命救急センター	助教	村西謙太郎	令和４年４月１日	大津市民病院より復帰
6	筑紫病院 消化器内科	助教	石井　智士	令和４年４月１日	芦屋中央病院出向より復帰
7	医学部 脳神経外科学	助教	吉永進太郎	令和４年10月１日	佐世保中央病院出向より復帰

令和４年度　福岡大学臨床教授等一覧

臨床教授（令和４年４月１日～令和６年年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
原田　直樹	千早病院　診療部長
柴田　隆夫	村上華林堂病院　副院長
下野　　大	二田哲博クリニック姪浜　院長
松村　　潔	北九州若杉病院　院長
土屋　芳弘	つちや内科循環器内科クリニック　院長
下村　英紀	福岡徳洲会病院　副院長
王寺　恒治	江頭会 さくら病院
飯田　武史	医療法人 社団誠仁会 夫婦石病院　院長
司城　博志	村上華林堂病院　院長
安部　泰弘	済生会福岡総合病院　腎臓内科主任部長
服部　文忠	長尾病院　院長
谷崎　弓裕	社会医療法人北九州病院　北九州若杉病院
村上　修二	江頭会 さくら病院　医局長・診療部長
栗田　輝久	可也病院　院長
芹川佳代子	ものわすれメンタルクリニック　院長
山口　　覚	伊都こどもクリニック　院長
井上秀一郎	井上四郎小児科医院　院長
内田　智子	医療法人内田こどもクリニック　理事長・院長
梅野　英輔	梅野小児科内科医院　理事長

氏　名	病　院・役 職 等
松本　一郎	松本小児科医院　院長
冨田　昌良	糸島医師会病院　院長
下川　敏弘	社会医療法人喜悦会 那珂川病院　理事長
乗富　智明	福岡徳洲会病院　病院長
野田　尚孝	福西会病院　消化器外科部長
笠　健児朗	笠外科胃腸内科医院　院長
藤原　将巳	佐田厚生会　佐田病院　院長
尾上　英俊	福岡徳洲会病院　整形外科部長
花田　弘文	福岡リハビリテーション病院　整形外科部長
高木　忠博	脳神経外科クリニック高木　理事長
入江　暢幸	福岡リハビリテーション病院　副院長・脳神経外科部長
立川　　裕	岡垣腎クリニック　院長
穴井　堅能	引野口循環器クリニック　院長
新堂　昌文	新堂産婦人科医院　理事長
松井　孝明	大島眼科病院　理事長
梅﨑　俊郎	耳鼻咽喉科部長、音声・嚥下センター長
山下　　茂	福西会病院　放射線科部長
二ノ坂保喜	医療法人 にのさかクリニック　理事長
衛藤　陽一	佐田厚生会　佐田病院　麻酔科医長

臨床教授（令和４年６月１日～令和６年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
早田　哲郎	さくら病院　消化器内科　診療部長・医局長
眞鍋　　剛	白十字病院　形成外科　部長

氏　名	病　院・役 職 等
迎　　雅彦	福岡赤十字病院　第三麻酔科　部長

臨床准教授（令和４年６月１日～令和６年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
森　　聡子	福岡山王病院　小児科　NICU 室長
川野　恭雅	白十字病院　救急科　部長

氏　名	病　院・役 職 等
福田　健治	白十字病院　脳神経外科　部長

臨床教授（令和４年４月１日～令和６年３月31日）　卒後臨床研修協力医療機関等

氏　名	病　院・役 職 等
牟田　和男	誠和会 牟田病院　理事長
前田　和弘	天神クリニック　参与
佐田　正之	佐田厚生会 佐田病院　理事長
原　　道也	福岡リハビリテーション病院　理事長
藤原　　明	福岡リハビリテーション病院(クリニック)　院長
林　　修司	白十字病院　病院長補佐

氏　名	病　院・役 職 等
詠田　由美	アイブイエフ詠田クリニック　理事長・院長
原　　巖	医療法人恵光会　原病院　歯科口腔外科歯科部長
江頭　啓介	江頭会さくら病院　理事長・院長
楠原　浩之	江頭会さくら病院
武富　賢治	たけとみクリニック　理事長・院長

臨床教授（令和４年４月１日～令和６年３月31日）　関連医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
松林　　直	福岡徳洲会病院
髙良由貴夫	甘木診療クリニック　クリニック部長
藤永　拓朗	恵愛会 福間病院　院長
徳永雄一郎	不知火病院　理事長
緒方　　周	日見中央病院　院長
小嶋　享二	福岡県立精神医療センター太宰府病院　院長
田中伸之介	社会保険　直方病院　院長
原　　正文	久恒病院　理事長・院長
副島　　修	福岡山王病院　整形外科部長
阪元政三郎	白十字リハビリテーション病院　院長
平川　勝之	福岡市民病院　診療統括部長　脳神経外科科長
竹野　文洋	医療法人たけの内科クリニック　理事長・院長

氏　名	病　院・役 職 等
峰松　紀年	済生会福岡総合病院　心臓血管外科主任部長
久保田由美子	福岡山王病院　皮膚科部長
中島　雄一	飯塚病院　副院長・泌尿器科部長
鍋島　義之	福岡徳洲会病院　泌尿器科部長
小濱　大嗣	井槌病院
天ヶ瀬寛信	医療法人天信会あまがせ産婦人科　理事長
左合　治彦	国立成育医療研究センター　周産期・母性診療センター長
金森　康展	山口赤十字病院　第一産婦人科部長
野下　純世	村上華林堂病院　副院長・アイセンター長
指原　裕之	聖マリア病院　眼科診療部長
生野愼二郎	福岡赤十字病院　第一麻酔科部長

医学部役職員及び委員名簿（下線は委員長、カッコは指定職の委員）

令和４年４月１日

医学部長：小玉　正太　看護学科主任：宮城由美子　医学研究科長：松永　　彰　アニマルセンター長：立花　克郎　医学部 RI 施設長：吉満　研吾
福大病院長：岩崎　昭憲　福大病院副病院長：長谷川　傑・藤田　昌樹・和田　秀一・小川　正浩・甲斐　純美（看護部）
筑紫病院長：河村　　彰　筑紫病院副病院長：山下　眞一・柴田　陽三・二村　　聡
西新病院長：三浦伸一郎　西新病院副病院長：入江　　真・西川　宏明

委員会名	委員名	病院・他学部選出委員名	任期	
評議員会	(小玉)・平井・宮城		3年	5年11月
大学協議会	(小玉)・髙松(非学部選出＝緒方)		2年	5年11月
教務委員会	川浪		2年	5年11月
学生部委員会	永光		2年	5年11月
図書委員会	大倉		2年	5年11月
研究推進部委員会	小川(正)		2年	5年11月
入学センター委員会	有馬		2年	5年11月
国際センター委員会	山本		2年	5年11月
キャリアセンター委員会	佐久間		2年	5年11月
学部調整委員	鍋島(茂)・江藤		2年	5年11月
アニマルセンター運営委員会	(立花)・廣松・藤田(孝) 安永・坂田(直)	倉岡(理)・花井(工)・古賀(薬)・川中(ス)・佐藤(病院)	2年	5年11月
RIセンター委員会	(吉満)・秋吉		2年	5年11月
学生懲戒委員会	升谷		2年	5年11月

委員会名	委員名	病院・他学部選出委員名	任期	
医学部RI施設運営小委員会	(小玉)・(岩崎)・(吉満)・(秋吉)・(榮) 立花・藤田(孝)・吉村・根本	廣瀬(龍)(病院)	2年	5年11月
教育職員資格審査委員会	久木原・小柳		1年	4年11月
大学院学務委員会	平井		2年	5年11月
大学院教育職員資格審査委員会	近藤・安永		1年	4年11月
環境保全センター委員会	角田	川浪(病院)・久冨(筑紫)	2年	5年11月
医に関する倫理委員会	今泉・有馬・安永・平井 伊﨑・中島	川島(人文)・前越(法) 金城(外部)・楠瀬(外部)	2年	6年3月
研究倫理委員会	安永・平井		2年	5年11月
遺伝子組換え実験安全委員会	(小玉)・(安永)・貴田・根本 角田		2年	5年11月
動物実験委員会	(立花)・廣松・藤田(孝)・安永 坂田(直)	川中(ス)・林(人)・倉岡(理)・武下(工) 古賀(薬)・髙田(薬)・上原(ス) 白石(武)(病院)・吉兼(筑紫)	2年	5年11月

A．医学部　常設委員会（下線は委員長、以下同じ）

令和４年４月１日

委員会名	委員名	任期	
自己点検・評価実施委員会	(学部長)小玉・(看護学科主任)宮城・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光・(図書委員)大倉・(医学教育推進講座)安元 (入学センター委員)有馬・(国際センター委員)山本・(医学研究科長)松永・(大学院学務委員)平井 (看護学専攻専攻長)緒方・(看護学科教務委員会委員長)宮城・(看護学科 FD 委員会委員)長谷川	２年	５年11月
分館図書小委員会	(図書委員)大倉・(基礎３名・臨床２名)安元・石井・坂田(直)・志村・四元・(看護学科)小柳・(筑紫)久冨	２年	５年11月
医学情報センター運営委員会	(図書委員)大倉・(分館図書小委員)安元・石井・坂田(直)・志村・四元・(看護学科)小柳・(筑紫)久冨・(事務部長)田中(孝)	２年	５年11月
医学紀要編集委員会	(研究推進部委員)小川(正)・秋吉・佐藤・髙木・永光・藤田(孝)・升谷・安部・今泉・塩飽・濵﨑・(看護学科)久木原・(看護学科)黒髪	２年	５年11月
医学部広報委員会	(学部長)小玉・(看護学科主任)宮城・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光・(図書委員)大倉 (入学センター委員)有馬・(国際センター委員)山本・(医学研究科長)松永・(大学院学務委員)平井 (総合研究室世話人)藤田(孝)・廣松・濵﨑・末田・安永・久保・(電子顕微鏡センター運営委員長)向坂・(看護学科 入試委員長)馬場	２年	５年11月
兼業審査委員会(教育職員)	(学部長)小玉・(大学協議員)髙松・(評議員)平井・(看護学科主任)宮城 ※看護学科主任は、看護学科所属教職員から兼業申請があった場合のみとする。	２年	５年11月

B．医学部　随時委員会

委員会名	委員名	任期	
禁煙推進委員会	(学生部委員)・(学部長)・(医学科クラス主担任６名)・看護学科３名	１年	－

C．医学科　常設委員会

委員会名	委員名	任期	
教務委員会 入試委員会 学生委員会	(学部長)小玉・(前学部長)－・(福大病院長)岩﨑・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(前教務委員)－・(入学センター委員)有馬 (学生部委員)永光・(研究科長)松永・(大学院学務委員)平井・(図書委員)－・(大学院教育職員資格審査委員)安永・近藤 (国際センター委員)山本・(各学年担任)藤田(孝)・平井／立花・秋吉／岩本・長谷川／坂田(俊)・廣松／今福・有馬／川嵜・安永 (国試対策委員会責任者)八尋・(筑紫病院教育委員)二村・(次年度 MM1担任)安永・升谷 (医学教育推進講座)安元・(事務)田中(孝)	１年	５年３月
総合試験委員会	(教務委員)川浪・(学部長)小玉・(医学教育推進講座)安元 古賀・有馬・吉村・佐藤・久保・田中(俊)・髙田(徹)・横溝・杉原・桑野・釈迦堂・船越・升谷・三宅(勝)・藤田(昌)・藤岡 原田・後藤・新居見・音田・清水・吉満・高山・長谷川・塩飽・上田・森下・和田・桑原・村岡・小林 坂田・松岡・漆山・四元・宮田・秋吉・楠本・瀬戸・小川・岩朝・喜多村・熊川・小柳・北島・加藤・吉田・今泉	１年	５年３月
国試対策委員会	(委員長)八尋・佐々木(秀)・太田・平川・佐々木(朝)・合馬・石橋・飯田・安野・牟田	１年	５年３月
CBT委員会	(教務委員)川浪・(学部長)小玉・(医学教育推進講座)安元 遠藤・角田・藤田(孝)・芝口・根本・濵田・吉村(芳)・前田・川添・阿部(真)・柏木・吉松・礒部・髙田(徹)・横溝・有村・末松・福永・石橋 升谷・三宅(勝)・井上・合馬・原田・後藤・新居見・音田・佐藤・吉満・高山・内藤・早稲田・森下・和田・松村・三宅(智) 小林・末田・中村・重川・宮田・伊東・重松・柴田・梅本・髙田(耕)・岩朝・喜多村・熊川・小柳・北島・日吉・今泉	１年	５年３月
カリキュラム検討委員会	(教務委員)川浪・(医学教育推進講座)安元・(基礎)岩本・(臨床内科系)藤田(昌)・(臨床外科系)長谷川・(事務部長)田中(孝)・(学生代表)２名	１年	４年11月
医学教育評価委員会	(基礎系教授)・(臨床内科系教授)・(臨床外科系教授)・(事務部長)	１年	—
FD推進委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(基礎系教授)・(臨床内科系教授)・(臨床外科系教授)	１年	—
臨床実習検討委員会	(学部長)・(福大病院長)・(教務委員)・(卒後臨床研修センター長)・(医学教育推進講座)・(各診療科の C.C 実施責任者)	１年	—
医学教育検討委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(基礎系教授)若干人・(臨床内科系教授)若干人・(臨床外科系教授)若干人・(認証評価経験者)若干人	１年	—
クラス担任会	(学部長)小玉・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光 (１年)藤田(孝)・平井　(２年)立花・秋吉　(３年)岩本・長谷川　(４年)坂田(俊)・廣松　(５年)今福・有馬 (６年)川嵜・安永	１年	５年３月
予算委員会	(学部長)小玉・(福大病院長)岩﨑・(筑紫病院長)河村・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(図書委員)大倉・(研究科長)松永 (大学院学務委員) 平井・(アニマルセンター長) 立花・(電子顕微鏡センター運営委員長)向坂・ (医学部 RI 施設長)吉満・(研究推進部委員)小川(正) (総合研究室世話人)藤田(孝)・廣松・濵﨑・末田・安永・久保(基礎・臨床各２名)有馬・白澤・秋吉・升谷	１年	４年11月
准教授・講師選考委員会	(学部長)小玉・(学部長が医学科教授会議に推薦して選任した者)近藤・安永 (基礎・臨床各３名)有馬・白澤・廣松・小川・平井・永光	１年	４年11月
教育技術職員審議会	(学部長)小玉・(評議員)平井・宮城・(大学協議員)髙松・(事務部長)田中(孝)	役職任期満了交代制	

委員会名	委員名	任期	
総合研究室運営委員会	(学部長)小玉・(研究科長)松永・(研究推進部委員)小川(正)・(人体生物系世話人)藤田(孝)・ (生体制御系世話人)廣松・(病態構造系世話人)濵﨑 (病態機能系世話人)末田・(先端医療科学系世話人)安永・(社会医学系世話人)久保・(電顕運営委員長)向坂・ (基礎)有馬・(臨床)秋吉	1年	4年11月
電子顕微鏡センター運営委員会	委員長(臨床系講座)向坂・(人体生物系)貴田・(生体制御系)廣松・(病態構造系)上杉・(臨床系講座)升谷	2年	5年11月
個人評価自己申告書点検委員会	(世話人)立花・羽賀・(作業部会)基礎系講座及び臨床講座の准教授ないしは講師	1年	5年3月
国際交流委員会	(学部長)小玉・(国際センター委員)山本・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光・(学部長が認めた若干人)	1年	4年11月
医学生業績報告書(JAMeS)編集委員会	(委員長)三浦・川浪・安元・小玉・山本・学生会会長	1年	4年11月

D．医学科　随時委員会

委員会名	委員名	任期	
C・C実施責任者会	髙松・高田／三浦・杉原／平井・田中・福永／升谷・三宅／坪井・三嶋／(教務委員)川浪・髙士・牟田／藤田(昌)・ 海老／長谷川・塩飽・山田／佐藤・緑川 岩朝・喜多村／四元・宮田／永光・伊東・宮本／川嵜・畑中／二村／吉満・肥田／小川・熊川／秋吉・重松／ 山本・三宅／和田・林田／中村・松﨑 古賀・筒井／小林・川村／末田・妻鳥／安部・野中／上杉・武藤／髙木・鈴木／神村・兼重／瀬戸・喜多／ 野田／鎌田・藤見／鍋島・日吉	1年	5年3月

E．医学科　外部委員会

委員会名	委員名	任期	
外部評価・問題検討委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(医学教育評価委員会)2人・(本学以外の大学教員)若干人 (本学以外の病院医師)若干人・(医学教育に関わる学外者)若干人・(医師会、行政機関代表者)若干人	1年	—

4．入試・教務・国試

1．令和５年度入学者　入学試験・入学者状況

医学科では、平成21年度からの入試制度改革により、①地域枠推薦、②A方式推薦、③附属校推薦、④学部留学生選抜、⑤一般選抜、⑥共通テスト利用型選抜の６つの異なる入学選抜方式を採用している。その趣旨は、優秀な人材の確保のみならず、地域医療の充実や国際交流促進の観点に立ち、幅広く人材を求めることにある。また、人物評価をより客観的かつ適切に行う為に、学部留学生選抜・附属校推薦を除く入学試験において受験者４～６名に対し面接者３名による集団面接を導入している。

令和５年度　入学試験・入学者の状況を表１に示す。

１）学校推薦型選抜（A方式、地域枠、附属校）では、英語と数学の筆記試験を実施し、併せて集団面接（附属校は、個別面接）を行った。附属校推薦入学制度は38年目を迎え、今年度の推薦者数は10名で、前年度と比べ１名減少した。厳正な選考の結果、２名を合格とした。その他の学校推薦型選抜の志願者数は、A方式推薦が134名、地域枠推薦が38名と、前年度と比べA方式が20名増加し、地域枠が２名減少した。A方式推薦及び地域枠推薦はそれぞれ29名、10名を合格とし、計41名を推薦入試全体の合格とした。

２）一般選抜では英語、数学の配点をそれぞれ100点、理科２科目（物理、化学、生物より２科目選択）の配点を200点として、合計400点の学力考査結果をもとに第一次選抜を行った。

一般選抜は、本学（福岡）、東京、名古屋、大阪の４会場で令和５年２月２日に実施した。志願者数は2,127名で前年度（2,135名）と比べ８名減少した。受験者数は1,920名で、一次試験の最高点348点から最低点250点までの467名を一次合格とした。

二次試験は面接と一次試験の結果で総合的に選考した。学校推薦型選抜・学部留学生選抜・共通テスト利用型選抜を除く定員65名に対し、最高点364点から最低点304点までの135名を正規合格とした。

３）平成26年度から大学入試センター試験利用入試（令和３年度より大学入学共通テスト）を実施した。令和５年度大学入学共通テストにおける指定科目を英語200点、国語100点、数学２科目（数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B）の200点、理科２科目選択（物理、化学、生物）の200点とし、合計700点で第一次選抜を行った。志願者数は434名で、第一次選抜の最高得点は663点から551点までの152名を一次合格とした。二次試験は面接と一次試験の結果で総合的に選考した。定員５名に対し、最高点704.2点から最低点636点までの26名を正規合格とした。

４）学部留学生選抜では２名の志願者があった。筆記試験・面接・小論文・書類審査で選考の結果、合格者はいなかった。

５）令和５年度　入学者のまとめ

一般入学試験では、正規合格者135名中57名（42.2%）、追加合格者16名中７名（43.8%）が入学した。共通テスト利用型選抜では、正規合格者26名中４名（15.4%）、追加合格者５名中１名（20.0%）が入学した。推薦入学者41名（A方式、附属校、地域枠）を加え、全体の入学者数は定員通りの計110名となった。男・女構成は、男子56名、女子54名である。

表１　令和５年度入学者　医学部医学科入学試験状況

	志願者数(一次)		受験者数(一次)		合格者数(一次)		受験者数(二次)		合格者数(二次)		追加合格者数		入学者数	
	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数
一　般　選　抜	2,127	737	1,920	682	467	160	380	122	135	52	16	10	64	29
共通テスト利用型選抜	434	191	432	190	152	66	101	44	26	10	5	2	5	2
A 方 式 推 薦	134	59	131	58					29	15			29	15
地 域 枠 推 薦	38	24	38	24					10	7			10	7
附 属 校 推 薦	10	5	10	5					2	1			2	1
学部留学生選抜	2	1	1	1					0	0			0	0
計	2,745	1,017	2,532	960	619	226	481	166	202	85	21	12	110	54

（入学センター委員　有　馬　久　富）

２．令和４年度在籍学生数

各学年における入学年度別在籍者数を表２に示す。令和４（2022）年度は110名が入学した。収容定員に対する在学学生比は1.065であった。

表２　令和４年度　入学年度別学生数表

医学部医学科　　令和４年４月１日現在

学年／学籍番号	１年	２年	３年	４年	５年	６年	在籍	入学	卒業	退学	除籍	転部
22台	110						110	110				
21	23	87					110	110				
20	2	19	84				105	110		5		
19		5	12	89			106	110		4		
18			5	15	88		108	111		3		
17		1	1	7	10	86	105	111		6		
16		1		2	8	18	29	110	75	6		
15					5	11	16	110	88	6		
14				1	1	6	8	110	99	3		
13				1		1	2	110	105	3		
12				1		3	4	110	102	4		
11前								4,304	4,150	120	23	11
合計	135	113	102	116	112	125	703	5,516	4,619	160	23	11
女子	41	44	36	43	44	43	251					
		③	②			①	⑥					

※　○数は、科目等履修生（令和４年度　６名）
（　）数は、休学者で内数

３．カリキュラム改編

第１学年から第４学年では、学生の成績評価に関する信頼性、妥当性および利益相反がないことを外部評価者（科目外の教員）が評価し、かつ学生の進級判定をその学年の教育を担当した全科目の教員で確認することを目的に、令和２年度から成績評価検討会議を開始した。その結果に基づいて教務委員会、教授会で審議を行うことで、より適正な学生の評価が可能となった。

第５学年は、臨床実習を通じて医師として必要な臨床判断や技能、態度を学んでいる。同時に国家試験を目指して医学的知識の修得状況を段階的に評価することを目的に、令和２年度から年度末の進級判定試験に加えて中間試験を３ヵ月毎に３回行っている。今年度も続行した。

第６学年は、臨床修練Ⅰに引き続いて４～６月に臨床修練Ⅱを行っている。継続的に臨床実習を行うことで、臨床能力・態度の習得度が高まると期待される。

４．新型コロナウイルス感染症の流行に伴う対応

講義は感染対策を取りながら対面講義を行い、講義を録画したものをオンデマンド受講できるようにした。このことにより学習効率が向上したものと考えられる。今年度は研究室配属は、対面で実施した。臨床実習（クリニカルクラークシップ）は感染対策を取りながら対面で実施、新型コロナウイルス感染症が出た場合には医療従事者と同様の対応を行った。病棟での感染状況をみながら、適宜オンライン実習の期間を設けるなどして、クリニカルクラークシップが継続的に行えるよう工夫を行った。

５．留年状況

平成２年度から令和４年度までの留年率の推移を図１に示す。令和４年度の全学年の留年率は10.3%であった。

学年別の留年者数・留年率を図２に示す。第１学年は、共通教育科目に加えて専門科目の解剖学と生化学Ⅰを開講している。令和４年度は18名（13.4%）が留年した。細胞生物学、生理学、薬理学、免疫学、微生物学など多くの基礎科目を学ぶ第2学年でも、21名（18.9%）が留年した。臨床科目の講義が始まる第３学年での留年は５名（5.0%）であった。第４学年合計18名（16.1%）が留年した。第５学年は、福岡大学病院ならびに関連病院で臨床実習を行っている。医師国家試験では臨床判断を問う問題が増えており、臨床実習に主体的に取り組んで臨床的知識・技能・態度を習得することが重要になっている。臨床実習での評価に加えて、医学知識を確認する目的で年度末に進級判定試験を実施しているが、中間試験を３か月毎に３回実施した。学力が向上し、医師国家試験の成績向上に繋がることを期待している。第５学年は１名（0.9%）留年であった。第６学年は112名が総合試験に合格し卒業、８名（6.7%）は不合格となり留年となった。この結果、令和４年度は112名が新卒として第117回医師国家試験を受験した。

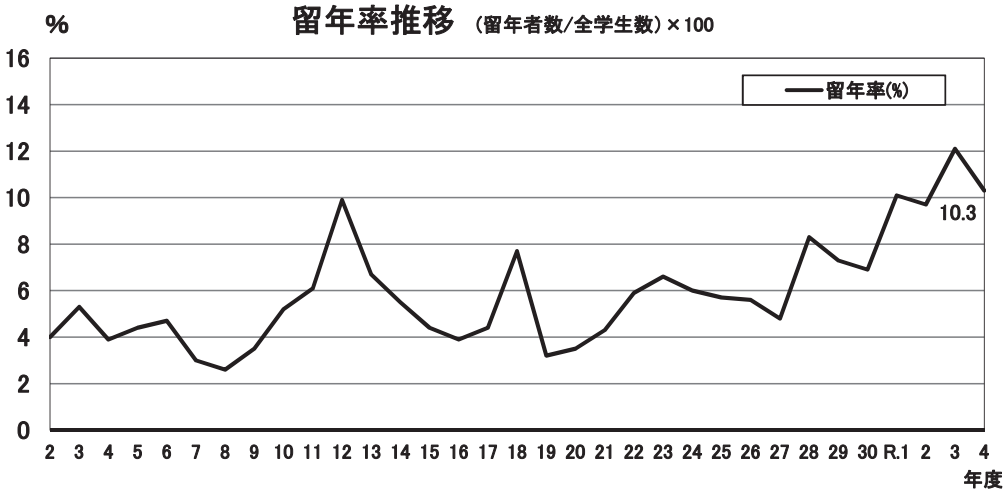
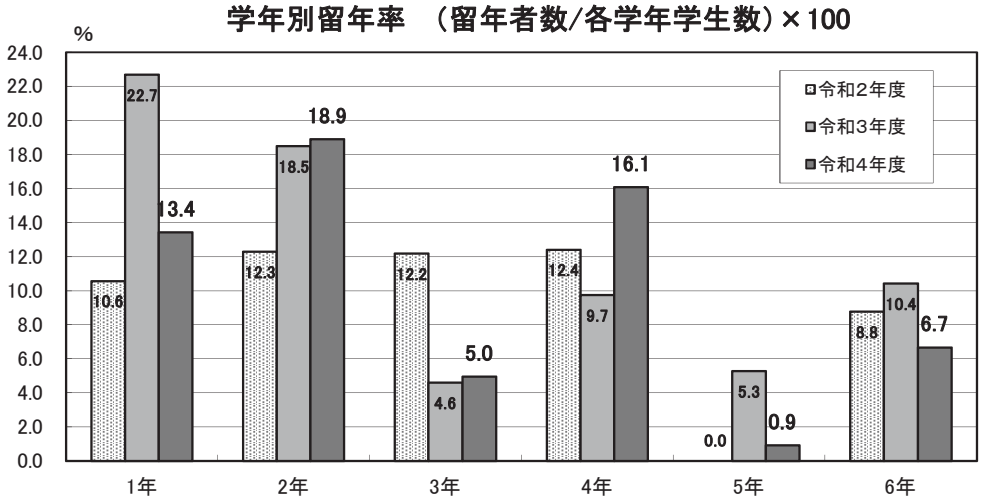


図１　留年率推移



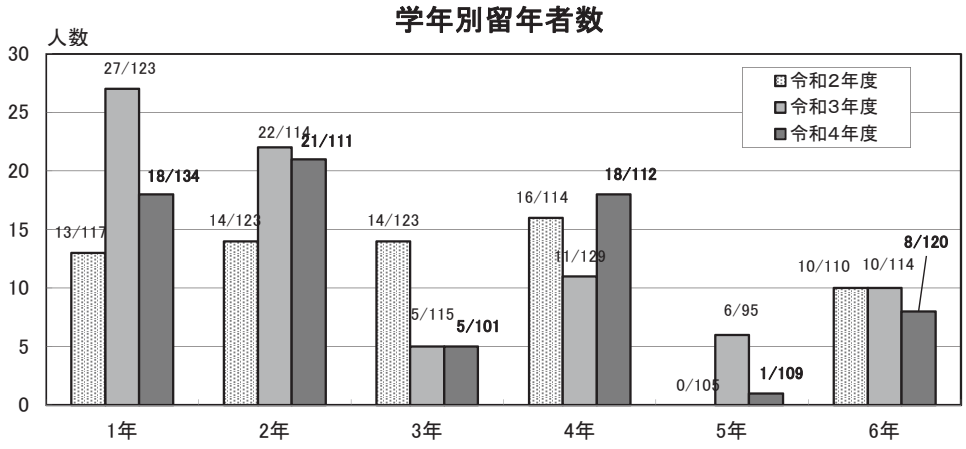


図２　学年別の留年者数・留年率

図３-１　令和４年度　医学部医学科６年生日程

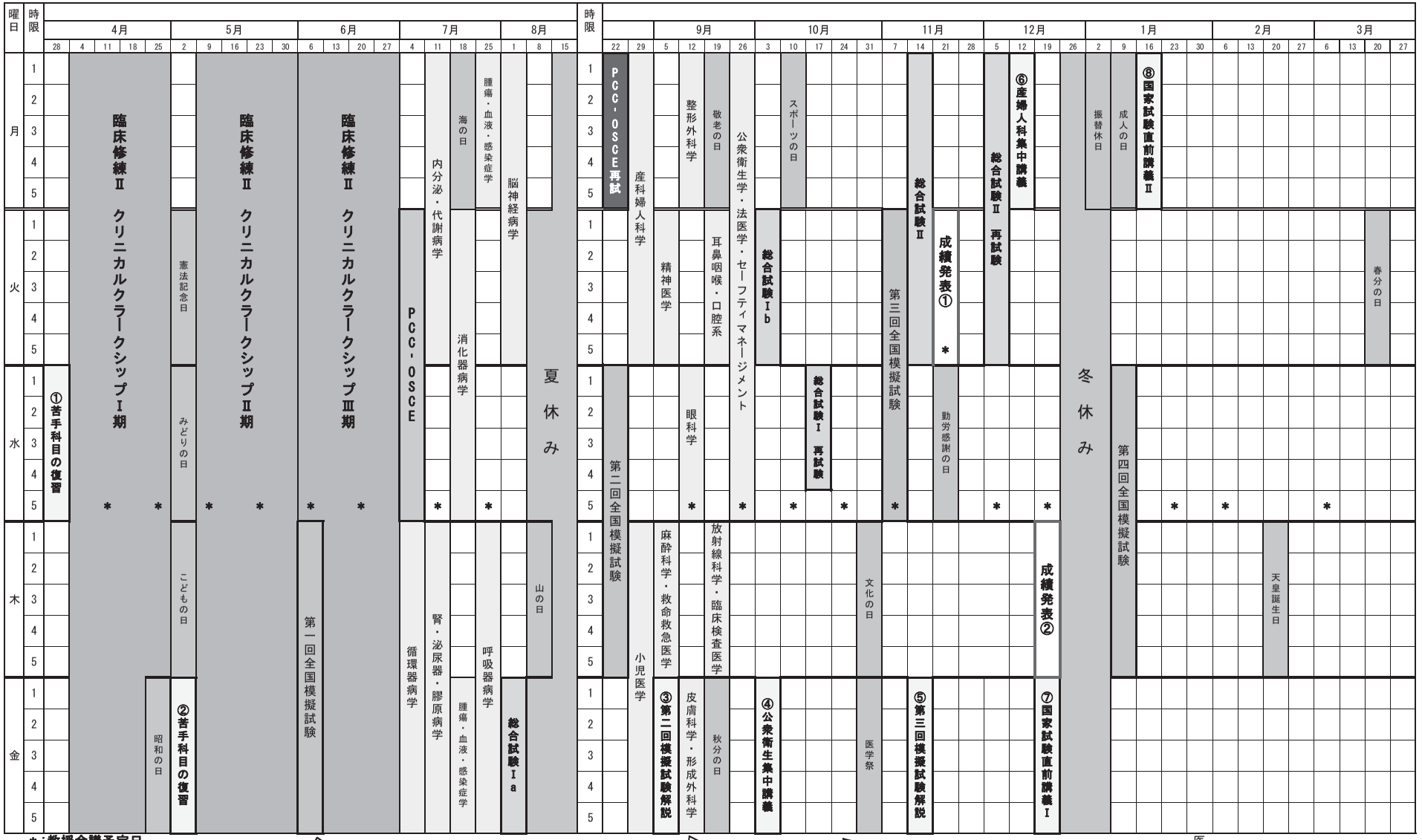
令和４年

３月30日(水)	特別講義（第１回）
４月４日(月)～４月28日(木)	臨床修練Ⅱクリニカルクラークシップ Ⅰ期
５月６日(金)	特別講義（第2回）
５月９日(月)～６月３日(金)	臨床修練ⅡクリニカルクラークシップⅡ期
６月９日(木)～６月10日(金)	第１回　全国模擬試験
６月６日(月)～７月１日(金)	臨床修練ⅡクリニカルクラークシップⅢ期
７月５日(火)～７月６日(水)	Post-CC OSCE【共用試験】
７月７日(木)～８月２日(火)	領域別集中講義Ⅰ
８月５日(金)	総合試験Ⅰa
８月22日(月)	Post-CC OSCE 再試験
８月24日(水)～８月25日(木)	第２回　全国模擬試験
８月29日(月)～９月28日(水)	領域別集中講義Ⅱ
９月９日(金)	特別講義（第３回）
10月４日(火)	総合試験Ⅰb
10月７日(金)	特別講義（第４回）
10月19日(水)	総合試験Ⅰ再試験
11月８日(火)～11月９日(水)	第3回　全国模擬試験
11月14日(月)～11月15日(火)	総合試験Ⅱ【卒業試験】
11月18日(金)	特別講義（第５回）
11月22日(火)	成績発表１【一次卒業判定】
12月５日(月)～12月６日(火)	総合試験Ⅱ再試験
12月12日(月)	特別講義（第６回）
12月22日(木)	成績発表２【二次卒業判定】※再試験者のみ
12月23日(金)	特別講義（第７回）

令和５年

１月11日(水)～１月12日(木)	第４回　全国模擬試験
１月16日(月)	特別講義（第８回）
２月４日(土)～２月５日(日)	第117回　医師国家試験
３月19日(日)	卒業式

図3-2　令和４年度　医学部医学科６年生カリキュラム



6．医学教育ワークショップ

ワークショップは４回実施した。各回のテーマは次の通りであった。

第１回（通算82回）

１「第116回医師国家試験講評および今後の課題」

２「学外臨床実習について」

第２回（通算83回）

１「医学科2022年度入試の状況について」

２「IR から医学科入学試験のあり方を考える」

第３回（通算84回）

１「学外臨床実習の進捗状況報告および今後について」

２「研究倫理と研究構成［大学院 FD 講演］」

第４回（通算85回）

「私立医科大学における医学教育の現状と課題」

7．国家試験結果

第117回医師国家試験は、令和５年２月４～５日に行われた。

本学からは新卒者112名が受験し、102名（91.1％）が合格した。合格率の順位は全国82大学中73位であった（昨年度は97.7％で19位）。既卒者は６名が受験して３名（50.0％）が合格。新卒者、既卒者を合わせた全体の合格者は118名中105名（89.0％）で、全国82大学中68位であった（昨年度は合格率94.1％で31位）。

本学卒業生の国家試験合格者数を表３，４に示す。全卒業生数は4,731名で、そのうち34名が未合格者数である。

（教務委員　川　浪　大　治）

表３　国家試験合格状況－１

平成・令和（年度）	国試（回）	新卒＋既卒					６年生在籍者	新卒						既卒		
		受験者	合格者	合格率	全国平均	全国順位（82校中）		受験者	合格者＊		合格率/在籍者	合格率/受験者	全国順位（82校中）	受験者	合格者	合格率
4	117	118	105	89.0	91.6	68	125	112	102	(80)	81.6	91.1	73	6	3	50.0
3	116	101	95	94.1	91.7	31	102	86	84	(74)	82.4	97.7	19	15	11	73.3
2	115	118	104	88.1	91.4	68	115	104	95	(77)	82.6	91.3	69	14	9	64.3
31・1	114	138	123	89.1	92.1	73	110	98	92	(80)	83.6	93.9	66	40	31	77.5
30	113	139	100	71.9	89.0	80	124	117	88	(76)	71.0	75.2	80	22	12	54.5
29	112	123	101	82.1	90.1	78	109	100	83	(72)	76.1	83.0	77	23	18	78.3
28	111	108	85	78.7	88.7	77	97	93	77	(69)	79.4	82.8	75	15	8	53.3
27	110	120	105	87.5	91.5	74	111	107	97	(81)	87.4	90.7	72	13	8	61.5
26	109	113	100	88.5	91.2	66	98	93	86	(78)	87.8	92.5	66	20	14	70.0
25	108	123	101	82.1	90.6	78	102	99	84	(74)	82.4	84.8	78	24	17	70.8
24	107	126	102	81.0	89.8	77	114	101	87	(79)	76.3	86.1	74	25	15	60.0
23	106	122	95	77.9	90.2	80	110	98	78	(75)	70.9	79.6	79	24	17	70.8
22	105	123	99	80.5	89.3	77	109	98	84	(76)	77.1	85.7	76	25	15	60.0
21	104	113	88	77.9	89.2	77	110	101	81	(75)	73.6	80.2	80	12	7	58.3
20	103	121	108	89.3	91.0	59	117	106	100	(81)	85.5	94.3	56	15	8	53.3
19	102	118	103	87.3	90.6	67	98	91	82	(66)	83.7	90.1	72	27	21	77.8
18	101	132	103	78.0	87.9	76	117	97	86	(75)	73.5	88.7	68	35	17	48.6
17	100	134	99	73.9	90.0	80	120	111	85	(67)	70.8	76.6	80	23	14	60.9
16	99	114	92	80.7	89.1	76	114	95	82	(66)	71.9	86.3	77	19	10	52.6
15	98	114	95	83.3	88.4	68	104	99	91	(75)	87.5	91.9	56	15	4	26.7
14	97	120	104	86.7	90.3	64	111	102	100	(80)	90.1	98.0	13	18	4	22.2
13	96	121	103	85.1	90.4	71	109	94	90	(70)	82.6	95.7	32	27	13	48.1
12	95	141	116	82.3	90.4	75	111	90	77	(67)	69.4	85.6	77	51	39	76.5
11	94	136	81	59.6	79.1	76	106	93	61	(58)	57.5	65.6	76	43	20	46.5
10	93	120	76	63.3	84.1	79	100	96	70	(64)	70.0	72.9	79	24	6	25.0
9	92	120	95	79.2	89.6	76	97	94	83	(76)	85.6	88.3	71	26	12	46.2
8	91	137	111	81.0	88.1	71	111	109	93	(82)	83.8	85.3	72	28	18	64.3
7	90	136	107	78.7	89.3	75	111	104	89	(76)	80.2	85.6	73	32	18	56.3
6	89	128	96	75.0	86.0	70	106	99	81	(68)	76.4	81.8	70	29	15	51.7
5	88	147	118	80.3	86.2	70	114	104	94	(82)	82.5	90.4	46	43	24	55.8
4	87	162	117	72.2	90.0	79	129	127	91	(70)	70.5	71.7	80	35	26	74.3
3	86	132	98	74.2	84.0	73	105	95	79	(70)	75.2	83.2	68	37	19	51.4
2	85	136	100	73.5	84.1	71	105	98	76	(67)	72.4	77.6	73	38	24	63.2
1	84	148	111	75.0	82.9	71	117	113	91	(75)	77.8	80.5	69	35	20	57.1

＊（　　）内は、６年間で卒業した者の内数を示す。

表４　国家試験合格状況−２

卒業回	国試実施年		78〜92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	未合格者数
	国試回		65〜86回	87回	88回	89回	90回	91回	92回	93回	94回	95回	96回	97回	98回	99回	100回	101回	102回	103回	104回	105回	106回	107回	108回	109回	110回	111回	112回	113回	114回	115回	116回	117回	
	合格者数		1570	117	118	96	107	111	95	76	81	116	103	104	95	92	99	103	103	108	88	99	95	102	101	100	105	85	101	100	123	104	95	105	
	卒業生数	累積	*1570*	*1687*	*1805*	*1901*	*2008*	*2119*	*2214*	*2290*	*2371*	*2487*	*2590*	*2694*	*2789*	*2881*	*2980*	*3083*	*3186*	*3294*	*3382*	*3481*	*3576*	*3678*	*3779*	*3879*	*3984*	*4069*	*4170*	*4270*	*4393*	*4497*	*4592*	*4697*	34
1~5回生	469	*469*	467																															2
6回生	121	*590*	119																1																1
7回生	128	*718*	127	1																															0
8回生	151	*869*	150	1																															0
9回生	116	*985*	114		1																														1
10回生	104	*1089*	103																																1
11回生	118	*1207*	115	1																															2
12回生	93	*1300*	92	1																															0
13回生	115	*1415*	113	2																															0
14回生	99	*1514*	91	7																															1
15回生	95	*1609*	79	13	3																														0
16回生	127	*1736*		91	20	7		4	2																										3
17回生	104	*1840*			94	8	2																												0
18回生	99	*1939*				81	16	2																											0
19回生	105	*2044*					89	12				1		1																					2
20回生	109	*2153*						93	10	1	1	1				1																			2
21回生	94	*2247*							83	5	2	2				1																			1
22回生	96	*2343*								70	17	5	1		1																				2
23回生	93	*2436*									61	30	1			1																			0
24回生	90	*2526*										77	11	2																					0
25回生	94	*2620*											90	1	1	1																			1
26回生	102	*2722*												100	2																				0
27回生	99	*2821*													91	6	2																		0
28回生	95	*2916*														82	12		1																0
29回生	112	*3028*															85	17	8	1															1
30回生	97	*3125*																86	11																0
31回生	91	*3216*																	82	7	2														0
32回生	106	*3322*																		100	5														1
33回生	101	*3423*																			81	15	4	1											0
34回生	98	*3521*																				84	13	1											0
35回生	98	*3619*																					78	13	4	2								1	0
36回生	101	*3720*																						87	13	1									0
37回生	99	*3819*																							84	11	3								1
38回生	93	*3912*																								86	5	2							0
39回生	107	*4019*																									97	6	4						0
40回生	93	*4112*																										77	14	2					0
41回生	100	*4212*																											83	10	7				0
42回生	118	*4330*																												88	24	3	1		2
43回生	99	*4429*																													92	6	1		0
44回生	104	*4533*																														95	9		0
45回生	86	*4619*																															84	2	0
46回生	112	*4731*																																102	10

5．学生の表彰・指導及び課外活動

令和４年度（令和４年４月から令和５年３月）に行われた医学部医学科学生関係の主な行事について報告する。

1．医学部新入生歓迎式

４月１日　於：RI 大講堂　※父母懇談会は中止

2．医学部長賞表彰式（医学科）

前年度に学業ならびに課外活動等において、特に優れた成績を収めた学生個人または団体に対し医学部長賞を授与した。受賞者については、表１に示す。

3．新入生学部指導懇談会（医学科）

４月２日　於：RI 大講堂

新入生110名に対する学生部関係のガイダンス

１）学内説明、教務部、学生部に関する諸手続きの説明

２）医学部同窓会紹介及び医学部愛好会紹介

※令和４年度の西医体福岡大学支部委員、医学部愛好会顧問と会員数、医学部医学科学生会、学年リーダーを表３とその別表に示す。

4．新入生　フレッシュマンスタートアップミーティング

４月７日　於：RI 大講堂他

5．医学部医学科新入生歓迎会【中止】

6．学生定期健康診断

（新　入　生）５月11日、５月16～20日、５月23日～５月27日、５月30日～６月３日　於：本学健康管理センター

（２・３年生）５月12日～13日　於：医学部研究棟本館前

7．日本学生支援機構奨学生、福岡大学奨学生、各種団体奨学生採用者数（医学科）

１）日本学生支援機構奨学生：（第一種）23名、（第二種）35名

２）日本学生支援機構奨学生（給付奨学金）：４名

３）福岡大学給費奨学生：制度廃止

４）福岡大学貸与奨学生：２名

8．第74回西日本医科学生総合体育大会結団式：７月11日

9．第74回西日本医科学生総合体育大会【中止】

代表主管校：浜松医科大学

10. 第53回医学部長杯争奪ソフトボール大会【中止】

11. 第47回医学部長杯争奪バレーボール大会【中止】

12. 第42回医学祭【中止】

11月４日～６日　於：七隈キャンパス

13. 第46回医学部愛好会幹部研修会

令和５年２月20日　於：RI 大講堂

14. 第46回医学部医学科学位記授与式

令和５年3月19日　於：RI 大講堂

15. 第46回医学部医学科卒業生謝恩会【中止】

令和５年３月19日

（卒業記念品は以下の通り）

教授会から：印鑑付ボールペン

同窓会から：パニックマニュアル一式

16. 第62回九州・山口医科学生体育大会結団式【中止】

17. 第62回九州・山口医科学生体育大会

令和５年３月～令和５年５月　総合主管校：宮崎大学

18. その他

1）留年者数：平成20年度からの各学年の留年者数の推移を表2に示す。

2）休学者：15名（MM2：２名、MM3：１名、MM4：４名、MM5：３名、MM6：５名）

3）退学者：20名

4）科目等履修生：６名

表１　医学部長賞表彰受賞者

１年	MM210106	岡本　克隆	２年	MM200010	布山　智也
３年	MM190068	佐野　　綸	４年	MM180051	河端　諒真
４年 CBT	MM180051	河端　諒真	４年 OSCE	MM180086	田畑堅太郎
５年(進級判定試験)	MM170070	後藤　貴子	５年(実習評価)	MM170078	永尾　聡彬

2021平成新山 島原学生駅伝 第39回九州学生駅伝対校選手権	男子１区(7.73km) 通過順位２位 ※本学の陸上部に所属し、参加。	MM160096	小池　明生

〔表彰基準〕

① 前年度成績において上位の成績を収めた者

② CBT、OSCE で上位の成績を収めた者

③ 九州山口医科学生体育大会、西日本医科学生体育大会および全国医科学生体育大会等において上位の成績を収め、医学生として受賞に値すると判断された者

④ その他

表２　留年者表

学年＼年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R.1	2	3	4
1	0	3	2	3	1	2	8	5	14	11	7	13	12	25	14
2	3	6	10	15	20	16	11	12	18	8	9	13	11	20	14
3	2	7	3	8	3	10	8	1	9	8	9	6	10	3	5
4	5	1	4	7	4	9	9	15	17	8	10	18	13	11	18
5	2	5	5	0	0	0	0	1	0	5	3	1	0	6	3
6	10	8	9	12	10	0	4	3	3	9	6	11	7	14	13
合　計	22	30	32	45	38	37	40	37	61	49	44	62	53	79	67
総学生数	631	633	642	641	645	654	660	677	679	688	694	684	676	668	683
留年率（%）	3.5	4.7	5.0	7.0	5.9	5.7	6.1	5.5	9.0	7.1	6.3	9.1	7.8	11.8	9.8

1）総学生数＝年度初めの在籍者数－退学者数。

2）留年者には休学者を含み、退学者を含まない。

19. 総評

令和４年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けて、医学部医科学新入生歓会ソフトボール大会、西日本医科学生体育大会、医学祭等の行事が中止となりましたが、COVID-19の収束の兆しがみえた年度末には、九州・山口医科学生体育大会が開催に至ることができました。部員不足、練習不足から満足のいく競技結果は得られませんでしたが、課外活動の再開は社会性、協調性、行動力が重んじられる医療人育成の推進に大変喜ばしいことであります。2022年4月1日から成年年齢が18歳になったことから、個々の学生は父母の親権に服さなくなる年齢であることを意味し、自己決定権が尊重され、積極的な社会活動と貢献が期待されています。一方、本学では、学生が勉学や学生生活に支障をきたすことのないよう、それぞれの学生に応じた支援を進めています。「障がい学生支援に関する基本方針」および「同ガイドライン」を定め、教職員等が連携し、適切な修学環境を提供し、必要な支援を行うことに勤めています。

（学生部委員　永　光　信一郎）

表３　福岡大学医学部愛好会一覧表

（令和４年９月現在）

	愛好会名	顧問名	キャプテン		医学部医学科　学年別部員数内訳［(　)内数字は女子部員数］						
			年	氏名	総数	１年	２年	３年	４年	５年	６年
1	ラ　グ　ビ　ー	小玉　正太	3	芹川　昌大	43 (17)	10 (5)	5 (1)	8 (3)	8 (2)	5 (5)	7 (1)
2	バスケットボール	岩朝　光利	3	王谷　俊堯	30 (9)	10 (5)	6 (1)	4 (1)	3 (1)	2 (0)	5 (1)
3	準硬式野球	植木　敏晴	4	日浅　温太	37 (12)	8 (2)	11 (3)	1 (0)	5 (1)	5 (4)	7 (2)
4	アーチェリー	坂田　俊文	3	阪本　　雄	22 (7)	0 (0)	2 (1)	12 (4)	3 (1)	3 (0)	2 (1)
5	ゴ　ル　フ	柴田　陽三	3	中山　裕太	46 (24)	7 (3)	10 (6)	4 (1)	11 (6)	7 (3)	7 (5)
6	剣　　道	鍋島　茂樹	4	大塚祐理重	21 (8)	3 (1)	4 (2)	4 (2)	1 (1)	6 (2)	3 (0)
7	サ　ッ　カ　ー	髙木　誠司	2	西村　諒介	46 (11)	15 (3)	3 (1)	1 (0)	3 (2)	12 (2)	12 (3)
8	バレーボール	八尋　英二	3	春木　浩輔	33 (14)	8 (3)	4 (0)	5 (2)	4 (1)	6 (5)	6 (3)
9	硬　式　庭　球	永光信一郎	4	佐藤　大介	42 (17)	14 (5)	4 (0)	0 (0)	8 (3)	5 (1)	11 (8)
10	柔　　道	川浪　大治	4	田山　裕大	6 (0)	3(0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)
11	卓　　球	藤田　昌樹	3	中牟田　龍	18 (6)	2 (0)	3 (2)	3 (1)	5 (3)	3 (0)	2 (0)
12	空　手　道	－	－	－	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
13	フェンシング	－	－	－	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
14	ソフトテニス	坪井　義夫	3	河田　紘也	24 (14)	2 (0)	5 (3)	4 (2)	5 (4)	3 (2)	5 (3)
15	漕　　艇	長谷川　傑	3	御江　大士郎	28 (5)	6 (3)	5 (0)	3 (0)	3 (1)	4 (1)	7 (0)
16	軟　式　野　球	羽賀　宣博	3	江頭　大樹	16 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)
17	英語研究会	立花　克郎	3	松尾　美月	29 (20)	2 (2)	8 (8)	5 (2)	4 (3)	5 (3)	5 (2)
18	ワンダーフォーゲル	角田　俊之	3	矢野　敦也	42 (17)	10 (5)	5 (1)	8 (3)	8 (2)	5 (5)	6 (1)
19	写　　真	吉満　研吾	4	植木　　祐	17 (5)	4 (1)	0 (0)	3 (0)	4 (2)	5 (2)	1 (0)
20	バドミントン	今福　信一	3	野田　駿斗	33 (15)	4 (1)	9 (4)	5 (4)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
21	社会医学研究会	久保　真一	4	大西　純司	17 (4)	3 (1)	2 (1)	0 (0)	2 (0)	5 (0)	5 (2)
22	医用電子科学研究会	志村　英生	4	米澤　　瑞	9 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (0)	3 (1)
23	水　　泳	三浦伸一郎	3	中島　力樹	36 (16)	5 (1)	4 (0)	5 (5)	11 (5)	8 (5)	3 (0)
24	弓　　道	川嵜　弘詔	2	佐田　雄太郎	21 (13)	3 (3)	4 (3)	1 (0)	4 (2)	6 (3)	3 (2)
25	ウインドサーフィン	平井　郁仁	2	池田　慶紀	10 (0)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)
26	音楽研究会	安部　　洋	3	犬塚　夕貴	63 (28)	11 (6)	10 (4)	15 (4)	14 (7)	10 (6)	3 (1)
27	競技スキー愛好会	芝口　浩智	2	杉　　龍一	5 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)
28	フットサル	白澤　専二	3	田崎勇一朗	47 (18)	3 (1)	7 (4)	15 (5)	5 (0)	8 (5)	9 (3)
29	ＣＭｅＴ（準）	石倉　宏恭	3	布山　智也	12(0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	5 (0)	1 (0)
30	管弦楽（準）	松永　　彰	4	中並　真帆	14(9)	2 (1)	2 (2)	3 (0)	1 (1)	5 (4)	1 (1)
	合　　計				767 (292)	144 (52)	120 (47)	115 (39)	131 (52)	132 (60)	125 (42)
	総学生数				703 (251)	135 (41)	113 (44)	102 (36)	116 (43)	112 (44)	125 (43)
	入　会　率				109.1% (116.3%)	106.7% (126.8%)	106.2% (106.8%)	112.7% (108.3%)	112.9% (120.9%)	117.9% (136.4%)	100.0% (97.7%)

別表(1)　西医体福大支部役員

委　員　長	小金丸陽生	MM4

別表(2)　医学部医学科学生会

役職	学籍番号	氏　名
会　　長	MM170040	梶川　　悟
副　会　長	MM170050	山本　真由
書　　記	MM170050	山本　真由
会　　計	MM170040	梶川　　悟
広　　報	MM170053	西浦　若葉

別表(3)　学年リーダー

学年	学籍番号	氏　名
６年	MM170080	福島　友紀
５年	MM180058	村瀬　新武
４年	MM190004	小金丸陽生
３年	MM200001	福満　和馬
２年	－	－
１年	MM220031	岩瀬　安奈

6．大学院医学研究科

1．在　籍　者　数

本年度の大学院在籍者は132名であった。　　（令和４年５月１日現在）

	１年次	２年次	３年次	４年次以上	計
人体生物系	0	0	0	1	1
生体制御系	1	1	2	1	5
病態構造系	3	4	4	6	17
病態機能系	9	8	8	13	38
社会医学系	4	7	8	5	24
先端医療科学系	12	10	8	17	47
計	29	30	30	43	132

2．専攻分野、専攻科名及び指導教員

（令和４年５月１日現在）

専攻分野	専攻科名	指導教員		定員
人体生物系	生体構造学	博(医)	立花　克郎	3
	分子細胞生物学	博(医)	白澤　専二	
	細胞分子制御学	博(医)	藤田　孝之	
生体制御系	生体防御学	博(医)	廣松　賢治	2
	再生・移植医学	博(医)	小玉　正太	
	呼吸病態生理学	博(医)	藤田　昌樹	
	再生再建外科学	博(医)	髙木　誠司	
病態構造系	形態病理学	博(医)	二村　聡	8
	腫瘍病理学	博(医)	濵﨑　慎	
	高次中枢病態学	博(医)	安部　洋	
	視覚病態学	博(医)	内尾　英一	
	腎・尿路病態学	博(医)	羽賀　宣博	
	消化器病態学	博(医)	植木　敏晴	
	〃	博(医)	八尾　建史	
	脳神経病態学	医博	坪井　義夫	
	腎免疫・代謝病態学	博(医)	升谷　耕介	
病態機能系	細胞分子薬理学	博(薬)	岩本　隆宏	8
	神経耳科学	博(医)	坂田　俊文	
	関節機能学	博(医)	山本　卓明	
	運動器機能学	医博	柴田　陽三	
	循環機能学	博(医)	和田　秀一	
	放射線応用医学Ⅰ	博(医)	吉満　研吾	
	放射線応用医学Ⅱ	博(医)	長町　茂樹	
	脳卒中予防・地域医療学	博(医)	東　登志夫	
	麻酔学	博(医)	秋吉浩三郎	
	救命救急医学	博(医)	石倉　宏恭	
	口腔病態学	博(医)	近藤　誠二	
社会医学系	予防医学・公衆衛生学	博(医)	有馬　久富	3
	犯罪医学	医博	久保　真一	
	精神科治療学	博(医)	川嵜　弘詔	

専攻分野	専攻科名	指導教員		定員
先端医療科学系	分子医化学	博(医)	安永晋一郎	6
	循環生理化学	博(医)	三浦伸一郎	
	〃	医博	朔　啓二郎	
	分子生殖医学	医博	宮本　新吾	
	臨床検査解析学	博(医)	小川　正浩	
	〃	医博	松永　　彰	
	心疾患病態生理化学	博(医)	河村　　彰	
	〃	医博	浦田　秀則	
	皮膚炎症・感染症免疫学	博(医)	今福　信一	
	感染症病態生理学	博(医)	髙田　　徹	
	〃	博(医)	髙松　　泰	
	病院感染制御科学	博(医)	髙田　　徹	
	内分泌・代謝病態生理学	博(医)	川浪　大治	
	〃	博(医)	小林　邦久	
	消化器外科病態学	博(医)	長谷川　傑	
	〃	博(医)	渡部　雅人	
	臓器再建・病態外科学	博(医)	佐藤　寿彦	
	〃	医博	岩﨑　昭憲	
	消化器内科病態学	博(医)	平井　郁仁	
	〃	医博	向坂彰太郎	
	発達小児科学	博(医)	永光信一郎	
	〃	医博	廣瀬　伸一	
	総合内科診断学	博(医)	鍋島　茂樹	
	臨床腫瘍学	博(医)	髙松　　泰	
	〃	医博	宮本　新吾	
	〃	博(医)	佐藤　寿彦	
	〃	医博	岩﨑　昭憲	
	〃	医博	向坂彰太郎	
	臨床研究科学	博(医)	三浦伸一郎	
	〃	医博	朔　啓二郎	
	〃	医博	野田　慶太	
	〃	博(医)	安元　佐和	
		合　　計		30

7．学 位 取 得

1．学位取得者数

学位取得者は、課程修了者29名、論文提出者４名であった。

表１　学位取得者

	授　与　日	取　得　者　数		
課　程	令和４年９月13日	8	計29	計33
	令和５年３月16日	21		
論　文	令和４年10月６日	2	計4	
	令和５年３月16日	2		

2．課程修了による学位取得者一覧表

（授与日：令和４年９月13日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	甲第1948号	第1948号	長城　晃一	坪井　義夫	川嵜　弘詔	東　登志夫	貴田　浩志
2	博士(医学)	甲第1949号	第1949号	髙　良太	内尾　英一	藤田　昌樹	有馬　久富	伴　文武
3	博士(医学)	甲第1950号	第1950号	林　優佳	坪井　義夫	吉満　研吾	安部　洋	鎌田　聡
4	博士(医学)	甲第1951号	第1951号	橋口　志保	近藤　誠二	安永晋一郎	白澤　専二	磯部　泰司
5	博士(医学)	甲第1952号	第1952号	梶谷　竜路	長谷川　傑	秋吉浩三郎	宮本　新吾	篠田　康晴
6	博士(医学)	甲第1953号	第1953号	有永　豊識	三浦伸一郎	和田　秀一	藤田　孝之	吉田　和真
7	博士(医学)	甲第1954号	第1954号	平川　豊文	宮本　新吾	小玉　正太	羽賀　宣博	角田　俊之
8	博士(医学)	甲第1955号	第1955号	田中　由貴	川浪　大治	佐藤　寿彦	岩本　隆宏	石倉　周平

（授与日：令和５年３月16日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	甲第1968号	第1968号	橋本小百合	白澤　専二	宮本　新吾	安永晋一郎	古賀　佳織
2	博士(医学)	甲第1969号	第1969号	竹下　翔	坪井　義夫	東　登志夫	安部　洋	貴田　浩志
3	博士(医学)	甲第1970号	第1970号	眞野　亮介	近藤　誠二	坂田　俊文	岩本　隆宏	福岡歯科大学 池邊　哲郎
4	博士(医学)	甲第1971号	第1971号	石田晋太郎	近藤　誠二	髙松　泰	野田　慶太	石倉　周平
5	博士(医学)	甲第1972号	第1972号	木村　翔一	坂田　俊文	白澤　専二	廣松　賢治	入江　真
6	博士(医学)	甲第1973号	第1973号	杉野　裕記	山本　卓明	吉満　研吾	石倉　宏恭	遠藤日富美
7	博士(医学)	甲第1974号	第1974号	田中　秀明	山本　卓明	髙木　誠司	安部　洋	吉村　力
8	博士(医学)	甲第1975号	第1975号	藤田　潤	山本　卓明	川嵜　弘詔	秋吉浩三郎	佐藤　敦
9	博士(医学)	甲第1976号	第1976号	宮崎弘太郎	山本　卓明	立花　克郎	二村　聡	高山　幸久
10	博士(医学)	甲第1977号	第1977号	山﨑裕太郎	山本　卓明	柴田　陽三	近藤　誠二	土井　佳子
11	博士(医学)	甲第1978号	第1978号	中山　鎭秀	山本　卓明	佐藤　寿彦	髙松　泰	青木光希子
12	博士(医学)	甲第1979号	第1979号	中野　涼子	久保　真一	川浪　大治	向坂彰太郎	白須　直人
13	博士(医学)	甲第1980号	第1980号	林　礼雄	川嵜　弘詔	永光信一郎	久保　真一	芝口　浩智
14	博士(医学)	甲第1981号	第1981号	三股　亮介	有馬　久富	升谷　耕介	河村　彰	上杉　憲子

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
15	博士(医学)	甲第1982号	第1982号	毛利(もうり)　紀之(のりゆき)	三浦伸一郎	和田　秀一	小林　邦久	本田　　啓
16	博士(医学)	甲第1983号	第1983号	坂本(さかもと)　篤彦(あつひこ)	鍋島　茂樹	髙田　　徹	藤田　昌樹	小柳　　緑
17	博士(医学)	甲第1984号	第1984号	長野(ながの)　秀紀(ひでき)	長谷川　傑	有馬　久富	平井　郁仁	早稲田龍一
18	博士(医学)	甲第1985号	第1985号	林(はやし)　貴臣(たかおみ)	長谷川　傑	濵﨑　　慎	小玉　正太	四元　房典
19	博士(医学)	甲第1986号	第1986号	東(ひがし)　沙羅(さら)	三浦伸一郎	藤田　昌樹	鍋島　茂樹	根本　隆行
20	博士(医学)	甲第1987号	第1987号	藤井(ふじい)　秀幸(ひでゆき)	川浪　大治	三浦伸一郎	羽賀　宣博	中村学園大学 河手　久弥
21	博士(医学)	甲第1988号	第1988号	森田(もりた)　英剛(ひでたか)	三浦伸一郎	藤田　孝之	植木　敏晴	桑原　　豪

3．論文提出による学位取得者一覧表

（授与日：令和４年10月６日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	乙第1956号	第1956号	百武(ひゃくたけ)　光一(こういち)	安部　　洋	坪井　義夫	髙木　誠司	根本　隆行
2	博士(医学)	乙第1957号	第1957号	中森絵里砂(なかもりえりさ)	秋吉浩三郎	石倉　宏恭	髙松　　泰	大野　芳典

（授与日：令和５年３月16日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	乙第1995号	第1995号	田中(たなか)　秀明(ひであき)	安部　　洋	坪井　義夫	東　登志夫	大久保久美子
2	博士(医学)	乙第1996号	第1996号	坪内(つぼうち)　和女(かずな)	羽賀　宣博	秋吉浩三郎	山本　卓明	阿部真紀子

8．国 際 交 流

1．教職員在外研究員および海外研修

1）長期

所属	所属科	資格	氏名	研修先	研修期間	研修の種類
医学部	衛生・公衆衛生学	講師	※1 前田 俊樹	オーストラリア	R4.5.1～R5.4.30	1号
医学部	衛生・公衆衛生学	助教	※2 川添 美紀	アメリカ	R4.7.1～R6.6.30	1号

※1　令和３年度長期在外研究員（新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限により研修期間変更）
※2　令和２年度長期在外研究員（新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限により研修期間変更）

2）短期

該当なし

3）１か月未満

医学部基礎講座	医学部臨床講座	病院	筑紫病院	合計
3	9	1	0	13

2．学生海外研修

医学部学生を募集対象とした海外研修は以下の８校に限られる。

ウォッシュバン大学	（アメリカ合衆国）	研修費自己負担、旅費大学支給
グリフィス大学	（オーストラリア）	研修費自己負担、旅費大学支給
蔚山大学	（韓国）	研修費自己負担、旅費大学支給
ニューカッスル大学	（イギリス）	全額自己負担
シアトル大学	（アメリカ合衆国）	全額自己負担
ハノイ大学	（ベトナム）	全額自己負担
揚州大学	（中国）	全額自己負担
啓明大学	（韓国）	医学部

対象学年　１年生～４年生（ただし、啓明大学の場合は医学部医学科６年生および大学院生）

研修先大学　蔚山大学
ウォッシュバン大学
グリフィス大学
ニューカッスル大学
シアトル大学
ハノイ大学
揚州大学
啓明大学

ウォッシュバン大学及びグリフィス大学の選考は英語試験、作文、面接により行われる。蔚山大学校の選考は作文と面接。ニューカッスル大学と揚州大学は選考試験がなく、定員になり次第締め切り。医学部学生の面接は医学部長、教務委員、国際センター委員で行い、候補者を推薦。医学部学生の研修生採用枠は１～2名で他学部に比べ少ない。採用枠は志願者数増加により多少増加し得る。

ウォッシュバン大学、グリフィス大学の場合、選考は10月頃に行われる。選考による候補者が学年末試験に該当することになった場合、研修不可能になる。全学的なもので、医学部学生のみ期日変更は不可能である。

R4年度実績：なし

3．外国人研究員受け入れ状況

1）長期
　延長（730日間）：1名（タイ）
2）短期
　令和４年度：実績なし

4．医学部研究生（外国人受け入れ状況０名）

（全研究生：18名）

5．大学院留学生受け入れ状況

志願者０名
合格者０名（在学生０名）

6．学部留学生受け入れ状況

志願者２名
合格者０名
入学者０名（在学生０名）

7．啓明大学 BSL 交換プログラム

【派遣】
新型コロナウィルス感染拡大に伴い派遣中止
【受け入れ】
新型コロナウィルス感染拡大に伴い受入中止

8．参考（福岡大学協定校：22カ国・地域、86大学、１機関、令和５年３月31日現在）

うち、医学部学生が研究可能な協定校は以下の通りです。
注）全学に関しては、「国際センター活動報告書」令和４年（2022）年度を参照されてください。

韓国：蔚山大学校、啓明大学校
中国：揚州大学
イギリス：ニューカッスル大学
アメリカ：ウオッシュバン大学、シアトル大学
オーストラリア：グリフィス大学
ベトナム：ハノイ大学

（医学部国際センター委員　山　本　卓　明）

9．研 究 業 績

令和４年４月より令和５年３月までの１年間における研究業績の主なものを，ここに記載する。

講座名 No.	論文題名	発表雑誌	発行の巻（号） 頁・年	著者及び演者
解剖学				
〈原著〉				
1	Influence of Nanobubble Size Distribution on Ultrasound-Mediated Plasmid DNA and Messenger RNA Gene Delivery.	Front Pharmacol.	13: 855495, 2022	Kida H, Loreto B Feril, Irie Y, Endo H, Itaka K, Tachibana K.
2	Soft tissue stabilization of the hinge position in medial closed wedge distal femoral osteotomy: an anatomical study	BMC Musculoskeletal Disorders	23: 1105, 2022	Taiga Oda T, Maeyama A, Yoshimura I, Ishimatsu T, Miyazaki K, Tachibana K, Yoshimitsu K, Yamamoto T.
3	Ultrasound-Induced DNA Damage and Cellular Response: Historical Review, Mechanisms Analysis, and Therapeutic Implications	Radiat Res.	197(6): 662-672, 2022	Furusawa Y, Takashi Kondo T, Tachibana K, Feril LB.
4	NUMERICAL SIMULATION OF THE MECHANISM OF ULTRAFINE BUBBLE GENERATION BY HIGH-SPEED STIRRING EFFECTS OF THE INITIAL GAS-LIQUID VOLUMETRIC RATIO	Multiphase Science and Technology	34(3): 63-73, 2022	Matsukuma Y, Uchiyama H, Tachibana K
〈総説〉				
1	Drug delivery system 生体構造学的視点から	Clinical Neuroscience.	40: 219-221, 2022	立花　克郎，貴田　浩志
〈著書〉				
1	泡の生成・消泡の基礎と産業利用 「6　ファインバブルの医学への応用」	シーエムシー出版	283-285, 2022	立花　克郎，貴田　浩志
〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉				
1	（シンポジウム） 超音波治療の現状と展望：血栓を溶かす！ふるえを治療する。講演依頼テーマ：脳神経疾患への新しい超音波治療の応用	第41回日本脳神経超音波学会／第25回日本栓子検出と治療学会	東京 6/4, 2022	立花　克郎
2	（シンポジウム） ナノバブルと超音波を用いた中枢神経への薬物送達	第41回日本脳神経超音波学会総会／第25回日本栓子検出と治療学会	東京 6/3-4, 2022	貴田　浩志，山﨑裕太郎， 遠藤日富美，Loreto B. Feril， 立花　克郎
3	（国際学会） A Spinal “Back-Door” Approach for Gene Delivery into the Brain: An Alternative to Ultrasound BBB Opening Method	21st Annual International Symposium on Therapeutic Ultrasound（ISTU）	Toronto 6/7-10, 2022	Kida H, Yamasaki Y, Endo H, Feril LB Jr, Tachibana K.
4	（国際学会） Influence of nanobubble size distribution on ultrasound-mediated plasmid DNA and messenger RNA gene delivery.	21st Annual International Symposium on Therapeutic Ultrasound（ISTU）	Toronto 6/7-10, 2022	Kida H, Endo H, Feril LB Jr, Irie Y, Tachibana K.

5	（特別講演） 「超音波医学－ POCUS から最先端技術まで－」「ナノバブルを使った超音波遺伝子治療の新展開」	第456回国際治療懇話会	Web 9/15， 2022	立花　克郎
6	（シンポジウム） ファインバブルの医療応用研究の現状と未来～薬物・遺伝子送達システムを中心として～.	第８回ファインバブル学会連合シンポジウム;	zoom ウェビナー 2022/12/22.	貴田　浩志
7	（国際学会） Carrier-free messenger RNA delivery into cells using albumin-based nanobubbles and a home-made sonoporator	28th European symposium on Ultrasound Contrast Imaging	Rotterdam 1/19–20， 2023	Kida H, Yamasaki Y, Feril LB Jr, Endo H, Tachibana K.

〈国内研究助成金〉

1	ワクチンに向けた経皮的ナノバブル超音波穿孔法でのキャリアフリー mRNA 導入の確立	独立行政法人 日本学術振興会　令和４年度科学研究費補助金 基盤研究(B)	2022	立花　克郎（代表）
2	ウルトラファインバブルによる膠芽腫の抗 EGFR 抗体/shRNA 治療の開発研究	独立行政法人 日本学術振興会　令和４年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2022	貴田　浩志（代表）
3	抗体・遺伝子結合ペプチドによる細胞選択的遺伝子導入法の臨床応用基盤の確立	国立大学法人九州大学	2022	貴田　浩志（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本解剖学会　第78回九州支部学術集会	福岡大学中央図書館	福岡 10/19， 2022	立花　克郎
2	令和４年度 THERAPEUTIC ULTRASOUND Evening Symposium（JSUM，JSTU 共催）	福岡市科学館サイエンスホール	福岡 3/27， 2023	立花　克郎

〈学会活動〉

1	日本超音波医学会	代議員	2022	立花　克郎
2	日本脳神経超音波学会	理事・代議員	2022	立花　克郎
3	日本栓子検出と治療学会	理事・評議員	2022	貴田　浩志，立花　克郎
4	The Neurosonology Research Group of the World Federation of Neurology	理事	2022	立花　克郎
5	日本解剖学会	評議員	2022	立花　克郎
6	福岡大学医学会	評議員	2022	立花　克郎
7	日本超音波脳神経学会九州地方会	評議員	2022	立花　克郎
8	Scientific Advisory Board member, Journal of Medical Ultrasonics	Editorial Board member	2022	立花　克郎
9	日本超音波医学会　機器及び安全に関する委員会	委員	2022	立花　克郎
10	FBIA（finebubble 研究会）技術委員会医療応用分科会 ワーキンググループ（WG）	運営委員	2022	立花　克郎
11	日本学術振興会　特別研究員等審査委員会	審査委員	2022	立花　克郎

12	Translational Pharmacology, Frontiers in Pharmacology	Associate editor	2022	貴田　浩志
13	Philippine Physics Journal	Editor	2022	Feril LB Jr.
14	SRL Cancer & Cellular Biology, SciRes Literature	Editorial Board Member	2022	Feril LB Jr.
15	Elsevier publications	Elsevier Researcher Panel Member	2022	Feril LB Jr.
16	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences	Editorial Board Member	2022	Feril LB Jr.
17	Philippine Society of Ultrasound in Clinical Medicine, Inc.	Honorary Member	2022	Feril LB Jr.
18	Mathews Journal of Cancer Science, Mathews Open Access Journals	Editorial Board member	2022	Feril LB Jr.
19	President, Filipinos and Friends in Fukuoka (FFF)	President	2022	Feril LB Jr.
20	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences	Editorial Board member	2022	Feril LB Jr.
21	Journal of Anatomy Forecast, Science Forecast	Editorial Board member	2022	Feril LB Jr.
22	Filipinos and Friends in Fukuoka (FFF)	President	2022	Feril LB Jr.

〈研究に関係した賞〉

1	奨励賞「令和４年度がん研究」	公益財団法人　ふくおか公衆衛生推進機構	2022	山﨑裕太郎
2	福岡大学医学紀要49巻優秀論文賞	福岡大学医学会第87回例会	2022	山﨑裕太郎

細胞生物学

〈原著〉

1	Fibroblast-Induced Paradoxical PI3K Pathway Activation in PTEN-Competent Colorectal Cancer: Implications for Therapeutic PI3K/mTOR Inhibition.	Front Oncol	12: 862806, 2022	Conciatori F, Salvati E, Ciuffreda L, Shirasawa S, Falcone I, Cognetti F, Ferretti G, Zeuli M, Del Bufalo D, Bazzichetto C, Milella M.
2	Epipharyngeal Abrasive Therapy (EAT) Has Potential as a Novel Method for Long COVID Treatment.	Viruses	14(5): 907, 2022	Imai K, Yamano T, Nishi S, Nishi R, Nishi T, Tanaka H, Tsunoda T, Yoshimoto S, Tanaka A, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Nishi K.
3	Cancer Spheroid Proliferation Is Suppressed by a Novel Low-toxicity Compound, Pyra-Metho-Carnil, in a Context-independent Manner.	Anticancer Res	42(8): 3993-4001, 2022	Yoshida K, Nishi K, Ishikura S, Nakabayashi K, Yazaki R, Ohshima T, Suenaga M, Shirasawa S, Tsunoda T.

4	Standardized Methods Using EUS-guided Fine-needle Biopsy and a Minimal Medium Creates Three Pancreatic Cancer Organoids.	Anticancer Res	42(8): 4103-4109, 2022	Ishida Y, Tsunoda T, Hamada Y, Tsuchiya N, Koga T, Kitaguchi T, Matsumoto K, Matsumoto S, Sasaki T, Nakashima R, Ishii F, Kajiwara M, Shirasawa S, Hasegawa S, Hirai F.
5	Chitinase 3-like 1, Carcinoembryonic Antigen-related Cell Adhesion Molecule 6, and Ectopic Claudin-2 in the Carcinogenic Processes of Ulcerative Colitis.	Anticancer Res	42(8): 4119-4127, 2022	Kinugasa T, Tsunoda T, Mizoguchi E, Okada T, Sudo T, Kawahara A, Akiba J, Akagi Y.
6	Epipharyngeal Abrasive Therapy Down-regulates the Expression of SARS-CoV-2 Entry Factors ACE2 and TMPRSS2.	In Vivo	36(1): 371-374, 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Tsunoda T, Ohno J, Yoshimura M, Hiromatsu K, Yamano T.
7	Epipharyngeal Abrasive Therapy (EAT) Reduces the mRNA Expression of Major Proinflammatory Cytokine IL-6 in Chronic Epipharyngitis.	Int J Mol Sci	23(16): 9205, 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Nishi T, Nishi R, Tanaka T, Tsunoda T, Imai K, Tanaka H, Hotta O, Tanaka A, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Yamano T.
8	Cryptotanshinone suppresses tumorigenesis by inhibiting lipogenesis and promoting reactive oxygen species production in KRAS-activated pancreatic cancer cells.	Int J Oncol	61(3): 108, 2022	Terado T, Kim CJ, Ushio A, Minami K, Tambe Y, Kageyama S, Kawauchi A, Tsunoda T, Shirasawa S, Tanaka H, Inoue H.
9	Epipharyngeal Abrasive Therapy Down-regulates the Expression of Cav1.2: A Key Molecule in Influenza Virus Entry.	In Vivo	36(5): 2357-2364, 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Nishi T, Nishi R, Tsunoda T, Morita H, Tanaka H, Hotta O, Yasumasu S, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Yamano T.
10	Death domain-associated protein DAXX regulates noncoding RNA transcription at the centromere through the transcription regulator ZFAT.	J Biol Chem	298(11): 102528, 2022	Ishikura S, Yoshida K, Tsunoda T, Shirasawa S.

〈国内研究助成金〉

1	新規抗腫瘍薬を利用した腫瘍免疫微小環境における KRAS 制御機構の解明と制御法開発	文部科学省 基盤研究 C	2022	角田　俊之（代表）
2	接着性浸潤性大腸菌（AIEC）関連分子による炎症誘導大腸癌発症メカニズムの解析	文部科学省 基盤研究 C	2022	角田　俊之 （代表者：衣笠　哲史）
3	アスペルギルスと非結核性抗酸菌の細胞間コミュニケーションを介した難治化機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	角田　俊之 （代表者：泉川　公一）
4	Emmprin と CD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	角田　俊之 （代表者：青木光希子）
5	骨髄赤血球系前駆細胞における転写制御因子 ZFAT の機能解析	文部科学省 基盤研究 C	2022	土井　佳子（代表）

6	Zfat によるセントロメアノンコーディング RNA 転写制御機構とガンとの関連の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	石倉　周平（代表）
7	新規抗腫瘍薬で探る変異 KRAS 陽性癌細胞の小胞体ストレス応答と細胞死誘導制御	文部科学省 基盤研究 C	2022	吉田　和真（代表）
8	体に優しい次世代の分子標的薬の開発：癌細胞が過酷な環境でも生き残るしくみを抑える	JST 研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム	2022	角田　俊之（代表）
9	KDEL 受容体を制御する低毒性抗腫瘍性低分子化合物の開発	福岡バイオ産業創出事業に係る可能性試験事業	2022	角田　俊之（代表）

〈学会活動〉

1	バイオ治療法研究会	監事	2022	白澤　専二
2	バイオ治療法研究会	運営委員	2022	角田　俊之

生理学

〈原著〉

1	Lactulose modulates the structure of gut microbiota and alleviates colitis-associated tumorigenesis.	Nutrients	14(3), 649, 2022 DOI: 10.3390/nu14030649	Hiraishi K, Zhao F, Kurahara LH, Li X, Yamashita T, Hashimoto T, Matsuda Y, Sun Z, Zhang H, Hirano K.

〈総説〉

1	Potential of the TRPM7 channel as a novel therapeutic target for pulmonary arterial hypertension.	J. Smooth Mus. Res.	58: 50-62, 2022	Hiraishi K, Kurahara LH, Ishikawa K, Go T, Yokota N, Hu Y, Fujita T, Inoue R, Hirano K.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） ラクツロースや母乳由来プロバイオティクスによる炎症性大腸癌モデルマウスの改善効果	日本生理学会第100回記念大会	京都 3/14-3/16 2023	平石　敬三

〈国内研究助成金〉

1	高リスク心疾患に対する栄養・加齢・幹細胞の炎症への影響と組織再生能評価	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	藤田　孝之 （代表者：千葉　由美）
2	Investigation on the arrhythmogenecity of Nav1.5-TRPM4 channel complex	文部科学省 若手研究	2022	胡　　耀鵬（代表）

〈学会活動〉

1	日本生理学会	評議員	2022	藤田　孝之，本田　　啓
2	日本病態生理学会	評議員	2022	藤田　孝之
3	日本薬理学会	学術評議員	2022	藤田　孝之
4	JPS（Journal of Physiological Sciences）	査読委員	2022	藤田　孝之
5	日本高血圧学会 生涯教育・チーム医療委員会	委員	2022	藤田　孝之
6	日本生理学会	広報委員	2022	藤田　孝之

〈特許取得〉

1	9-β-D-アラビノフラノシルヒポキサンチンによる不整脈治療	日本	第7137852号（2022.9.7）	藤田　孝之

生化学

〈原著〉

1	Trophic and immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis.	Sci. Rep.	12(1)：8031，2022.	Hirakawa T, Yotsumoto F, Shirasu N, Kiyoshima C, Urushiyama D, Yoshikawa K, Miyata K, Kurakazu M, Azuma Koga K, Aoki M, Nabeshima K, S. Koga K, Osuga Y, Komatsu H, Taniguchi F, Harada T, Yasunaga S, Miyamoto S.
2	HiSAT: A novel method for the rapid diagnosis of allergy.	Bio Protoc.	12(3)：e4309，2022.	Shibaguchi H, Yasutaka Y.
3	Acceptance of Murine Islet Allografts Without Immunosuppression in Inguinal Subcutaneous White Adipose Tissue Pretreated With bFGF.	Diabetes.	71(8)：1721-1734，2022.	Nakafusa Y, Nitta N, Ishii K, Shirasu N, Iwamoto T, Nemoto T, Nakamura M, Goto M, Iwata H, Taniguchi M, Yasunami Y.

〈国内研究助成金〉

1	造血幹細胞の増殖・分化制御における ZFAT と Geminin の分子的クロストーク	文部科学省 基盤研究(C)	2022	安永晋一郎（代表）
2	機能的 HDL 粒子群解析が，新規動脈硬化指標になりうるか？	文部科学省 基盤研究(C)	2022	瀬川　波子（代表）
3	腫瘍関連抗原と免疫チェックポイント分子 CTLA4を同時標的化する光免疫療法の確立	文部科学省 基盤研究(C)	2022	白須　直人（代表）

〈学会活動〉

1	日本血液学会	評議員	2022	安永晋一郎
2	日本アレルギー学会	評議員	2022	安永晋一郎
3	日本生化学会	評議員	2022	安永晋一郎
4	日本動脈硬化学会	評議員	2022	瀬川　波子

薬理学

〈原著〉

1	Acceptance of Murine Islet Allografts Without Immunosuppression in Inguinal Subcutaneous White Adipose Tissue Pretreated With bFGF.	Diabetes.	71(8)：1721-1734. 2022	Nakafusa Y, Nitta N, Ishii K, Shirasu N, Iwamoto T, Nemoto T, Nakamura M, Goto M, Iwata H, Taniguchi M, Yasunami Y.

2	Inhibition of transient receptor potential cation channel 6 promotes capillary arterialization during post-ischaemic blood flow recovery.	Br J Pharmacol.	180(1): 94–110, 2023	Numaga-Tomita T, Shimauchi T, Kato Y, Nishiyama K, Nishimura A, Sakata K, Inada H, Kita S, Iwamoto T, Nabekura J, Birnbaumer L, Mori Y, Nishida M.
3	Sigma-1 receptor is involved in modification of ER-mitochondria proximity and Ca^{2+} homeostasis in cardiomyocytes	J Pharmacol Sci.	151(2): 128–133, 2023	Tagashira H, Bhuiyan MS, Shinoda Y, Kawahata I, Numata T, Fukunaga K.
4	Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Sitagliptin Phosphate Accelerates Cellular Cholesterol Efflux in THP-1 Cells.	Biomolecules.	13(2): 228, 2023	Komatsu T, Abe S, Nakashima S, Sasaki K, Higaki Y, Saku K, Miura S, Uehara Y.
5	Beneficial Effect of Cuban Policosanol on Blood Pressure and Serum Lipoproteins Accompanied with Lowered Glycated Hemoglobin and Enhanced High-Density Lipoprotein Functionalities in a Randomized, Placebo-Controlled, and Double-Blinded Trial with Healthy Japanese.	Int J Mol Sci	24(6): 5185, 2023	Cho KH, Nam HS, Baek SH, Kang DJ, Na H, Komatsu T, Uehara Y.
6	The Validity of Ultra-Short-Term Heart Rate Variability during Cycling Exercise	Sensors (Basel)	23(6): 3325, 2023	Tanoue Y, Nakashima S, Komatsu T, Kosugi M, Kawakami S, Kawakami S, Michishita R, Higaki Y, Uehara Y.

〈症例報告〉

1	Two Cases of Acquired High-Density Lipoprotein Deficiency with Immunoglobulin G4-Related Lecithin-Cholesterol Acyltransferase Autoantibody	J Atheroscler Thromb	Published online: 2022	Komatsu T, Katsurada Y, Miyashita K, Abe S, Nishida T, Endo Y, Teramoto M, Sasaki K, Arakawa J, Sasaki M, Suzuki N, Kuwata K, Imakiire T, Miyake T, Sakurada M, Matsukuma S, Hirano T, Uehara Y, Ikewaki K.

〈総説〉

1	Na^+/Mg^{2+}交換輸送体 CNNM の構造・機能の解明から創薬への応用	日薬理誌	157: 281–282, 2022	根本　隆行，喜多　　知， 岩本　隆宏
2	Functional characteristics and therapeutic potential of SLC41 transporters.	J Pharmacol Sci.	151(1): 88–92, 2023	Nemoto T, Tagashira H, Kita T, Kita S, Iwamoto T
3	The Sigma–1 Receptor: Pathophysiological Roles and Therapeutic Potential in Neurodegenerative Diseases.	Med Bull Fukuoka Univ.	50(1): 43–48, 2023	Shinoda Y, Nemoto T, Iwamoto T

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 「人工冬眠の基盤となる低温脳機能学 cold brain science の創生に向けて」 概日時計の温度補償性 －低温 Ca^{2+} シグナルによる生化学振動の抑制－	NEURO2022 第45回日本神経科学大会 第65回日本神経化学会大会 第32回日本神経回路学会大会（ハイブリッド開催）	沖縄 6/30-7/3 2022	Kon N, Wang HT, Iwamoto T, Fukada Y
2	（シンポジウム） 血管平滑筋 NCX1を介する肺高血圧発症機序	生体機能と創薬シンポジウム2022 （ハイブリッド開催）	静岡 8/25-26 2022	喜多紗斗美，田頭　秀章， 岩本　隆宏
3	（シンポジウム） 肺高血圧症治療の新戦略， 「NCX 輸送体を標的とした肺高血圧症治療戦略」	第52回日本心脈管作動物質学会（ハイブリッド開催）	北九州 2/10-11 2023	岩本　隆宏

〈国内研究助成金〉

1	遠位尿細管における Na^+/Ca^{2+} 交換輸送制御の分子機序解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	岩本　隆宏（代表）， 喜多　　知
2	遠位尿細管特異的遺伝子改変マウスを駆使した急性腎障害機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	根本　隆行（代表）
3	細胞膜–ミトコンドリア Ca^{2+} 輸送連関による褐色脂肪細胞熱産生制御機構の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	喜多　　知（代表）， 岩本　隆宏
4	運動による新規中性脂肪低下メカニズムの解明～骨格筋アポ蛋白 C2システムを中心に～	文部科学省 若手研究	2022	小松　知広（代表）
5	シグマ１受容体変異を伴う筋萎縮性側索硬化症の病態解明と創薬	文部科学省 若手研究	2022	篠田　康晴（代表）
6	Na^+/Ca^{2+} 交換輸送体による血圧・心拍数の日内変動制御機構の解明	公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団 研究助成	2022	岩本　隆宏（代表）， 根本　隆行，喜多　　知， 篠田　康晴
7	TRPC6制御によるネフローゼ症候群治療薬創薬の可能性検証	共同研究 小野薬品工業	2022	岩本　隆宏（代表）， 根本　隆行
8	Mg 代謝異常と腎障害	福岡大学 領域別研究	2022	岩本　隆宏（代表）
9	イオン輸送体を標的とした急性腎不全治療戦略	福岡大学 推奨研究プロジェクト	2022	岩本　隆宏（代表）
10	新規肥満症治療戦略	福岡大学 総合科学研究チームⅣ	2022	喜多　　知（代表）， 小松　知広

〈学会活動〉

1	日本薬理学会	財務委員	2022	岩本　隆宏
2	日本薬理学会	学術評議員	2022	岩本　隆宏，根本　隆行， 喜多　　知，篠田　康晴
3	日本薬理学会	代議員	2022	岩本　隆宏，根本　隆行
4	日本臨床薬理学会	支部世話人	2022	岩本　隆宏
5	日本マグネシウム学会	評議員	2022	岩本　隆宏

6	日本平滑筋学会	評議員	2022	岩本　隆宏
7	日本心脈管作動物質学会	理事	2022	岩本　隆宏
8	日本心脈管作動物質学会	評議員	2022	岩本　隆宏
9	国際心臓研究学会（ISHR）	評議員	2022	岩本　隆宏
10	トランスポーター研究会	顧問	2022	岩本　隆宏
11	トランスポーター研究会	幹事	2022	根本　隆行，喜多　　知
12	Journal of Pharmacological Sciences	Section Editor	2022	岩本　隆宏
13	Frontiers in Physiology	Associate Editor	2022	岩本　隆宏
14	Frontiers in Physiology	Editor	2022	根本　隆行，喜多　　知， 篠田　康晴，小松　知広
15	International Journal of Molecular Sciences	Editor	2022	岩本　隆宏
16	Japanese Journal of Circulation Research	Editor	2022	岩本　隆宏
17	Journal of Magnesium Research	Editor	2022	岩本　隆宏

〈研究に関係した賞〉

1	虚血性急性腎不全発症における遠位尿細管 Ca オーバーロードの重要性	第６回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会 優秀発表賞	2022	根本　隆行，若崎るみ枝， 喜多　　知，中嶋　尚子， 喜多紗斗美，岩本　隆宏

病理学

〈原著〉

1	GLUT-1 expression is helpful to distinguish myxofibrosarcoma from nodular fasciitis.	Histol Histopathol	38(1): 47-51, Jan 2023	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Koga K, Nabeshima K, Yamamoto T.
2	Angiofibroma of soft tissue: Current status of pathology and genetics.	Histol Histopathol.	37(8): 717-722, 2022	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Koga K, Nabeshima K, Yamamoto T.
3	CCR7 alterations associated with inferior outcome of adult T-cell leukemia/lymphoma under mogamulizumab treatment.	Hematol Oncol.	40(5): 876-884, 2022	Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Ohtsuka E, Takeshita M, Muto R, Iwasaki H, Ito A, Kusumoto S, Nakano N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H.
4	Challenges and limitation of MTAP immunohistochemistry in diagnosing desmoplastic mesothelioma/sarcomatoid pleural mesothelioma with desmoplastic features.	Ann Diagn Pathol.	60: 152004, 2022	Prakasit Sa-Ngiamwibool Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, Shinji Matsumoto, Ayuko Sato, Tohru Tsujimura, Takahiko Kasai, Kenzo Hiroshima, Kei Kushitani, Yukio Takeshima, Kunimitsu Kawahara, Akinori Iwasaki, Kazuki Nabeshima

5	Clinicopathological discordance in biopsy-proven nephrosclerosis: a nationwide cross-sectional study of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR)	Clin Exp Nephrol	26(4): 325-332, 2022	Sumida K, Takeda A, Furuichi K, Uesugi N, Ubara Y, Sato H, Sugiyama H, Shimizu A, Yokoyama H
6	Early Enhancement with Contrast-Enhanced Ultrasonography Relates to the Number of Small-Diameter Neovessels in the Carotid Plaque	Cerebrovasc Dis	52(1): 36-43, 2023	Takeshita S, Ogata T, Uesugi N, Nabeshima K, Shimada F, Arima H, Inoue T, Tsuboi Y
7	Eosinophilic Granuloma of the Liver Mimicking Metastatic Liver Tumor	Intern Med	61(10): 1511-1517, 2022	Yotaro Uchida, Keiji Yokoyama, Tomotaka Higashi, Takanori Kitaguchi, Hiromi Fukuda, Ryo Yamauchi, Naoaki Tsuchiya, Atsushi Fukunaga, Kaoru Umeda, Kazuhide Takata, Takashi Tanaka, Yasuaki Takeyama, Satoshi Shakado, Shotaro Sakisaka, Hiroyuki Hayashi, Yoshihiro Hamada, Kazuki Nabeshima, Fumihito Hirai
8	Gallbladder Intramucosal Carcinoma Arising in a Cholesterol Polyp: A Case Report	Cureus	14(3), 2022	Takahide Sasaki, Masatoshi Kajiwara, Fuminori Ishii, Yoshihiro Hamada, Suguru Hasegawa
9	Impact of Results of TTF-1 Immunostaining on Efficacy of Platinum-Doublet Chemotherapy in Japanese Patients with Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer	J Clin Med	24;12(1): 137, 2022	Akira Nakao, Hiroyuki Inoue, Nobumitsu Ikeuchi, Fumiyasu Igata, Takashi Aoyama, Makoto Hamasaki, Hisatomi Arima, Masaki Fujita
10	Seasonal variations in renal biopsy numbers and primary glomerular disease features based on the Japan renal biopsy registry	Sci Rep	13(1): 5123 29 March 2023	Kanzaki G, Tsuboi N, Yokoo T, Uesugi N, Furuichi K, Shimizu A, Sugiyama H, Sato H, Yokoyama H
11	Standardized Methods Using EUS-guided Fine-needle Biopsy and a Minimal Medium Creates Three Pancreatic Cancer Organoids	Anticancer Res.	42(8): 4103-4109, 2022	Toshiyuki Tsunoda, Yoshihiro Hamada, Naoaki Tsuchiya, Takehiko Koga, Takanori Kitaguchi, Keisuke Matsumoto, Shinji Matsumoto, Takahide Sasaki, Ryo Nakashima, Fuminori Ishii, Masatoshi Kajiwara, Senji Shirasawa, Suguru Hasegawa, Fumihito Hirai

12	Trichilemmal cysts with proteinaceous material: A potential diagnostic pitfall.	J Cutan Pathol.	49 (6)： 515–524， 2022	Mitsui Y, Ogawa K, Koga K, Goto K, Takai T, Anan T, Fukumoto T, Asada H.
13	Update of pathological diagnosis of pleural mesothelioma using genomic-based morphological techniques, for both histological and cytological investigations	Pathology International	72(8)： 389–401 2022	Kazuki Nabeshima, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, Shinji Matsumoto, Prakasit Sa-ngiamwibool
14	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study	Lung Cancer	175： 27–35， January 2023	Prakasit Sa-ngiamwibool, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, Shinji Matsumoto, Ayuko Sato, Tohru Tsujimura, Kunimitsu Kawahara, Takahiko Kasai, Kei Kushitani, Yukio Takeshima, Kenzo Hiroshima, Akinori Iwasaki, Kazuki Nabeshima
15	福岡大学病院におけるがんゲノム医療の現状と取り組み　がんゲノム医療コーディネーターの立場から	福岡大学医学紀要	49巻２号 Page107–113 (2022.09)	常光　好美（福岡大学病院がんセンター），大久保久美子， 田中　俊裕，吉田陽一郎， 井上　博之，山田　哲平， 松崎　洋吏，倉員　正光， 濱崎　　慎，鍋島　一樹， 高松　　泰

〈症例報告〉

1	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib.	Mod Rheumatol Case Rep.	rxac098， 2022 Dec 26	Tetsuro Shimada, Akira Maeyama, Tomonobu Hagio, Kunihide Muraoka, Terufumi Shibata, Yutaro Yamasaki, Taiga Oda, Makoto Hamasaki, Takuaki Yamamoto
2	Fibrinogen A α-chain amyloidosis associated with a rare frameshift pathogenic variant p.Arg547GlyfsTer21	Amyloid.	29(4)： 276–277， 2022	Tasaki M, Nomura T, Uchiyama K, Misumi Y, Nakahara K, Oyama Y, Uesugi N, Ueda M
3	Glomerulonephritis and Interstitial Nephritis Originating from Vasculitis of the Interlobular Arteries of the Kidney in a Patient with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis	Case Rep Rheumatol.	Volume 2022， 4pages， Sep28，2022	Nawata T, Shibuya M, Takeshita Y, Kubo M, Uesugi N, Yano M
4	Meyerson nevus	西日皮膚	84： 182	中村加奈恵，佐藤　絵美， 古賀　佳織，濱崎　　慎， 今福　信一

5	Observation of the drainage process of the residual lipoma after endoscopic unroofing technique during colonoscopic evaluation of post-procedural hematochezia.	Clinical Journal of Gastroenterology	15: 407–412, 2022	Ko YL, Matsuoka H, Nomaru Y, Imakiire S, Sakisaka H, Matuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishida Y, Ishibashi H, Koga K, Saito T, Takeshita M, Hirai F
6	気管支喘息で発症した IgE 及び IgG4血症を伴う，高齢発症の皮膚リンパ球腫の１例	臨牀と研究	99: 105–108, 2022	長友　寛子，三宅　伸完，福本　康代，古賀　佳織，島袋　活子，田村　和夫
7	左側脳室発生 myxoid glioneuronal tumor の１例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	2022年７月	西中村恵輔，松本　慎二，角谷　優子，秋吉　梨江，高橋　祥子，小山　逸，井上　亨，濵﨑　慎，鍋島　一樹
8	小細胞神経内分泌癌との鑑別に苦慮した子宮体部低分化類内膜癌の２例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	2022年７月	高橋　祥子，松本　慎二，角谷　優子，大石　朋子，西中村恵輔，秋吉　梨江，小山　逸，四元　房典，濵﨑　慎，鍋島　一樹
9	典型的な Spindle cell carcinoma の１例	西日皮膚	84: 347–350	吉村　麻衣，佐藤　絵美，柴山　慶継，中村加奈恵，古賀　佳織，今福　信一
10	肺腫瘍の術中迅速穿刺吸引細胞診	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	2022年７月	松本　慎二，角谷　優子，鍋島　一樹，西中村恵輔，秋吉　梨江，高橋　祥子，小山　逸，佐藤　寿彦，濵﨑　慎
11	臨床的に Chornic expanding hematoma の所見を伴った Giant Vascular eccrine spiradenoma の１例	西日皮膚	84: 541–546, 2022	高木　萌，大賀　保範，佐藤　絵美，山口　和記，古賀　佳織，青木光希子，今福　信一

〈著書〉

1	非腫瘍性疾患病理アトラス/大橋健一	文光堂	organized deposits を伴う腎疾患 P279–293	上杉　憲子（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（ワークショップ） 体腔液細胞診の現状と今後の課題	第61回日本臨床細胞学会秋期大会	仙台 11/5 2022	濵崎　慎，角谷　優子，松本　慎二，鍋島　一樹
2	（ワークショップ） 病理形態から展望する COVID-19感染症に関連する腎障害	第65回腎臓学会学術総会	神戸 6/10–12 2022	上杉　憲子
3	病理コメンテーター	第76回日本消化器画像診断研究会	新潟 9/23–24 2022	濵田　義浩
4	（学会招待講演） 毛包におこる皮膚炎症性疾患：脱毛症の病理診断を中心に	日本病理学会第94回関東支部学術集会（WEB 開催）	東京 7/2 2022	古賀　佳織

5	（シンポジウム） 皮膚・軟部腫瘍領域の凍結迅速病理診断の限界と病理医から形成外科医に望むこと	日本形成外科学会基礎学術大会　皮膚腫瘍外科分野指導医シンポジウム	岡山 10/14	古賀　佳織

〈国内研究助成金〉

1	悪性胸膜中皮腫細胞診診断の精度向上に関する研究：新規良悪性鑑別マーカーの探索	文部科学省 基盤研究 C	2022	濵﨑　　慎（代表）
2	Emmprin と CD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究 研究課題	文部科学省 基盤研究 C	2022	青木光希子（代表）
3	Emmprin と CD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究 研究課題	文部科学省 基盤研究 C	2022	濵﨑　　慎，濵田　義浩 （代表者：青木光希子）

〈学会活動〉

1	日本病理学会	学術評議員	2022	濵﨑　　慎，上杉　憲子， 濵田　義浩，青木光希子， 古賀　佳織，武藤　礼治
2	日本病理学会	センター調査個別調査部会部会員	2022	濵﨑　　慎
3	日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ　体腔液小委員会委員	2022	濵﨑　　慎
4	環境省	中央環境審議会専門委員	2022	濵﨑　　慎
5	環境省	環境保健部会所属専門委員	2022	濵﨑　　慎
6	環境省	保健部会石綿健康被害判定小委員会所属専門委員	2022	濵﨑　　慎
7	日本石綿・中皮腫学会（JAMIC）	中皮腫取扱い規約第２版作成委員	2022	濵﨑　　慎
8	日本肺癌学会	評議員	2022	濵﨑　　慎
9	日本肺癌学会	病理委員会委員	2022	濵﨑　　慎
10	日本肺癌学会	ガイドライン胸膜中皮腫小委員会委員	2022	濵﨑　　慎
11	日本肺癌学会	アドホック胸部腫瘍改訂小委員会委員	2022	濵﨑　　慎
12	中皮腫細胞診研究会	幹事	2022	濵﨑　　慎
13	日本腎臓学会	評議員	2022	上杉　憲子
14	日本皮膚病理組織学会	理事	2023	古賀　佳織

〈研究に関係した賞〉

1	腫瘍-間質相互作用における MMP-2制御を介した腫瘍細胞上の emmprin と線維芽細胞上の CD73の重要性	第26回　日本バイオ治療法学会学術集会　優秀賞	2022	青木光希子

微生物・免疫学

〈原著〉

1	Ephedrae Herba and Cinnamomi Cortex interactions with G glycoprotein inhibit respiratory syncytial virus infectivity.	Commun Biol	5(1): 94, 2022	Fujikane A, Sakamoto A, Fujikane R, Nishi A, Ishino Y, Hiromatsu K, Nabeshima S.
2	Epipharyngeal Abrasive Therapy (EAT) Has Potential as a Novel Method for Long COVID Treatment.	Viruses	14(5): 907, 2022	Imai K, Yamano T, Nishi S, Nishi R, Nishi T, Tanaka H, Tsunoda T, Yoshimoto S, Tanaka A, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Nishi K.
3	Emerging resistance to beta-lactams in Pantoea ananatis isolated from an immunocompetent patient with bacteremia.	Diagn Microbiol Infect Dis	102(4): 115633, 2022	Yoshimura M, Tokushige C, Maruyama JI, Kawano Y, Ishikura H, Matsunaga A, Takata T, Hiromatsu K, Yanagihara I, Togawa A, Takamatsu Y.
4	Longitudinal Dynamics of SARS-CoV-2 IgG Antibody Responses after the Two-Dose Regimen of BNT162b2 Vaccination and the Effect of a Third Dose on Healthcare Workers in Japan.	Vaccines	10(6): 830, 2022	Sakamoto A, Yoshimura M, Itoh R, Ozuru R, Ishii K, Sechi Y, Nabeshima S, Hiromatsu K.
5	Bortezomib Eliminates Persistent *Chlamydia trachomatis* Infection through Rapid and Specific Host Cell Apoptosis.	Int J Mol Sci	23(13): 7434, 2022	Itoh R, Kurihara Y, Yoshimura M, Hiromatsu K.
6	Epipharyngeal Abrasive Therapy (EAT) Reduces the mRNA Expression of Major Proinflammatory Cytokine IL-6 in Chronic Epipharyngitis.	Int J Mol Sci	23(16): 9205, 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Nishi T, Nishi R, Tanaka T, Tsunoda T, Imai K, Tanaka H, Hotta O, Tanaka A, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Yamano T.
7	Epopharyngeal Abrasive Therapy Down-regulates the Expression of Cav1.2: A Key Molecule in Influenza Virus Entry.	In Vivo	36(5): 2357-2364, 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Nishi T, Nishi R, Tsunoda T, Morita H, Tanaka H, Hotta O, Yasumasu S, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Yamano T.
8	Acceptance of Murine Islet Allografts Without Immunosuppression in Inguinal Subcutaneous White Adipose Tissue Pretreated With bFGF.	Diabetes	71(8): 1721-1734, 2022	Nakafusa Y, Nitta N, Ishii K, Shirasu N, Iwamoto T, Nemoto T, Nakamura M, Goto M, Iwata H, Taniguchi M, Yasunami Y.
9	Aberrant RNA processing contributes to the pathogenesis of mitochondrial diseases in *trans*-mitochondrial mouse model carrying mitochondrial tRNALeu(UUR) with a pathogenic A2748G mutation	Nucleic Acids Research	50(16): 9382-9396, 2022	Tani H, Ishikawa K, Tamashiro H, Ogasawara E, Yasukawa T, Matsuda S, Shimizu A, Kang D, Hayash J, Wei F, Nakada K.

10	新型コロナウイルス抗体迅速測定キット One Step Novel Corona virus（IgM/IgG）Antibody Test（Artron，Canada）の診断精度検証　－単施設の調査報告－	日本臨床救急医学会雑誌（JJSEM）	25：568-574，2022	水沼真理子，仲村　佳彦，坂本　篤彦，吉村　芳修，入江　悠平，酒井麻巳子，丸山　隼一，野明　純汰，鍋島　茂樹，石倉　宏恭
11	Investigation of Bacteria from Spoiled Bottled Salad Dressing Leading to Gas Explosion.	Yonago Acta Med	65(3)：207-214，2022	Obata F, Murota H, Shibata S, Ozuru R, Fujii J.
12	Light dependent synthesis of a nucleotide second messenger controls the motility of a spirochete bacterium.	Sci Rep	12：6825，2022	Xu J, Koizumi N, Morimoto YV, Ozuru R, Masuzawa T, Nakamura S.

〈症例報告〉

1	A fatal case of hemophagocytic lymphohistiocytosis associated with gestational psittacosis without symptoms of pneumonia.	J Obstet Gynaecol Res	48(12)：3325-3330，2022	Yoshimura M, Shimizu K, Nakura Y, Kawahara K, Katano H, Motooka D, Takeuchi M, Nagamune K, Imamura Y, Nakamura S, Yasukawa K, Hasegawa H, Yoshida Y, Yanagihara I

〈著書〉

1	肝臓インスリン抵抗性における，FGF21の褐色脂肪組織での役割	ファルマシア	pp.174，2022	栗原　悠介（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Pathogenic Leptospires induce lipolysis in host adipocytes to obtain their carbon sources.	12th International Leptospirosis Society Conference	Bangkok, Thailand 11/14-11/17 2022	Ozuru R, Yoshimura M, Kurihara Y, Ishii K, Hiromatsu K
2	（シンポジウム）数字で彩る細菌学：Seeing is believing. － Making Agglutination Tests from Qualitative to Quantitative with Deep Learning －	第96回日本細菌学会総会	姫路 3/16-3/18 2023	尾鶴　　亮

〈国内研究助成金〉

1	脂質代謝に着目したトリパノソーマ感染機構・シャーガス病病態形成の分子基盤	文部科学省 基盤(C)	2022	石井　一成（代表）
2	ミトコンドリア形態を利用した肺炎クラミジア感染戦略の解明	文部科学省 若手研究	2022	栗原　悠介（代表）
3	肺炎クラミジア遺伝子機能解析の為の遺伝子破壊株ライブラリの作製	文部科学省 若手研究	2022	清水　章文（代表）
4	肺炎クラミジアによる宿主脂質代謝系の異常とエクソソームの関連	文部科学省 若手研究	2022	吉村　芳修（代表）
5	レプトスピラの脂肪組織定着機構を利用したレプトスピラ症新規バイオマーカーの創出	文部科学省 若手研究	2022	尾鶴　　亮（代表）
6	AI 技術を用いたレプトスピラ症診断の自動化と標準化	福岡大学 総合科学研究	2022	尾鶴　　亮（代表）
7	感染症検査を効率化する深層学習アルゴリズムの世界的実用化	福岡大学 ベンチャー育成支援プログラム	2022	尾鶴　　亮（代表）

〈学会活動〉

1	日本寄生虫学会	評議員	2022	廣松　賢治

再生・移植医学

〈原著〉

1	Inhibition of NR5A1 Phosphorylation Alleviates a Transcriptional Suppression Defect Caused by a Novel NR0B1 Mutation	J Endocr Soc.	6(6): bvac068, 2022 Apr	Abe I,Tanaka T, Ohe K, Fujii H, Nagata M, Ochi K, Senda Y, Takeshita K, Koga M, Kudo T, Enjoji M, Yanase T, Kobayashi K.
2	Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph node metastasis model	Sci Rep.	12(1): 13208, 2022 Aug	Mano R, Tanaka T, Hashiguchi S, Takahashi H, Sakata N, Kondo S, Kodama S.
3	Intraoperative pressure monitoring of the lower leg for preventing compression-related complications associated with the lithotomy position	Surg Endosc.	36(8): 5873–5881, 2022 Aug	Kajitani R, Minami M, Kubo Y, Iwaihara H, Takishita Y, Isayama M, Ohno R, Hayashi T, Sasaki T, Matsumoto Y, Nagano H, Komono A, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshida Y, Hasegawa S.
4	Relationship between perioperative oncological evaluation and recurrence using circulating tumor DNA with KRAS mutation in patients with colorectal cancer	Cancer Med.	11(16): 3126–3135, 2022 Aug	Hayashi T, Yoshida Y, Yamada T, Tanaka K, Shimaoka H, Kajitani R, Munechika T, Nagano H, Matsumoto Y, Komono A, Sakamoto R, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshimura F, Hasegawa S.
5	Detection of carbon dioxide embolism by transesophageal echocardiography during transanal/perineal endoscopic surgery: a pilot study	Sci Rep.	12(1): 20487, 2022 Nov	Matsumoto Y, Hasegawa S, Ohno R, Kajitani R, Munechika T, Nagano H, Komono A, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshida Y, Murayama K, Shigematsu K, Akiyoshi K.
6	Comparison of oncological outcomes between low anterior resection and abdominoperineal resection for rectal cancer: A retrospective cohort study using a multicenter database in Japan	Eur J Surg Oncol.	48(12): 2467–2474, 2022 Dec	Nagano H, Kajitani R, Ohno R, Munechika T, Matsumoto Y, Takahashi H, Aisu N, Kojima D, Yoshimatsu G, Hasegawa S, Kobayashi H, Sugihara K.
7	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study.	Hypertens Res.	46(5): 1122–1131, Epub 2023 Jan 24.	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura S, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.

〈症例報告〉

1	Reconstruction with omental flap and negative pressure wound therapy after total pelvic exenteration of anal fistula cancer: a case report	Surg Case Rep.	8(1)：116，2022 Jun	Komono A, Yoshimatsu G, Kajitani R, Matsumoto Y, Aisu N, Hasegawa S.
2	A Case of Posterior Interosseous Nerve Palsy Associated With Robotic Low Anterior Resection	Cureus.	15(3)：e36170．2023 Mar	Ohno R, Matsumoto Y, Sahara K, Kajitani R, Watanabe T, Yoshimatsu G, Fujioka S, Ogura H, Tsuboi Y, Hasegawa S.

〈総説〉

1	The Roles of TNFR2 Signaling in Cancer Cells and the Tumor Microenvironment and the Potency of TNFR2 Targeted Therapy	Cells	11(12)：1952，2022 Jun	Takahashi H, Yoshimatsu G, Denise Louise Faustman

〈著書〉

1	必携　内科医のための臓器移植診療ハンドブック	一般社団法人日本移植学会 Transplant Physician 委員会	p.264，2023	小玉　正太（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（国際学会） Implantation of Steroidogenic Cells Derived from Human Adipose-derived Stem Cells Extends Survival in a Mouse Model of Adrenal Insufficiency	ENDO2022（Web 開催）	Atlanta, Georgia, USA June 11-14 2022	Tanaka T.
2	（国際学会） Current status and future perspective of auto islet transplantation	International Association of Pancreatology（IAP）	Kyoto, Japan July 9 2022	Yoshimatsu G.
3	（国際学会） Availability of using amnion for islet transplantation	International Congress of The Transplantation Society（TTS 2022）（オンライン）	Buenos Aires, Argentina September 10-14 2022	Sakata N, Yoshimatsu G, Kodama S.
4	（国内学会特別講演） 異種移植の今後の展望について－膵島移植への転用について－	第40回九州実験動物研究会総会・第42回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会	福岡 11/12 2022	小玉　正太
5	（シンポジウム） 【膵移植】 「膵・膵島移植の適応についての再考」	第58回　日本移植学会総会	名古屋 10/14 2022	吉松　軍平
6	（ワークショップ） 当院における膵島移植成績と膵臓移植との住み分けについて	第58回　日本移植学会総会	名古屋 10/14 2022	吉松　軍平，坂田　直昭，牟田　芳実，高士　祐一，横溝　　久，川浪　大治，小玉　正太
7	（ワークショップ） 医療機器開発における産学連携のマッチングについての経験	第35回　日本内視鏡外科学会総会	名古屋 12/8 2022	吉松　軍平，大野　　龍，梶谷　竜路，佐原くるみ，棟近　太郎，松本　芳子，渡邉　利史，吉田陽一郎，長谷川　傑
8	（パネルディスカッション） Current issues of islet transplantation for insulin dependent diabetes mellitus with severe hypoglycemic event	第34回　日本肝胆膵外科学会	松山 6/10-11 2022	吉松　軍平，坂田　直昭，小玉　正太

〈国内研究助成金〉

1	グルコセンサーを介した血糖高感受性移植膵島の創出－組織工学的手法を用いて－	文部科学省 基盤研究 C	2022	小玉　正太（代表）
2	ステロイド産生細胞における環状構造 RNA の意義の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	田中　智子（代表）
3	慢性膵炎等に対する膵全摘術に伴う自家膵島移植術の先進医療制度下多施設共同試験	AMED 再生医療実用化研究事業	2022	小玉　正太（代表者：霜田雅之）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第15回福岡県医学会総会	福岡県医師会館 （ハイブリッド開催）	2/5, 2023	小玉　正太

〈学会活動〉

1	日本移植学会	代議員	2022	小玉　正太
2	日本組織移植学会	理事	2022	小玉　正太
3	日本組織移植学会	評議員	2022	小玉　正太，坂田　直昭， 吉松　軍平
4	日本膵・膵島移植学会	理事	2022	小玉　正太
5	日本膵・膵島移植学会	評議員	2022	坂田　直昭
6	日本再生医療学会	代議員	2022	小玉　正太

衛生・公衆衛生学

〈原著〉

1	Intensive or Standard Blood Pressure Control in Patients with a History of Ischemic Stroke: RESPECT Post-hoc Analysis.	Hypertens Res.	45(4): 591-601, 2022	Kitagawa K, Arima H, Yamamoto Y, Ueda S, Rakugi H, Kohro T, Yonemoto K, Matsumoto M, Saruta T, Shimada K for the Recurrent Stroke Prevention Clinical Outcome (RESPECT) Study Group.
2	Differential association of serum n-3 polyunsaturated fatty acids with various cerebrovascular lesions in Japanese men.	Cerebrovasc Dise	51(6): 774-780, 2022	Kondo K, Arima H, Fujiyoshi A, Sekikawa A, Kadota A, Hisamatsu T, Torii S, Shiino A, Morino K, Miyagawa N, Segawa H, Watanabe Y, Maegawa H, Nozaki K, Miura K, Ueshima H.
3	Metabolic changes induced by dapagliflozin, an SGLT2 inhibitor, in Japanese patients with type 2 diabetes treated by oral anti-diabetic agents: A randomized, clinical trial	Diabetes Res Clinl Pract.	186: 109781, 2022	Horibe K, Morino K, Miyazawa I, Tanaka-Mizuno S, Kondo K, Sato D, Ohashi N, Ida S, Yanagimachi T, Yoshimura M, Itoh R, Murata K, Miura K, Arima H, Fujita Y, Ugi S, Maegawa H, on behalf of the SUMS-ADDIT-2 Research group

4	Optimal blood pressure target to prevent severe hypertension in pregnancy: a systematic review and meta-analysis.	Hypertens Res.	45(5): 887-889, 2022	Abe M, Arima H, Yoshida Y, Fukami A, Sakima A, Metoki H, Tada, Mito A, Morimoto S, Shibata H, Mukoyama M.
5	Population-based incidence rates of subarachnoid hemorrhage in Japan: The Shiga Stroke and Heart Attack Registry.	J Stroke.	24(2): 292-295, 2022	Shitara S, Tanaka-Mizuno S, Takashima N, Fujii T, Arima H, Kita Y, Tsuji A, Kitamura A, Urushitani M, Miura K, Nozaki K, on behalf of the Shiga Stroke and Heart Attack Registry Group
6	Constipation Symptoms in Multiple System Atrophy Using Rome Criteria and Their Impact on Personalized Medicine.	J Pers Med.	12(5): 838, 2022	Mishima T, Fujioka S, Kawazoe M, Inoue K, Arima H, Tsuboi Y.
7	Comparative evaluation of standard maintenance-dose clopidogrel versus low-dose prasugrel in patients with stable coronary artery disease after percutaneous coronary intervention.	Int J Cardiol.	356: 30-35, 2022	Akimaru K, Iwabuchi M, Ishida A, Uehara H, Higa N, Kakazu M, Wake M, Maeda T, Maeda T, Arima H, Ohya Y, CHIMU study group; Tokashiki S, Wakugawa H, Miyagi A, Shiohira S, Zaima S, Shiohira T, Toma Y, Ikemiyagi H.
8	Influence of the COVID-19 pandemic on regular clinic visits and medication prescriptions among people with diabetes; retrospective cohort analysis of health care claims.	Medicine	101(29): e29458, 2022	Maeda T, Nishi T, Harada M, Tanno K, Nishiya N, Asayama K, Okuda N, Sugiyama D, Yatsuya H, Okayama A, Arima H.
9	Determination of optimal daily magnesium intake among physically active people: a scoping review.	J.Nutr.Sci.Vitaminol.	68(3): 189-203, 2022	Maeda T, Hamada Y, Funakoshi S, Hoshi R, Tsuji M, Narumi-Hyakutake A, Matsumoto M, Kakutani Y, Hatamoto Y, Yoshimura E, Miyachi M, Takimoto H.
10	Effects of intensive blood pressure control on cardiovascular and cognitive outcomes in patients with atrial fibrillation: insights from the SPRINT trial.	EP Europace.	24(10): 1560-1568, 2022	Jiang C, Lai Y, Du X, Wang Y, Li S, He L, Hu R, Lv Q, Wu J, Feng L, Ning M, Ruan Y, Li X, Jia C, Dai W, Guo X, Jiang C, Tang R, Sang C, Long D, Arima H, Dong J, Anderson CS, Ma C
11	What is the "washout" of hepatocellular carcinoma as observed on the equilibrium phase CT?: consideration based on the concept of extracellular volume fraction	Jpn J Radiol.	40(11): 1148-1155, 2022	Sakamoto K, Tanaka S, Sato K, Ito E, Nishiyama M, Urakawa H, Arima H, Yoshimitsu K.
12	Body weight and lifestyle changes under the COVID-19 pandemic in Japan: a cross-sectional study from NIPPON DATA2010	BMJ Open.	12(11): e063213, 2022	Taniguchi H, OKuda N, Arima H, Satoh A, Abe M, Nishi N, Higashiyama A, Suzuki H, Ohkubo T, Kadota A, Miura K, Ueshima H, Okayama A, On behalf of the NIPPON DATA2010 Research Group

13	Triple therapy prevention of Recurrent Intracerebral Disease EveNts Trial (TRIDENT): rationale, design and progress.	Int J Stroke.	17(10): 1156-1162, 2022	Anderson CS, Rodgers A, de Silva HA, Martins SO, Klijn CJM, Senanayake B, Freed R, Billot L, Arima H, Thang NH, Zaidi WAS, Kherkheulidze T, Wahab K, Fisher U, Lee T-H, Chen C, Pontes-Neto O, Robinson T, Wang J, Naismith S, Song L, Schreuder FH, Lindley RI, Woodward M, MacMahon S, Salman RA-SMA, Chow CK, Chalmers J for the TRIDENT Research Group.
14	Impact of results of TTF-1 immunostaining on efficacy of platinum-doublet chemotherapy in Japanese patients with nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer.	J Clin Med.	12(1): 137, 2022	Nakao A, Inoue H, Ikeuchi N, Igata F, Aoyama T, Hamasaki M, Arima H, Fujita M.
15	Associations between Variable Number Tandem Repeat Polymorphism in the Monoamine Oxidase A with Cerebrospinal Fluid Levels in Drug Positive Cases.	AJMHS.	58: ahead of print, 2022	Matsusue A, Ishikawa T, Ikeda T, Tani N, Maeda T, Kashiwagi M, Hara K, Waters B, Takayama M, Shin-ichi Kub S.
16	Non-atrophic gastric mucosa is an independently associated factor for superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors: a multicenter, matched, case-control study	Clin Endosc.	56(1): 75-82, 2023	Kawasaki A, Tsuji K, Uedo N, Kanesaka T, Miyamoto H, Gushima R, Minoda Y, Ihara E, Amano R, Yao K, Naito Y, Aoyagi H, Iwasaki T, Uchita K, Arima H, Doyama H.
17	Early enhancement with contrast-enhanced ultrasonography relates to the number of small-diameter neovessels in the carotid plaque.	Cerebrovasc Dis.	52(1): 36-43, 2023	Takeshita S, Ogata T, Uesugi N, Nabeshima K, Shimada H, Arima H, Inoue T, Tsuboi Y.
18	Control of diabetes mellitus and long-term prognosis in stroke patients: The Shiga Stroke and Heart Attack Registry.	Cerebrovasc Dis.	52(1): 81-88, 2023	Tram HTH, Tanaka-Mizuno S, Takashima N, Khan K, Arima H, Kadota A, Fujii T, Shitara S, Kitamura A, Miyamatsu N, Kita Y, Urushitani M, Nakagawa Y, Miura K, Nozaki K.
19	Epidemiology of Subarachnoid Hemorrhage in Isolated Islands in Japan: A Population-Based Study in the Miyako Islands.	Neurol Med Chir (Tokyo)	63(1): 23-30, 2023	Wakuta N, Fukuda K, Yamamoto S, Arima H, Motonaga E, Inoue T.
20	Study protocol of cardiac rehabilitation for acute myocardial infarction from the JROAD/JROAD-DPC Database.	Circ Rep.	5(2): 62-65, 2023	Suematsu Y, Miura S, Minei A, Sumita Y, Kanaoka K, Nakai M, Arima H, Nakamura K, Takura T, Shimada K, Shiraishi H, Fukuma N, Ohya Y, Makita S, ; The JROAD-CR Investigators

21	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study.	Hypertens Res.	Online ahead of print.	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura SI, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.
22	Cost effectiveness of low-dose compared to standard-dose alteplase for acute ischemic stroke in China: a within-trial economic evaluation of the ENCHANTED study.	Cerebrovasc Dis.	52(2): 145-152, 2023	Si L , Chen X, Ouyang M, Wang X, Chen G, Cao Y J, Wu G, Zhang J, Zhang J, Liu Y, Zhangm S, Song L, Delcourt G, Arima H (Co-author), Wang L , Lung T, Chen M, S G Anderson, Jan S.

〈総説〉

1	Strategies for improving the treatment and control of hypertension in Japan.	J Hum Hypertens	Online ahead of print	Sakima A, Matayoshi T, Arima H.
2	一般人，軽度認知障害（MCI），認知症における SDB の有病率	睡眠医療	16(2): 124-130, 2022	吉村　　力，有馬　久富
3	公衆衛生学からみた睡眠医療　睡眠と癌・認知症への関わり	城南区医師会誌	124: 14, 2022	吉村　　力
4	臨床高血圧の最近の進歩	セラピューティック・リサーチ	43(7): 547-554, 2022	桑島　　巌，石川　譲治，甲斐　久史，冨山　博史，有馬　久富，三浦伸一郎，江口　和男
5	Three rules for blood pressure management in acute intracerebral hemorrhage: fast, intense and stable.	Hypertens Res.	46(1): 264-265, 2023	Arima H

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） レジストリー研究に必要な基礎知識	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	沖縄 6/11-6/12 2022	有馬　久富
2	（招待講演：教育講演） 高血圧の大規模臨床試験 UP TO DATE	第10回臨床高血圧フォーラム	札幌 6/18-6/19 2022	有馬　久富
3	（シンポジウム） CPAP・NPPV のアドヒアランスを考える ～多様な睡眠呼吸障害管理～ MSA 患者の良好な CPAPtitration 方法とアドヒアランス良好への道しるべ	日本睡眠学会 第47回定期学術集会	京都 7/1 2022	吉村　　力
4	（招待講演：特別講演） 疫学研究と臨床試験を考える	中性脂肪学会 第５回学術集会	福岡 10/15 2022	有馬　久富
5	（シンポジウム） みんなの睡眠検査・基礎力を高める 呼吸器内科医からみた睡眠医療	日本睡眠検査学会	WEB 11/12-12/4 2022	吉村　　力

6	（招待講演） 産婦人科における臨床研究をデザインする	第166回福岡産婦人科学会	福岡 1/29 2023	有馬　久富
7	（国際学会） Optimal blood pressure target to prevent severe hypertension in pregnancy: A systematic review and meta-analysis.	The 29th Scientific of the International Society of Hypertension ISH2022	京都 10/13 2022	Abe M, Arima H, Yoshida Y, Fukami A, Sakima A, Metoki H, Tada K, Mito A, Morimoto S, Shibata H, Mukoyama M.
8	（国際学会） Treatment status of hypertension detected in health checkups : an observational study of Japanese employees	The 29th Scientific of the International Society of Hypertension ISH2022	京都 10/14 2022	Shima A, Tatsumi Y, Ohkubo T, Arima H, Miura K, Kiyohara M, Kawatsu Y, Morino A, Godai K, Miyamatsu N
9	（国際学会） Optimal blood pressure target to prevent severe hypertension in pregnancy: A systematic review and meta-analysis.	The 29th Scientific of the International Society of Hypertension ISH2022	京都 10/15 2022	Abe M
10	（国際学会） Non-linear relationship between CKD progression and systolic and diastolic blood pressure; Iki Epidemiological Study of Atherosclerosis and CKD (ISSA-CKD)	The 29th Scientific of the International Society of Hypertension ISH2022	京都 10/15 2022	Maeda T, Nishi T, Shinohara Y, Abe M, Kawazoe M, Satoh A, Takahashi K, Tada K, Itoh K, Yasuno T, Yoshimura C, Mukobara S, Masutani K, Arima H

〈国内研究助成金〉

1	心房細胞患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	文部科学省 基盤研究 B	2022	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担） 阿部真紀子（分担）
2	腸内細菌から動脈硬化を予測する：AI を用いた挑戦	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担） 阿部真紀子（分担）
3	動脈硬化予防に最適な身体活動プログラムの開発	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：藤居　貴子）
4	若年高血圧に関する口腔内・腸内細菌を探索し予防と治療につなげる研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：荒川　仁香）
5	妊婦の会陰部裂傷と産後の QOL に対する会陰部マッサージ効果検証と手技の確立	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：齋藤　祥乃）
6	一般住民における過活動膀胱，夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富，吉村　　力 前田　俊樹，川添　美紀 佐藤　　敦 （代表者：坪内　和女）
7	感染症発症に関与する腸内細菌 叢異常を解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：武岡　宏明）

8	口腔-腸内性菌叢と人工呼吸器関連肺炎（VAP）	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：喜多　涼介）
9	動脈硬化性疾患患者の口腔-腸内細菌叢の微生物相解析	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：石田晋太郎）
10	脳梗塞の発症および機能回復に関連する腸内細菌の検討－疫学的視点より－	文部科学省 基盤研究 C		有馬　久富 （代表者：冨嶺　克己）
11	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富，吉村　　力 前田　俊樹 （代表者：安野　哲彦）
12	最終糖化産物（AGEs）の慢性腎臓病に対する影響を解明する－疫学的視点より－	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：伊藤　建二）
13	認知症初期の人の介護者支援の介入研究 －integrated care の視点から	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：馬場みちえ）
14	一般住民における夜間頻尿の包括的病態解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富，吉村　　力 前田　俊樹，川添　美紀 佐藤　　敦，阿部真紀子 （代表者：中村　信之）
15	一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富，吉村　　力 前田　俊樹，佐藤　　敦 （代表者：中村　信之）
16	人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔－腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	文部科学省 基盤研究 C	2022	有馬　久富 （代表者：眞野　亮介）
17	動脈硬化，心血管病，CKD に及ぼす不眠症，睡眠時無呼吸症候群の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	吉村　　力（代表） 有馬　久富（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担）
18	神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	吉村　　力 （代表者：梅本丈二）
19	潜在性動脈硬化に社会経済および心理的要因が及ぼす影響	文部科学省 若手研究	2022	前田　俊樹（代表）
20	ソーシャルキャピタルが潜在性動脈硬化に及ぼす影響	文部科学省 若手研究	2022	前田　俊樹（代表）
21	保健医療介護縦断データベース構築とケア継続性の長期的影響評価への応用	文部科学省 基盤研究 B	2022	前田　俊樹 （代表者：西　　巧）
22	死亡票とレセプトの連結解析による高齢者終末期ケアの実態解明	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	前田　俊樹 （代表者：西　　巧）
23	多系統萎縮症の発症に関与する腸内細菌叢異常を解明するー疫学・遺伝子学的視点よりー	文部科学省 基盤研究 C	2022	川添　美紀（代表） 有馬　久富（分担）
24	一般住民における Troponin T と潜在性動脈硬化との関連	文部科学省 若手研究	2022	佐藤　　敦（代表）
25	デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	受託研究 国立研究開発法人医療研究開発機構	2022	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担・事務局長） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担） 阿部真紀子（分担）

26	中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸患者を対象としたCPAPまたは口腔内装置治療による心血管イベントの抑制効果を検討する前向きコホート研究	受託研究 国立大学法人九州大学	2022	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担）
27	東京貨物運送健康保険組合 新型コロナウイルス感染症に伴う慢性疾患の受療状況の変化に関する研究に係るデータ分析	受託研究 合同会社生活習慣病予防研究センター	2022	有馬　久富（代表）
28	東京貨物運送健康保険組合 保険者機能強化支援事業　事業評価に係るデータ分析	受託研究 合同会社生活習慣病予防研究センター	2022	有馬　久富（代表）
29	研究助成のため	壱岐市	2022	有馬　久富（代表）
30	研究助成のため	NPO法人 RESPECT研究会	2022	有馬　久富（代表）
31	研究助成のため	血圧管理研究会	2022	有馬　久富（代表）
32	研究助成のため	NPO法人 西日本炎症性皮膚疾患研	2022	有馬　久富（代表）
33	Oral microbiome	領域別研究	2022	有馬　久富（分担） （代表者：近藤　誠二）
34	急性心筋梗塞患者に対する高度医療・短期入院時代における最適な心臓リハビリテーション	福岡大学 推奨プロジェクト		有馬　久富（分担） （代表者：三浦伸一郎）
35	動脈硬化解明	福岡大学 推奨プロジェクト	2022	佐藤　　敦（代表） 前田　俊樹（分担）

〈長期海外研修〉

1	脳卒中予防の疫学研究	オーストラリア The Georage Institute for Global Health	2022.5～ 2023.4	前田　俊樹
2	多系統萎縮症にて異常蛋白質α-synucleinはどのように脳内を伝搬するか	アメリカ Mayo Clinic	2022.8～ 2023.7	川添　美紀

〈学会活動〉

1	日本疫学会	理事	2022	有馬　久富
2	日本血管不全学会	理事	2022	有馬　久富
3	日本高血圧学会	理事	2022	有馬　久富
4	日本循環器病予防学会	評議員	2022	有馬　久富，吉村　　力
5	日本循環器学会九州支部	評議員	2022	有馬　久富
6	日本臨床薬理学会	代議員	2022	有馬　久富
7	日本公衆衛生学会	代議員	2022	有馬　久富
8	Journal of Hypertension	編集委員	2022	有馬　久富
9	BMC Public Health	編集委員	2022	有馬　久富

10	HYPERTENSION	編集委員	2022	有馬　久富
11	Journal of Epidemiology	編集委員	2022	有馬　久富
12	Cerebrovascular Disease	編集委員	2022	有馬　久富
13	日本循環器病予防学会誌	編集委員	2022	有馬　久富
14	日本高血圧学会	評議員	2022	吉村　　力
15	日本睡眠学会	評議員	2022	吉村　　力
16	日本臨床生理学会	評議員	2022	吉村　力
17	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2022	吉村　力
18	日本呼吸器学会	代議員	2022	吉村　力
19	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	代議員	2022	吉村　力
20	日本医療・病院管理学会	評議員	2022	前田　俊樹

〈研究に関係した賞〉

1	血圧降下療法と妊娠高血圧症候群の関連：メタアナリシス研究	第10回臨床高血圧フォーラム　女性研究者奨励賞	2022	阿部　真紀子
2	Optimal blood pressure target to prevent severe hypertension in pregnancy: A systematic review and meta-analysis.	ISH2022 KYOTO Best Oral Presentation Award	2022	阿部　真紀子

法医学

〈原著〉

1	Diagnostic meaning of urinary ethyl glucoside concentrations in relationship to alcoholic beverage consumption.	Leg Med	59: 102142, 2022	Nakano R, Waters B, Hara K, Takayama M, Matsusue A, Kashiwagi M, Kubo S.
2	Associations between variable number tandem repeat polymorphism in the monoamine oxidase A with cerebrospinal fluid levels in drug positive cases.	Albanian J Med Health Sci	58: 1-11, 2022	Matsusue A, Ishikawa T, Ikeda T, Tani N, Maeda T, Kashiwagi M, Hara K, Waters B, Takayama M, Kubo S.
3	Immunohistochemical investigation of drug related renal cell changes.	Albanian J Med Health Sci	60: 1-13, 2022	Ishigami A, Waters B, Kashiwagi M, Matsusue A, Takayama M, Ikematsu N, Kondo T, Kubo S.

〈症例報告〉

1	Giant intracranial arteriovenous malformation as a possibility of epileptic seizures in a case of drowning.	Leg Med	59: 102144, 2022	Takayama M, Kashiwagi M, Hara K, Matsusue A, Waters B, Kubo S.
2	エネルギー分散型蛍光 X 線分析による白骨化死体の青緑色着色物質の解析	法医学の実際と研究	65: 23-27, 2022	柏木　正之，辻田　　明，高山　みお，松末　　綾，Brian Waters，中野　涼子，久保　真一

〈総説〉

1	法医剖検例における脳動静脈奇形の診断意義について	法医病理	28(1)：29-35，2022	髙山　みお，柏木　正之，原　健二，松末　綾，Brian Waters，久保　真一
2	死因究明のための死体の科学的調査	公衆衛生	86(11)：958- 965，2022	久保　真一

〈著書〉

1	別冊 日本臨牀 領域別症候群シリーズ No.25 腎臓症候群（第３版）（Ⅳ）－その他の腎臓疾患を含めて－	日本臨牀社	pp.261-264，2022	久保　真一，石上安希子，松末　綾

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Tissue distribution of lemborexant in four forensic autopsy cases.	14th International Congress of Indo Pacific Association of Law Medicine and Science	Colombo, Sri Lanka December13-16 2022（ハイブリッド開催）	Waters B, Nakano R, Matsusue A, Takayama M, Kashiwagi M, Ikematsu K, Kubo S.
2	Diagnostic meaning of urinary ethyl glucoside concentrations in relationship to alcoholic beverage consumption.	14th International Congress of Indo Pacific Association of Law Medicine and Science	Colombo, Sri Lanka December13-16 2022（ハイブリッド開催）	Waters B, Nakano R, Hara K, Takayama M, Matsusue A, Kashiwagi M, Kubo S.
3	（教育講演）子どもの虐待における法医学の役割	子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会	福岡 12/10-11 2022	久保　真一
4	（シンポジウム）追悼シンポジウム「法中毒学会の過去と未来」次代を担う法中毒学者の育成のために：現状と課題	日本法中毒学会第41年会	香川 6/25-26 2022	久保　真一

〈国内研究助成金〉

1	新興感染症およびパンデミックに対応する検案・剖検体制の確立に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学特別研究事業	2022	久保　真一（代表者：近藤　稔和）
2	乱用薬物による中枢神経障害の神経病理学的検索：免疫組織化学的研究	日本学術振興会 研究活動スタート支援	2022	髙山　みお（代表）
3	覚醒剤の毒性発現の個人差に影響する遺伝的要因の解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2022	松末　綾（代表）
4	戦没者遺骨の身元特定に係る DNA 鑑定の精度向上に関する研究	厚生労働省 政策科学総合研究事業	2022	松末　綾（代表者：橋谷田真樹）
5	Investigation of a novel analysis method for the determination of new biomarkers for alcoholic beverage consumption.	日本学術振興会 若手研究	2022	ウォーターズ ブライアン（代表）

〈学会活動〉

1	日本法医学会	理事長	2022	久保　真一
2	日本法医学会	評議員	2022	久保　真一，柏木　正之
3	日本法中毒学会	理事	2022	久保　真一

4	日本法中毒学会	評議員	2022	久保　真一， ウォーターズ ブライアン
5	法医中毒研究会	会長	2022	久保　真一
6	日本法医病理学会	理事	2022	久保　真一
7	日本医学会	評議員	2022	久保　真一
8	日本犯罪学会	評議員	2022	久保　真一

医学教育推進講座

〈総説〉

1	小児科専門医を目指す人のための Q & A で読み解く分野別誌上セミナー：成長・発達	小児科臨床	vol.75 no.5， 879-882：2022	安元　佐和（分担）
2	第72回医学教育ワークショップの記録	福岡大学医学紀要	49(1)： 47-53， 2022	八尋　英二，安元　佐和
3	第73回医学教育ワークショップの記録	福岡大学医学紀要	49(1)： 55-62， 2022	八尋　英二，安元　佐和
4	第74回医学教育ワークショップの記録	福岡大学医学紀要	50(1)： 49-55， 2022	八尋　英二，安元　佐和

〈著書〉

1	2021年度医学教育カリキュラムの現状 設問８．地域医療・保健教育・多職種連携教育	全国医学部長病院長会議	267-268	安元　佐和（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	e-Portfolio の医行為実施確認表から見える今後の課題	第54回日本医学教育学会	群馬 8/5-6 2022	八尋　英二，武岡　宏明， 北島　　研，石山　由樹， 安元　佐和

〈国内研究助成金〉

1	感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	武岡　宏明（代表）

〈学会活動〉

1	日本臨床神経生理学会	代議員	2022	安元　佐和
2	日本小児神経学会	評議員	2022	安元　佐和
3	日本てんかん学会	理事	2022	安元　佐和
4	日本医学教育学会	代議員	2022	安元　佐和
5	日本循環器学会	評議員	2022	八尋　英二
6	日本病院総合診療医学会	評議員	2022	武岡　宏明
7	日本感染症学会	評議員	2022	武岡　宏明

医学系研究・生命医療倫理部門

〈原著〉

1	持続可能な臨床研究を導く利益相反管理における徳倫理学的アプローチの考察	福岡大医紀	49(2): 63-70	今泉　聡，三浦伸一郎

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（招待講演） より良い行為を導くための倫理 －研究倫理から医療倫理まで－	福岡産婦人科学会学術集会	福岡 2023年１月28日	今泉　聡

〈学会活動〉

1	日本循環器学会	倫理委員会幹事	2023	今泉　聡
2	日本動脈硬化学会	評議員	2023	今泉　聡
3	日本高血圧学会	評議員	2023	今泉　聡
4	日本高血圧学会	研究倫理審査委員会委員	2023	今泉　聡
5	日本脳神経血管内治療学会	倫理委員会委員	2023	今泉　聡

総合医学研究センター

〈原著〉

1	Suppression of Local Tumor Progression in Perivascular Hepatocellular Carcinoma by Combination Therapy with Radiofrequency Ablation and Percutaneous Ethanol Injection: A Propensity Score Matching Analysis	Oncology	100(6): 303-312, 2022	Takata K, Tanakaa T, Anan A, Fukunaga A, Nagata T, Fukuda H, Yamauchi R, Kunimoto H, Yokoyama K, Morihara D, Takeyama Y, Iwata K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
2	Long-term outcomes of hemostatic therapy for variceal bleeding and the challenge pending in the post-direct-acting antivirals era.	Acta Gastroenterol Belg	85(1): 7-14, 2022	Shibata K, Yokoyama K, Yamauchi R, Matsumoto K, Himeno S, Nagata T, Higashi T, Kitaguchi T, Fukuda H, Tsuchiya N, Fukunaga A, Takata K, Tanaka T, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
3	Pretreatment Modified Albumin-Bilirubin Grade Is an Important Predictive Factor Associated with the Therapeutic Response and the Continuation of Atezolizumab plus Bevacizumab Combination Therapy for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Curr Oncol.	29(7): 4799-4810, 2022	Tanaka T, Takata K, Yokoyama K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
4	Long-Term Effects of Rifaximin on Patients with Hepatic Encephalopathy: Its Possible Effects on the Improvement in the Blood Ammonia Concentration Levels, Hepatic Spare Ability and Refractory Ascites	Medicina (Kaunas)	58(9): 1276, 2022	Yokoyama K, Fukuda H, Yamauchi R, Higashi M, Miyayama T, Higashi T, Uchida Y, Shibata K, Tsuchiya N, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.

5	Multipolar radiofrequency ablation via three bipolar electrodes with C-arm type X-ray fluoroscopy assistance for hepatocellular carcinoma: An observational study	Medicine (Baltimore)	101(38): e30725. doi: 10.1097/MD. 0000000000030725.	Tanaka T, Anan A, Takata K, Fukuda H, Yamauchi R, Inomata S, Yokoyama K, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
6	Trends in hepatocellular carcinoma incident cases in Japan between 1996 and 2019	Sci Rep	12(1): 1517, 2022	Nakano M, Yatsuhashi H, Bekki S, Takami Y, Tanaka Y, Yoshimaru Y, Honda K, Komorizono Y, Harada M, Shibata M, Sakisaka S, Shakado S, Nagata K, Yoshizumi T, Itoh S, Sohda T, Oeda S, Nakao K, Sasaki R, Yamashita T, Ido A, Mawatari S, Nakamuta M, Aratake Y, Matsumoto S, Maeshiro T, Goto T, Torimura T.
7	Frequency of null genotypes of glutathione S-transferase M1 and T1 in Japanese patients with drug-induced liver injury	Hepatol Res.	52(10): 882-887, 2022	Maeda K, Takikawa H, Aiso M, Tsuji K, Kagawa T, Watanabe M, Sato K, Sakisaka S, Hiasa Y, Takei Y, Ohira H, Hashimoto E, Ayada M, Ikegami T, Arakawa N, Kusuhara H, Saito Y, Sugiyama Y.
8	Newborn screening for Gaucher disease in Japan	Mol Genet Metab Rep	31: 100850 2022	Sawada T, Kido J, Sugawara K, Yoshida S, Matsumoto S, Shimazu T, Matsushita Y, Inoue T, Hirose S, Endo F, Nakamura K.
9	Burden of seizures and comorbidities in patients with epilepsy: a survey based on the tertiary hospital-based Epilepsy Syndrome Registry in Japan	Epileptic Disord	24(1): 82-94 2022	Inoue Y, Hamano SI, Hayashi M, Sakuma H, Hirose S, Ishii A, Honda R, Ikeda A, Imai K, Jin K, Kada A, et al.
10	The effectiveness of intravenous benzodiazepine for status epilepticus in Dravet syndrome	Brain Dev	44(5): 319-28 2022	Kikuchi K, Hamano SI, Matsuura R, Nonoyama H, Daida A, Hirata Y, Koichihara R, Hirano D, Ishii A, Hirose S.
11	Invasive candidiasis in a neonatal intensive care unit in Fukuoka	Pediatr Int	64(1): e14949 2022	Ohta E, Setoue T, Ito K, Kodera T, Onda Y, Kawano H, Niimi T, Kakura H, Morii M, Miyamoto T, Hashiguchi C, Nakamura M, Hirose S.

12	CUX2 deficiency causes facilitation of excitatory synaptic transmission onto hippocampus and increased seizure susceptibility to kainate	Sci Rep	12(1)：6505 2022	Suzuki T, Tatsukawa T, Sudo G, Delandre C, Pai YJ, Miyamoto H, Raveau M, Shimohata A, Ohmori I, Hamano SI, Haginoya K, Uematsu M, Takahashi Y, Morimoto M, Fujimoto S, Osaka H, Oguni H, Osawa M, Ishii A, Hirose S, Kaneko S, Inoue Y, Moore AW, Yamakawa K.
13	Establishment of autaptic culture with human-induced pluripotent stem cell-derived astrocytes	iScience	25(8)：104762 2022	Uchino K, Tanaka Y, Kawaguchi S, Kubota K, Watanabe T, Katsurabayashi S, Hirose S, Iwasaki K.
14	Astrocyte Ca^{2+} signaling is facilitated in $Scn1a^{+/-}$ mouse model of Dravet syndrome	Biochem Biophys Res Commun	643：169-174 2022	Uchino K, Tanaka Y, Ikezawa W, Deshimaru M, Kubota K, Watanabe T, Katsurabayashi S, Iwasaki K, Hirose S

〈症例報告〉

1	Eosinophilic Granuloma of the Liver Mimicking Metastatic Liver Tumor: A Case Report	Intern Med.	61(10)：1511-1517, 2022	Uchida Y, Yokoyama K, Higashi T, Kitaguchi T, Fukuda H, Yamauchi R, Tsuchiya N, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hayashi H, Hamada Y, Nabeshima K, Hirai F.
2	Multiple focal fatty changes in the liver in patients with porphyria cutanea tarda: A case series and review of the literature	J Clin Ultrasound.	50(6)：832-842, 2022	Takata K, Fukunaga A, Nishizawa S, Uchida Y, Fukuyama M, Nagata T, Higashi T, Fukuda H, Yamauchi R, Tanaka T, Yokoyama K, Morihara D, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
3	Two Cases of Rapidly Progressive Fatty Liver Disease due to Pancreatic Exocrine Insufficiency without a History of Surgery	Intern Med	doi：10.2169/internalmedicine.0775-22,2023	Takata K, Nagata T, Matsumoto K, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
4	Mutation in the STXBP1 Gene Associated with Early Onset West Syndrome: A Case Report and Literature Review	Pediatr Rep	14(4)：386-95 2022	Takeda K, Miyamoto Y, Yamamoto H, Iwasaki T, Sumitomo N, Takeshita E, Ishii A, Hirose S, Shimizu N.

〈総説〉

1	外科における「男女共同参画社会」の実現に向けての課題	日本外科学会雑誌	123(5)：378-380, 2022	白石　武史，岩崎　昭憲

2	Genetics and gene therapy in Dravet syndrome	Epilepsy Behav	131(Pt B)：108043 2022	Higurashi N, Broccoli V, Hirose S.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（特別講演２） 築かれた礎（いしずえ）から未来を拓く －呼吸器外科医からの考察－	第63回日本肺癌学会九州支部学術集会・第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会	長崎 2/10-2/11 2022	岩﨑　昭憲
2	（シンポジウム） 新型コロナ時代における経口血小板産生促進剤ルストロンボパグの有用性の評価	第119回日本消化器病学会九州支部例会（ハイブリッド開催）	佐賀 6/24-25 2022	横山　圭二，永田　貴大，宮山　隆志，柴田久美子，福田　洋美，山内　　涼，梅田かおる，福永　篤志，高田　和英，田中　　崇，釈迦堂　敏，向坂彰太郎，平井　郁仁
3	（ワークショップ） 治療前 mALBI グレードは手術不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法の治療効果および治療中断に関連する	第120回日本消化器病学会九州支部例会（ハイブリッド開催）	熊本 12/2-3 2022	田中　　崇，宮山　隆志，福田　洋美，山内　　涼，梅田かおる，福永　篤志，高田　和英，横山　圭二，釈迦堂　敏，向坂彰太郎，平井　郁仁
4	（ワークショップ） 未熟児網膜症診療アップデート	第76回日本臨床眼科学会	東京 10.13 2022	林　　英之，清田眞理子，福島　葉子，野々辺典枝，川村　朋子，高橋　理恵
5	（ワークショップ） 自信が持てる！画像オーダーと診断の手順（CT，MRI）No.4	第76回日本臨床眼科学会	10.15 2022	尾山　徳秀，林　　英之，中尾　雄三
6	Neurologic disorder in childhood channelopathy:from basicto clinic	Ion channels: Structure, function, and disease-associated channelopathies	Taiwan 11/5-11/16 2022	Hirose S
7	The establishment of a novel autaptic culture system equipped with human-induced pluripotent stem cell-derived astrocytes	Neuroscience meeting（ポスター）	米国サンディエゴ 11/13 2022	Uchino K, Tanaka Y, Kawaguchi S, Kubota K, Watanabe T, Katsurabayashi S, Hirose S, Iwasaki K
8	An Encouragement for Being a Physician-Scientist in Child Neurology	TCNS Mentoring lecture Conference	Taiwan 3/18-3/19 2023	Hirose S

〈国内研究助成金〉

1	多面的アプローチによる難治性てんかんの分子病態に基づく革新的創薬基盤研究	文部科学省 基盤研究 B	2022	廣瀬　伸一（代表）
2	iPS 細胞由来ニューロンの単一細胞解析を可能とするデバイス構築	文部科学省 基盤研究 B	2022	廣瀬　伸一 （代表者：安田　　隆）
3	表現型がメンデル遺伝則に従わないヒト疾患のエピジェネティクス研究	文部科学省 基盤研究 B	2022	廣瀬　伸一 （代表者：小林　　慎）
4	ドラベ症候群に対する創薬シーズの最適化と動物モデルでの POC 取得	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構（AMED）	2022	廣瀬　伸一（代表）

〈学会活動〉

1	日本呼吸器外科学会	名誉会長	2022	岩﨑　昭憲
2	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会	理事	2022	岩﨑　昭憲
3	公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構	理事	2022	岩﨑　昭憲
4	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会	評議員	2022	岩﨑　昭憲
5	日本内視鏡外科学会	評議員	2022	岩﨑　昭憲
6	米国消化器病学会（AGA）	フェロー	2022	向坂彰太郎
7	米国肝臓学会（AASLD）	フェロー	2022	向坂彰太郎
8	日本消化器病学会	名誉会員	2022	向坂彰太郎
9	日本臨床分子形態学会	名誉理事長	2022	向坂彰太郎
10	日本肝臓学会	名誉会員	2022	向坂彰太郎
11	日本肝移植学会	名誉会員	2022	向坂彰太郎
12	日本消化器病学会九州支部	名誉支部長	2022	向坂彰太郎
13	日本先天代謝異常学会	評議員	2022	廣瀬　伸一
14	日本マススクリーニング学会	評議員	2022	廣瀬　伸一
15	てんかん治療研究振興財団	評議員	2022	廣瀬　伸一
16	日本眼薬理学会	評議員	2022	林　　英之
17	日本小児眼科学会	理事	2022	林　　英之
18	American Academy of Ophthalmology（米国眼科学会）	フェロー	2022	林　　英之

〈研究に関係した賞〉

1	アジア太平洋地域の小児保健・医療において貢献し，その功績が顕著な小児科医に対してアジア太平洋小児科学会から贈られる賞	The Outstanding Asian Pediatrician Award（OAPA）2022	2022	廣瀬　伸一
2	日本てんかん学会における，てんかんの医療や福祉活動，てんかんの教育活動，てんかんの社会活動，その他の領域での活動，を通じて著しい功績が認められた学会員に対し，毎年表彰し栄誉を称える賞	第13回　日本てんかん学会功労賞	2022	廣瀬　伸一

腫瘍・血液・感染症内科学

〈原著〉

1	Longitudinal efficacy and safety of capecitabine and cyclophosphamide as early-line treatment in patients with metastatic breast cancer: A prospective cohort study by the Kyushu Breast Cancer Study Group, Japan.	Ann Cancer Res Ther	30(1):38-44, 2022	Mashino K, Tanaka M, Yamaguchi M, Nishimura R, Yamamoto Y, Ueo H, Tanaka T, Koga K, Yoshiyama T, Mitsuyama S, Tamura K, Kyushu Breast Cancer Study Group.

2	Oral histone deacetylase inhibitor tucidinostat (HBI-8000) in patients with relapsed or refractory adult T-cell leukemia/lymphoma: Phase IIb results.	Cancer Sci	113(8): 2778-2787, 2022	Utsunomiya A, Izutsu K, Jo T, Yoshida S, Tsukasaki K, Ando K, Choi I, Imaizumi Y, Kato K, Kurosawa M, Kusumoto S, Miyagi T, Ohtsuka E, Sasaki O, Shibayama H, Shimoda K, Takamatsu Y, Takano K, Yonekura K, Makita S, Taguchi J, Gillings M, Onogi H, Tobinai K.
3	福岡大学病院におけるがんゲノム医療の現状と取り組み －がんゲノム医療コーディネーターの立場から－	福岡大学医学紀要	49(2): 107-113, 2022	常光　好美，大久保久美子， 田中　俊裕，吉田陽一郎， 井上　博之，山田　哲平， 松﨑　洋吏，倉員　正光， 濵﨑　　慎，鍋島　一樹， 高松　　泰
4	Oral histone deacetylase inhibitor HBI-8000 (tucidinostat) in Japanese patients with relapsed or refractory non-Hodgkin's lymphoma : phase I safety and efficacy.	Jpn J Clin Oncol	52(9): 1014-1020, 2022	Yoshimitsu M, Ando K, Ishida T, Yoshida S, Choi I, Hidaka M, Takamatsu Y, Gillings M, Lee GT, Onogi H, Tobinai K.
5	Final analysis of randomized phase II study optimizing melphalan, prednisolone, bortezomib in multiple myeloma (JCOG1105).	Cancer Sci	113(9): 3267-3270, 2022	Maruyama D, Iida S, Machida R, Kusumoto S, Fukuhara N, Yamauchi N, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamoto N, Tsujimura H, Usuki K, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno I, Takamatsu Y, Nagata Y, Ota S, Ohtsuka E, Hanamura I, Suzuki Y, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Fukuhara S, Tsukasaki K, Nagai H.
6	Clinicopathological findings, prognosis, and Epstein-Barr virus infection in rheumatoid arthritis patients with other iatrogenic immunodeficiency-associated T- and NK-cell lymphoproliferative disorders.	BMC Cancer	22(1): 1342, 2022	Kimura S, Oshiro Y, Iwasaki H, Kadowaki M, Ogata M, Daa T, Sakata T, Kawauchi S, Wang Z, Takamatsu Y, Takeshita M.
7	Predictors of impaired antibody response after SARS-CoV-2 mRNA vaccination in hematopoietic cell transplant recipients: A Japanese multicenter observational study.	Am J Hematol	98(1): 102-111, 2023	Mori Y, Uchida N, Harada T, Katayama Y, Wake A, Iwasaki H, Eto T, Morishige S, Fujisaki T, Ito Y, Kamimura T, Takahashi T, Imamura Y, Tanimoto K, Ishitsuka K, Sugita J, Kawano N, Tanimoto K, Yoshimoto G, Choi I, Hidaka T, Ogawa R, Takamatsu Y, Miyamoto T, Akashi K, Nagafuji K.

8	Emerging resistance to beta-lactams in Pantoea ananatis isolated from an immunocompetent patient with bacteremia.	Diagn Microbiol Infect Dis	102(4): 115633, 2022	Yoshimura M*, Tokushige C, Maruyama JI, Kawano Y, Ishikura H, Matsunaga A, Takata T, Hiromatsu K, Yanagihara I, Togawa A*, Takamatsu Y. (* Corresponding author)
9	The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force.	Nat Commun	13(1): 4830, 2022	Wang QS, (中略) Nakamura Y, Hoshino K, Maruyama J, Ishikura H, Takata T, (中略) Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K, Okada Y. 445名中247番目
10	DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19.	Nature	609(7928): 754-760, 2022	Namkoong H, (中略) Nakamura Y, Hoshino K, Maruyama J, Ishikura H, Takata T, (中略) Fukunaga K, Okada Y. 491名中280番目

〈症例報告〉

1	Pseudocirrhosis Due to Desmoplastic Response to Chemotherapy in Breast.	Cureus	14(5): e2532, 2022	Takata K, Mogi A, Yamauchi R, Shakado S, Hirai F.
2	HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature.	eNeurologicalSci	31: 100453, 2023	Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, Mera H, Ogura H, Tsugawa J, Fujioka S, Takamatsu Y, Tsuboi Y.

〈総説〉

1	TET2遺伝子変異を持つ NK 細胞性慢性リンパ増殖性疾患の臨床的特性	血液内科	84: 737-740, 2022	磯部　泰司
2	慢性好中球減少症患者における NK 細胞サブセット構成の変化	血液内科	85: 729-732, 2022	磯部　泰司
3	専門家による私の治療 (総監修　猿田亨男，北村惣一郎) 多剤耐性緑膿菌感染症/薬剤耐性緑膿菌感染症	週刊　日本医事新報	5132: 41-42, 2022	髙田　　徹

〈著書〉

1	ここが知りたい！血液疾患診療ハンドブック (編集　神田善伸) 第二章血液疾患特殊検査　２.リンパ節生検	中外医学社	41-48, 2022	磯部　泰司
2	EBM 血液疾患の治療2023-2024 (監修　金倉譲，編集　木崎昌弘，鈴木律朗，神田善伸，大森司，山﨑宏人) Ⅳ.リンパ系腫瘍　E.T/NK 細胞リンパ腫 ３.節外性 NK/T 細胞リンパ腫の治療方針	中外医学社	324-333, 2022	磯部　泰司
3	今日の治療指針 私はこう治療している 2022 (総編集　福井次矢，高木　誠，小室一成) ３.感染症　多剤耐性アシネトバクター	医学書院	205, 2022	髙田　　徹

〈国内研究助成金〉

1	リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	国立がん研究センター研究開発費	2022	高松　泰 （代表：大江裕一郎）
2	高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	日本医療研究開発機構（AMED）革新的がん医療実用化研究事業	2022	高松　泰 （代表：丸山　大）
3	ウルトラファインバブルと超音波を用いたMRSA デバイス感染新規治療法の開発	科学研究費助成事業（学術研究助成） 基盤研究(C)(一般)	2022	高田　徹
4	非抗菌薬を用いた持続感染細胞の駆逐を目指したMRSA バイオフィルムの制御	科学研究費助成事業（学術研究助成） 基盤研究(C)(一般)	2022	高田　徹

〈学会活動〉

1	日本検査血液学会	理事，九州支部支部長	2022	高松　泰
2	日本臨床腫瘍学会	協議員	2022	高松　泰
3	日本リンパ網内系学会	評議員	2022	高松　泰
4	日本内科学会	評議員	2022	高松　泰
5	日本血液会	評議員	2022	高松　泰
6	日本骨髄腫学会	代議員	2022	高松　泰
7	日本がんサポーティブケア学会	評議員	2022	高松　泰
8	日本医療情報学会	評議員	2022	田中　俊裕
9	日本病院総合診療医学会	評議員	2022	林　武生
10	日本バイオフィルム学会	理事	2022	高田　徹
11	日本感染症学会	評議員，西日本地方監事	2022	高田　徹
12	日本化学療法学会	評議員	2022	高田　徹
13	日本医真菌学会	評議員	2022	高田　徹
14	福岡 ICT 交流会	世話人	2022	高田　徹
15	福岡臨床感染症研究会	世話人	2022	高田　徹
16	福岡 HIV 感染症治療研究会	世話人	2022	高田　徹
17	福岡感染症を考える会	世話人	2022	高田　徹
18	福岡西部地区感染対策ネットワーク	代表	2022	高田　徹

〈研究に関係した賞〉

1	CDE11 with/without rituximab therapy for relapsed/ refractory malignant lymphoma.	第84回日本血液学会学術集会　優秀ポスター賞	2022	中島　勇太

内分泌・糖尿病内科学

〈原著〉

1	Triglyceride Lowering with Pemafibrate to Reduce Cardiovascular Risk.	N Engl J Med.	387(21): 1923-1934, 2022	Das Pradhan A, Glynn RJ, Fruchart JC, MacFadyen JG, Zaharris ES, Everett BM, Campbell SE, Oshima R, Amarenco P, Blom DJ, Brinton EA, Eckel RH, Elam MB, Felicio JS, Ginsberg HN, Goudev A, Ishibashi S, Joseph J, Kodama T, Koenig W, Leiter LA, Lorenzatti AJ, Mankovsky B, Marx N, Nordestgaard BG, Páll D, Ray KK, Santos RD, Soran H, Susekov A, Tendera M, Yokote K, Paynter NP, Buring JE, Libby P, Ridker PM; PROMINENT Investigators (Kawanami D, Takashi Y et al.).
2	Fibroblast growth factor 23 and kidney function in patients with type 1 diabetes.	PLoS One	17(9): e0274182, 2022	Takashi Y, Maeda Y, Toyokawa K, Oda N, Yoshioka R, Sekiguchi D, Minami M, Kawanami D.
3	A simplified prediction model for end-stage kidney disease in patients with diabetes.	Sci Rep.	12(1): 12482, 2022	Inoguchi T, Okui T, Nojiri C, Eto E, Hasuzawa N, Inoguchi Y, Ochi K, Takashi Y, Hiyama F, Nishida D, Umeda F, Yamauchi T, Kawanami D, Kobayashi K, Nomura M, Nakashima N.
4	A simple questionnaire for the detection of testosterone deficiency in men with late-onset hypogonadism.	Endocr J.	69(11): 1303-1312, 2022	Akehi Y, Tanabe M, Yano H, Takashi Y, Kawanami D, Nomiyama T, Yanase T.
5	The Importance of Patient and Family Engagement, the Needs for Self-Monitoring of Blood Glucose (SMBG)-Our Perspectives Learned Through a Story of SMBG Assistive Devices Made by a Husband of the Patient with Diabetes.	Diabetes Metab Syndr Obes.	15: 1627-1638, 2022	Kimura M, Toyoda M, Saito N, Takahashi M, Isozumi K, Kato E, Kawanami D, Fukagawa M.
6	Rho-associated, coiled-coil-containing protein kinase 1 regulates development of diabetic kidney disease via modulation of fatty acid metabolism.	Kidney Int.	02(3): 536-545, 2022	Nagai Y, Matoba K, Takeda Y, Yako H, Akamine T, Sekiguchi K, Kanazawa Y, Yokota T, Sango K, Kawanami D, Utsunomiya K, Nishimura R.

7	Rationale, design and baseline characteristics of the effect of canagliflozin in patients with type 2 diabetes and microalbuminuria in the Japanese population: The CANPIONE study.	Diabetes Obes Metab.	24(8): 1429–1438, 2022	Miyamoto S, Heerspink HJL, de Zeeuw D, Toyoda M, Suzuki D, Hatanaka T, Nakamura T, Kamei S, Murao S, Hida K, Ando S, Akai H, Takahashi Y, Koya D, Kitada M, Sugano H, Nunoue T, Nakamura A, Sasaki M, Nakatou T, Fujimoto K, Kawanami D, Wada T, Miyatake N, Yoshida M, Shikata K; CANPIONE study Investigators.
8	ROCK2-induced metabolic rewiring in diabetic podocytopathy.	Commun Biol.	5(1): 341, 2022	Matoba K, Takeda Y, Nagai Y, Sekiguchi K, Ukichi R, Takahashi H, Aizawa D, Ikegami M, Tachibana T, Kawanami D, Kanazawa Y, Yokota T, Utsunomiya K, Nishimura R.
9	Novel method utilizing bisulfite conversion with dual amplification-refractory mutation system polymerase chain reaction to detect circulating pancreatic β-cell cfDNA.	J Diabetes Investig	13(7): 1140–1148, 2022	Okada A, Yamada-Yamashita M, Tominaga Y, Jo K, Mori H, Suzuki R, Ishizu M, Tamaki M, Akehi Y, Takashi Y, Koga D, Shimokita E, Tanihara F, Kurahashi K, Yoshida S, Mitsui Y, Masuda S, Endo I, Aihara KI, Kagami S, Abe M, Ferreri K, Fujitani Y, Matsuhisa M, Kuroda A.
10	Osteoblast/osteocyte-derived interleukin-11 regulates osteogenesis and systemic adipogenesis.	Nat Commun	13(1): 7194, 2022	Dong B, Hiasa M, Higa Y, Ohnishi Y, Endo I, Kondo T, Takashi Y, Tsoumpra M, Kainuma R, Sawatsubashi S, Kiyonari H, Shioi G, Sakaue H, Nakashima T, Kato S, Abe M, Fukumoto S, Matsumoto T.
11	Utility of Multimodality Approach Including Systemic FGF23 Venous Sampling in Localizing Phosphaturic Mesenchymal Tumors.	J Endocr Soc	7(2): bvac181, 2022	Kato H, Koga M, Kinoshita Y, Hidaka N, Hoshino Y, Takashi Y, Arai M, Kobayashi H, Katsura M, Nakamoto Y, Makise N, Ushiku T, Hoshi K, Nangaku M, Makita N, Fukumoto S, Ito N.
12	Regenerating glomerular metabolism and function by podocyte pyruvate kinase M2 in diabetic nephropathy.	JCI Insight.	7(5): e155260, 2022	Fu J, Shinjo T, Li Q, St-Louis R, Park K, Yu M.G, Yokomizo H, Simao F, Huang Q, Wu I-H, King G.L.

13	Differential effect of canagliflozin, a sodium-glucose cotransporter 2 (SGLT2) inhibitor, on slow and fast skeletal muscles from nondiabetic mice.	Biochemical Journal	479 (3): 425-444, 2022	Otsuka H, Yokomizo H, Nakamura S, Izumi Y, Takahashi M, Obara S, Nakao M, Ikeda Y, Sato N, Sakamoto R, Miyachi Y, Miyazawa T, Bamba T, Ogawa Y.
14	Endothelial Cells Induced Progenitors Into Brown Fat to Reduce Atherosclerosis.	Circulation Research	131(2)168-183, 2022	Park K, Li Q, Lynes M.D, Yokomizo H, Maddaloni E, Shinjo T, St-Louis R, Li Q, Katagiri S, Fu J, Clermont A, Park H, Wu I-H, Yu M.G, Shah H, Tseng Y-H, King G.L.

〈症例報告〉

1	Combined treatment by burosumab and a calcimimetic can ameliorate hypophosphatemia due to excessive actions of FGF23 and PTH in adult XLH with tertiary hyperparathyroidism: A case report.	Front Endocrinol.	13: 1004624, 2022	Takashi Y, Toyokawa K, Oda N, Muta Y, Yokomizo H, Fukumoto S, Kawanami D.
2	Adrenal Hemorrhage in a Cortisol-Secreting Adenoma Caused by Antiphospholipid Syndrome Revealed by Clinical and Pathological Investigations: A Case Report.	Front Endocrinol.	12: 769450, 2022	Ochi K, Abe I, Yamazaki Y, Nagata M, Senda Y, Takeshita K, Koga M, Yamao Y, Shigeoka T, Kudo T, Fukuhara Y, Miyajima S, Taira H, Haraoka S, Ishii T, Takashi Y, Lam AK, Sasano H, Kobayashi K.

〈総説〉

1	The Role of Bone-Derived Hormones in Glucose Metabolism, Diabetic Kidney Disease, and Cardiovascular Disorders.	Int J Mol Sci.	23(4): 2376, 2022	Takashi Y, Kawanami D.
2	糖尿病における心腎連関について	月刊糖尿病ライフ　さかえ	12月号 p5-10, 2022	川浪　大治
3	皮膚科医に知って欲しい，患者をその気にさせる理想的な減量法	Visual Dermatology	21(6): 602-605, 2022	川浪　大治
4	糖尿病腎症「見える化」	糖尿病のハテナがわかる！イラストBOOK	42-4, 2022	川浪　大治，宇都宮一典.
5	糖尿病性腎症・糖尿病性腎臓病	臨床雑誌　内科	129(4): 1013-1018, 2022	小田　直樹，川浪　大治

〈著書〉

1	Phosphate Metabolism「Phosphate-Sensing」	Springer	27-36, 2022	Takashi Y, Fukumoto S（分担）
2	糖尿病・内分泌代謝科「FGF23の多様なホルモン作用」	(有)科学評論社	54巻3号, P304-312, 2022	髙士　祐一（分担）

3	もう悩まない！骨粗鬆症診療 あなたの疑問にお答えします （虎の門病院副院長・内分泌センター長 竹内靖博　編） 「骨代謝マーカー以外の血液・尿検査はいつ， 何を目的に実施するのか？」	日本医事新報社	60-65	髙士　祐一（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（イブニングセミナー） 「日常診療に潜む代謝性骨疾」 日常診療に潜む骨軟化症の診断と治療	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会（ハイブリッド開催）	横浜 4/25-27 2022	髙士　祐一
2	（シンポジウム） 「糖尿病医療者・研究者のダイバーシティを promote する委員会シンポジウム 糖尿病研究のすすめ～初めの一歩を踏み出し実現へ～」臨床研究の魅力と実践：骨産生ホルモンによる多臓器連関から糖尿病を考える	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	神戸 5/12-14 2022	髙士　祐一
3	（クリニカルアワー） 「チーム医療による糖尿病性腎症重症化予防の取り組み」糖尿病性腎症の現状と課題	第95回日本内分泌学会総会（ハイブリッド開催）	大分 6/2-4 2022	川浪　大治
4	（クリニカルアワー） 「低リン血症性くる病・骨軟化症の診断と治療」 FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の病因と病態	第95回日本内分泌学会総会（ハイブリッド開催）	大分 6/2-4 2022	髙士　祐一
5	（ランチョンセミナー） 「日常診療に潜む希少疾患 ～FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症～」	第40回日本骨代謝学会学術集会	岐阜 7/22-23 2022	髙士　祐一
6	（ランチョンセミナー） DKD 診療の課題と展望	第60回日本糖尿病学会九州地方会	福岡 10/7-8 2022	川浪　大治
7	（シンポジウム） 「糖尿病性腎症研究の最新知見」糖尿病性腎臓病の成因としての骨腎連関の意義と Rho-kinase の関与	第37回日本糖尿病合併症学会	京都 10/21-22 2022	川浪　大治
8	（ランチョンセミナー） 糖尿病性腎臓病の課題と展望～セマグルチドへの期待～	第37回日本糖尿病合併症学会	京都 10/21-22 2022	川浪　大治
9	（ワークショップ） 「網膜症」糖尿病網膜症保護因子の同定と作用機序の検討	第37回日本糖尿病合併症学会	京都 10/21-22 2022	横溝　　久
10	（ランチョンセミナー） 心腎連関から考える糖尿病治療	日本糖尿病学会中国四国地方会第60回総会	広島 11/11-12 2022	川浪　大治
11	（ランチョンセミナー） 心腎連関から考える糖尿病治療	第43回日本肥満学会	那覇 12/2-3 2022	川浪　大治
12	（特別企画） 「糖尿病性腎症治療の新展開－透析導入予防のために」GLP-1 受容体作動薬および GIP/GLP-1受容体作動薬の腎保護効果	第57回糖尿病学の進歩	東京 2/17-18， 2023	川浪　大治
13	（ランチョンセミナー） 糖尿病性腎症の課題と展望	第57回糖尿病学の進歩	東京 2/17-18， 2023	川浪　大治

〈国内研究助成金〉

1	糸球体内皮機能障害による糖尿病性腎臓病発症・進展機構の解明	日本学術振興会 基盤研究（C）	2022	川浪　大治（代表）
2	ファーストメッセンジャーとしてのリンとその感知機構の解明	日本学術振興会 若手研究	2022	髙士　祐一（代表）
3	代謝特性の異なる遅筋と速筋に着目した糖尿病における骨格筋障害の発症機構の解明	日本学術振興会 若手研究	2022	横溝　　久（代表）
4	「総合知」を結集したトランスディシプリナリー型異分野融合研究基盤の創出 シーズ H6「ペプチド医薬の超長期滞留性 DDS の開発」	日本医療研究開発機構 【AMED 橋渡し研究プログラム】2022年度九州大学拠点異分野融合型研究シーズ H 研究	2022	川浪大治，横溝　　久 （代表者：石橋　達朗）
5	糖尿病性腎臓病における血管石灰化のメカニズムの解明と新規治療戦略の構築	第１回日本糖尿病財団・ノボ・ノルディスクファーマ研究助成	2022	髙士　祐一（代表）
6	健康長寿を目指したファーストメッセンジャーとしてのリンの作用機構と臓器関連解析	日本内分泌学会若手研究助成金	2022	髙士　祐一（代表）
7	生命の維持に必須のリン感知機構の解明	日本学術振興会 基盤研究（B）	2022	髙士　祐一 （代表者：福本誠二）

〈学会活動〉

1	日本糖尿病眼学会	理事	2022	川浪　大治
2	日本膵・膵島移植学会	理事	2022	川浪　大治
3	日本内科学会	評議員	2022	川浪　大治
4	日本糖尿病学会	学術評議員	2022	川浪　大治，横溝　　久
5	日本糖尿病学会	専門医認定委員	2022	川浪　大治
6	日本糖尿病学会	糖尿病診療ガイドライン評価委員	2022	川浪　大治
7	日本内分泌学会	評議員	2022	川浪　大治，髙士　祐一
8	日本内分泌学会	Endocrine Journal Editor	2022	川浪　大治
9	日本体質学会	評議員	2022	川浪　大治
10	日本糖尿病合併症学会	評議員	2022	川浪　大治
11	日本機能性食品医用学会	評議員	2022	川浪　大治
12	日本腎臓学会	CKD 診療ガイドライン作成委員	2022	川浪　大治
13	日本糖尿病学会九州支部	監事	2022	川浪　大治
14	日本内分泌学会九州支部	幹事	2022	川浪　大治
15	日本糖尿病性腎症研究会	幹事	2022	川浪　大治
16	日本骨代謝学会	評議員	2022	髙士　祐一

心臓・血管内科学

〈原著〉

1	Mortality risk after use of a paclitaxel-coated stent in femoropopliteal peripheral artery disease	Cardiovasc Interv Ther	37(1): 136-144, 2022	Tan M, Urasawa K, Haraguchi T, Ando H, Tsubakimoto Y, Kamoi D, Habara M, Nakama T, Sakamoto H, Kimura M, Doijiri T, Sugihara M, Imoto Y, Sato T, Hayashi T, Sato Y.
2	Three-dimensional echocardiography for predicting mitral stenosis after MitraClip for functional mitral regurgitation	J Echocardiogr	20(3): 151-158, 2022	Kato Y, Okada A, Amaki M, Nishimura K, Kanzaki H, Kataoka Y, Miyamoto K, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Hasegawa T, Kusano K, Fujita T, Kobayashi J, Yasuda S, Izumi C.
3	Adult influenza epidemic is associated with out-of-hospital cardiac arrest: From the All-Japan Utstein Registry, a prospective, nationwide, population-based, observational registry	Medicine (Baltimore)	101(24): e29535, 2022	Suematsu Y, Kuwano T, Yamashita M, Tsutsui H, Sato N, Ikeda T, Nagao K, Yonemoto N, Tahara Y, Saku K, Miura S; Japanese Circulation Society with Resuscitation Science Study (JCS-ReSS) Group.
4	Influence of Discontinuation of Cardiac Rehabilitation in Elderly Outpatients Due to the COVID-19 Pandemic	J Cardiovasc Dev Dis	9(6): 194, 2022	Mouri N, Suematsu Y, Yano Y, Morita K, Shirosaki M, Fujita M, Matsuda T, Matsuo S, Tazawa R, Fujimi K, Miura S.
5	Efficacy of Early Cardiac Rehabilitation After Cardiac Surgery - Verification Using Japanese Diagnosis Procedure Combination Data	Circ Rep	4(11): 505-516, 2022	Sezai A, Shimokawa T, Kanaoka K, Fukuma N, Sekino H, Shiraishi H, Sumita Y, Nakai M, Iwanaga Y, Furukawa Y, Miura S, Oya Y, Yasu T, Makita S.
6	The moderate-intensity continuous exercise maintains renal blood flow and does not impair the renal function	Physiol Rep	10(15): e15420, 2022	Kawakami S, Yasuno T, Kawakami S, Ito A, Fujimi K, Matsuda T, Nakashima S, Masutani K, Uehara Y, Higaki Y, Michishita R.
7	急性期病院医師による心不全連携と在宅医療の可能性	臨牀と研究	99(9): 83-87, 2022	志賀　悠平，村岡　聡一， 杉原　英和，川井美早紀， 二見真紀人，有村　忠聴， 小柳　尚子，河野　　靖， 藤見　幹太，三浦伸一郎
8	持続可能な臨床研究を導く利益相反管理における徳倫理学的アプローチの考察	福岡大学医学紀要	49(2): 63-70, 2022	今泉　　聡，三浦伸一郎

9	Study Design of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry (J-CARRY) — Protocol for a Prospective, Multicenter, Open Registry —	Circ Rep	4(11): 550–554, 2022	Kida K, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, Daida H, Ushijima A, Kono Y, Miura M, Itoh H, Sakata Y, Nagayama M, Furukawa Y, Fukuma N, Izawa H, Ohya Y, Saku K, Miura S, Goto Y, Itoh H, Makita S; Japanese Association of Cardiac Rehabilitation (JACR) Registration Committee.
10	JCS/JACR 2021 Guideline on Rehabilitation in Patients With Cardiovascular Disease	Circ J	87(1): 155–235, 2022	Makita S, Yasu T, Akashi YJ, Adachi H, Izawa H, Ishihara S, Iso Y, Ohuchi H, Omiya K, Ohya Y, Okita K, Kimura Y, Koike A, Kohzuki M, Koba S, Sata M, Shimada K, Shimokawa T, Shiraishi H, Sumitomo N, Takahashi T, Takura T, Tsutsui H, Nagayama M, Hasegawa E, Fukumoto Y, Furukawa Y, Miura S, Yasuda S, Yamada S, Yamada Y, Yumino D, Yoshida T, Adachi T, Ikegame T, Izawa KP, Ishida T, Ozasa N, Osada N, Obata H, Kakutani N, Kasahara Y, Kato M, Kamiya K, Kinugawa S, Kono Y, Kobayashi Y, Koyama T, Sase K, Sato S, Shibata T, Suzuki N, Tamaki D, Yamaoka-Tojo M, Nakanishi M, Nakane E, Nishizaki M, Higo T, Fujimi K, Honda T, Matsumoto Y, Matsumoto N, Miyawaki I, Murata M, Yagi S, Yanase M, Yamada M, Yokoyama M, Watanabe N, Itoh H, Kimura T, Kyo S, Goto Y, Nohara R, Hirata KI; Japanese Circulation Society/the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Joint Working Group.
11	Association between major adverse cardiovascular events and pentraxin-3 in patients who have undergone coronary computed tomography angiography: from the FU-CCTA registry	Heart Vessels	38(3): 309–317, 2023	Ohnishi N, Shiga Y, Tashiro K, Kawahira Y, Shibata Y, Inoue H, Morii J, Nishikawa H, Kato Y, Kuwano T, Sugihara M, Miura S.

12	各種降圧薬の特性と使い方　ARB	臨牀と研究	100(1)： 24-28， 2023	三浦江里香，神村　英利， 三浦伸一郎
13	強心薬から離脱可能となった重症心不全患者における継続した意思決定支援の有用性	臨牀と研究	100(1)： 93-96， 2023	森　　香織，志賀　悠平， 二見真紀人，岸本　早苗， 杉原　英和，井上　寛子， 森井　誠士，西川　宏明， 村岡　聡一，三浦伸一郎
14	Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Sitagliptin Phosphate Accelerates Cellular Cholesterol Efflux in THP-1 Cells	Biomolecules	13(2)： 228， 2023	Komatsu T, Abe S, Nakashima S, Sasaki K, Higaki Y, Saku K, Miura S, Uehara Y.
15	Salivary Polyamines Help Detect High-Risk Patients with Pancreatic Cancer: A Prospective Validation Study	Int J Mol Sci	24(3)： 2998， 2023	Nose D, Sugimoto M, Muta T, Miura S.
16	Study Protocol of Cardiac Rehabilitation for Acute Myocardial Infarction From the JROAD/JROAD-DPC Database - JROAD-CR	Circ Rep	5(2)： 62-65， 2023	Suematsu Y, Miura SI, Minei A, Sumita Y, Kanaoka K, Nakai M, Arima H, Nakamura K, Takura T, Shimada K, Shiraishi H, Fukuma N, Ohya Y, Makita S; JROAD-CR Investigators.
17	Effects of a 14-week community health program of exercise and learning/education in older adults: A single-arm pre-post comparison study	Geriatr Nurs	51： 1-8， 2023	Nose D, Inoue H, Imaki K, Saku K, Miura S.

〈症例報告〉

1	Angiographic findings and treatment of coronary sinus spasm during left ventricular lead placement: A case report	J Cardiol Cases	26(5)： 367-370， 2022	Komaki T, Shibata Y, Mine K, Mohri N, Tashiro K, Miura S, Ogawa M.
2	Acute Myocarditis with Severe Fever and Thrombocytopenia Syndrome	Intern Med	61(11)： 1779-1784， 2022	Okutsu S, Futami M, Arimura T, Ohki K, Hiyoshi T, Sakihara E, Kato Y, Ueda Y, Yano M, Takeshita M, Ishikura H, Suzuki T, Kato S, Miura S, Nabeshima S.
3	Coexisting mitral regurgitation and a giant coronary aneurysm after mitral valvuloplasty	Eur Heart J Case Rep	7(2)： ytad055， 2023	Kato Y, Sugihara M, Miura S.

〈総説〉

1	心不全診療における公認心理師の役割	臨牀と研究	99(2)： 99-103， 2022	川井美早紀，志賀　悠平， 三浦伸一郎
2	各種治療薬における上手な薬剤選択 スタチン・フィブラート	臨牀と研究	99(2)： 18-22， 2022	三浦江里香，神村　英利， 三浦伸一郎
3	心臓リハビリテーションと抗加齢のための運動	Medical Science Digest	48(5)： 32-35， 2022	北島　　研，三浦伸一郎

5	心原性ショックの新しいデバイス治療	Heart View	27(1): 78-83, 2023	森田　英剛，朔　　啓太
4	Cardiometabolic Responses to Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients With Cardiovascular Diseases	Cardiometab Syndr J	3(1): 1-7, 2023	Miura S, Suematsu Y, Morita H, Yano Y, Arimura T, Fujimi K.

〈著書〉

1	包括的心臓リハビリテーション　B　包括的心臓リハビリテーションプログラムとは	南江堂	pp.9-15, 2022	藤見　幹太，三浦伸一郎（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（KEYNOTE LECTURE） Cardiometabolic Responses to Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients with Cardiovascular Diseases	5th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome（APCMS） （ハイブリッド開催）	Korea 4/29-30 2022	Miura S.
2	（シンポジウム） 心臓リハビリテーション学会が取り組むレジストリー研究　心臓リハビリテーションのAMI エビデンスと JROAD-CR	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 （ハイブリット開催）	沖縄 6/11-12 2022	三浦伸一郎
3	（シンポジウム） 循環器学のトピックスと心臓リハビリテーション-新たな研究領域　1　運動負荷時の血圧・心拍応答を改めて見直す	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 （ハイブリット開催）	沖縄 6/11-12 2022	末松　保憲
4	（シンポジウム３） 運動療法による降圧のエビデンスや機序と実践法　SY3-2　運動による降圧メカニズムと臨床研究のエビデンス Antihypertensive mechanism by exercise and the evidence of clinical research	第44回日本高血圧学会総会	京都 10/14-16 2022	三浦伸一郎

〈国内研究助成金〉

1	妊娠高血圧症候群重症化予防に向けた血圧変動性の評価と生活習慣指標の作成	文部科学省 基盤研究 C	2022	三浦伸一郎 （代表者：椎葉美千代）
2	ナノバブル化アポ A-I 模倣ペプチドと超音波による新規動脈硬化治療法の開発	文部科学省 基盤研究 C	2022	三浦伸一郎 （代表者：今泉　　聡）
3	心臓リハビリテーションと心肺運動負荷検査（CPX）による心血管疾患の予後予測	文部科学省 基盤研究 C	2022	三浦伸一郎 （代表者：北島　　研）
4	心房細動患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	文部科学省 基盤研究 B	2022	三浦伸一郎 （代表者：有馬　久富）
5	HDL 機能を利用した心臓リハビリテーションによる心血管疾患予後因子の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	三浦伸一郎 （代表者：北島　　研）
6	腸内細菌から動脈硬化を予測する：AI を用いた挑戦	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	三浦伸一郎 （代表者：有馬　久富）

〈学会活動〉

1	日本機能性食品医用学会	理事	2022	三浦伸一郎
2	日本心臓リハビリテーション学会	理事	2022	三浦伸一郎
3	日本循環器学会	理事	2022	三浦伸一郎

4	和温療法学会	理事	2022	三浦伸一郎
5	日本高血圧学会	理事	2022	三浦伸一郎
6	日本内分泌学会	評議員	2022	三浦伸一郎
7	日本動脈硬化学会	評議員	2022	三浦伸一郎
8	日本高血圧学会	評議員	2022	三浦伸一郎
9	日本腫瘍循環器学会	評議員	2022	三浦伸一郎
10	日本心不全学会	代議員	2022	三浦伸一郎
11	日本再生医療学会	代議員	2022	三浦伸一郎
12	日本心臓リハビリテーション学会	評議員	2022	藤見　幹太
13	国際心臓研究学会	評議員	2022	三浦伸一郎
14	日本循環器学会	社員	2022	三浦伸一郎
15	日本内科学会	評議員	2022	三浦伸一郎
16	日本冠疾患学会	評議員	2022	三浦伸一郎
17	日本抗加齢医学会	評議員	2022	三浦伸一郎
18	日本機能性食品医用学会	評議員	2022	桑野　孝志

〈研究に関係した賞〉

1	ドキソルビシン心毒性モデルマウスに対する改良型 ApoA1 模倣ペプチドの心萎縮抑制作用	第５回日本腫瘍循環器学会学術集会 若手研究奨励賞	2022	森田　英剛
2	Clinical outcome between a continued and a discontinued 5-month cardiac rehabilitation program in outpatients with heart failure with preserved ejection fraction.	5th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome（APCMS） Best Abstract Award	2022	Morita H

消化器内科学

〈原著〉

1	Endoscopic direct clipping versus indirect clipping for colonic diverticular bleeding: A large multicenter cohort study.	United European Gastroenterol J.	10(1)：93-103，2022	Kishino T, Nagata N, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kawagishi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Kaise M.

2	AJM300 (carotegrast methyl), an oral antagonist of α4-integrin, as induction therapy for patients with moderately active ulcerative colitis: a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 study	Lancet Gastroenterol Hepatol.	7(7): 648-657, 2022	Matsuoka K, Watanabe M, Ohmori T, Nakajima K, Ishida T, Ishiguro Y, Kanke K, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Mizusawa H, Kishida S, Miura Y, Ohta A, Kajioka T, Hibi T; AJM300 Study Group.
3	Interim analysis of a multicenter registry study of COVID-19 patients with inflammatory bowel disease in Japan (J-COSMOS)	J Gastroenterol.	57(3): 174-184, 2022	Nakase H, Hayashi Y, Hirayama D, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Abukawa D, Hisamatsu T; J-COSMOS group.
4	Perspectives of East Asian patients and physicians on complementary and alternative medicine use for inflammatory bowel disease: results of a cross-sectional, multinational study.	Intest Res	20(2): 192-202, 2022	Eun Soo Kim, Chung Hyun Tae, Sung-Ae Jung, Dong Il Park, Jong Pil Im, Chang Soo Eun, Hyuk Yoon, Byung Ik Jang, Ogata H, Fukuhara K, Hirai F, Ohtsuka K, Jing Liu, Qian Cao, Clinical Research Committee of the Asian Organization for Crohn's and Colitis
5	Role of Serum Proteinase 3 Antineutrophil Cytoplasmic Antibodies in the Diagnosis, Evaluation of Disease Severity, and Clinical Course of Ulcerative Colitis	Gut Liver	16(1): 92-100, 2022	Imakiire S, Takedatsu H, Mitsuyama K, Sakisaka H, Tsuruta K, Morita M, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishibashi H, Yoshioka S, Torimura T, Hirai F.
6	Guidelines for endoscopic balloon dilation in treating Crohn's disease-associated small intestinal strictures (supplement to the Clinical Practice Guidelines for Enteroscopy)	Dig Endosc	34(7): 1278-1296, 2022	Yamamoto H, Yano T, Araki A, Esaki M, Ohtsuka K, Ohmiya N, Oka S, Nakase H, Bamba S, Hirai F, Hosoe N, Matsuda T, Mitsui K, Watanabe K, Ogata H, Katsuki S, Matsumoto T, Fujishiro M, Fujimoto K, Inoue H.
7	Treatment Patterns in Newly Diagnosed Patients with Crohn's Disease Who Received Biologics Following Diagnosis: A Nationwide, Retrospective, Longitudinal, Observational Study Using a Medical Claims Database in Japan	Digestion	30: 1-12, 2022	Hirai F, Uda A, Ota M, Takemura Y, Tanaka K, Iwakiri R.
8	Comparison of Efficacy and Safety of Atezolizumab Plus Bevacizumab and Lenvatinib as First-Line Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score Matching Analysis	Target Oncol.	17(6): 643-653, 2022	Niizeki T, Tokunaga T, Takami Y, Wada Y, Harada M, Shibata M, Nakao K, Sasaki R, Hirai F, Shakado S, Yoshizumi T, Itoh S, Yatsuhashi H, Bekki S, Ido A, Mawatari S, Honda K, Sugimoto R, Senju T, Takahashi H, Kuwashiro T, Maeshiro T, Nakamuta M, Aratake Y, Yamashita T, Otsuka Y, Matsumoto S, Sohda T, Shimose S, Murotani K, Tanaka Y.

9	Adrenomedullin for biologic-resistant Crohn's disease: A randomized, double-blind, placebo-controlled phase 2a clinical trial	J Gastroenterol Hepatol	37(11):2051–2059, 2022	Kita T, Ashizuka S, Takeda T, Matsumoto T, Ohmiya N, Nakase H, Motoya S, Ohi H, Mitsuyama K, Hisamatsu T, Kanmura S, Kato N, Ishihara S, Nakamura M, Moriyama T, Saruta M, Nozaki R, Yamamoto S, Inatsu H, Watanabe K, Kitamura K.
10	Nationwide cohort study identifies clinical outcomes of angioectasia in patients with acute hematochezia	J Gastroenterol.	doi:10.1007/s00535-022-01945-w. Online ahead of print. 2022	Kobayashi M, Akiyama S, Narasaka T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Tsuchiya K, Kaise M, Nagata N.
11	Effectiveness and adverse events of endoscopic clipping versus band ligation for colonic diverticular hemorrhage: a large-scale multicenter cohort study	Endosc	54(8):735–744, 2022	Kobayashi K, Nagata N, Furumoto Y, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Kaise M; CODE BLUE-J study collaborators.
12	Suppression of Local Tumor Progression in Perivascular Hepatocellular Carcinoma by Combination Therapy with Radiofrequency Ablation and Percutaneous Ethanol Injection: A Propensity Score Matching Analysis	Oncology	100(6):303–312, 2022	Takata K, Tanakaa T, Anan A, Fukunaga A, Nagata T, Fukuda H, Yamauchi R, Kunimoto H, Yokoyama K, Morihara D, Takeyama Y, Iwata K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.

13	Clinical Utility of Ultrasound-Guided Attenuation Parameter for the Detection and Quantification of Hepatic Steatosis in Patients with Fatty Liver Diagnosed by Computed Tomography	Ultrasound Med Biol	48(7): 1282-1289, 2022	Iwashita H, Shakado S, Yoshimaru N, Tanaka H, Koto F, Tanaka T, Takata K, Yokoyama K, Yamaguchi M, Irie M, Hirai F.
14	Long-term outcomes of hemostatic therapy for variceal bleeding and the challenge pending in the post-direct-acting antivirals era.	Acta Gastroenterol Belg	85(1): 7-14, 2022	Shibata K, Yokoyama K, Yamauchi R, Matsumoto K, Himeno S, Nagata T, Higashi T, Kitaguchi T, Fukuda H, Tsuchiya N, Fukunaga A, Takata K, Tanaka T, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
15	Pretreatment Modified Albumin-Bilirubin Grade Is an Important Predictive Factor Associated with the Therapeutic Response and the Continuation of Atezolizumab plus Bevacizumab Combination Therapy for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Curr Oncol.	29(7): 4799-4810, 2022	Tanaka T, Takata K, Yokoyama K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
16	Long-Term Effects of Rifaximin on Patients with Hepatic Encephalopathy: Its Possible Effects on the Improvement in the Blood Ammonia Concentration Levels, Hepatic Spare Ability and Refractory Ascites	Medicina (Kaunas)	58(9): 1276, 2022	Yokoyama K, Fukuda H, Yamauchi R, Higashi M, Miyayama T, Higashi T, Uchida Y, Shibata K, Tsuchiya N, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
17	Multipolar radiofrequency ablation via three bipolar electrodes with C-arm type X-ray fluoroscopy assistance for hepatocellular carcinoma: An observational study	Medicine (Baltimore)	101(38): e30725. doi: 10.1097/ MD.0000000000030725. 2022	Tanaka T, Anan A, Takata K, Fukuda H, Yamauchi R, Inomata S, Yokoyama K, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
18	Trends in hepatocellular carcinoma incident cases in Japan between 1996 and 2019	Sci Rep	12(1): 1517, 2022	Nakano M, Yatsuhashi H, Bekki S, Takami Y, Tanaka Y, Yoshimaru Y, Honda K, Komorizono Y, Harada M, Shibata M, Sakisaka S, Shakado S, Nagata K, Yoshizumi T, Itoh S, Sohda T, Oeda S, Nakao K, Sasaki R, Yamashita T, Ido A, Mawatari S, Nakamuta M, Aratake Y, Matsumoto S, Maeshiro T, Goto T, Torimura T.
19	Standardized Methods Using EUS-guided Fine-needle Biopsy and a Minimal Medium Creates Three Pancreatic Cancer Organoids	Anticancer Res	42(8): 4103-4109, 2022	Ishida Y, Tsunoda T, Hamada Y, Tsuchiya N, Koga T, Kitaguchi T, Matsumoto K, Matsumoto S, Sasaki T, Nakashima R, Ishii F, Kajiwara M, Shirasawa S, Hasegawa S, Hirai F.

20	Proportion of unresectable pancreatic cancer specimens obtained by endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition meeting the OncoGuide™ NCC Oncopanel System analysis suitability criteria: a single-arm, phase II clinical trial.	J Gastroenterol	57(12): 990–998, 2022	Hisada Y, Hijioka S, Ikeda G, Maehara K, Hashimoto T, Kitamura H, Harai S, Yoshinari M, Kawasaki Y, Murashima Y, Koga T, Takeshita K, Maruki Y, Ohba A, Nagashio Y, Kondo S, Morizane C, Ueno H, Saito Y, Yatabe Y, Okusaka T.
21	A novel endoscopic technique using fully covered self-expandable metallic stents for benign strictures after hepaticojejunostomy: the saddle-cross technique (with video).	Surg Endosc.	36(12): 9001–9010, 2022	Kawasaki Y, Hijioka S, Nagashio Y, Ohba A, Maruki Y, Maehara K, Yoshinari M, Hisada Y, Harai S, Kitamura H, Murashima Y, Koga T, Kawahara S, Kondo S, Morizane C, Ueno H, Ushio J, Tamada K, Sugawara S, Sone M, Takamoto T, Nara S, Ban D, Esaki M, Arai Y, Shimada K, Saito Y, Okusaka T
22	Efficacy and safety of filgotinib as induction and maintenance therapy for Japanese patients with moderately to severely active ulcerative colitis: a post-hoc analysis of the phase 2b/3 SELECTION trial	Intest Res.	21(1): 110–125, 2023	Hibi T, Motoya S, Hisamatsu T, Hirai F, Watanabe K, Matsuoka K, Saruta M, Kobayashi T, Feagan BG, Tasset C, Besuyen R, Yun C, Crans G, Zhang J, Kondo A, Watanabe M.
23	Thiopurine naivety at tacrolimus induction is a predictor of long-term remission in patients with intractable ulcerative colitis who responded to tacrolimus	J Gastroenterol Hepatol	38(1): 52–60, 2023	Takatsu N, Hisabe T, Kishi M, Takeda T, Yasukawa S, Koga A, Kinjo K, Hirai F, Ueki T, Yao K.
24	Timing of colonoscopy in acute lower GI bleeding: a multicenter retrospective cohort study	Gastrointest Endosc.	97(1): 89–99, 2023	Shiratori Y, Ishii N, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Yamamoto K, Yoshimoto T, Takasu A, Ikeya T, Omata F, Fukuda K, Kaise M, Nagata N.

25	Anxiety and behavioral changes in Japanese patients with inflammatory bowel disease due to COVID-19 pandemic: a national survey	J Gastroenterol.	58(3): 205-216, 2023	Nakase H, Wagatsuma K, Nojima M, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Takeuchi K, Tamura S, Kinjo F, Ueno N, Naganuma M, Watanabe K, Moroi R, Nishimata N, Motoya S, Kurahara K, Takahashi S, Maemoto A, Sakuraba H, Saruta M, Tominaga K, Hisabe T, Tanaka H, Terai S, Hiraoka S, Takedomi H, Narimatsu K, Endo K, Nakamura M, Hisamatsu T.
26	A combination of hepatic encephalopathy and body mass index was associated with the point of no return for improving liver functional reserve after sofosbuvir/velpatasvir treatment in patients with hepatitis C virus-related decompensated cirrhosis	Hepatol Res	53(1): 26-34, 2023	Sano T, Amano K, Ide T, Yokoyama K, Noguchi K, Nakamura H, Isoda H, Ohno M, Shirachi M, Morita Y, Yano Y, Sumie S, Kawaguchi T, Kuwahara R, Arinaga-Hino T, Takahashi H, Shakado S, Hirai F, Kawaguchi T
27	Fine-needle biopsy with 19G needle is effective in combination with endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for genomic profiling of unresectable pancreatic cancer.	Dig Endosc	35(1): 124-133, 2023	Ikeda G, Hijioka S, Nagashio Y, Maruki Y, Ohba A, Hisada Y, Yoshinari M, Harai S, Kitamura H, Koga T, Murashima Y, Maehara K, Okada M, Yamashige D, Okamoto K, Hara H, Hagiwara Y, Agarie D, Takasaki T, Takeshita K, Kawasaki Y, Kondo S, Morizane C, Ueno H, Hiraoka N, Yatabe Y, Saito Y, Iwakiri K, Okusaka T.
28	High predictive ability of apparent diffusion coefficient value for wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma	Abdom Radiol (NY)	48(3): 902-912, 2023	Koga T, Ishida Y, Hamada Y, Takayama Y, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Kajiwara M, Naito S, Ishii F, Nakashima R, Sasaki T, Hirai F.

〈症例報告〉

1	Epstein-Barr Virus-positive Intestinal Diffuse Large B-cell Lymphoma in a Japanese Patient with Celiac Disease:First Reported Case and a Listerature Review	Intern Med.	61(3): 329-334, 2022	Ishibashi H, Imakiire S, Goto M, Nomaru R, Shibata M, Matsuoka H, Yasuda H, Yamashima T, Sakisaka H, Tanabe T, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Takamatsu Y, Hirai F, Takeshita M.

2	Observation of the drainage process of the residual lipoma after endoscopic unroofing technique during colonoscopic evaluation of post-procedural hematochezia.	Clin J Gastroenterol	15(2): 407-412, 2022	Ko YL, Matsuoka H, Nomaru R, Imakiire S, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishida Y, Ishibashi H, Koga K, Saito T, Takeshita M, Hirai F.
3	Resolution of Laryngeal Ulceration with Prednisolone Therapy in a Patient with Crohn's Disease	Intern Med	doi : 10.2169/ internalmedicine. 0422-22. Online ahead of print. 2022	Ko YL, Matsuoka H, Nomaru R, Imakiire S, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishida Y, Ishibashi H, Miyagi S, Sakata T, Hirai F.
4	Eosinophilic Granuloma of the Liver Mimicking Metastatic Liver Tumor: A Case Report	Intern Med.	61(10): 1511-1517, 2022	Uchida Y, Yokoyama K, Higashi T, Kitaguchi T, Fukuda H, Yamauchi R, Tsuchiya N, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hayashi H, Hamada Y, Nabeshima K, Hirai F.
5	Multiple focal fatty changes in the liver in patients with porphyria cutanea tarda: A case series and review of the literature	J Clin Ultrasound.	50(6): 832-842, 2022	Takata K, Fukunaga A, Nishizawa S, Uchida Y, Fukuyama M, Nagata T, Higashi T, Fukuda H, Yamauchi R, Tanaka T, Yokoyama K, Morihara D, Takeyama Y, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.
6	Pseudocirrhosis Due to Desmoplastic Response to Chemotherapy in Breast Cancer Liver Metastases	Cureus	14(5): e25321, 2022	Takata K, Mogi A, Yamauchi R, Shakado S, Hirai F.
7	Improvement of vanishing bile duct syndrome with hyperlipidemia	Clin J Gastroenterol	15(4): 784-790, 2022	Yamauchi R, Takata K, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Nabeshima K, Yoshimitsu K, Hirai F.
8	Operative findings of the migrated stent into the abdominal cavity following endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy: Anchoring force of a novel self-expandable metal stent with an anti-migration system (with video).	J Hepatobiliary Pancreat Sci	29(8): e79-e80, 2022	Koga T, Ishida Y, Hirai F.
9	A novel self-assembling peptide hemostatic gel as an option for initial hemostasis in endoscopic sphincterotomy-related hemorrhage: a case series	Clin J Gastroenterol	15(6): 1210-1215, 2022	Ishida Y, Tsuchiya N, Koga T, Kitaguchi T, Matsumoto K, Kuno N, Funakoshi S, Ishibashi H, Ashizuka S, Hirai F.
10	Two Cases of Rapidly Progressive Fatty Liver Disease due to Pancreatic Exocrine Insufficiency without a History of Surgery	Intern Med	doi : 10.2169/ internalmedicine. 0775-22, 2023	Takata K, Nagata T, Matsumoto K, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.

11	Familial Primary Biliary Cholangitis With Different Clinical Courses Based on Anti-gp210 Antibody Positivity: A Report of Two Cases	Cureus	27;15(1):e34275, 2023	Nagata T, Takeyama Y, Shakado S, Hirai F, Nimura S.
12	内視鏡的胆道ドレナージが有効であった免疫チェックポイント阻害薬関連硬化性胆管炎の一例	福岡大学医学紀要	49(2):101-106, 2022	廣田　悠治，福永　篤志，高田　和英，東　　具隆，青山　　崇，温　麟太郎，林　　博之，松元　慶亮，永田　貴大，姫野　修一，北口　恭規，山内　　涼，福田　洋美，梅田かおる，古賀　毅彦，土屋　直壮，田中　　崇，石田　祐介，横山　圭二，釈迦堂　敏，平井　郁仁

〈総説〉

1	A review on the current status and definitions of activity indices in inflammatory bowel disease: how to use indices for precise evaluation.	J Gastroenterol.	57(4):246-266, 2022	Kishi M, Hirai F, Takatsu N, Hisabe T, Takada Y, Beppu T, Takeuchi K, Naganuma M, Ohtsuka K, Watanabe K, Matsumoto T, Esaki M, Koganei K, Sugita A, Hata K, Futami K, Ajioka Y, Tanabe H, Iwashita A, Shimizu H, Arai K, Suzuki Y, Hisamatsu T.
2	Crohn 病における小腸粘膜治癒評価の意義 X 線の立場から	胃と腸	57(2):163-172, 2022	久能　宣昭，阿部　光市，船越　禎広，石橋　英樹，平井　郁仁
3	前投薬によるトラブル発生時の対応　キシロカイン，抗コリン薬，鎮静薬，プロポフォールなど	消化器内視鏡	34(3):339-344, 2022	船越　禎広，山嶋　友実，柴田　　衛，能丸　遼平，今給黎　宗，向坂　秀人，久能　宣昭，石橋　英樹，平井　郁仁
4	小腸バルーン内視鏡とカプセル内視鏡の進歩	日本臨牀	80(3):420-426, 2022	山嶋　友実，平井　郁仁，阿部　光市
5	縦走潰瘍	図説「胃と腸」画像診断用語集2022	57(5):556, 2022	平井　郁仁
6	敷石像，敷石様外観／炎症性ポリポーシス	図説「胃と腸」画像診断用語集2022	57(5):557, 2022	平井　郁仁
7	良性小腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術	消化器内視鏡	34(4):683-687, 2022	松岡　　賢，船越　禎広，阿部　光市，久能　宣昭，平井　郁仁
8	特集：Evidence & Consensus で押さえる IBD の治療薬　最新版　栄養療法	月刊　薬事	64(12):56(2484)-61(2489), 2022	芦塚　伸也，今給黎　宗，柴田　　衛，能丸　遼平，山嶋　友実，久能　宣昭，石橋　英樹，船越　禎広，平井　郁仁

9	アドレノメデュリンの消化管運動や炎症への役割	消化器病学サイエンス	6(3):35(167)-40(172),2022	芦塚　伸也，北村　和雄
10	【小腸疾患－診断・治療の最新動向－】消化管ポリポーシス von Recklinghausen 病	日本臨床	80(増):252-256,2022	石橋　英樹，二村　　聡，平井　郁仁
11	【小腸疾患－診断・治療の最新動向－】治療法　内視鏡治療　バルーン拡張術	日本臨床	80(増):102-106,2022	阿部　光市，平井　郁仁
12	Crohn 病の診断と治療　最近の動向を含めて	Gastroenterol Endosc	64(7):1315-1325,2022	平井　郁仁，久能　宣昭，阿部　光市
13	潰瘍性大腸炎の内視鏡診断と鑑別疾患 正確な診断と状況判断に必要な所見を逃さない	消化器内科	4(6):15-25,2022	向坂　秀人，久能　宣昭，阿部　光市，船越　禎広，石橋　英樹，平井　郁仁
14	２.重症 Crohn 病に対する治療	外科	84(10):1022-1028,2022	能丸　遼平，久能　宣昭，平井　郁仁
15	各種疾患におけるステロイドの使い方 潰瘍性大腸炎・クローン病	臨牀と研究	99(10):31(1205)-38(1212),2022	芦塚　伸也，今給黎　宗，柴田　　衛，能丸　遼平，山嶋　友実，久能　宣昭，石橋　英樹，船越　禎広，平井　郁仁
16	潰瘍性大腸炎の診断と疾患活動性の評価	医学と薬学	79　(11)　:1451-1459,2022	岸　　昌廣，平井　郁仁
17	【胃疾患アトラス　改訂版】隆起を呈する病変　非上皮性隆起病変　腫瘍性非上皮性病変 胃 MALT リンパ腫	消化器内視鏡	34(増):124-125,2022	石橋　英樹，二村　　聡，平井　郁仁

〈著書〉

1	AA 型アミロイドーシスに伴う微細病変を全消化管に認めた長期罹患のクローン病患者の一例	AA アミロイドーシス診療ファイル　難治性炎症診療のエッセンス	82-86,2022	平井　郁仁（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Newly Onset of Ulcerative Colitis after SARS-Cov-2 Vaccination: A Case Report	The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis(AOCC)（Web 開催）	June 16-18 2022	Nomaru R, Ishibashi H, Yi-Ling Ko, Shibata M, Yamashima T, Yasuda H, Imakiire S, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishida Y, Hirai F.
2	Prospective Study of Predictive Factors of Mucosal Healing in Inflammatory Bowel Disease Undergoing Anti-TNF-α Antibody Therapy	The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis(AOCC)（Web 開催）	June 16-18 2022	Imakiire S, Yi-Ling Ko, Shibata M, Nomaru R, Yamashima T, Yasuda H, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Ishibashi H, Funakoshi S, Ishida Y, Ashizuka S, Hirai F.

3	Two cases of familial mediterranean fever associated enterocolitis with interesting endoscopic findings.	The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis（AOCC）（Web 開催）	June 16-18 2022	Yamashima T, Yi-Ling Ko, Shibata M, Nomaru R, Imakiire S, Yasuda H, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishida Y, Ishibashi H, Ashizuka S, Hirai F.
4	Early achievement of partial mayo score remission and IBDQ normalization in patients with Ulcerative Colitis treated with filgotinib in selection.	The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis（AOCC）（Web 開催）	June 16-18 2022	Hirai F, Séverine Vermeire, Alessandra Oortwijn, Brian G. Feagan, Chohee Yun, Jie Zhang, Laurent Peyrin-Biroulet, Marc Ferrante, Silvio Danese
5	Retrospective investigation of acute pancreatitis as a complication of inflammatory bowel diseases	The Joint Congress of the 26th Meeting of International Association of Pancreatoloty（IAP）and the 53rd Annual Meeting of Japan Pancreas Society（JPS）（ハイブリッド開催）	July 7-9 2022 Kyoto, Japan	Tsuchiya N, Ishida Y, Matsumoto K, Kitaguchi T, Koga T, Hirai F.
6	Solid pseudopapillary neoplasm with tumor cell covering the external surface the eggshell calcification	The Joint Congress of the 26th Meeting of International Association of Pancreatoloty（IAP）and the 53rd Annual Meeting of Japan Pancreas Society（JPS）（ハイブリッド開催）	July 7-9 2022 Kyoto, Japan	Koga T, Ishida Y, Kitaguchi T, Tsuchiya N, Matsumoto K, Kajiwara M, Ishii F, Nakashima R, Sasaki T, Hamada Y, Hirai F.
7	Standardized Method Using Samples Obtained by Endoscopic Ultrasound-guided Tissue Acquisition and Minimal Medium Creates Three types of Pancreatic Cancer Organoids	The 7th JCA-AACR Special Joint Conference（ハイブリッド開催）	July 7-9 2022 Kyoto, Japan	Ishida Y, Tsunoda T, Hamada Y, Tsuchiya N, Koga T, Kitaguchi T, Matsumoto K, Matsumoto S, Sasaki T, Nakashima R, Naito S, Kajiwara M, Shirasawa S, Hasegawa S, Hirai F.
8	（シンポジウム） Linked color imaging による潰瘍性大腸炎内視鏡観察 ～組織所見を反映する内視鏡評価スケールの確立（SOUL Study）～	第103回日本消化器内視鏡学会総会（ハイブリッド開催）	2022/5/13-15 京都	齋藤　大祐，平井　郁仁，久松　理一
9	（ワークショップ） T/NK 細胞リンパ腫の大腸病変における内視鏡像および臨床病理学的特徴	第103回日本消化器内視鏡学会総会（ハイブリッド開催）	2022/5/13-15 京都	石橋　英樹，竹下　盛重，平井　郁仁
10	（コーヒーブレイクセミナー） Treat to target を意識した潰瘍性大腸炎の治療戦略	第107回日本消化器内視鏡学会総会（ハイブリッド開催）	2022/5/13-5/15 京都	平井　郁仁
11	（エキスパートセミナー） より良い潰瘍性大腸炎治療を目指して	第117回日本消化器病学会中国支部例会（ハイブリッド開催）	2022/6/11-12 岡山	平井　郁仁

12	（シンポジウム） 当院における潰瘍性大腸炎に対するウステキヌマブの使用成績	第119回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/6/24-25 佐賀	柴田　衛，久能　宣昭，船越　禎広，柯　懿玲，能丸　遼平，今給黎　宗，保田　秀生，山嶋　友実，向坂　秀人，松岡　賢，阿部　光市，石田　祐介，石橋　英樹，平井　郁仁
13	（特別企画シンポジウム） クローン病の小腸病変における小腸カプセル内視鏡と便中カルプロテクチンの相関	第119回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/6/24-25 佐賀	武田　輝之，西俣　伸亮，藤岡　審，古田　陽輝，酒見　亮介，鶴岡ななえ，都甲　和美，金城　福則，阿部　光市，上村　修司，江﨑　幹宏，平井　郁仁，八尾　建史
14	（シンポジウム） 当院における潰瘍性大腸炎に対するベドリズマブとウステキヌマブの使用状況	第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会 （ハイブリッド開催）	2022/11/25-26 大阪	久能　宣昭，今給黎　宗，柴田　衛，能丸　遼平，山嶋　友実，船越　禎広，石橋　英樹，芦塚　伸也，平井　郁仁
15	（パネルディスカッション） 抗 TNF-α 抗体製剤治療における Quantum Blue® Reader を用いた薬物モニタリングの有用性	第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会 （ハイブリッド開催）	2022/11/25-26 大阪	今給黎　宗，柴田　衛，能丸　遼平，山嶋　友実，久能　宣昭，石橋　英樹，船越　禎広，芦塚　伸也，平井　郁仁
16	（パネルディスカッション） 潰瘍性大腸炎患者において5-ASA 製剤の服薬遵守は寛解維持率を向上する－前向きアンケート調査より－	第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会 （ハイブリッド開催）	2022/11/25-26 大阪	別府　剛志，平井　郁仁，中川　勇人，大津　健聖，武田　輝之，安川　重義，高津　典孝，久部　高司，植木　敏晴，八尾　建史
17	（アフタヌーンセミナー） 炎症性腸疾患と腸内細菌に関する話題	第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会 （ハイブリッド開催）	2022/11/25-26 大阪	平井　郁仁
18	（ワークショップ） 当科における潰瘍性大腸炎に対するベドリズマブ療法とウステキヌマブ療法の治療成績	第120回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/12/2-3 熊本	山嶋　友実，柴田　衛，能丸　遼平，今給黎　宗，久能　宣昭，石橋　英樹，船越　禎広，芦塚　伸也，石田　祐介，平井　郁仁
19	（ランチョンセミナー） 潰瘍性大腸炎の現状と課題 ～ステラーラを含めて～	第129回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/12/10 山口	平井　郁仁
20	（シンポジウム） 新型コロナ時代における経口血小板産生促進剤ルストロンボパグの有用性の評価	第119回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/6/24-25 佐賀	横山　圭二，永田　貴大，宮山　隆志，柴田久美子，福田　洋美，山内　涼，梅田かおる，福永　篤志，高田　和英，田中　崇，釈迦堂　敏，向坂彰太郎，平井　郁仁
21	（シンポジウム） C 型非代償性肝硬変に対するソホスブビル／ベルパタスビル治療後の肝予備能改善に関する検討　多施設共同研究	第119回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/6/24-25 佐賀	佐野　有哉，天野　恵介，井出　達也，横山　圭二，磯田　広史，有永　照子，桑原礼一郎，釈迦堂　敏，平井　郁仁，高橋　宏和，鳥村　拓司

22	（ワークショップ） 高 NH3血症を有する肝硬変患者への24か月以上のリファキシミン長期投与の検討	第26回　日本肝臓学会大会（JDDW2022） （ハイブリッド開催）	2022/10/27-30 福岡	横山　圭二，釈迦堂　敏， 平井　郁仁
23	（ワークショップ） 脈管近傍の肝細胞癌に対する PEI 併用は RFA 後の局所再発率を低下させる	第44回日本肝臓学会東部会 （ハイブリッド開催）	2022/11/25-26 仙台	高田　和英，釈迦堂　敏， 平井　郁仁
24	（ワークショップ） 治療前 mALBI グレードは手術不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法の治療効果および治療中断に関連する	第120回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/12/2-3 熊本	田中　　崇，宮山　隆志， 福田　洋美，山内　　涼， 梅田かおる，福永　篤志， 高田　和英，横山　圭二， 釈迦堂　敏，向坂彰太郎， 平井　郁仁
25	（ワークショップ） EUS-FNB による組織診断困難症例における EUS-FNB 検体由来オルガノイド樹立の有用性の検討	第103回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	2022/5/13-15 京都	石田　祐介，角田　俊之， 土屋　直壮
26	（ワークショップ） 進行胆嚢癌の筋層浸潤型は予後および ADC 値と関連する	第58回日本胆道学会学術集会 （ハイブリッド開催）	2022/10/13-14 横浜	古賀　毅彦，石田　祐介， 濱田　義浩
27	（シンポジウム） 切除胆嚢43例の total lesion glycolysis を用いた FDG-PET/CT 解析と病理・予後との関連	第120回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/12/2-3 熊本	古賀　毅彦，長町　茂樹， 石田　祐介，北口　恭規， 土屋　直壮，松元　慶亮， 梶原　正俊，内藤　滋俊， 石井　文規，中島　　亮， 佐々木貴英，濱田　義浩， 平井　郁仁
28	（ランチョンセミナー） 胆道ドレナージの内視鏡戦略 －現状と今後の展望－	第117回日本消化器病学会中国支部例会 （ハイブリッド開催）	2022/6/11-12 岡山	石田　祐介
29	（コアシンポジウム基調講演） 本邦の treat to target 確立を目指して	第19回日本消化管学会総会学術集会 （ハイブリッド開催）	2023/2/3-4 東京	平井　郁仁
30	（合同セッション） クローン病に対するウステキヌマブ療法の治療成績と継続率に関連する因子の検証－内視鏡的重症度の検討を含めて－	第19回日本消化管学会総会学術集会 （ハイブリッド開催）	2023/2/3-4 東京	芦塚　伸也
31	（パネルディスカッション） 当科における小腸出血に対する内視鏡的止血術の検討	第19回日本消化管学会総会学術集会 （ハイブリッド開催）	2023/2/3-4 東京	阿部　光市，芦塚　伸也， 石橋　英樹，船越　禎広， 平井　郁仁
32	（イブニングセミナー） クローン病診療の現状と課題	第59回日本腹部救急医学会総会	2023/3/9－10 沖縄	平井　郁仁
33	（シンポジウム） 当科における大腸憩室出血例から考える緊急内視鏡検査の適応について	第59回日本腹部救急医学会総会	2023/3/9－10 沖縄	犬尾　和子，船越　禎広， 平井　郁仁
34	（ランチョンセミナー） 炎症性腸疾患に対する診療の基本と最近の話題	日本消化器病学会北海道支部　第25回教育講演会	2023/3/18 札幌	平井　郁仁

〈国内研究助成金〉

1	「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」診断基準・治療指針改訂プロジェクト	厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）	2022	平井　郁仁(プロジェクトリーダー)（代表者：久松理一）
2	クローン病の活動性に関連する要因分析と寛解維持への睡眠障害改善効果の検証	文部科学省 基盤研究(C)	2022	平井　郁仁（代表者：森崎直子）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	福岡大学消化器　地域連携セミナー　～福岡大学病院における消化器診療の現状と展望～（ハイブリッド開催）	KKR ホテル博多	6/7, 2022	平井　郁仁

〈学会活動〉

1	日本炎症性腸疾患学会	理事	2022	平井　郁仁
2	日本小腸学会	理事	2022	平井　郁仁
3	日本内科学会	評議員	2022	平井　郁仁
4	日本大腸検査学会	評議員	2022	平井　郁仁
5	アレルギー消化器疾患研究会	世話人	2022	平井　郁仁
6	日本消化器病学会	評議員	2022	平井　郁仁, 釈迦堂　敏, 芦塚　伸也
7	日本消化器内視鏡学会	社団評議員	2022	平井　郁仁
8	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2022	石田　祐介
9	日本消化管学会	代議員	2022	平井　郁仁
10	日本カプセル内視鏡学会	代議員	2022	平井　郁仁
11	日本臨床分子形態学会	評議員	2022	釈迦堂　敏
12	日本門脈圧亢進症学会	評議員	2022	横山　圭二
13	日本肝臓学会西部会	評議員	2022	釈迦堂　敏, 田中　　崇, 横山　圭二
14	日本消化器病学会九州支部	幹事	2022	平井　郁仁
15	日本消化器病学会九州支部	評議員	2022	平井　郁仁, 芦塚　伸也, 釈迦堂　敏, 横山　圭二, 石橋　英樹, 石田　祐介, 船越　禎広, 田中　　崇, 高田　和英, 久能　宣昭
16	日本消化器内視鏡学会九州支部	幹事	2022	平井　郁仁
17	日本消化器内視鏡学会九州支部	評議員	2022	平井　郁仁, 芦塚　伸也, 石橋　英樹, 船越　禎広, 久能　宣昭, 石田　祐介, 古賀　毅彦
18	日本大腸肛門病学会学会九州支部	幹事	2022	平井　郁仁
19	日本アブレーション研究会	幹事	2022	田中　　崇

〈研究に関係した賞〉

1	Early achievement of partial mayo score remission and IBDQ normalization in patients with Ulcerative Colitis treated with filgotinib in selection.	distinguished poster award/The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis(AOCC)	2022	平井　郁仁
2	Prospective Study of Predictive Factors of Mucosal Healing in Inflammatory Bowel Disease Undergoing Anti-TNF-α Antibody Therapy	distinguished poster award/The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis(AOCC)	2022	今給黎　宗
3	Elobixibat, an ileal bile acid transporter inhibitor, ameliorates non-alcoholic steatohepatitis in mice	第24回福岡大学医学会賞	2022	山内　　涼
4	進行胆嚢癌切除例の臨床・画像・病理学的検討：筋層浸潤型は予後および MRI における ADC 値と関連する	ポスター優秀賞／第15回福岡県医学会総会	2022	古賀　毅彦

呼吸器内科学

〈原著〉

1	Analysis of Early Biomarkers Associated with the Development of Critical Respiratory Failure in Coronavirus Diseases 2019 (COVID-19).	Diagnostics (Basel)	12(2):339, 2022	Yamada H, Okamoto M, Nagasaki Y, Yoshio S, Nouno T, Yano C, Tanaka T, Watanabe F, Shibata N, Arimizu Y, Fukamachi Y, Zaizen Y, Hamada N, Kawaguchi A, Hoshino T, Morita S.
2	Nationwide retrospective observational study of idiopathic dendriform pulmonary ossification: clinical features with a progressive phenotype.	BMJ Open Respir Res.	9(1):e001337, 2022	Nishioka Y, Toyoda Y, Egashira R, Johkoh T, Terasaki Y, Hebisawa A, Abe K, Baba T, Fujikura Y, Fujita E, Hamada N, Handa T, Hasegawa Y, Hidaka K, Hisada T, Hisata S, Honjo C, Ichikado K, Inoue Y, Izumi S, Kato M, Kishimoto T, Okamoto M, Miki K, Mineshita M, Nakamura Y, Sakamoto S, Sano M, Tsukada Y, Yamasue M, Bando Y, Homma S, Hagiwara K, Suda T, Inase N.
3	Efficacy and Safety of Sitafloxacin in Treating Low-risk Febrile Neutropenia in Patients with Lung Cancer.	JMA J.	15;5(3):334-340, 2022	On R, Matsumoto T, Ebi N, Doi S, Ishii H, Furugen M, Fujita J, Ide M, Kishimoto J, Okamoto I, Fujita M.
4	Impact of Results of TTF-1 Immunostaining on Efficacy of Platinum-Doublet Chemotherapy in Japanese Patients with Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer.	J Clin Med.	12(1):137, 2022	Nakao A, Inoue H, Ikeuchi N, Igata F, Aoyama T, Hamasaki M, Arima H, Fujita M.

5	Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias (JIPS) Registry.	Respir Investig.	61(1): 95–102, 2023	Okuda R, Ogura T, Hisata S, Baba T, Kondoh Y, Suda T, Johkoh T, Iwasawa T, Tomioka H, Bando M, Azuma A, Inoue Y, Arai T, Nakamura Y, Miyamoto A, Miyazaki Y, Chiba H, Ishii H, Hamada N, Terasaki Y, Kuwahira I, Sato S, Kato S, Suzuki T, Sakamoto S, Nishioka Y, Hattori N, Hashimoto N, Morita S, Ichihara N, Miyata H, Hagiwara K, Nukiwa T, Kobayashi K.
6	Immunostimulatory oncolytic activity of coxsackievirus A11 in human malignant pleural mesothelioma.	Cancer Sci.	114(3): 1095–1107, 2023	Okamura K, Inoue H, Tanaka K, Ikematsu Y, Furukawa R, Ota K, Yoneshima Y, Iwama E, Okamoto I.
7	Mutant forms of EGFR promote HER2 trafficking through efficient formation of HER2-EGFR heterodimers.	Lung Cancer.	175: 101–111, 2023	Tsutsumi H, Iwama E, Ibusuki R, Shimauchi A, Ota K, Yoneshima Y, Inoue H, Tanaka K, Nakanishi Y, Okamoto I.
8	Real-world Efficacy and Safety of Atezolizumab Plus Bevacizumab, Paclitaxel and Carboplatin for First-line Treatment of Japanese Patients With Metastatic Non-squamous Non-small Cell Lung Cancer.	Anticancer Res.	43(2): 713–724, 2023	Ikeuchi N, Igata F, Kinoshita E, Kawabata T, Tan I, Osaki Y, Otsuka R, On R, Ikeda T, Nakao A, Sasaki T, Aoyama T, Hirano R, Harada T, Ebi N, Fujita M, Inoue H.
9	TNFR1 Mediated Apoptosis Is Protective against Mycobacterium avium in Mice	Microorganisms.	11(3): 778, 2023	Shundo Y, On R, Matsumoto T, Ouchi H, Fujita M.

〈症例報告〉

1	当初肺非結核性抗酸菌症と考えられていたが遺伝子解析により Tsukamurella 感染症と診断された 1 例	Kekkaku	97(5): 269–272, 2022	温　麟太郎，中尾　　明， 海老　規之，井上　博之， 藤　　洋美，小川　正浩， 藤田　昌樹

〈総説〉

1	今冬のインフルエンザ／COVID-19対策	内科医誌	170: 11–15, 2022	藤田　昌樹
2	ウイルス性呼吸器感染症 課題と今後の展望	季刊きんむ医	201: 47–49, 2022	藤田　昌樹
3	大きく変わった？ステロイドの使い方 気管支喘息・COPD	臨床と研究	99: 1195–1198, 2022	藤田　昌樹

〈著書〉

1	「気管支拡張症　Up to Date」 気管支拡張症の病態・免疫	南江堂	p15–20, 2022	温　麟太郎, 藤田　昌樹（共著）
2	「特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き　2022（改訂第４版）」 第Ⅲ章　IIPs 各疾患の概念と診断・治療 C. 喫煙関連の間質性肺炎 １．剥離性間質性肺炎 日本呼吸器学会　びまん性肺疾患診断・治療 ガイドライン作成委員会	南江堂	100–114, 2022	濵田　直樹（共著）
3	「特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き　2022（改訂第４版）」 第Ⅳ章　管理総論 ４　合併症の対策とその管理 ①肺気腫（気腫合併肺線維症） 日本呼吸器学会　びまん性肺疾患診断・治療 ガイドライン作成委員会	南江堂	151–152, 2022	濵田　直樹（単独）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Low-dose EGFR-TKIs directly induce maturation and functional activity of human dendritic cells in an EGFR-independent manner.	WCLC 2022- IASLC 22th World Conference on Lung Cancer（WCLC 2022）	Vienna, Austria Aug 6–9 2022	Inoue H, Tsutsumi H, Okamura K, Ota K, Yoneshima Y, Iwama E, Tanaka K, Okamoto I.
2	APSR Assembly Member's Meeting with Education Award Sessions Chair The 26th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology（APSR 2022）	26th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology	Seoul, Korea Nov 17–20 2022	Fujita M
3	Relationship between disease activity and health-related quality of life and VNTR analysis among patients with pulmonary nontuberculous mycobacteriosisl	26th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology	Seoul, Korea Nov 17–20 2022	Fujita M, On R, Matsumoto T, Ohsaki Y, Sasaki T.
4	Impact of TTF-1 Immunostaining on the efficacy of platinum-based chemotherapy in Japanese non-squamous non-small cell lung cancer patients	26th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology	Seoul, Korea Nov 17–20 2022	Nakao A, Inoue H, Ikeukchi N, Igata F, Aoyama T, Fujita M.
5	Chemotherapeutic agents and the EGFR-TKI osimertinib provoke calreticulin exposure in non-small cell lung cancer	26th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology	Seoul, Korea Nov 17–20 2022	Inoue H, Furukawa R, Yoneshima Y, Tsutsumi H, Iwama E, Ikematsu Y, Ando N, Shiraishi Y, Ota K, Tanaka K, Okamoto I.
6	（招待講演） Non-Tuberculous Mycobacteria- A formidable foe	7th Inernational Conference on Lung Health-PULMOCON 2023	Dhaka, BANGLADESH Feb 16 2023	Fujita M.
7	（招待講演） Meet the Expert	7th Inernational Conference on Lung Health-PULMOCON 2023	Dhaka, BANGLADESH Feb 15 2023	Fujita M.
8	（シンポジウム） 抗酸菌の化学療法を知る ～antimycobacterial stewardship～ 肺非結核性抗酸菌症の治療	第70回日本化学療法学会総会 （ハイブリッド開催）	岐阜 6/3–6/5 2022	藤田　昌樹

9	（シンポジウム） 座長 非結核性抗酸菌症の臨床１	第97回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 （ハイブリッド開催）	旭川 7/1-7/2 2022	藤田　昌樹
10	（教育講演） 非結核性抗酸菌症の現状	2022年度日本内科学会生涯教育講演会Ｃセッション （１回目）	大阪 7/10 2022	藤田　昌樹
11	（ランチョンセミナー） COPD の現状と今後の課題 ― 薬物療法を中心として ―	第16回日本薬局学会学術総会 （ハイブリッド開催）	福岡 11/5-11/6 2022	藤田　昌樹
12	（教育講演） 非結核性抗酸菌症の現状	2022年度日本内科学会生涯教育講演会Ｃセッション （２回目）	横浜 11/13 2022	藤田　昌樹
13	（シンポジウム） 高齢者閉塞性肺疾患・感染症の治療	第90回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会九州支部春季学術講演会	熊本 3/11 2023	藤田　昌樹

〈国内研究助成金〉

1	EGFR 発現肺癌を標的とした革新的抗体薬物複合体の開発研究	福岡大学総合科学研究チーム	2022	井上　博之（代表）
2	革新的腫瘍溶解性ウイルス療法の開発と社会実装の実現	久留米リサーチパーク地域創生支援金：リーディングプロジェクト	2022	井上　博之（代表）
3	全身投与可能なステルス化腫瘍溶解性ウイルスの開発及び社会実装	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金 （GAP 資金）	2022	井上　博之（代表）
4	間質性肺炎の原因と治療法	柿原科学技術研究財団	2022	濵田　直樹（代表）
5	Pleuroparenchymal fibroelastosis（PPFE）におけるバイオマーカーの探索	柿原科学技術研究財団	2022	濵田　直樹（代表）
6	難治性希少呼吸器腫瘍に対する CVA11を用いた新規腫瘍溶解性ウィルス療法の開発	日本学術振興会 若手研究（基金分）	2022	井形　文保（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	令和４年度若手育成セミナー	福岡大学病院 多目的室	7/16, 2022	藤田　昌樹

〈学会活動〉

1	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	理事	2022	藤田　昌樹
2	日本界面・サーファクタント医学会	理事	2022	藤田　昌樹
3	Asian pan-pacific respiratory society	assembly（Respiratory infection）deputy head	2022	藤田　昌樹
4	日本内科学会	代議員	2022	藤田　昌樹
5	日本呼吸器学会	代議員	2022	藤田　昌樹
6	日本感染症学会	評議員	2022	藤田　昌樹
7	日本化学療法学会	評議員	2022	藤田　昌樹
8	日本界面・サーファクタント医学会	評議員	2022	藤田　昌樹

9	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2022	藤田　昌樹，海老　規之
10	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	評議員	2022	藤田　昌樹
11	日本肺癌学会	評議員	2022	藤田　昌樹，海老　規之
12	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会	評議員	2022	藤田　昌樹，濵田　直樹

〈研究に関係した賞〉

1	Impact of TTF-1 Immunostaining on the efficacy of platinum-based chemotherapy in Japanese non-squamous non-small cell lung cancer patients	26th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology Assembly Education Award	2022	中尾　　明

腎臓・膠原病内科学

〈原著〉

1	Time to remission of proteinuria and incidence of relapse in patients with steroid-sensitive minimal change disease and focal segmental glomerulosclerosis: the Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study.	J Nephrol	35(4)：1135-1144，2022	Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama S, Takeda A, Tsukamoto T, Uchida S, Tsuruya K, Shoji T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Konta T, Nishio S, Goto S, Tamai H, Nagai K, Katafuchi R, Masutani K, Wada T, Nishino T, Shirasaki A, Sobajima H, Nitta K, Yamagata K, Kazama JJ, Hiromura K, Yasuda H, Mizutani M, Akahori T, Naruse T, Hiramatsu T, Morozumi K, Mimura T, Saka Y, Ishimura E, Hasegawa H, Ichikawa D, Shigematsu T, Sato H, Narita I, Isaka Y, Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study investigators.
2	Predictors of early remission of proteinuria in adult patients with minimal change disease: a retrospective cohort study.	Sci Rep	12(1)：9782，2022	Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Takeda A, Uchida S, Tsukamoto T, Tsuruya K, Akai Y, Nitta K, Fukunaga M, Hayashi H, Masutani K, Wada T, Konta T, Katafuchi R, Nishio S, Goto S, Tamai H, Shirasaki A, Shoji T, Nagai K, Nishino T, Yamagata K, Kazama JJ, Hiromura K, Yasuda H, Mizutani M, Naruse T, Hiramatsu T, Morozumi K, Sobajima H, Saka Y, Ishimura E, Ichikawa D, Shigematsu T, Sofue T, Fujimoto S, Ito T, Sato H, Narita I, Isaka Y; JNSCS Investigators.

3	The moderate-intensity continuous exercise maintains renal blood flow and does not impair the renal function.	Physiol Rep	10(15): e15420, 2022	Kawakami S, Yasuno T, Kawakami S, Ito A, Fujimi K, Matsuda T, Nakashima S, Masutani K, Uehara Y, Higaki Y, Michishita R.
4	Acute Kidney Injury and Remission of Proteinuria in Minimal Change Disease.	Kidney Int Rep	7(10): 2283-2288, 2022	Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Takeda A, Uchida S, Tsukamoto T, Tsuruya K, Akai Y, Nitta K, Fukunaga M, Hayashi H, Shoji T, Masutani K, Konta T, Katafuchi R, Nishio S, Wada T, Goto S, Tamai H, Shirasaki A, Nagai K, Nishino T, Yamagata K, Kazama JJ, Hiromura K, Yasuda H, Sofue T, Fujimoto S, Mizutani M, Naruse T, Hiramatsu T, Morozumi K, Sobajima H, Saka Y, Ishimura E, Ito T, Ichikawa D, Shigematsu T, Sato H, Narita I, Yoshitaka I; Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study investigators.
5	Current antihypertensive treatment and treatment-resistant hypertension in Japanese patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol	26(11): 1100-1110, 2022	Tsuchimoto A, Tanaka S, Kitamura H, Hiyamuta H, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T
6	Serum alkaline phosphatase and infection-related mortality in hemodialysis patients: ten-year outcomes of the Q-cohort study.	Clin Exp Nephrol	26(11): 1119-1129, 2022	Kitamura H, Yotsueda R, Hiyamuta H, Taniguchi M, Tanaka S, Yamada S, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T
7	Deep learning analysis of clinical course of primary nephrotic syndrome: Japan Nephrotic syndrome cohort study (JNSCS).	Clin Exp Nephrol	26(12): 1170-1179, 2022	Kimura T, Yamamoto R, Yoshino M, Sakate R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Nagai K, Yamagata K, Yasuda H, Ichida S, Naruse T, Nishino T, Sobajima H, Akahori T, Ito T, Terada Y, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Kitagawa K, Fujita Y, Mizutani M, Kashihara N, Sato H, Narita I, Isaka Y.

8	Rapid pretreatment for multi-sample analysis of advanced glycation end products and their role in nephropathy.	J Clin Biochem Nutr.	70(3): 256-261, 2022	Kato S, Sugawa H, Tabe K, Ito K, Nakashima H, Nagai R.
9	Serum Alkaline Phosphatase Levels and Increased Risk of Brain Hemorrhage in Hemodialysis Patients: The Q-Cohort Study.	J Atheroscler Thromb.	29(6): 923-936, 2022	Kitamura H, Yamada S, Hiyamuta H, Yotsueda R, Taniguchi M, Tokumoto M, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T
10	Association between Multimorbidity and Kidney Function among Patients with Non-Dialysis-Dependent CKD: The Fukuoka Kidney Disease Registry Study	J Atheroscler Thromb.	1;29(8): 1249-1264, 2022	Kitamura H, Tanaka S, Hiyamuta H, Shimamoto S, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T

〈症例報告〉

1	Focal segmental glomerulosclerosis and concurrent glomerular microangiopathy after long-term imatinib administration.	CEN Case Rep	11(1): 134-140, 2022	Morita N, Ozaki T, Yokota S, Sasaki H, Watanabe M, Takahashi K, Himuro N, Ito K, Yasuno T, Miyake K, Nawata A, Nakayama T, Uesugi N, Masutani K.
2	剖検により被嚢性腹膜硬化症と診断した若年透析患者の1例.	九州人工透析研究会誌	6: 9-14, 2022	重本　佳奈，渡邉　廉也， 氷室　尚子，安野　哲彦， 安部　泰弘，三宅　勝久， 笹冨　佳江，寺町　昌史， 新居見和彦，吉村　雅代， 二村　　聡，中島　　衡， 升谷　耕介
3	高用量ガンマグロブリン，血漿交換，リツキシマブにより腎移植前脱感作を行った2例.	九州人工透析研究会誌	6: 15-20, 2022	村山　博之，井上　　和， 中村　　翼，高橋　宏治， 氷室　尚子，渡邉　真穂， 伊藤　建二，安野　哲彦， 三宅　勝久，中村　信之， 羽賀　宣博，金本　人美， 橋口　裕樹，升谷　耕介.

〈総説〉

1	全身性エリテマトーデスとアフェレシス.	日アフェレシス会誌	41(1): 13-21, 2022	伊藤　建二，三宅　勝久， 升谷　耕介
2	周術期の検査と管理.	腎と透析	92（増刊号腎代替療法のすべて): 633-635, 2022	升谷　耕介，中村　信之
3	かゆみと疾患－腎疾患.	臨牀と研究	99(3): 42-45, 2022	升谷　耕介
4	腎性貧血治療の現状と課題.	臨牀と研究	99(7): 113-116, 2022	升谷　耕介
5	水・電解質異常.	臨牀と研究	99(11): 58-62, 2022	升谷　耕介

6	血液透析患者の腎移植：移植前後の管理法.	臨牀透析	38(8)： 44-51， 2022	升谷　耕介
7	BK ウイルスと移植腎障害.	日本臨牀	別冊，腎臓症候群 第３版Ⅲ： 293-266， 2022	升谷　耕介

〈著書〉

1	移植腎 ― ウイルス感染 ―. 非腫瘍性腎疾患病理アトラス	文光堂，東京	pp413-419， 2022	升谷　耕介（分担）
2	リウマチ病テキスト-高齢者に対する治療 （CKD，心血管病変，フレイル）	南江堂	pp511-513， 2022	三宅　勝久（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 移植前後の血糖および体重管理.	第55回日本臨床腎移植学会 （Web 開催）	東京 2/23-2/25 2022	升谷　耕介
2	（ワークショップ） 腎臓内科医が行う生体腎ドナーの長期的な管理.	第55回日本臨床腎移植学会 （Web 開催）	東京 2/23-2/25 2022	升谷　耕介
3	（ワークショップ） 臨床からみた Banff 分類の課題.	第58回日本移植学会総会	名古屋市 10/13-10/15 2022	升谷　耕介
4	（シンポジウム） 腎代替療法選択と SDM	第67回日本透析医学会学術集会	横浜 7/1-3 2022	伊藤　建二

〈国内研究助成金〉

1	移植腎に形成される三次リンパ組織が長期移植腎機能に与える影響とその機序の解明	日本学術振興会科学研究費 補助金基盤研究（C）	2022	升谷　耕介（代表）
2	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	日本学術振興会科学研究費 補助金基盤研究（C）	2022	升谷　耕介 （代表者：安野　哲彦）
3	最終糖化産物（AGEs）の慢性腎臓病に対する影響を解明する－疫学的視点より－	日本学術振興会科学研究費 補助金基盤研究（C）	2022	升谷　耕介 （代表者：伊藤　建二）
4	動脈硬化，心血管病，CKD に及ぼす不眠症，睡眠時無呼吸症候群の解明	日本学術振興会科学研究費 補助金基盤研究（C）	2022	升谷　耕介 （代表者：吉村　　力）
5	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	日本学術振興会 基盤研究 C	2022	安野　哲彦（代表）
6	エピジェネティック修飾による運動適応機構の解明	日本学術振興会 基盤研究 B	2022	安野　哲彦 （代表者：檜垣　靖樹）
7	動脈硬化，心血管病，CKD に及ぼす不眠症，睡眠時無呼吸症候群の解明	日本学術振興会 基盤研究 C	2022	安野　哲彦 （代表者：吉村　　力）
8	腎血流量を維持し腎臓にストレスをかけない最適な運動条件の探索	日本学術振興会 基盤研究 C	2022	安野　哲彦 （代表者：川上翔太郎）
9	最終糖化産物（AGEs）の慢性腎臓病に対する影響を解明する－疫学的視点より－	日本学術振興会科学研究費 補助金基盤研究（C）	2022	伊藤　建二（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第５回中性脂肪学会学術集会	福大メディカルホール	10/15, 2023	安野　哲彦

〈学会活動〉

1	日本腎臓学会	評議員	2022	升谷　耕介，安野　哲彦，伊藤　建二
2	日本臨床腎移植学会	評議員	2022	升谷　耕介
3	日本アフェレシス学会	評議員	2022	升谷　耕介
4	日本腎臓リハビリテーション学会	代議員	2022	升谷　耕介
5	日本透析医学会	評議員	2022	升谷　耕介
6	日本リウマチ学会	評議員	2009	三宅　勝久

脳神経内科学

〈原著〉

1	Gut microbiota in dementia with Lewy bodies	NPJ Parkinsons Dis.	9;8(1):169, 2022	Nishiwaki H, Ueyama J, Kashihara K, Ito M, Hamaguchi T, Maeda T, Tsuboi Y, Katsuno M, Hirayama M, Ohno K
2	PLA2G6-associated neurodegeneration in four different populations-case series and literature review	Parkinsonism Relat Disord.	101:66–74, 2022	Hanna Al-Shaikh R, Milanowski LM, Holla VV, Kurihara K, Yadav R, Kamble N, Muthusamy B, Bellad A, Koziorowski D, Szlufik S, Hoffman-Zacharska D, Fujioka S, Tsuboi Y, Ross OA, Wierenga K, Uitti RJ, Wszolek Z, Pal PK
3	Neuronal guidance genes in health and diseases	Protein Cell.	15:pwac030, 2022	Yuasa-Kawada J, Kinoshita-Kawada M, Tsuboi Y, Wu JY
4	Effects of Pesticide Intake on Gut Microbiota and Metabolites in Healthy Adults	Int J Environ Res Public Health.	23;20(1):213, 2022	Ueyama J, Hayashi M, Hirayama M, Nishiwaki H, Ito M, Saito I, Tsuboi Y, Isobe T, Ohno K
5	Cardiac sympathetic denervation could be associated with dysphagia in Parkinson's disease	Front Neurol.	11;13:1010006, 2022	Youn J, Umemoto G, Oh E, Park J, Jang W, Oh YS, Kim HT, Cho JW, Fujioka S, Tsuboi Y

6	An exploratory, open-label, randomized, multicenter trial of hachimijiogan for mild Alzheimer's diseas	Front Pharmacol.	14;13: 991982, 2022	Kainuma M, Ouma S, Kawakatsu S, Iritani O, Yamashita KI, Ohara T, Hirano S, Suda S, Hamano T, Hieda S, Yasui M, Yoshiiwa A, Shiota S, Hironishi M, Wada-Isoe K, Sasabayashi D, Yamasaki S, Murata M, Funakoshi K, Hayashi K, Shirafuji N, Sasaki H, Kajimoto Y, Mori Y, Suzuki M, Ito H, Ono K, Tsuboi Y
7	Role of cytochrome P450 for vitamin D metabolisms in patients with neurodegenerative disorders	Clin Park Relat Disord.	27;7: 100162, 2022	Kakimoto A, Ogura H, Suenaga M, Mishima T, Fujioka S, Ouma S, Matsunaga Y, Tsuboi Y
8	Short chain fatty acids-producing and mucin-degrading intestinal bacteria predict the progression of early Parkinson's disease	NPJ Parkinsons Dis.	1;8(1): 65, 2022	Nishiwaki H, Ito M, Hamaguchi T, Maeda T, Kashihara K, Tsuboi Y, Ueyama J, Yoshida T, Hanada H, Takeuchi I, Katsuno M, Hirayama M, Ohno K
9	Constipation Symptoms in Multiple System Atrophy Using Rome Criteria and Their Impact on Personalized Medicine	J Pers Med.	20;12(5): 838, 2022	Mishima T, Fujioka S, Kawazoe M, Inoue K, Arima H, Tsuboi Y
10	Relationship between motor dysfunction and chewing movement in patients with Parkinson's disease: A transversal study	Front Neurol.	9;13: 1062134, 2022	Sano T, Umemoto G, Fujioka S, Iwashita Y, Dotsu Y, Wada N, Tsuboi Y
11	Correction: Long-term effects of safinamide adjunct therapy on levodopa-induced dyskinesia in Parkinson's disease: post-hoc analysis of a Japanese phase III study	J Neural Transm (Vienna)	1393-1394, 2022	Hattori N, Kamei T, Ishida T, Suzuki I, Nomoto M, Tsuboi Y
12	Physical Activity and Its Diurnal Fluctuations Vary by Non-Motor Symptoms in Patients with Parkinson's Disease: An Exploratory Study	Healthcare (Basel)	18;10(4): 749, 2022	Nagaki K, Fujioka S, Sasai H, Yamaguchi Y, Tsuboi Y
13	Collective Expert Perspectives on the Use of Safinamide as Adjunctive Therapy for Parkinson's Disease: Online-Based Delphi Survey	Parkinsons Dis.	15;2022: 3203212, 2022	Takeda A, Tsuboi Y, Nomoto M, Mochizuki H, Hattori N
14	Long-term effects of safinamide adjunct therapy on levodopa-induced dyskinesia in Parkinson's disease: post-hoc analysis of a Japanese phase III study	J Neural Transm (Vienna)	129(10): 1277-1287	Hattori N, Kamei T, Ishida T, Suzuki I, Nomoto M, Tsuboi Y
15	Unilateral GPi-DBS Improves Ipsilateral and Axial Motor Symptoms in Parkinson's Disease as Evidenced by a Brain Perfusion Single Photon Emission Computed Tomography Study	Front Hum Neurosci.	11;16: 888701	Hayashi Y, Mishima T, Fujioka S, Morishita T, Inoue T, Nagamachi S, Tsuboi Y

16	Early Enhancement with Contrast-Enhanced Ultrasonography Relates to the Number of Small-Diameter Neovessels in the Carotid Plaque	Cerebrovasc Dis.	52(1): 36–43, 2022	Takeshita S, Ogata T, Uesugi N, Nabeshima K, Shimada H, Arima H, Inoue T, Tsuboi Y
17	アルツハイマー病における海馬萎縮指標と疾患特異領域脳血流指標の相関	臨床放射線	67(6): 583–592, 2022	筋田　柚衣，長町　茂樹， 野々熊真也，高野　浩一， 桑原　康雄，吉満　研吾， 尾籠　晃司，坪井　義夫
18	胸部大動脈瘤および解離における頚部血管エコー所見と術後脳梗塞	超音波検査技術抄録集	47(0), S128, 2022	伊藤美智子，嶋田　裕史， 緒方　利安，坪井　義夫， 井上　　亨，和田　秀一， 小川　正浩
19	中枢神経感染症の診断におけるマルチプレックス PCR の有用性と治療戦略	神経治療学	39(3), 290, 2022	合馬　慎二，坪井　義夫
20	King's Parkinson's Disease Pain Scale（KPPS）と King's Parkinson's Disease Pain Questionnaire（KPPQ）の日本語版の作成と言語的妥当性の検討	臨床神経学	62(1), 15–21, 2022	栗原可南子，藤岡　伸助， 三嶋　崇靖，今野　卓哉， 関守　　信，坪井　義夫

〈症例報告〉

1	脳血管造影3D イメージの fusion により造影剤を使用せずに頸動脈ステント留置術を行った 1 例	臨床神経学	22;62(10): 801–804, 2022	山田　美穂，津川　　潤， 新居　浩平，井上　律郎， 坪井　義夫，東　登志夫

〈総説〉

1	パーキンソン病に伴う自律神経障害への対応	Clinician	690; 75–83, 2022	藤岡　伸助，坪井　義夫
2	パーキンソン病と認知機能障害	認知神経科学	24(1), 27, 2022	坪井　義夫
3	パーキンソン病の痛みの特徴と治療	臨床神経学	22;62(10): 763–772, 2022	関守　　信，栗原可南子， 今野　卓哉，藤岡　伸助， 坪井　義夫
4	難治性の起立性低血圧を認めるパーキンソン病患者【早期診断に向けた症状の見極め方と治療戦略】	Brain Nerve.	74(5): 708–713, 2022	坪井　義夫
5	頭痛診療の Up to Date　二次性頭痛の診療　てんかんと頭痛	臨牀と研究	99巻7号, 2022	梅谷　啓太，坪井　義夫
6	疾患別　バランス障害に対する作業療法 パーキンソン病に対するバランス障害を考慮した作業療法アプローチ	作業療法ジャーナル	56(5), 402–406, 2022	長城　晃一，百武　光一， 堀　　貴仁，坪井　義夫
7	Parkinson 病の栄養療法	神経治療学	39(1), 27–30, 2022	坪井　義夫，梅本　丈二， 野田　雅子
8	脳神経内科医師が Parkinson 病ナースに期待すること	神経治療学	39(3), 237–239, 2022	藤岡　伸助，坪井　義夫

〈著書〉

1	アテトーゼ，ジストニア，片側バリズム	今日の治療指針2022；神経・筋疾患	994-996，2022	坪井　義夫
2	認知症　寄り添う家族の知恵と工夫	学術研究出版	2022	馬場みちえ，坪井　義夫，尾之内直美，山本八千代
3	NeuroCOVID（COVID-19に伴う神経合併症）運動異常症	中外医学社	Pp．167-174，2022	高橋　信敬，藤岡　伸助，坪井　義夫

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	ALS and beyond: cutting-edge research on motor neuron diseases	第63回日本神経学会学術大会	東京；2022.5.18	坪井　義夫
2	認知と機能からみた神経・精神疾患	第27回認知神経科学会学術集会	久留米大学；2022.8.6	坪井　義夫
3	レビー小体型認知症とパーキンソン病の境界線	第16回レビー小体型認知症研究会	Web；2022.11.5	坪井　義夫
4	パーキンソン病と作業療法．～非運動症状の理解と作業療法のエビデンス～	第56回日本作業療法学会	京都；2022.9.16	坪井　義夫

〈国内研究助成金〉

1	神経変性疾患領域の基盤的調査研究	厚生労働省	2022	坪井　義夫（研究代表者：中島　健二）
2	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	厚生労働省	2022	坪井　義夫（研究代表者：高尾　昌樹）
3	重度パーキンソン病患者における睡眠障害の実態と危険因子の解明	文部科学省：学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）一般）	2022	坪井　義夫（研究代表者：長城　晃一）
4	進行性核上性麻痺における視床下核容積定量と症状，予後の関連性を調査する前向き研究	文部科学省：学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）一般）	2022	藤岡　伸助（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	七隈アルツハイマー病・パーキンソン病研究会	BiVi 福岡	4/9，2023	坪井　義夫
2	日本神経学会九州地方会・生涯教育講演	福大メディカルホール	3/25-26，2023	坪井　義夫

〈学会活動〉

1	日本内科学会	評議員	2022	坪井　義夫
2	日本神経感染症学会	評議員	2022	坪井　義夫
3	日本神経治療学会	評議員	2022	坪井　義夫
4	日本パーキンソン病・運動障害疾患学会	評議員	2022	坪井　義夫，藤岡　伸助
5	Full membership International Association of Parkinsonism and Related Disorders	内科チェアマン	2022	Tsuboi Y
6	Movement Disorder Society Non-Motor Parkinson's Disease	Study Group Standing Member	2022	Tsuboi Y

7	International Association of Parkinsonism and Related Disorders	The nomination and election committee	2022	Fujioka S
8	International Association of Parkinsonism and Related Disorders	The website committee	2022	Fujioka S
9	World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders	Ambassador	2022	Fujioka S
10	World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders	Abstract Committee Chair	2022	Fujioka S
11	The International Parkinson and Movement Disorder Society	Telemedicine Study Group	2022	Fujioka S

精神医学

〈原著〉

1	Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study.	Sleep. Med.	89: 23–30, 2022	Furihata R, Otsuki R, Hasegawa N, Tsuboi T, Numata S, Yasui-Furukori N, Kashiwagi H, Hori H, Ochi S, Muraoka H, Onitsuka T, Komatsu H, Takeshima M, Hishimoto A, Nagasawa T, Takaesu Y, Nakamura T, Asami T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasuda Y, Iida H, Ogasawara K, Hashimoto N, Ichihashi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R.
2	The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project.	Asian. J. Psychiatry	69: 103007–103007, 2022	Ichihashi K, Kyo Y, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Shimizu Y, Hori H, Hashimoto N, Ide K, Imamura Y, Yamada H, Ochi S, Iga JI, Takaesu Y, Ohi K, Tsuboi T, Iida H, Yamagata H, Hishimoto A, Horai T, Usami M, Makinodan M, Nagasawa T, Komatsu H, Kido M, Muraoka H, Atake K, Takeshima M, Kubota C, Inagaki T, Tamai S, Kishimoto T, Furihata R, Matsumoto J, Miura K, Inada K, Watanabe K, Kasai K, Hashimoto R.
3	Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study.	Neuropsychopharmacol. Rep.	41(1): 3–9, 2022	Yasui-Furukori N, Muraoka H, Hasegawa N, Ochi S, Numata S, Hori H, Hishimoto A, Onitsuka T, Ohi K, Hashimoto N, Nagasawa T, Takaesu Y, Inagaki T, Tagata H, Tsuboi T, Kubota C, Furihata R, Iga JI, Iida H, Miura K, Matsumoto J, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Shimoda K, Hashimoto R.

4	Pre-treatment plasma cytokine levels as potential predictors of short-term remission of depression.	World. J. Biol. Psychiatry	23(10): 785–793, 2022	Atake K, Hori H, Kageyama Y, Koshikawa Y, Igata R, Tominaga H, Katsuki A, Bando H, Sakai S, Nishida K, Takekita Y, Kato T, Kinoshita T, Kato M.
5	A dissemination and education programme to improve the clinical behaviours of psychiatrists in accordance with treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders: the Effectiveness of Guidelines Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE) project.	BJPsyc. Open	21;8(3): e83, 2022	Yamada H, Motoyama M, Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasui-Furukori N, Numata S, Takeshima M, Sugiyama N, Nagasawa T, Kubota C, Atake K, Tsuboi T, Ichihashi K, Hashimo N, Inagaki T, Takaesu Y, Iga JI, Hori H, Onitsuka T, Komatsu H, Hishimoto A, Fukumoto K, Fujimoto M, Nakamura T, Nemoto K, Furihata R, Yamamura S, Yamagata H, Ogasawara K, Katsumoto E, Murata A, Iida H, Ochi S, Makinodan M, Kido M, Kishimoto T, Yasuda Y, Usami M, Suwa T, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
6	Development and acceptability of a decision aid for major depressive disorder considering discontinuation of antidepressant treatment after remission.	Neuropsychopharmacol. Rep.	42(3): 306–314, 2022	Aoki Y, Takaesu Y, Baba H, Iga JI, Hori H, Inoue T, Mishima K, Tajika A, Kato M.
7	Development of individual fitness score for conformity of prescriptions to the "Guidelines For Pharmacological Therapy of Schizophrenia"	Neuropsychopharmacol. Rep.	42(4): 502–509, 2022	Inada K, Fukumoto K, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Iida H, Ohi K, Muraoka H, Kodaka F, Ide K, Hashimoto N, Iga JI, Ogasawara K, Atake K, Takaesu Y, Nagasawa T, Komatsu H, Okada T, Furihata R, Kido M, Kikuchi S, Kubota C, Makinodan M, Ochi S, Takeshima M, Yamagata H, Matsumoto J, Miura K, Usami M, Kishimoto T, Onitsuka T, Katsumoto E, Hishimoto A, Numata S, Yasui-Furukori N, Watanabe K, Hashimoto R.

8	Prescription of anticholinergic drugs in patients with schizophrenia: analysis of antipsychotic prescription patterns and hospital characteristics.	Front. Psychiatry.	13: 823826, 2022	Hori H, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Iga JI, Ochi S, Ichihashi K, Furihata R, Kyo Y, Takaesu Y, Tsuboi T, Kodaka F, Onitsuka T, Okada T, Murata A, Kashiwagi H, Iida H, Hashimoto N, Ohi K, Yamada H, Ogasawara K, Yasuda Y, Muraoka H, Usami M, Numata S, Takeshima M, Yamagata H, Nagasawa T, Tagata H, Makinodan M, Kido M, Katsumoto E, Komatsu H, Matsumoto J, Kubota C, Miura K, Hishimoto A, Watanabe K, Inada K, Kawasaki H, Hashimoto R.
9	Clozapine treatment is associated with higher prescription rate of antipsychotic monotherapy and lower prescription rate of other concomitant psychotropics: A real-world nationwide study.	Int. J. Neuropsychopharmacol.	25(10): 818–826, 2022	Ochi S, Tagata H, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Iga JI, Kashiwagi H, Kodaka F, Komatsu H, Tsuboi T, Tokutani A, Numata S, Ichihashi K, Onitsuka T, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Atake K, Kishimoto T, Hori H, Takaesu Y, Takeshima M, Usami M, Makinodan M, Hashimoto N, Fujimoto M, Furihata R, Nagasawa T, Yamada H, Matsumoto J, Miura K, Kido M, Hishimoto A, Ueno SI, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R.
10	Mood stabilizers and antipsychotics for acute mania: Systematic review and meta-analysis of augmentation therapy versus monotherapy from the perspective of time to the onset of treatment effects.	Int. J. Neuropsychopharmacol.	25(10): 839–852, 2022	Tajika A, Hori H, Iga JI, Koshikawa Y, Ogata H, Ogawa Y, Watanabe K, Kato T, Matsuo K, Kato M.
11	Characteristics of the treatments for each severity of major depressive disorder: A real-world multi-site study	Asian journal of psychiatry	2022 Aug; 74: 103174.	Muraoka H, Kodaka F, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Kashiwagi H, Tagata H, Hori H, Atake K, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Tsuboi T, Takeshima M, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Makinodan M, Nakamura T, Kido M, Ueda I, Yamagata H, Onitsuka T, Asami T, Hishimoto A, Ogasawara K, Katsumoto E, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Nishimura K, Hashimoto R.

12	Development of an individual fitness score (IFS) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders.	Neuropsychopharmacol. Rep.	2022	Fukumoto K, Kodaka F, Hasegawa N, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Yasuda Y, Iida H, Ohi K, Ochi S, Ide K, Hashimoto N, Usami M, Nakamura T, Komatsu H, Okada T, Nagasawa T, Furihata R, Atake K, Kido M, Kikuchi S, Yamagata H, Kishimoto T, Makinodan M, Horai T, Takeshima M, Kubota C, Asami T, Katsumoto E, Hishimoto A, Onitsuka T, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Yasui-Furukori N, Watanabe K, Inada K, Otsuka K, Hashimoto R.
13	The characteristics of discharge prescriptions including pro re nata psychotropic medications for patients with schizophrenia and major depressive disorder from the survey of the "Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project	Ann. Gen. Psychiatry	21(1): 52	Kyou Y, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ide K, Ichihashi K, Hashimoto N, Hori H, Shimizu Y, Imamura Y, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Yasuda Y, Ogasawara K, Numata S, Iga JI, Tsuboi T, Ochi S, Kodaka F, Furihata R, Onitsuka T, Makinodan M, Komatsu H, Takeshima M, Kubota C, Hishimoto A, Atake K, Yamagata H, Kido M, Nagasawa T, Usami M, Kishimoto T, Kikuchi S, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R.
14	Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis.	Psychiatry. Clin. Neurosci	77(1): 30–37	Tsuboi T, Takaesu Y, Hasegawa N, Ochi S, Fukumoto K, Ohi K, Muraoka H, Okada T, Kodaka F, Igarashi S, Iida H, Kashiwagi H, Hori H, Ichihashi K, Ogasawara K, Hashimoto N, Iga JI, Nakamura T, Usami M, Nagasawa T, Kido M, Komatsu H, Yamagata H, Atake K, Furihata R, Kikuchi S, Horai T, Takeshima M, Hirano Y, Makinodan M, Matsumoto J, Miura K, Hishimoto A, Numata S, Yamada H, Yasui-Furukori N, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
15	Evaluation of changes in anxiety, depression, social behaviour, and oxytocin mRNA levels in adult after adolescent interventions in maternal-separated mice.	Medical Bull. Fukuoka. University.	(50)1: 35–42, 2023	Hayashi R, Gotoh R, Hori H, Iida H, Kawasaki H.

16	Management of unspecified anxiety disorder: Expert consensus.	Neuropsychopharmacol. Rep.	In press	Sakurai H, Inada K, Aoki Y, Takeshima M, Ie K, Kise M, Yoshida E, Tsuboi T, Yamada H, Hori H, Inada Y, Shimizu E, Mishima K, Watanabe K, Takaesu Y.
17	Satisfaction with web-based courses on clinical practice guidelines for psychiatrists: Findings from the "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)" project.	Neuropsychopharmacol. Rep.	In press	Iida H, Okada T, Nemoto K, Hasegawa N, Numata S, Ogasawara K, Miura K, Matsumoto J, Hori H, Iga JI, Ichihashi K, Hashimoto N, Yamada H, Ohi K, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Tsuboi T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Hishimoto A, Muraoka H, Katsumoto E, Nagasawa T, Ochi S, Komatsu H, Kikuchi S, Takeshima M, Onitsuka T, Tamai S, Kubota C, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R.
18	Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry.	Neuropsychopharmacology reports	2022 Jun; 42(2): 221-225.	Ogasawara K, Numata S, Hasegawa N, Nakataki M, Makinodan M, Ohi K, Takeshima M, Tsuboi T, Hashimoto N, Onitsuka T, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Inagaki T, Yasui-Furukori N, Hishimoto A, Sugiyama N, Fukumoto K, Nagasawa T, Matsumoto J, Takaesu Y, Furihata R, Nemoto K, Nakamura T, Usami M, Miura K, Fujimoto M, Tagata H, Yamada H, Komatsu H, Ochi S, Atake K, Katsumoto E, Kido M, Kishimoto T, Suwa T, Yamamura S, Iga JI, Iida H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
19	Network analysis of psychiatric symptoms in schizophrenia: Findings from the Research on Asian Psychotropic Prescription Patterns for Antipsychotics (REAP-AP).	Asian journal of psychiatry	2022 Sep; 75: 103200.	Li W, Zhang Q, Tang Y, Park SC, Park Y, Yang SY, Chen LY, Lin SK, Najoan E, Kallivayalil RA, Viboonma K, Jamaluddin R, Javed A, Thi Quynh Hoa D, Iida H, Sim K, Swe T, He YL, Ahmed HU, De Alwis A, Chiu HFK, Sartorius N, Tan CH, Chong MY, Shinfuku N, Avasthi A, Grover S, Ungvari GS, Ng CH, Xiang YT.

20	Second-Generation Antipsychotic Monotherapy Contributes to the Discontinuation of Anticholinergic Drugs in Hospitalized Patients With Schizophrenia.	Journal of clinical psychopharmacology.	2022 Nov-Dec 01; 42(6): 591-593.	Okada T, Hori H, Hasegawa N, Murata A, Kyou Y, Kodaka F, Iida H, Ochi S, Takaesu Y, Tsuboi T, Iga JI, Ichihashi K, Muraoka H, Furihata R, Yasui-Furukori N, Usami M, Onitsuka T, Ogasawara K, Tagata H, Takeshima M, Ohi K, Numata S, Hashimoto N, Yamada H, Makinodan M, Komatsu H, Hishimoto A, Yamagata H, Kido M, Kubota C, Atake K, Yamada H, Nagasawa T, Matsumoto J, Miura K, Inada K, Watanabe K, Suda S, Hashimoto R.

〈症例報告〉

1	Elderly bipolar disorder with hyperthyroidism during long-term lithium treatment: A case report.	Bipolar. Disord.	24(1): 90, 2022	Hori H.
2	Successful treatment for major depressive disorder with psychotic features with addition of asenapine on escitalopram.	Psychogeriatrics.	22: 413-414, 2022	Asada R, Ogushi Y, Hori H, Kawasaki H.
3	Successful treatment of switching from benzodiazepine to orexin receptor antagonists improves cognitive function in psychiatric disorders: four case reports.	Int. Clin. Psychopharmacol.	In press	Hori H

〈総説〉

1	統合失調症と呼吸器疾患：薬理学的視点を中心に	臨床精神薬理	25(4): 405-411, 2022	堀　　輝
2	気分障害のゴールにつながる評価法	臨床精神医学	51(6): 645-649, 2022	堀　　輝
3	ベンゾジアゼピン受容体作動薬による認知機能障害への対応	精神科	41(3): 414-418, 2022	堀　　輝
4	うつ病（急性期）	精神医学増刊号	64(5): 608-612, 2022	堀　　輝
5	Motor functional characteristics in Attention Deficit/Hyperactivity Disorder and Autism Spectrum Disorders: A Systematic Review.	Neuropsychiatr Dis Treat	18: 1679-1695, 2022	Takagi S, Hori H, Yamaguchi T, Ochi S, Nishida M, Maruo T, Takahashi H.
6	錐体外路系副作用と SDM	日本精神薬学会誌	6(1): 15-19, 2022	井手　健太，堀　　輝

7	「高齢者と社会のつながり」という視点からみた老年期の幻覚・妄想	九州神経精神医学	68(1): 3-8, 2022.12	北井　良和，飯田　仁志
8	コロナ禍からデイケアを考える　コロナから守る，コロナから学ぶ　福岡大学病院精神科デイケアにおける集団活動の取り組み	デイケア実践研究	26(1): 66-69, 2022.10	飯田　仁志
9	【身体科と精神科の連携－身体科に必要な精神疾患の基礎知識】統合失調症	カレントテラピー	40(10): 947-951, 2022.10	松岡　秀樹，増田　将人， 飯田　仁志，川嵜　弘詔
10	【臨床医が一度は考えてみたい治療終結のポイント】気分障害で治療の終了（中断）を考えるとき	精神科	40(5): 701-707, 2022.05	鈴木総一郎，飯田　仁志， 川嵜　弘詔
11	続・新型コロナウイルス感染症と自殺	ふくおか精神保健	67: 53-57, 2022	衞藤　暢明
12	自殺の動向	精神科	40(5): 631-641, 2022	衞藤　暢明，川嵜　弘詔
13	子どもの自殺・自傷の精神医学	小児科	63(12): 1361-1367, 2022	衞藤　暢明，石田　匡宏， 浦田　裕美，川嵜　弘詔
14	精神科医の立場から見たCOVID-19流行下における中毒患者	中毒研究	35: 291-297, 2022	衞藤　暢明，浦田　裕美， 増田　将人，川嵜　弘詔

〈著書〉

1	統合失調症薬物治療ガイドライン2022	医学書院		堀　　輝（分担）， 飯田　仁志（分担）
2	エンド オブ ライフ ケア すべての人の命とくらしのために１版	南山堂	pp.406-412, 2022	飯田　仁志（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（会長講演） 変わりゆく世界とこころ，見つめる精神医学	第118回日本精神神経学会学術総会	福岡 6/16-6/18 2022	川嵜　弘詔
2	（シンポジウム） 勤労者が訴える「不安」に対する治療	第14回日本不安症学会学術総会	東京 5/21-5/22 2022	堀　　輝
3	（シンポジウム） ADHD勤労者の職場連携 ～精神科医の立場から～	第95回日本産業衛生学会	高知 5/26-5/28 2022	堀　　輝
4	（シンポジウム） 他大学，他学部，多施設との共同研究	第118回日本精神神経学会学術総会	福岡 6/16-6/18 2022	堀　　輝
5	（シンポジウム） 向精神薬多剤併用療法からの脱却	第118回日本精神神経学会学術総会	福岡 6/16-6/18 2022	堀　　輝

6	（シンポジウム） 勤労者うつ病治療のポイント	第118回日本精神神経学会学術総会	福岡 6/16-6/18 2022	堀　輝
7	（シンポジウム） 精神病症状を呈した若年男性	第５回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum（Web 開催）	7/16-7/31 2022	堀　輝
8	（シンポジウム） 気分障害治療と認知機能障害	第19回日本うつ病学会総会	大分 7/14-7/15 2022	堀　輝
9	（シンポジウム） 気分障害治療における運動療法	第19回日本うつ病学会総会	大分 7/14-7/15 2022	堀　輝
10	（シンポジウム） 医療者目線のうつ病診療と復職	第５回日本うつ病リワーク協会年次大会	大分 7/16-7/17 2022	堀　輝
11	（シンポジウム） 大学病院におけるリワークプログラムの役割 ～自身の勤務経験を通じて～	第５回日本うつ病リワーク協会年次大会	大分 7/16-7/17 2022	堀　輝
12	（シンポジウム） リチウム中毒の診断とその対応	第45回日本精神科診断学会	Web 9/9-9/10 2022	堀　輝
13	（招待講演） 在宅医療において考える自殺予防の基本	日本在宅医療連合学会研修会 第５回ジェネラリスト養成講座（Web 開催）	オンライン 4/10 2022	衞藤　暢明
14	（招待講演） うつ病における自殺念慮・自殺企図への対応	第30回日本精神科救急学会学術総会	さいたま市 10/1 2022	衞藤　暢明
15	（招待講演） ポスト・コロナ時代に向けた自殺予防	SST 普及協会 第26回学術集会 （Web 開催）	福岡市 11/20 2022	衞藤　暢明
16	（シンポジウム） 思春期の自殺予防医療機関との連携を中心に	第125回日本小児科学会学術集会	福島県郡山市 4/16 2022	衞藤　暢明，川嵜　弘詔
17	（シンポジウム） 新型コロナウイルス感染症罹患後に福岡大学病院に入院となった患者の精神症状について	第118回日本精神神経学会学術集会	福岡市 6/16-6/18 2022	衞藤　暢明，大串　祐馬， 浦田　裕美，川嵜　弘詔
18	（シンポジウム） 臨床に生きる集団精神療法の魅力 指定発言	第118回日本精神神経学会学術集会	福岡市 6/16-6/18 2022	衞藤　暢明
19	（シンポジウム） 福岡大学病院における力動精神医学・精神分析的トレーニングについて	第118回日本精神神経学会学術集会	福岡市 6/16-6/18 2022	衞藤　暢明，原田　康平， 川嵜　弘詔
20	（シンポジウム） 自殺の遺族ケア	第５回日本グリーフ＆ビリーブメント学会学術学会（Web 開催）	オンライン 1/22 2023	衞藤　暢明
21	（シンポジウム） 双極性障害と自殺予防	日本うつ病学会 第８回世界双極性障害デーフォーラム（Web 開催）	オンライン 3/25 2023	衞藤　暢明

〈国内研究助成金〉

1	精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究	日本医療研究開発機構（AMED）	2022	堀　　輝（代表者：橋本　亮太）
2	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響.	文科科研費（基盤 C）	2022	堀　　輝（代表者：掛田　　遥）
3	オミックスと長期評価による適切なゴールを目指す気分障害の革新的治療の基盤構築	文科科研費（基盤 C）	2022	堀　　輝（代表者：加藤　正樹）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第118回 日本精神神経学会学術総会	福岡国際会議場	6/16-18，2022	川嵜　弘詔

〈学会活動〉

1	日本精神神経学会	理事　代議員	2022	川嵜　弘詔，衞藤　暢明
2	日本社会精神医学会	理事　評議員	2022	川嵜　弘詔，衞藤　暢明
3	九州精神神経学会	理事長　評議員	2022	川嵜　弘詔
4	日本生物学的精神医学会	監事　評議員	2022	川嵜　弘詔，堀　　輝
5	日本うつ病学会	理事　評議員	2022	川嵜　弘詔
6	日本臨床精神神経薬理学会	理事　評議員	2022	川嵜　弘詔，堀　　輝
7	日本デイケア学会	理事　評議員	2022	川嵜　弘詔，飯田　仁志，横山　浩之
8	躁うつ病の薬理生化学的研究懇話会	幹事	2022	川嵜　弘詔
9	GID（性同一性障害）学会	理事	2022	川嵜　弘詔
10	日本総合病院精神医学会	評議員	2022	川嵜　弘詔
11	日本神経化学会	評議員	2022	川嵜　弘詔
12	日本神経精神薬理学会	評議員	2022	川嵜　弘詔，堀　　輝
13	日本ストレス学会	評議員	2022	川嵜　弘詔
14	日本統合失調症学会	評議員	2022	川嵜　弘詔
15	日本精神科診断学会	評議員	2022	川嵜　弘詔
16	日本スポーツ精神医学会	理事　評議員	2022	堀　　輝，横山　浩之
17	日本精神分析学会	運営委員	2023	衞藤　暢明
18	日本自殺予防学会	評議員	2022	衞藤　暢明

〈研究に関係した賞〉

1	労働者うつ病の復職継続に関する研究	大久保利晃産業保健研究奨励賞	2023	堀　　輝

小児科学

〈原著〉

1	Early intervention for psychosomatic symptoms of adolescents in school checkup.	Pediatr Int	64(1): e15117, 2022	Habukawa C, Nagamitsu S, Koyanagi K, Nishikii Y, Yanagimoto Y, Yoshida S, Suzuki Y, Murakami K
2	Adolescent Health Promotion Interventions Using Well-Care Visits and a Smartphone Cognitive Behavioral Therapy App: Randomized Controlled Trial.	JMIR Mhealth Uhealth	10(5): e34154, 2022	Nagamitsu S, Kanie A, Sakashita K, Sakuta R, Okada A, Matsuura K, Ito M,Katayanagi A, Katayama T, Otani R, Kitajima T, Matsubara N, Inoue T, Tanaka C, Fujii C, Shigeyasu Y, Ishii R, Sakai S, Matsuoka M, Kakuma T, Yamashita Y, Horikoshi M.
3	Genetic and clinical landscape of childhood cerebellar hypoplasia and atrophy.	Genet Med	28; S1098-3600(22) 00898-X, 2022	Sakamoto M, Iwama K, Sasaki M, Ishiyama A, Komaki H, Saito T, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Haginoya K, Kobayashi T, Goto T, Tsuyusaki Y, Iai M, Kurosawa K, Osaka H, Tohyama J, Kobayashi Y, Okamoto N, Suzuki Y, Kumada S, Inoue K, Mashimo H, Arisaka A, Kuki I, Saijo H, Yokochi K, Kato M, Inaba Y, Gomi Y, Saitoh S, Shirai K, Morimoto M, Izumi Y, Watanabe Y, Nagamitsu S, Sakai Y, Fukumura S, Muramatsu K, Ogata T, Yamada K, Ishigaki K, Hirasawa K, Shimoda K, Akasaka M, Kohashi K, Sakakibara T, Ikuno M, Sugino N, Yonekawa T, Gürsoy S, Cinleti T, Kim CA, Teik KW, Yan CM, Haniffa M, Ohba C, Ito S, Saitsu H, Saida K, Tsuchida N, Uchiyama Y, Koshimizu E, Fujita A, Hamanaka K, Misawa K, Miyatake S, Mizuguchi T, Miyake N, Matsumoto N
4	An exploratory study to identify neonatal arterial ischemic stroke: A single-center study	Brain Dev	44(10): 672-680, 2022	Setoue T, Yatsuga S, Ito K, Kodera T, Onda Y, Kawano H, Niimi T, Miyamoto T, Ohta E, Nagamitsu S.

5	Sleep disturbance has the largest impact on children's behavior and emotions	Front. Pediatr.	10：1034057, 2022	Matsuoka M, Matsuishi T, Nagamitsu S, Iwasaki M, Iemura A, Obara H, Yamashita Y, Maeda M, Kakuma T, Uchimura N
6	市区町村における母子保健情報の電子化および利活用の現状と課題	日本公衆衛生雑誌	69(12)：948-956, 2022	堀内　清華，秋山　有佳，杉浦　至郎，松浦　賢長，永光信一郎，横山　美江，鈴木　孝太，市川　香織，近藤　尚己，川口　晴菜，上原　里程，山縣然太朗
7	Estimated Gestational Age From Infant's Foot Length in Japanese	Cureus	14(12)：e32991, 2022	Niimi S, Kimura T, Saiki R, Kanda H, Okamatsu Y, Goto M, Yatsuga S.
8	A hypomorphic variant in the translocase of the outer mitochondrial membrane complex subunit TOMM7 causes short stature and developmental delay	HGG Adv	4(1)：100148, 2022	Young C, Batkovskyte D, Kitamura M, Shvedova M, Mihara Y, Akiba J, Zhou W, Hammarsjö A, Nishimura G, Yatsuga S, Grigelioniene G, Kobayashi T
9	Clinical guidelines for the diagnosis and treatment of 21-hydroxylase deficiency (2021revision)	Clin Pediatr Endocrinol	31(3)：116-143, 2022	Ishii T, Kashimada K, Amano N, Takasawa K, Nakamura-Utsunomiya A, Yatsuga S, Mukai T, Ida S, Isobe M, Fukushi M, Satoh H, Yoshino K, Otsuki M, Katabami T, Tajima T
10	Macadamia nut-specific IgE levels for predicting anaphylaxis	Pediatr Allergy Immunol	33(9)：e13852, 2022	Kubota K, Nagakura KI, Itonaga T, Sato S, Ebisawa M, Yanagida N
11	Septic arthritis in childhood: A 24-year review.	Pediatr Int	64(1)：e14993, 2022	Ohta E, Setoue T, Ito K, Kojima K, Kodera T, Onda Y, Kawano H, Niimi T, Kakura H, Nagamitsu S.
12	Invasive candidiasis in a neonatal intensive care unit in Fukuoka	Pediatr Int	64(1)：e14949, 2022	Ohta E, Setoue T, Ito K, Kodera T, Onda Y, Kawano H, Niimi T, Kakura H, Morii M, Miyamoto T, Hashiguchi C, Nakamura M, Hirose S.

〈症例報告〉

1	コロナ禍を機に生物心理社会的視点で考える子どもアドボカシーと心の診療連携	小児保健研究	81(5)：447-454, 2022	田中　恭子，小川　　悠，平井　ゆり，塙　　佳生，伊藤　隆一，澤田　雅子，林　　泉彦，松本　　勉，大戸　秀恭，鈴木　育夫，作田　亮一，永光信一郎.
2	Laryngotracheal separation surgery in a patient with severe Angelman syndrome involving a 19.3 Mb deletion on 15q11.2-q14	Clin Case Rep	10(11)：e6545, 2022	Horikawa Y, Yatsuga S, Ohya T, Okamatsu Y.

3	Urinary stone in a 12-year-old adolescent with new-onset type 1 diabetes and diabetic ketoacidosis	Clin Pediatr Endocrinol	31(3): 199–204, 2022	Ushijima-Fuchino K, Koga Y, Umino S, Nishioka J, Araki J, Yatsuga S, Yamashita Y.
4	メチルフェニデート過量内服５時間後に活性炭を投与した13歳男児	日本救急医学会雑誌	33(4): 173–177, 2022	田中　友規，嘉村　拓朗， 近藤里香子，八ツ賀秀一， 岡松　由記
5	Systemic inflammation caused by an intracranial mesenchymal tumor with a EWSR1: CREM fusion presenting associated with IL-6/STAT3 signaling	Neuropathology	43(3): 244–251, 2022	Hojo K, Furuta T, Komaki S, Yoshikane Y, Kikuchi J, Nakamura H, Ide M, Shima S, Hiyoshi Y, Araki J, Tanaka S, Ozono S, Yoshida A, Nobusawa S, Morioka M, Nishikomori R.

〈総説〉

1	【乳幼児健診の最近の話題】ティーンズ健診	チャイルドヘルス	25(3): 206–208, 2022	永光信一郎
2	【精神疾患診療】 （第３部）特定の場面で遭遇する精神科的問題　他科からみた精神科的問題　小児科領域の心身医学	日本医師会雑誌	151(特別号): 307–308, 2022	永光信一郎
3	【子どもの健康を守る教育と医療の連携】 小児心身症と学校生活での留意点	教育と医学	5: 208–215, 2022	永光信一郎
4	健康な学童～思春期のこどもを診る	東京小児科医会報	41(2): 3–8，2022	永光信一郎
5	思春期健診の社会実装化に向けた課題	福岡県小児科医報	60: 6–10, 2022	永光信一郎
6	小児食物アレルギーの発症予防	アレルギーの臨床	42(4): 22–25, 2022	久保田　慧，永倉　顕一， 柳田　紀之，海老澤元宏

〈著書〉

1	小児内分泌疾患の治療 日本小児内分泌学会編	診断と治療社	pp450，2022	八ツ賀秀一（分担）
2	小児内分泌学改訂第３版 日本小児内分泌学会編	診断と治療社	pp450，2022	八ツ賀秀一（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（教育講演） 思春期健診と CBT アプリによる思春期ヘルスプロモーションの推進	第25回日本摂食障害学会 （WEB 開催）	10/15. 2022	永光信一郎
2	（特別講演） 子どものこころのヘルスプロモーション： CBT アプリとティーンズ健診	第22回日本認知療法・認知行動療法学会	東京, 11/12, 2022	永光信一郎

3	（教育講演） 思春期健診と CBT アプリによる思春期ヘルスプロモーションの推進	第26回日本心療内科学会総会・学術大会	福岡, 11/19, 2022	永光信一郎
4	（教育講演） 「ICT を活用した成育基本法基本的方針の推進：母子保健と思春期のヘルスプロモーション」	日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会	福岡, 12/10, 2022	永光信一郎
5	Association between mother, breast milk, and infants vitamin D at 2 weeks of age in Japan	European Society for Paediatric Endocrinology 2022（ハイブリット開催）	Italy, 2022,9	Yatsuga S, Saiki R, Eshima N, Kitamura M, Ebina M, Takamura T, Motogi K, Inoue Y, Tanaka Y, Umino S, Mukasa R, Goto M, Yokomine M, Yamashita Y
6	Aggressive additional treatment strategies to elminate coronary artery aneurysms in treatment-resistant Kawasaki disease	American Heart Association Scientific Sessions（Web）	11/5-7, 2022	Yoshikane Y, Miyamoto T, Ogawa A, Nagamitsu S.
7	Macadamia nut-specific IgE predicts anaphylaxis	European Academy of Allergy & Clinical Immunology	Prague, Czech Republic July 1-3, 2022	Kubota K, Nagakura K, Yanagida N, Sato S, Ebisawa M
8	Poor efficacy of growth hormone treatment in a patient with fetal alcohol syndrome	The 60th Annual Meeting of the European Society for Paediatric Endocrinology（Web）	Rome, Italy September 15-17, 2022	Koga N, Nagamitsu S, Yatsuga S, Sasaki F, Sasaoka D, Tanaka Y
9	Overlooking hypoparathyroidism in an 11-year-old boy patient with CHARGE syndrome	The 60th Annual Meeting of the European Society for Paediatric Endocrinology（Web）	Rome, Italy September 15-17, 2022	Sasaki F, Yatsuga S, Koga N, Sasaoka D

〈国内研究助成金〉

1	身体的・精神的・社会的（biopsychosocial）に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究	厚生労働省 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）	2022	永光信一郎（代表）
2	ICT と医療・健康生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究	AMED 成育疾患克服等総合研究事業	2022	永光信一郎（代表）
3	成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究	厚生労働省 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）	2022	永光信一郎 （代表者：山縣然太朗）
4	思春期のメンタルヘルス診断・予防的支援としての ICT を活用した「こころの学校健診」開発研究	AMED 成育疾患克服等総合研究事業	2022	永光信一郎 （代表者：土生川千珠）
5	ベッドサイドスコアを用いた新生児侵襲性カンジダ症治療の検討	文部科学省科研費 基盤研究(C)	2022	太田　栄治（代表）
6	川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	AMED 難治性疾患実用化研究事業	2022	吉兼由佳子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第18回日本小児心身医学会九州沖縄地方会	福大メディカルホール	3/12，2023	永光信一郎

〈学会活動〉

1	日本小児心身医学会	理事長	2022	永光信一郎
2	日本小児神経学会	評議員	2022	永光信一郎，藤田　貴子，八ツ賀秀一
3	日本思春期学会	常任理事	2022	永光信一郎
4	子どものこころ専門医機構	理事	2022	永光信一郎
5	日本小児科学会	代議員	2022	永光信一郎，太田　栄治
6	成育基本法推進委員会	委員長	2022	永光信一郎
7	日本周産期・新生児学会	評議員	2022	太田　栄治
8	日本川崎病学会	代議員	2022	吉兼由佳子
9	日本臨床神経生理学会	代議員	2022	藤田　貴子
10	日本小児内分泌学会	評議員	2022	八ツ賀秀一
11	日本内分泌学会	評議員	2022	八ツ賀秀一
12	日本ミトコンドリア学会	評議員	2022	八ツ賀秀一

皮膚科学

〈原著〉

1	Impact of Preoperative Metal Patch Testing on Surgery Using Metal Implants.	Arthroplast Today	21；14：170-174，2022	Sato E, Maeyama A, Yamasaki Y, Yamamoto T, Imafuku S.
2	乾癬性関節炎患者における手指の単純 X 線変化と患者報告 quality of life（QOL）アウトカムとの関連　西日本乾癬レジストリより	日本脊椎関節炎学会誌	9(1)：39-43，2022	鶴田　紀子，今福　信一
3	Itch as a critical factor in impaired health-related quality of life in patients with plaque psoriasis achieving clear or almost-clear skin: Analysis of the single-arm, open-label, multicenter, prospective ProLOGUE study.	JAAD International	22(8)：146-153，2022	Miyagi T, Kanai Y, Murotani K, Okubo Y, Honma M, Kobayashi S, Seishima M, Mizutani Y, Kitabayashi H, Imafuku S.
4	Postoperative radiation therapy improves prognoses in extramammary Paget's disease presenting with multiple lymph node metastases.	J. Dermatol.	49(10)：1005-1011，2022	Okumura M, Ogata D, Namikawa K, Tsutsui K, Takahashi A, Okuma K, Kashihara T, Igaki H, Akiyama M, Yamazaki N.
5	Work productivity in real-life employed patients with plaque psoriasis: Results from the ProLOGUE study.	J. Dermatol.	49(10)：970-978，2022	Saeki H, Kanai Y, Murotani K, Ito K, Miyagi T, Takahashi H, Tada Y, Higashiyama M, Hashimoto Y, Kitabayashi H, Imafuku S.
6	Single-Dose, Patient-Initiated Amenamevir Therapy for Recurrent Genital Herpes: A Phase 3, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study.	Open Forum Infect Dis.	2022 Sep 22；9(10)：ofac494.	Kawashima M, Imafuku S, Fujio K, Komazaki H.

7	Health-related quality of life in patients with neurofibromatosis 1 in Japan: A questionnaire survey using EQ-5D-5L.	J. Dermatol.	49(12)：1228–1232，2022	Yoshida Y, Ehara Y, Koga M, Imafuku S.
8	脂漏性角化症と基底細胞癌が併存した高齢者の２例	加齢皮膚医学セミナー	17(2)：37–42，2022	松田　絵奈，佐藤　絵美，清水　裕毅，今福　信一
9	Trends in prescriptions of oral medications for psoriasis: A single-center retrospective study.	J. Dermatol.	50(1)：82–88，2023	Takano-Kawasaki S, Sato E, Yamaguchi K, Imafuku S.
10	English version of Japanese guidance for the use of oral Janus kinase (JAK) inhibitors in the treatments of atopic dermatitis.	J. Dermatol.	50(1)：e1–e19，2023	Saeki H, Akiyama M, Abe M, Igarashi A, Imafuku S, Ohya Y, Katoh N, Kameda H, Kabashima K, Tsunemi Y, Hide M, Ohtsuki M; Committee for reviewing the Safety of Atopic Dermatitis/Urticaria Treatment, Japanese Dermatological Association.
11	Deucravacitinib versus placebo and apremilast in moderate to severe plaque psoriasis: Efficacy and safety results from the 52-week, randomized, double-blinded, placebo-controlled phase 3 POETYK PSO-1 trial.	J. Am. Acad. Dermatol.	88(1)：29–39，2023	Armstrong AW, Gooderham M, Warren RB, Papp KA, Strober B, Thaçi D, Morita A, Szepietowski JC, Imafuku S, Colston E, Throup J, Kundu S, Schoenfeld S, Linaberry M, Banerjee S, Blauvelt A.
12	English version of Japanese guidance for use of biologics for psoriasis (the 2022 version).	J. Dermatol.	50(2)：e41–e68，2023	Saeki H, Mabuchi T, Asahina A, Abe M, Igarashi A, Imafuku S, Okubo Y, Komine M, Sano S, Torii H, Morita A, Yotsuyanagi H, Watanabe A, Ohtsuki M; Committee for reviewing the safety of molecularly targeted drugs for psoriasis, Japanese Dermatological Association.
13	Efficacy and safety of spesolimab in Asian patients with a generalized pustular psoriasis flare: Results from the randomized, double-blind, placebo-controlled Effisayil™ 1 study.	J. Dermatol.	50(2)：183–194，2023	Morita A, Tsai TF, Yee EYW, Okubo Y, Imafuku S, Zheng M, Li L, Quaresma M, Thoma C, Choon SE.
14	Treatment with brodalumab is not associated with improved sleep problems in real-life patients with plaque psoriasis: Results of the ProLOGUE study.	J. Dermatol.	50(3)：319–326，2023	Mizutani Y, Kanai Y, Murotani K, Honma M, Higashiyama M, Kobayashi S, Nomura T, Seishima M, Imafuku S.

〈症例報告〉

1	Post-Immunotherapy Robotic-Assisted Resection for Primary Anorectal Melanoma: A Case Report	Case Rep Oncol.	15(1)：56–61，2022	Tsutsui K, Ogata D, Tsukamoto S, Moritani K, Mori T, Namikawa K, Takahashi A, Kanemitsu Y, Yamazaki N.

2	小児に発症した中毒表皮壊死症（TEN）の１例	西日本皮膚科	84(2)：100-103，2022	松田　絵奈，佐藤　絵美，筒井　ゆき，大賀　保範，古賀　文二，今福　信一
3	若年の SLE 患者に生じた口唇有棘細胞癌の１例	西日本皮膚科	84(3)：215-217，2022	足達　麻衣，佐藤　絵美，柴山　慶継，内藤　玲子，今福　信一
4	フォリクリン遺伝子変異により確定診断した Birt-Hogg-Dube 症候群の１例	西日本皮膚科	84(4)：329-332，2022	西尾　穂波，佐藤　絵美，筒井　ゆき，松尾　洋吏，林　博之，今福　信一
5	掌蹠膿疱症患者に発症した播種状表在性光線性汗孔角化症（DSAP）の１例	西日本皮膚科	84(4)：333-336，2022	古河裕紀子，佐藤　絵美，今福　信一
6	典型的な Spindle Cell Squamous Cell Carcinoma の１例	西日本皮膚科	84(4)：347-350，2022	吉村　麻衣，佐藤　絵美，柴山　慶継，中村加奈恵，古賀　佳織，今福　信一
7	Type 1 diabetes associated with immune checkpoint inhibitors for malignant melanoma: A case report and review of 8 cases	Medicine（Baltimore）.	101(35)：e30398，2022	Ishiguro A, Ogata D, Ohashi K, Hiki K, Yamakawa K, Jinnai S, Tsutsui K, Takahashi A, Namikawa K, Yamazaki N.
8	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）に合併したガス壊疽	西日本皮膚科	84(5)：447-451，2022	塚本　遥子，佐藤　絵美，中村加奈恵，清水　裕毅，今福　信一
9	多発する紅褐色斑を呈した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の１例	Skin Cancer	37(2)：133-137，2022	中村加奈恵，古賀　文二，武藤　礼治，今福　信一
10	【母斑と母斑症～モザイクをめぐる知的冒険～】ステロイド内服治療中に発症した播種状表在性光線性汗孔角化症	皮膚病診療	44(11)：1018-1021，2022	古河裕紀子，佐藤　絵美，足達　麻衣，今福　信一
11	【母斑と母斑症～モザイクをめぐる知的冒険～】ACVRL1に変異がみられた Osler 病２型	皮膚病診療	44(11)：988-991，2022	西尾　穂波，佐藤　絵美，今福　信一
12	A case of erythema nodosum concomitant with ulcerative colitis relieved by tofacitinib	Dermatol Ther	35(12)：e15963，2022	Nakamura K, Sato E, Imafuku S.
13	臨床的に Chronic Expanding Hematoma の所見を伴った Giant Vascular Eccrine Spiradenoma の１例	西日本皮膚科	84(6)：541-546，2022	高木　　萌，大賀　保範，佐藤　絵美，山口　和記，古賀　佳織，青木光希子，今福　信一

〈総説〉

1	【最近のトピックス2022】皮膚科医のための臨床トピックス JAK 阻害薬と帯状疱疹	臨床皮膚科	76(5)：161-163，2022	今福　信一
2	【病態から考える薬物療法】（第Ⅷ章）ウイルス感染症 単純ヘルペスウイルス感染症	皮膚科の臨床	64(5)：879-882，2022	宮地　素子，今福　信一
3	【ウイルス性皮膚疾患アップデート】研究 HSV の DNA 診断と血清学的診断のための抗体価の意義	皮膚病診療	44(4)：288-293，2022	宮地　素子，今福　信一

4	【ウイルス性皮膚疾患アップデート】統計 地域における小流行に伴って経験した水痘の32例	皮膚病診療	44(4): 276-279, 2022	市ヶ谷友美, 宮地　素子, 今福　信一, 安元慎一郎
5	写真で学ぶ皮膚科学 レックリングハウゼン病の臨床像と新しい展開	皮膚アレルギーフロンティア	20(1): 38-39, 2022	今福　信一
6	【コロナ禍の皮膚科日常診療】Q&A 患者さんの質問に答える 新型コロナウイルス感染の場合もそうですが,その他にも水痘や麻疹のように成人になってから罹るより子どもの頃に罹ると症状が軽いのはなぜですか？	Derma	322: 84, 2022	今福　信一
7	【コロナ禍の皮膚科日常診療】Q&A 患者さんの質問に答える 水痘帯状疱疹ウイルスには中年以降の人はほぼ罹ったことがあると聞いたことがありますが，それは事実ですか？	Derma	322: 82-83, 2022	今福　信一
8	【コロナ禍の皮膚科日常診療】Q&A 患者さんの質問に答える ウイルス感染症のときに不顕性感染があるのはなぜですか？症状がある人とない人では,何が違うのでしょうか？	Derma	322: 82, 2022	今福　信一
9	【コロナ禍の皮膚科日常診療】 ウイルス感染症とヒトの病と皮膚疾患	Derma	322: 1-8, 2022	今福　信一
10	図説　Meyerson Nevus	西日本皮膚科	84(3): 181-182, 2022	中村加奈恵, 佐藤　絵美, 古賀　佳織, 濱崎　　慎, 今福　信一
11	アトピー性皮膚炎におけるヤヌスキナーゼ（JAK）阻害内服薬の使用ガイダンス	日本皮膚科学会雑誌	132(8): 1797-1812, 2022	佐伯　秀久, 秋山　真志, 安部　正敏, 五十嵐敦之, 今福　信一, 大矢　幸弘, 加藤　則人, 亀田　秀人, 椛島　健治, 常深祐一郎, 秀　　道広, 大槻マミ太郎
12	乾癬における生物学的製剤の使用ガイダンス（2022年版）	日本皮膚科学会雑誌	132(10): 2271-2296, 2022	佐伯　秀久, 馬渕　智生, 朝比奈昭彦, 安部　正敏, 五十嵐敦之, 今福　信一, 大久保ゆかり, 小宮根真弓, 佐野　栄紀, 鳥居　秀嗣, 森田　明理, 四柳　　宏, 渡辺　　彰, 大槻マミ太郎
13	【ウイルスと皮膚疾患-新しい考え方】 （Part2）治療とワクチン 日常診療での工夫とアップデート 帯状疱疹と単純ヘルペス　最近の話題	Visual Dermatology	21(10): 979-982, 2022	今福　信一
14	新型コロナウイルス感染症における直接的な健康影響及び他の疾患の医療に与えた影響の調査に関する報告書	皮膚科領域における covid-19による影響調査 厚生労働科研「新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査　研究」報告書	5-25, 2022	渡辺　大輔, 矢口　　均, 今福　信一, 林　　伸和, 多田　弥生, 蒲田　昌洋, 石河　　晃, 佐山　浩二, 椛島　健治, 江川　形平, 浅田　秀夫, 新熊　　悟, 西村　友紀, 有馬　亜衣, 野見　恭子, 岡﨑　愛子

15	乾癬におけるヤヌスキナーゼ（JAK）阻害内服薬（JAK1阻害薬と TYK2阻害薬）の使用ガイダンス	日本皮膚科学会雑誌	133(1)：1-12，2023	佐伯　秀久，馬渕　智生，朝比奈昭彦，安部　正敏，五十嵐敦之，今福　信一，大久保ゆかり，小宮根真弓，高橋　健造，鳥居　秀嗣，森田　明理，四柳　　宏，渡辺　　彰，大槻マミ太郎，日本皮膚科学会乾癬分子標的薬安全性検討委員会
16	【皮膚科領域でのビッグデータの活用法】西日本乾癬レジストリの設立と現在までの成果	Derma.	331：65-72，2023	今福　信一
17	ヒトのウイルス感染症の克服の歴史と今後の展望	皮膚科	3(3)：369-375，2023	今福　信一
18	【JAK 阻害薬の安全性に関する update】JAK 阻害薬と帯状疱疹	リウマチ科	50(5)：282-290，2023	今福　信一

〈著書〉

1	20. ウイルス性感染症 １．単純疱疹・Kaposi 水痘様発疹症 皮膚疾患診療実践ガイド第３版	文光堂	pp.578-580，2022	宮地　素子，今福　信一（分担）
2	82 皮疹のない片側性の疼痛で帯状疱疹の可能性は？　治療は？ 皮膚科診療 Controversy	中外医学社	pp.274-276，2022	今福　信一（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（教育講演） 乾癬患者に合併しやすい全身症状	第121回日本皮膚科学会総会（ハイブリッド開催）	京都 6/2-6/5 2022	今福　信一

〈国内研究助成金〉

1	神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業	2022	今福　信一 （代表：錦織千佳子）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本皮膚科学会第404回福岡地方会	ホテルニューオータニ博多	3/5，2023	今福　信一

〈学会活動〉

1	日本皮膚科学会	理事	2022	今福　信一
2	日本皮膚科学会西部支部	代議員	2022	今福　信一，古賀　文二
3	日本皮膚科学会福岡地方会	監事	2022	清水　裕毅
4	日本レックリングハウゼン病学会	理事	2022	今福　信一
5	日本研究皮膚科学会	評議員・推薦委員	2022	今福　信一
6	日本皮膚免疫アレルギー学会	代議員	2022	今福　信一
7	日本乾癬学会	理事	2022	今福　信一

8	福岡市性感染症（STD）研究会	顧問	2022	今福　信一
9	日本小児皮膚科学会	運営委員	2022	今福　信一
10	日本性感染症学会	代議員	2022	今福　信一

〈研究に関係した賞〉

1	Long-term efficacy and safety of tildrakizumab in Japanese patients with moderate to severe plaque psoriasis: Results from a 5-year extension of a phase 3 study (reSURFACE 1).－(J Dermatol. 2021 Jun; 48(6): 844-852.)	Most Downloaded Articles 2022	2022	Imafuku S, Nakagawa H, Igarashi A, Morita A, Okubo Y, Sano S, Tada Y, Nemoto O, Rozzo SJ, Kawamura M, Ohtsuki M

放射線医学

〈原著〉

1	Diagnostic potential of T1ρ and T2 relaxations in assessing the severity of liver fibrosis and necro-inflammation	Magn Reson Imaging	87: 104-112, 2022	Takayama Y, Nishie A, Ishimatsu K, Ushijima Y, Fujita N, Kubo Y, Yoshizumi T, Kouhashi KI, Maehara J, Akamine Y, Ishigami K
2	The Global Reading Room: Imaging Detection of Hepatocellular Carcinoma	AJR Am J Roentgenol	218: 922-923, 2022	Chernyak V, van der Pol CB, Vernuccio F, Yoshimitsu K
3	Unilateral GPi-DBS improves ipsilateral and axial motor symptoms in Parkinson's disease as evidenced by brain perfusion single photon emission computed tomography study	Frontiers in Human Neuroscience	16: 1-12, 2022	Hayashi Y, Mishima T, Fujioka S, Morishita T, Inoue T, Nagamachi S, Tsuboi Y
4	【腹部の最新画像情報2022】 晩発性皮膚ポルフィン症の５例 肝の画像所見について	臨床放射線	67: 437-443, 2022	坂本　桂子，西山麻理恵， 伊東　絵美，浦川　博史， 高山　幸久，吉満　研吾
5	Worldwide Disparities in Recovery of Cardiac Testing 1 Year Into COVID-19	J Am Coll Cardiol	79: 2001-2017, 2022	Andrew J Einstein, Cole Hirschfeld, Michelle C Williams, INCAPS COVID 2 Investigators Group (include Nagamachi S)
6	アルツハイマー病における海馬萎縮指標と疾患特異領域脳血流指標の相関	臨床放射線	67: 583-592, 2022	筋田　柚衣，長町　茂樹， 野々熊真也，高野　浩一， 桑原　康雄，吉満　研吾， 尾籠　晃司，坪井　義夫
7	Differentiating Liver Hemangioma from Metastatic Tumor Using T2-enhanced Spin-echo Imaging with a Time-reversed Gradient-echo Sequence in the Hepatobiliary Phase of Gadoxetic Acid-enhanced MR Imaging	Magn Reson Med Sci	21: 445-457, 2022	Takayama Y, Nishie A, Okamoto D, Fujita N, Asayama Y, Ushijima Y, Yoshizumi T, Yoneyama M, Ishigami K
8	MR Prediction of Malignant Switch With the Cyst Fluid's T2 Value in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas: A Preliminary Study	Anticancer Res	42: 3895-3903, 2022	Takao S, Nishie A, Ushijima Y, Takayama Y, Morita K, Ishimatsu K, Koga Y, Mori Y, Akamine Y, Ishigami K

9	Digital breast tomosynthesis で検出された境界明瞭平滑腫瘤病変の良悪性の検討	日本乳癌検診学会誌	31：189–194，2022	藤光　律子，島倉　樹子，吉満　研吾
10	What is the“washout”of hepatocellular carcinoma as observed on the equilibrium phase CT?: consideration based on the concept of extracellular volume fraction	Jpn J Radiol	40：1148–1155，2022	Sakamoto K, Tanaka S, Sato K, Ito E, Nishiyama M, Urakawa H, Arima H, Yoshimitsu K
11	Soft tissue stabilization of the hinge position in medial closed wedge distal femoral osteotomy: an anatomical study	BMC Musculoskelet Disord	23：1105，2022	Oda T, Maeyama A, Yoshimura I, Ishimatsu T, Miyazaki K, Tachibana K, Yoshimitsu K, Yamamoto T
12	The reproducibility of MTV and TLG of soft tissue tumors calculated by FDG-PET: Comparison between the lower limit by the fixed value SUV 2.5 and that value by 30% of SUVmax	Jpn J Radiol	doi：10.1007/s11604–022–01378–8. Online ahead of print, 2023	Iwasa H, Nagamachi S, Nakayama S, Yamamoto T, Yoshimitsu K

〈症例報告〉

1	Improvement of vanishing bile duct syndrome with hyperlipidemia	Clin J Gastroenterol	5：784–790，2022	Yamauchi R, Takata K, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Nabeshima K, Yoshimitsu K, Hirai F
2	^{123}I–MIBG シンチグラフィーで集積を認めた Extra-Gastrointestinal stromal tumor（EGIST）の１例	臨床核医学	56：2–5，2023	本田　　学，長町　茂樹，高山　幸久，吉満　研吾

〈総説〉

1	肝胆膵領域 MRI における deep learning 再構成の臨床応用	JIYU KUKAN（INNERVISION）	40：11–12，2022	吉満　研吾
2	A level above the rest in abdominal diffusion imaging	SIGNA（Pulse of MR）	32：15–17，2022	Yoshimitsu K
3	福岡大学病院における画像診断の報告書見落とし防止対策：PACS 更新までの次善策としての試み	季刊　きんむ医	No.201：8–11，2022	吉満　研吾，小吉　里枝
4	働き方改革をめぐって－2022年度の現状：特集を組むに当たって	季刊　きんむ医	No.202：４，2022	吉満　研吾
5	認知症診断における脳機能画像の役割－特に脳血流 SPECT を用いて	老年期認知症研究会誌	24：50–55，2023	長町　茂樹

〈著書〉

1	３.胆道・胆嚢　３）胆嚢癌，胆管癌：胆嚢癌の病期診断，隆起型胆嚢癌，浸潤型胆嚢癌，胆嚢扁平上皮癌・腺扁平上皮癌，転移性胆嚢腫瘍，肝門部領域胆管癌，遠位肝外胆管癌，胆管内乳頭状腫瘍（IPNB）１型，２型，胆管神経内分泌腫瘍・混合性神経内分泌非神経内分泌腫瘍	肝胆膵の画像診断－ CT・MRI を中心に：改訂第２版（編）山下康行，伊東克能，藤永康成	p.520–537，2022	吉満　研吾（分担）

2	３.胆道・胆嚢　４）胆管疾患：IgG4関連硬化性胆管炎	肝胆膵の画像診断－ CT・MRI を中心に：改訂第２版（編）山下康行，伊東克能，藤永康成	p.546-547，2022	吉満　研吾（分担）
3	画像診断レポート　ここだけは落とせない！主治医に伝えるべきポイント　第５章　消化器　２.胆嚢／胆管腫瘍	臨床放射線	p.1347-1358，2022	高山　幸久，伊東　絵美，田中　慎二，浦川　博史，吉満　研吾（分担）
4	第３章　CT【消化器】①門脈相で肝静脈濃染欠如，実質のまだら状濃染，②肝辺縁域の濃染と腫大した中心域の低吸収，③動脈相での門脈描出	300例で学ぶ　読影レポートの流儀－ MRI，CT，X 線，PET まで完全理解（編）齋田幸久	p235，p236，p237，2023	吉満　研吾（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（招待講演）BCLC-B の患者さんに対する TACE を含めた治療戦略	第２回福岡肝細胞がんセミナー（ハイブリッド開催）	福岡 5/23 2022	高山　幸久
2	（招待講演）肺癌治療における CT 検査と CT ガイド下生検の役割	第80回筑後有明 CT・MRI セミナー（WEB 開催）	福岡 7/8 2022	高山　幸久
3	（招待講演）画像診断ガイドライン最新版３　胆膵	SAMI 2022（第７回 Advanced Medical Imaging 研究会）（WEB 開催）	東京 7/30-31 2022	高山　幸久
4	（シンポジウム）肝臓 MR elastography の原理，計測上のヒントや注意点；これから臨床で使い始めよう	第50回日本磁気共鳴医学会大会	名古屋 9/9-11 2022	高山　幸久
5	（シンポジウム）胆道１　画像コメンテーター	第76回日本消化器画像診断研究会	新潟 9/23-24 2022	吉満　研吾
6	（招待講演）認知症診断における脳機能画像の役割－特に SPECT を用いて	第24回九州老年期認知症研究会（WEB 開催）	福岡 10/8 2022	長町　茂樹
7	（招待講演）治療方針決定における FDG-PET 診断の役割	第78回高知県核医学症例検討会	高知 10/14 2022	長町　茂樹
8	（国際学会・シンポジウム）QIBA-meeting	北米放射線学会（RSNA 2022）	Chicago 11/27-12/1 2022	Yoshimitsu K
9	（国際学会・シンポジウム）Advisory meeting on Gd-contrast medium safety	北米放射線学会（RSNA 2022）	Chicago 11/27-12/1 2022	Yoshimitsu K
10	（招待講演）画像診断ガイドライン2021年版 消化器領域－耳学問を活用して，手軽に知識をみにつける	第36回 JCR ミッドウィンターセミナー（ハイブリッド開催）	福岡 1/14-15 2023	高山　幸久
11	（招待講演）MR エラスト及び AI 画像再構成技術の臨床応用	第36回 JCR ミッドウィンターセミナー（ハイブリッド開催）	福岡 1/14-15 2023	吉満　研吾
12	（国際学会・招待講演）MR elastography of chronic liver disease	The 21st Asian Oceanian Congress of Radiology（AOCR 2023）アジア・オセアニア放射線学術会	Bangkok 2/9-12 2023	Yoshimitsu K

〈国内研究助成金〉

1	ECV の概念を応用した EOB の細胞内外分布の分離：肝機能と肝腫瘍鑑別診断への応用	文部科学省 基盤研究 C	2022	吉満　研吾（代表）
2	FDG 及び MIBG シンチを用いた肺移植前後の右心機能，心臓交感神経機能の研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	長町　茂樹（代表）
3	肝線維化および肝細胞機能に関する MRI を用いた新たな定量的診断法の開発	文部科学省 基盤研究 C	2022	高山　幸久（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第195回日本医学放射線学会九州地方会	福大メディカルホール	6/18-19, 2022	吉満　研吾
2	第51回九州膵研究会	エーザイ福岡	3/4, 2023	吉満　研吾

〈学会活動〉

1	日本腹部放射線学会	副代表理事	2022	吉満　研吾
2	Asian Society of Abdominal Radiology（ASAR 2019）	理事	2022	吉満　研吾
3	日本画像医学会	理事	2022	吉満　研吾
4	日本肝癌研究会	理事	2022	吉満　研吾
5	肝血流動態・機能イメージ研究会	代表世話人	2022	吉満　研吾
6	七隈 Body Imaging 研究会	代表世話人	2022	吉満　研吾
7	日本消化器画像診断研究会	執行部世話人	2022	吉満　研吾
8	断像画像研究会	世話人	2022	吉満　研吾
9	臨床消化器病研究会	世話人	2022	吉満　研吾
10	日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会	世話人	2022	吉満　研吾
11	日本肝がん分子標的治療研究会	世話人	2022	吉満　研吾
12	APLIS	幹事	2022	吉満　研吾
13	ACAR（アジア腹部放射線学会）	幹事	2022	吉満　研吾
14	Society of Advanced Medical Imaging（SAMI）	幹事	2022	吉満　研吾
15	日本医学放射線学会	代議員	2022	吉満　研吾，長町　茂樹
16	日本磁気共鳴医学会	代議員	2022	吉満　研吾
17	日本がん検診・診断学会	理事	2022	長町　茂樹
18	呼吸器核医学会	幹事	2022	長町　茂樹
19	日本心臓核医学会	幹事	2022	長町　茂樹
20	日本核医学会	評議員	2022	長町　茂樹
21	日本がん検診・診断学会 評議員	評議員	2022	長町　茂樹

22	呼吸器核医学研究会　評議員	評議員	2022	長町　茂樹
23	日本 IVR 学会	代議員	2022	高山　幸久

〈研究に関係した賞〉

1	Alzheimer 病と軽度認知障害の鑑別における疾患特異領域血流指標及び海馬萎縮指標の有用性	第23回七隈アルツハイマー病・パーキンソン病研究会 代表世話人　坪井義夫	2022	田中　柚衣
2	JJR 優秀論文賞「The development of new method to differentiate between Dementia with Lewy bodies and Alzheilner's disease by cerebral perfusion SPECT-comparison to CIScore	公益社団法人 日本医学放射線学会 理事長　青木茂樹	2022	本田　　学
3	事例番号：C0066「部会員として報告書の作成に係わった」	一般社団法人 日本医療安全調査機構 （医療事故調査・支援センター）理事長　門田守人	2022	吉満　研吾
4	臨放症例賞「晩発性皮膚ポルフィン症の５例－肝の画像所見について－」	金原出版株式会社 「臨床放射線」編集室	2023	坂本　桂子

消化器外科学

〈原著〉

1	Detection of carbon dioxide embolism by transesophageal echocardiography during transanal/perineal endoscopic surgery: a pilot study	Scientific reports	doi.org/10.1038/s41598-022-24888-x, 2022	Matsumoto Y, Hasegawa S, Ohno R, Kajitani R, Munechika T, Nagano H, Komono A, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshida Y, Murayama K, Shigematsu K, Akiyoshi K
2	Relationship between perioperative oncological evaluation and recurrence using circulating tumor DNA with KRAS mutation in patients with colorectal cancer	Cancer Med.	11(16): 3126-3135, 2022	Hayashi T, Yoshida Y, Yamada T, Tanaka K, Shimaoka H, Kajitani R, Munechika T, Nagano H, Matsumoto Y, Komono A, Sakamoto R, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshimura F, Hasegawa S
3	Comparison of oncological outcomes between low anterior resection and abdominoperineal resection for rectal cancer: A retrospective cohort study using a multicenter database in Japan	Eur J Surg Oncol.	48(12): 2467-2474, 2022	Nagano H, Kajitani R, Ohno R, Munechika T, Matsumoto Y, Takahashi H, Aisu N, Kojima D, Yoshimatsu G, Hasegawa S, Kobayashi H, Sugihara K
4	Intraoperative pressure monitoring of the lower leg for preventing compression-related complications associated with the lithotomy position	Surg Endosc.	36(8): 5873-5881, 2022	Kajitani R, Minami M, Kubo Y, Iwaihara H, Takishita Y, Isayama M, Ohno R, Hayashi T, Sasaki T, Matsumoto Y, Nagano K, Komono A, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshida Y, Hasegawa S
5	Crucial Roles of the Assistant Surgeon During Laparoscopic Left Hemihepatectomy	Cureus	14(4): e24050, 2022	Kajiwara M, Ishi F, Sasaki T, Nakashima R, Hasegawa S

6	Standardized Methods Using EUS-guided Fine-needle Biopsy and a Minimal Medium Creates Three Pancreatic Cancer Organoids	Anticancer Research	42(8): 4103-4109, 2022	Ishida Y, Tsunoda T, Hamada Y, Tsuchiya N, Koga T, Kitaguchi T, Matsumoto K, Matsumoto S, Sasaki T, Nakashima R, Ishii F, Kajiwara M, Shirasawa S, Hasegawa S
7	Tissue pad degradation of ultrasonic device may enhance thermal injury and impair its sealing performance in liver surgery	World Journal of Hepatology	14(7): 1357-1364, 2022	Kajiwara M, Fujikawa T, Hasegawa S
8	Impact of AirSeal® insufflation system on respiratory and circulatory dynamics during laparoscopic abdominal surgery	Updates in Surgery	74(6): 2003-2009, 2022	Kajiwara M, Nakashima R, Ishi F, Sasaki T, Hasegawa S
9	Efforts to Address Delays in Approval of Proxy Input for Workstyle Reforms	医療情報学	42(2): 79-86, 2022	Yoshida Y, Nakahara C, Ogawa S, M I, Hasegawa S, Iwasaki A
10	Japanese muticenter prospective study inverstgating laparoscopic surgery for locally advanced rectal cancer with evaluation of CRM and TME quality (PRODUCT trial)	Annals of Gastroenterological Surgery	6(6): 767-777, 2022	Takemasa I, Hamabe A, Ito M, Matoba S, Watanabe J, Hasegawa S, Kotake M, Inomata M, Ueda K, Uehara K, Sakamoto K, Ikeda M, Hanai T, Konishi T, Yamaguchi S, Nakano D, Yamagishi S, Okita K, Ochiai A, Sakai Y, Watanabe M, on behalf of Japan Society of Laparoscopic Colorectal Surgery
11	Risk factors and long-term course of gastroesophageal reflux disease after peroral endoscopic myotomy: A large-scale multicenter cohort study in Japan	Endoscopy	54(9): 839-847, 2022	Shiwaku H, Sato H, Abe H, Shiota J, Sato C, Ominami M, Sakae H, Hata Y, Fukuda H, Ogawa R, Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Hasegawa S, Inoue H
12	The comparative study between right and left sided colonic diverticulitis - retrospetive cohort study	日本外科感染症学会誌	19(2-3): 317-323, 2022	Yamana I, Ohishi J, Murota A, Sahara K, Hashimoto T, Tani H, Hasegawa S
13	Efficacy of peroral endoscopic myotomy for esophageal motility disorders after gastric surgery: Japan Achalasia Multicenter Study	Digestive Endoscopy	34: 1394-1402, 2022	Nakamura J, Sato H, Onimaru M, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, Ogawa R, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi, Takuto H, Inoue H
14	Novel Hemostatic Technique During Laparoscopic Liver Parenchymal Transection: Saline-Linked Electrocautery Combined With Wet Oxidized Cellulose (SLiC-WOC) Method	Cureus	14(7) e27431, 2022	Uemoto Y, Fujikawa T, Kawamoto Y, Kajiwara M

15	Novel Liver Parenchymal Transection Technique Using Saline-linked Monopolar Cautery Scissors (SLiC-Scissors) in Robotic Liver Resection	Cureus	14(8) e28118, 2022	Fujikawa T, Uemoto Y, Matsuoka T, Kajiwara M
16	Is laparoscopic liver resection safe for super-elderly patients (aged ≥80)? A propensity score-matched analysis	Asian J Endosc Surg.	15(2): 279-289, 2022	Naito S, Fujikawa T, Kouno N, Hasegawa S
17	Biweekly TAS-102 and bevacizumab as third-line chemotherapy for advanced or recurrent colorectal cancer: a phase II, multicenter, clinical trial (TAS-CC4 study)	Int J Clin Oncol.	27(12): 1859-1866, 2022	Matsuoka H, Yamada T, Ohta R, Yoshida Y, Watanabe T, Takahashi M, Kosugi C, Fukazawa A, Kuramochi H, Matsuda A, Sonoda H, Yoshida H, Hasegawa S, Sakamoto K, Otsuka T, Hirata K, Koda K, TAS CC4 Study Group
18	Side-overlap esophagogastric tube (SO-EG) reconstruction after minimally invasive Ivor Lewis esophagectomy or laparoscopic proximal gastrectomy for cancer of the esophagogastric junction	Langenbecks Arch Surg.	407(2): 861-869, 2022	Hosogi H, Sakaguchi M, Yagi D, Onishi R, Hashimoto Y, Sakai Y, Kanaya S
19	福岡大学病院におけるがんゲノム医療の現状と取り組み：がんゲノム医療コーディネーターの立場から	福岡大学医学紀要	49(2): 107-113, 2022	常光　好美, 大久保久美子, 田中　俊裕, 吉田陽一郎, 井上　博之, 山田　哲平, 松崎　洋吏, 倉員　正光, 濱崎　　慎, 鍋島　一樹, 高松　　泰
20	Mesenteric traction syndrome - Incidence, impact, and treatment: A systematic scoping review of the literature	Anaesth Crit Care Pain Med.	42(1): 101162, 2023	Olsen A. A, Bazancir L. A, Dahl S., Fukumori D, Shiwaku H, Svendsen L. B, Achiam M. P
21	Learning curve for peroral endoscopic myotomy in therapeutic endoscopy experts and nonexperts: Large single-center experience	Digestive Endoscopy	35(3): 323-331, 2023	Fujiyoshi Y, Inoue H, Fujiyoshi M. R. A, Rodriguez de Santiago E, Nishikawa Y, Toshimori A, Tanabe M, Shimamura Y, Sumi K, Ono M, Shiwaku H, Ikeda H, Onimaru M
22	Comparison of changes in health-related quality of life between elderly and non-elderly patients undergoing elective surgery for colorectal cancer	Int J Colorectal Dis.	doi.org/10.21203/rs.3.rs-2732261/v1	Watanabe T, Ohne R, Kajitani R, Sahara K, Munechika T, Aisu N, Kojima D, Yoshimatsu G, Hasegaewa S

〈症例報告〉

1	Reconstruction with omenal flap and negative pressure wound therapy after total pelvic exenteration of anal fistula cancer: a case report	Surgical Case Reports	doi.org/10.1186/s40792-022-01472-z, 2022	Komono A, Yoshimatsu G, Kajitani R, Matsumoto Y, Aisu N and Hasegawa S
2	Gallbladder Intramucosal Carcinoma Arising in a Cholesterol Polyp: A Case Report	Cureus	14(3) e22898, 2022	Sasaki T, Kajiwara M, Ishii F, Hamada Y, Hasegawa S

3	Endoscopic full-thickness resection of an esophageal leiomyoma located in close proximity to the azygos vein	DEN open	DOI:10.1002/deo2.30, 2022	Shiwaku H, Okada H, Shiwaku A, Tanaka K, Shimaoka H, Maki K, Yoshimura F, Hasegawa S
4	Long-Term Survival of a Patient With Peritoneal Carcinomatosis From Pancreatic Cancer Maintained by Nanoliposomal Irinotecan as Third-Line Chemotherapy	Cureus	14(2) e22355	Nagata K, Kajiwara M, Fujikawa T
5	リンパ節転移を認め，術後早期に肝転移再発した径５mmの直腸神経内分泌腫瘍の１例	日本大腸肛門病学会雑誌	75(1):1-7, 2022	林　貴臣，愛洲　尚哉，大野　龍，梶谷　竜路，松本　芳子，長野　秀紀，薦野　晃，吉松　軍平，吉田陽一郎，長谷川　傑

〈総説〉

1	直腸癌に対する経肛門手術に必要な骨盤解剖	手術	76(5):725-734, 2022	小島　大望，長野　秀紀，梶谷　竜路，松本　芳子，岡田　倫明，長谷川　傑
2	【特集　なかなか学べない良性上部消化管疾患の低侵襲手術】 腹腔鏡下十二指腸分節切除術　水平部・上行部切除（解説）	消化器外科	45(1):73-81, 2022	林　貴臣，吉村　文博，田中　敬太，島岡　秀樹，山田　哲平，槇　研二，長谷川　傑
3	【特集　骨盤内外科解剖を極める】 TMEにおける解剖と工夫について	消化器外科	45(3):261-272, 2022	棟近　太郎，大野　龍，梶谷　竜路，松本　芳子，長野　秀紀，高橋　宏幸，小島　大望，吉松　軍平，長谷川　傑
4	【特集　知っておきたいがんゲノム医療】 各癌種における遺伝子情報に基づく治療選択 大腸癌に対するgenomic approach	消化器外科	45(7):769-774, 2022	吉田陽一郎，山田　哲平，長谷川　傑
5	【特集　大腸癌に対する最新の低侵襲手術】 再発進行直腸腫瘍に対する経肛門／会陰アプローチ	消化器外科	45(10):1133-1144, 2022	松本　芳子，梶谷　竜路，大野　龍，佐原くるみ，棟近　太郎，渡邉　利史，吉松　軍平，長谷川　傑
6	下部消化管　腹腔鏡下結腸右半切除の際に必要な外科解剖	外科	84(5):458-462, 2022	棟近　太郎，梶谷　竜路，松本　芳子，長野　秀紀，吉松　軍平，長谷川　傑
7	食道疾患の診療 Ⅳ　その他の食道疾患の診療 「POEM診療ガイドライン」の概要と最新の知見	臨床消化器内科	37(9):201-209, 2022	塩飽　洋生，岡田　浩樹，塩飽　晃生，長谷川　傑

〈著書〉

1	標準外科学（第16版） 第10章小腸および結腸 H 大腸ポリープ～L 腸閉塞	医学書院	pp.513-539, 2022	長谷川　傑（分担）
2	DS NOW 13 リンパ節郭清手技を究める「下部消化管編」 Ⅱ　左側横行結腸から直腸に行われる腹腔鏡下切除術 下腸間膜動脈根部リンパ節郭清：LCA温存 （S状結腸～直腸に多く行われる手技）	メジカルビュー社	pp.79-90, 2022	薦野　晃，長谷川　傑（分担）

3	安全に施行するための ESD テクニック Ⅱ章 臓器別　2 食道 食道腫瘍に対する ESD の適応・現状と課題	医学書院	pp.54-57, 2022	塩飽　洋生，岡田　浩樹， 塩飽　晃生， 長谷川　傑（分担）
4	がん支持医療テキストブック 末梢神経障害	金原出版	pp.162-166, 2022	吉田陽一郎　他（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） ヘルニア技術認定制度 大腸癌技術認定の立場から	第20回日本ヘルニア学会学術集会	横浜市 6/3-4 2022	長谷川　傑
2	（ワークショップ） T4b 直腸癌に対する Ta/Tp アプローチの有用性と手技の工夫	第35回日本内視鏡外科学会総会	名古屋市 12/8-10 2022	長谷川　傑
3	（ワークショップ） 当院における残胃癌に対する低侵襲手術と短期成績	第35回日本内視鏡外科学会総会	名古屋市 12/8-10 2022	槇　　研二
4	（シンポジウム） POET and POEM related procedures	第103回日本消化器内視鏡学会総会	京都 5/13-15 2022	塩飽　洋生，岡田　浩樹， 塩飽　晃生
5	（国際学会） Patient selection for POEM procedure	10th Regional Webinar on Therapeutic Treatment for Upper GI diseases-ESD & POEM（Online 開催）	5/21 2022	Shiwaku H
6	（国際学会） A walk through POEM procedure	10th Regional Webinar on Therapeutic Treatment for Upper GI diseases-ESD & POEM（Online 開催）	5/21 2022	Shiwaku H
7	（国際学会） Recurrent Achalasia After POEM and Heller's Myotomy	18th ISDE world congress for esophageal disease（Online 開催）	9/26-28 2022	Shiwaku H, Okada H, Shiwaku A, Hasegawa S
8	（国際学会） Tunneled Esophageal ESD	18th ISDE world congress for esophageal disease（Online 開催）	9/26-28 2022	Shiwaku H, Okada H, Shiwaku A, Hasegawa S
9	（シンポジウム） 外科医ならではのサポーティブケア	第７回日本がんサポーティブケア学会学術集会	下関 6/18-19 2022	中島　　亮
10	（パネルディスカッション） 当院における切除不能進行・再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤を使用した治療戦略と今後の展望	第84回日本臨床外科学会総会	福岡 11/24-26 2022	山田　哲平，林　　貴臣， 橋本　恭弘，島岡　秀樹， 槇　　研二，吉村　文博， 吉田陽一郎，長谷川　傑
11	（シンポジウム） 進行胃癌に対する内視鏡下手術の治療実績： 進行胃癌に対するロボット支援手術の短期成績	第84回日本臨床外科学会総会	福岡 11/24-26 2022	島岡　秀樹

〈国内研究助成金〉

1	消化器がんに対する免疫チェックポイント阻害剤治療の腫瘍免疫学的評価とその意義	文部科学省 若手研究	2022	山田　哲平（代表）

〈学会活動〉

1	日本外科学会	代議員	2022	長谷川　傑
2	日本内視鏡外科学会	評議員	2022	長谷川　傑，塩飽　洋生，吉村　文博
3	日本臨床外科学会	評議員	2022	吉村　文博
4	日本肝胆膵外科学会	評議員	2022	梶原　正俊
5	日本がんサポーティブケア学会	評議員	2022	吉田陽一郎
6	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2022	塩飽　洋生

呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学

〈原著〉

1	外科における「男女共同参画社会」の実現に向けての課題	日本外科学会雑誌	123(5)：378-380，2022	白石　武史，岩﨑　昭憲
2	Feasibility study of a novel wireless localization technique using radiofrequency identification markers for small and deeply located lung lesions.	JTCVS Tech	(12)：185-195，2022	Yutaka Y, Sato T, Tanaka S, Miyahara S, Yoshizawa A, Morita S, Date H.
3	Diagnostic and planned salvage pulmonary metastasectomy.	Transl Cancer Res	11(4)：597-598，2022	Hamaji M, Miyata R, Miyahara S.
4	肺移植後の消化管合併症	胸部外科	75(4)：284-289，2022	宮原　　聡，早稲田龍一，佐藤　寿彦，白石　武史
5	Two decades of pulmonary metastasectomy for leiomyosarcoma in Essen.	Ann Surg Oncol	doi：10.1245/s10434-022-11810-y. Online ahead of print. 2022	Hamaji M, Miyata R, Miyahara S.
6	Development of a Novel Material to PromoteWound Healing at Bronchial Defects.	Ann Thorac Surg	doi：10.1016/j.athoracsur.2022.06.026. Online ahead of print. 2022	Ueda Y, Somamoto S, Kawabata S, Midorikawa K, Miyahara S, Waseda R, Shiraishi T, Sato T.
7	Registry report of initial 50 cases at Fukuoka university lung transplant program.	Med Bull Fukuoka Univ	49(2)：77-84，2022	Miyahara S, Waseda R, Nishino N, Midorikawa K, Abe S, Iwanaka T, Ueda Y, Moroga T, Iwashita K, Shigematsu K, Akiyoshi K, Hayashida Y, Minematsu N, Wada H, Hirano R, Fujita M, Kushima H, Ishi H, Inoue M, Nishimura S, Iwaki R, Hiratsuka M, Toubou E, Sato T, Shiraishi T.

8	Use of a radiofrequency identification system for precise sublobarresection of small lung Cancers.	Surg Endosc	doi：10.1007/s00464-022-09768-9. Epub. 2022	Ueda Y, Mitsumata S, Matsunaga H, Kaneda S, Midorikawa K, Miyahara S, Tokuishi K, Nakajima H, Waseda R, Shiraishi T, Sato T.
9	Reporting guidelines for surgical technique could be improved: a scoping review and a call for action.	J Clin Epidemiol	doi：10.1016/j.jclinepi.2022.11.012. Online ahead of print. 2022	Shi Q, Ma Y, Zhang X, Jiao P, Zhang K, Barchi LC, Bedetti B, Wu J, Wei B, Ng CSH, Toker A, Shen J, Fruscio R, Gilbert S, Petersen RH, Hochwald S, Štupnik T, Elkhayat H, Scarci M, Levi Sandri GB, Abu Akar F, Waseda R, Sihoe ADL, Fiorelli A, Gonzalez M, Davoli F, Li GS, Tang X, Qiu B, Wang SD, Chen Y, Gao S.

〈症例報告〉

1	繰り返す血気胸で診断に至った Ehlers-Danlos syndrome の一例	呼吸器外科雑誌	36(2)：167-172，2022	西野菜々子，宮原　聡，岩中　剛，阿部　創世，白石　武史，佐藤　寿彦
2	A Rare Case of Tracheal Crystal-Storing Histiocytosis Associated with Marginal Zone Lymphoma of Mucosa-Associated Lymphoid Tissue.	Int J Surg Pathol	30(5)：543-550，2022	Kimura S, Oyama Y, Ziyao W, Waseda R, Nishino N, Sakata T, Takeshita M.

〈総説〉

1	中間位・高位鎖肛における長期術後排便機能評価	小児外科雑誌	54(4)：709-714，2022	齋藤　傑，渕本　康史，廣瀬龍一郎，中田　光政，藤村　匠，藤野　明浩，上野　滋，黒田　達夫，田口　智章

〈著書〉

1	胸部画像診断と呼吸器外科手術『3 術後の画像診断：間質性肺炎合併例での術後急性増悪』	学研メディカル秀潤社	p226-234，2022	佐藤　寿彦

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 間質性肺疾患に対する肺移植の現状と課題	第88回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会九州支部 春季学術講演会	福岡 3/19 2022	宮原　聡
2	（パネルディスカッション） Why is it so good? Mystery of Japanese Lung Transplantation	The 75th Annual Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery	Yokohama Oct.5-8 2022	白石　武史
3	（ワークショップ） 腹腔鏡下噴門形成術の新たな認識：横隔食道靱帯の fascia 構造を攻略する	第59回日本小児外科学会学術集会	東京 5/19 2022	廣瀬龍一郎
4	（主題講演） 組織との会話２～微細解剖を見極める～「癒着・瘢痕からの血管剥離」	第76回手術手技研究会	佐賀 5/21 2022	白石　武史

5	（パネルディスカッション） 間質性肺炎合併肺癌の周術期マネジメント「間質性肺炎合併肺癌患者にたいする外科治療～REVEAL-IP 報告～」	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	東京 5/21 2022	佐藤　寿彦
6	（特別講演） 腹腔鏡下噴門形成術：1）横隔食道靱帯のファッシア構造の攻略とラテラルアプローチ	第59回日本小児外科学会学術集会〈第12回小児内視鏡外科手術セミナー〉	東京 5/21 2022	廣瀬龍一郎
7	（特別講演） 他科手術と血管外科「胸部外科での血行再建を伴う手術手技と考え方～呼吸器外科の場合～」	第50回日本血管外科学会学術総会	北九州（福岡） 5/25 2022	白石　武史
8	（シンポジウム） 肺末梢小型病変－検診から内視鏡治療まで－「Navigational Bronchoscopy が外科治療をかえる～診断とその先へ」	第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	岐阜 5/27 2022	佐藤　寿彦
9	（招待講演） 小児に対する腹腔鏡下噴門形成術－横隔食道靭帯の fascia 構造の攻略と突破戦略	第58回日本小児外科学会近畿地方会	大阪 8/27 2022	廣瀬龍一郎
10	（シンポジウム） 生体内再生を促す自己組織化人工気管の研究	第75回日本胸部外科学会定期学術集会	横浜 10/6 2022	上田雄一郎
11	（主題セッション；特別企画テクノアカデミー） 高位良性気道狭窄に対する根治的気道切除再建術－症例選択から術式の knack&pitfalls を考える－	第75回日本胸部外科学会定期学術集会	横浜 10/7 2022	早稲田龍一
12	（シンポジウム） 間質性肺炎合併肺癌の治療戦略「間質性肺炎合併肺癌に対する手術治療～周術期とその長期成績」	第89回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会 九州支部秋季学術講演会	Web 10/14 2022	佐藤　寿彦
13	（シンポジウム） 噴門形成術　横隔食道靱帯のファッシア構造の攻略とラテラルアプローチ	第35回日本内視鏡外科学会総会	名古屋 12/9 2022	廣瀬龍一郎
14	（特別講演） 私の得意技，伝えたい経験４「癒着剥離」	第63回日本肺癌学会九州支部学術集会	長崎 2/10 2023	白石　武史
15	（シンポジウム） 若手外科医に伝えたい肺移植手術での気管支吻合の経験	第63回日本肺癌学会九州支部学術集会・第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会	長崎 2/10-11 2023	宮原　　聡
16	（ワークショップ） 間質性肺炎合併肺癌の急性増悪に挑む「間質性肺炎合併肺癌に対する手術治療～周術期とその長期成績」	第63回日本肺癌学会学術集会	Hybrid（福岡） 12/3 2022	佐藤　寿彦
17	（ワークショップ） 手術支援ロボット戦国時代－新規ロボットの紹介「触覚機能はロボット支援下手術で最適化された把持力を提供する～空気圧駆動ロボット・SaroaTM」	第35回日本内視鏡外科学会総会	名古屋 12/9 2022	佐藤　寿彦
18	（ガイドライン公聴会） JSES ガイドライン 2023年版　呼吸器外科領域「臨床病期Ⅰ期非小細胞肺癌に対して，単孔式胸腔鏡下肺葉切除を行っても良いか?」	第35回日本内視鏡外科学会総会	名古屋 12/10 2022	白石　武史

19	（シンポジウム） Surgical treatment for idiopathic subglottic stenosis -Japanese experience	4th Vienna-ESTS Laryngotracheal Symposium	Vienna（Austria） 3/2 2023	早稲田龍一

〈国内研究助成金〉

1	難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期の QOL 向上に関する研究	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業	2022	廣瀬龍一郎 （代表者：田口　智章）
2	呼吸器外科におけるビタミン B2に特化した蛍光ナビゲーションシステムの開発・検証	文部科学省 科研費基盤 C	2022	早稲田龍一（代表）
3	新規蛍光装置を使用したビタミン B2ガイド下手術の確立と実用化に向けた取り組み	文部科学省 科研費基盤 C	2022	早稲田龍一（代表）
4	浮遊性肺癌細胞株を用いた経肺胞腔内浸潤機序の解明	公益財団法人がん研究振興財団　がん研究助成金	2022	中島　裕康（代表）
5	原発性肺癌における肺胞腔内浸潤形式の解明	第30回黒住医学研究振興財団研究助成金	2022	中島　裕康（代表）
6	肺胞腔浮遊性肺癌細胞塊の経時的解析による予後診断バイオマーカーの探索	基盤研究(C)（一般）	2022	中島　裕康（代表）
7	小児固形悪性腫瘍に対する超音波硬度計測における組織硬度と病理学的分子生物学的解析	文部科学省 科研費基盤 C	2022	渋井　勇一 （代表者：宗崎　良太）
8	INI1蛋白陰性悪性腫瘍における FOXM1の発現解析と新たな治療法の解明	文部科学省 若手研究	2022	渋井　勇一（代表）

〈学会活動〉

1	日本胸部外科学会	評議員	2022	白石　武史，佐藤　寿彦，早稲田龍一
2	日本肺癌学会	評議員	2022	白石　武史，佐藤　寿彦
3	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会	評議員	2022	白石　武史
4	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2022	白石　武史，佐藤　寿彦，早稲田龍一
5	日本呼吸器外科学会	評議員	2022	白石　武史，佐藤　寿彦，早稲田龍一，徳石　恵太，上田雄一郎
6	日本内視鏡外科学会	評議員	2022	白石　武史，廣瀬龍一郎，早稲田龍一
7	日本肺及び心肺移植研究会	幹事	2022	白石　武史
8	日本気管食道科学会	評議員	2022	白石　武史
9	日本移植学会	評議員	2022	白石　武史
10	日本小児外科学会	評議員	2022	廣瀬龍一郎
11	日本乳癌学会	評議員	2022	吉永　康照
12	日本オンコプラスティックサージャリー学会	評議員	2022	吉永　康照
13	日本臨床外科学会	評議員	2022	早稲田龍一

14	呼吸器胸腔鏡手術研究会	評議員	2022	早稲田龍一
15	Pleural disease working group of ESTS（欧州胸部外科学会）	評議員	2022	早稲田龍一

〈研究に関係した賞〉

1	血行再建を伴うロボット支援下左上葉切除の１例	第55回日本胸部外科学会九州地方会総会 最優秀賞	2022	松永　晴貴
2	奇静脈瘤破裂に対し外科的切除術を施行した１例	第55回日本胸部外科学会九州地方会総会 優秀賞	2022	三股　頌平
3	触覚のあるロボットによる胸部手術～空気圧駆動ロボット・サロア前臨床試験の結果から～	第15回日本ロボット外科学会学術集会 優秀演題賞	2023	佐藤　寿彦

心臓血管外科学

〈原著〉

1	15-year outcomes of the JOCRI study (JOCRIED study): a randomised comparison of off-pump and on-pump multiple arterial coronary revascularisation	Gen Thorac Cardiovasc Surg	71(3): 151-157, 2023	Naoki Tadokoro, Satsuki Fukushima, Kimito Minami, Yusuke Shimahara, Naonori Kawamoto, Takashi Kakuta, Satoshi Numata, Hitoshi Yaku, Hirofumi Takemura, Kenji Iino, Masami Ochi, Yosuke Ishii, Hideichi Wada, Noritoshi Minematsu, Hideyuki Shimizu, Junjiro Kobayashi, Tomoyuki Fujita

〈症例報告〉

1	多診療科の連携で肺高血圧緊急症から両側生体肺移植に繋ぎ救命し得た間質性肺炎の一例	福岡大学医学紀要	49(1): 33-39, 2022	早稲田龍一，宮原　聡， 西野菜々子，岩中　剛， 緑川　健介，阿部　創世， 上田雄一郎，佐藤　寿彦， 重松　研二，秋吉浩三郎， 林田　好生，和田　秀一， 川平　悠人，加藤　悠太， 三浦伸一郎，藤田　昌樹， 當房　悦子，白石　武史
2	下肢静脈瘤シアノアクリレート血管内塞栓術後の遅発型アレルギーによりグルー充填静脈全抜去に至った一例	日本血管外科学会雑誌	31: 123-127, 2022	中山真悠子，鈴木　博之， 和田　秀一

〈総説〉

1	Response to Letter by Nakamura, et al. regarding the article, "Benefits and Risks of Delayed Surgery for Ventricular Septal Rupture after Acute Myocardial Infarction"	International Heart Journal	63: 1216, 2022	Masato Furui, Yoshihiko Sakurai, Bunpachi Kakii, Mai Asanuma, Hiroaki Nishioka, Takeshi Yoshida

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	広範囲胸腹部大動脈瘤に対する私たちの戦略（一期手術，二期手術，ハイブリッドなど）当院における胸腹部大動脈手術戦略とその成績：パネルディスカッション２ ｢胸部｣ 広範囲腹部大動脈瘤に対する私たちの戦略	第50回日本血管外科学会	小倉 5/25-5/27 2022	桑原　豪

〈学会活動〉

1	日本血管外科学会	理事・編集委員	2022	和田　秀一
2	日本心臓血管外科学会	評議員	2022	和田　秀一
3	日本胸部外科学会	評議員	2022	和田　秀一
4	日本外科学会	代議員	2022	和田　秀一
5	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases（GTCC）	編集委員	2022	和田　秀一

脳神経外科学

〈原著〉

1	後頭蓋窩・頭蓋頚椎移行部の解剖	脳神経外科	50(3)： 525-534， 2022	安部　洋，井上　亨
2	Unilateral GPi-DBS Improves Ipsilateral and Axial Motor Symptoms in Parkinson's disease as evidenced by a brain perfusion SPECT study.	Frontiers in Human Neuroscience.	16：888701， 2022 May 11	Hayashi Y, Mishima T, Fujioka S, Morishita T, Inoue T, Nagamachi S, Tsuboi Y.
3	Hybrid Assistive Limb® 腰タイプを用いた慢性腰痛・フレイル患者に対するバイオフィードバック療法	脊椎脊髄ジャーナル	35(5)： 327-332， 2022	小谷　尚也，森下　登史， 安部　洋，井上　亨， 鎌田　聡
4	Pain Relief Following Selective Tibial Neurotomy for Spastic Equinus Foot Secondary to Stroke and Traumatic Brain Injury.	World Neurosurgery	166： 583-589， 2022	Oda K, Morishita T (Corresponding Author), Yatsugi A, Miki K, Uchiyama T, Tanaka H, Abe H, Inoue T.

〈症例報告〉

1	A case of pituitary adenoma with infiltration into the sphenoid sinus accompanied by melanocyte proliferation	Clinical Neuropathology	41(4)： 179-184， 2022	Enomoto T, Aoki M, Takahara M, Nonaka M, Abe H, Inomoto C, Inoue T, Nabeshima K.
2	Favorable management of symptomatic cerebellar hemangioblastoma presenting with obstructive hydrocephalus during pregnancy: a case report and literature review.	Surgical Neurology International.	13(174)： DOI：10.25259/ SNI_105_2022	Oda K, Amamoto T, Enomoto T, Koga T, Irie Y, Kobayashi H, Morishita T, Iwaasa M, Abe H, Inoue T.
3	胸椎椎弓に発生した intraosseous schwannoma の１例	脊髄外科	36(2)： 191-195， 2022	古賀　隆之，松本順太郎， 入江由希乃，小林　広昌， 吉永進太郎，榎本　年孝， 安部　洋，井上　亨

4	Case Report: Radiofrequency Thalamotomy as Palliative Care for Holmes Tremor in a Patient with Terminal Cancer and Cardiac Pacemaker.	Surgical Neurology International	13(484) DOI:10.25259/SNI_618_2022	Oda K, Morishita T (Corresponding Author), Tanaka T, Kobayashi H, Abe H.
5	迷走神経刺激電極の交換により発作軽減が得られた２例	脳神経外科速報	33(2): e17-e24, 2023	田中　秀明，森下　登史， 安部　　洋

〈総説〉

1	In Reply to the Letter to the Editor Regarding "Functional Prognosis Following Temporal Bone Chondroblastoma Resection: A Systematic Review and a Case Illustration"	World Neurosurg	160(4): 119, 2022	Enomoto T, Morishita T, Abe H, Inoue T.
2	精神神経疾患に対する外科治療の国際的動向	医学のあゆみ	281(4): 342-344, 2022	森下　登史，安部　　洋， 井上　　亨
3	Tourette syndrome:tripartite considerations in DBS Response	J Neurosurg	137(10): 1199, 2022	Morishsita T., Sakai Y.
4	第１回 とりあえず論文を書いてみよう！	脳神経外科	50(5): 1118-1121, 2022	森下　登史
5	第２回 論文で日常診療の「なぜ？」について書こう	脳神経外科	50(6): 1374-1377, 2022	森下　登史
6	第３回 印象に残る論文とは？	脳神経外科	51(1): 177-181, 2023	森下　登史
7	第４回 論文執筆において守るべきルール	脳神経外科	51(2): 366-371, 2023	森下　登史

〈著書〉

1	血栓回収療法リニューアル（編 太田剛史／監 吉村紳一）第６章 臨床現場で遭遇する迷う situation でどうするか　②正常血管変異を有する主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法	メディカ出版	pp.230-234, 2022	竹本光一郎（分担）
2	脳卒中治療 Controversy 「中大脳動脈灌流領域梗塞例で減圧開頭術を行う場合，いつ施行するか？」	中外医学社	pp.172-175, 2023	森下　登史， 井上　　亨（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	未破裂 Acom 動脈瘤	脳血管外科フォーラム	大阪 7/22-23, 2022	安部　　洋
2	（シンポジウム） Normative Connectomic Analysis of Deep Brain Stimulation Effects.	The 19th Biennial Meeting of the World Society for Stereotectic and Functional Neurosurgery	Incheon, Korea 09/04-07 2022	Morishita T., Sakai Y.

3	General Principles and Recent Topics in Spasticity Treatment.	The 19th Biennial Meeting of the World Society for Stereotectic and Functional Neurosurgery	Incheon, Korea 09/04-07 2022	Morishita T.
4	（シンポジウム） 脳神経外科医が診る神経障害性疼痛 ～末梢から中枢まで～	Pain Live Symposium ～脳神経疾患の疼痛治療を再考する～	福岡＋ WEB 8/8, 2022	森下　登史
5	（シンポジウム） 顕微鏡下での特発性足根管症候群に対する後脛骨動脈移所術の手術成績と問題点	日本脳神経外科学会 第81回学術総会	横浜 9/28-10/1 2022	藤原　史明，井須　豊彦，金　景成，田尻　崇人，竹山　龍平，神﨑　由起，福田　健治，林　修司，磯部　正則，井上　亨，安部　洋
6	（シンポジウム） パーキンソン病に対する adaptive DBS の現状：利点と問題点	日本脳神経外科学会 第81回学術総会	横浜 9/28-10/1 2022	森下　登史，安部　洋
7	（シンポジウム） もやもや病における前大脳動脈領域に症候を来した症例の側副血行路と治療戦略	日本脳神経外科学会 第81回学術総会	横浜 9/28-10/1 2022	小林　広昌，河野　大，入江由希乃，堀尾　欣伸，福本　博順，榎本　年孝，天本　宇昭，森下　登史，野中　将，岩朝　光利，安部　洋
8	Direct Surgery of complex cerebral aneurysms	10th European-Japanese Cerebrovascular Congress	Kyoto, Japan 11/13-16 2022	Abe H.
9	IC-PC 動脈瘤/IC-Acho.a.動脈瘤	脳血管外科フォーラム	大阪 1/20-21, 2023	安部　洋
10	脳神経外科手術の剥離操作～基本と応用～	脳血管外科フォーラム	大阪 1/20-21, 2023	安部　洋

〈国内研究助成金〉

1	パーキンソン病重症度を示す生体指標の確立による脳深部刺激条件最適化方法開発	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2022	森下　登史
2	計算論モデルと脳神経画像解析によるトゥレット症重症化機序の解明	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2022	森下　登史
3	トゥレット症候群に対する脳深部刺激電極挿入における最適部位の同定	医療法人小西第一病院 受託研究	2022	安部　洋（代表）， 森下　登史（分担）
4	てんかん発作伝播における大脳基底核ネットワーク機能の解明	公益財団法人 武田科学振興財団 医学系研究奨励（精神・神経・脳領域）	2022	森下　登史

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	微小脳神経外科解剖セミナー in 福岡2022	福大メディカルホール	2/5, 2022	安部　洋
2	第16回九州・山口ニューロスパイン研究会	博多 JR シティ会議室	4/2, 2022	安部　洋
3	Neurosurgery Meeting in Fukuoka	KKR ホテル博多	7/27, 2022	安部　洋

4	Pain Live Symposium ～脳神経疾患の疼痛治療を再考する～	WEB	8/8, 2022	安部　洋
5	七隈脳疾患セミナー	WEB	9/6, 2022	安部　洋
6	Neurosurgery Hnads on Workshop in Fukuoka 2022	福岡大学医学部本館３階 A 会議室	9/17, 2022	安部　洋
7	福岡大学脳神経外科講演会	WEB	9/22, 2022	安部　洋
8	第１回福岡大学脳神経外科ニューロスパイン研究会	福岡大学医学部本館３階 A 会議室	10/7, 2022	安部　洋
9	福岡大学病院 脳神経外科 市民講座 ～脳神経外科の最先端手術～	福大メディカルホール	10/22, 2022	安部　洋
10	第13回福岡脳神経核医学研究会	WEB	11/17, 2022	安部　洋
11	第17回九州・山口ニューロスパイン研究会	博多オリエンタルホテル	11/19, 2022	安部　洋
12	脳神経外科手術セミナー2022 in Fukuoka	WEB	12/7, 2022	安部　洋
13	Expert Neurosurgeon Meeting	WEB	12/16, 2022	安部　洋

〈学会活動〉

1	日本脳神経外科学会	代議員	2022	安部　洋，野中　将
2	日本脳神経外科学会	評議員	2022	安部　洋，野中　将， 森下　登史，小林　広昌， 天本　宇昭，榎本　年孝， 堀尾　欣伸，河野　大， 入江由希乃
3	日本脳卒中の外科学会	代議員	2022	安部　洋 小林　広昌
4	日本脳卒中学会	評議員	2022	安部　洋，竹本光一郎 小林　広昌
5	日本微小脳神経外科解剖研究会	代表世話人・幹事	2022	安部　洋，小林　広昌
6	International Rhoton Society	評議員，副会長	2022	安部　洋
7	World Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery	理事	2022	森下　登史
8	日本脳神経外科コングレス	理事	2022	森下　登史
9	日本ニューロモデュレーション学会	評議員	2022	森下　登史
10	日本定位・機能神経外科学会	評議員	2022	森下　登史

〈研究に関係した賞〉

1	下肢痙縮に対する選択的脛骨神経縮小術の機能回復および疼痛改善	定位・機能脳神経外科学会 平孝臣賞	2023	小田　一徳

整形外科学

〈原著〉

1	Prognostic factors and clinical features in metacarpophalangeal joint hyperextension after ligament reconstruction with trapeziectomy: A retrospective cohort study.	J Orthop Sci.	2022 Apr 13: S0949-2658(22)00077-X. doi:10.1016/j.jos.2022.03.010.	Tanaka H, Soejima O, Muraoka K, Tanaka Y, Yamamoto T.
2	Rate of Return to Work After Periacetabular Osteotomy and Its Influencing Factors.	J Bone Joint Surg Am.	2022 Apr 20; 104(8):732-738. doi:10.2106/JBJS.21.00548.	Fujita J, Doi N, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Yamamoto T.
3	Are there differences in arthroscopic and histological features between traumatic and degenerative rotator cuff tears in elderly patients? A prospective dual-center analysis.	J Orthop Surg Res.	2022 Apr 7; 17(1):206. doi:10.1186/s13018-022-03100-w.	Shibata T, Izaki T, Nishio J, Miyake S, Arashiro Y, Minamikawa T, Minokawa S, Shibata Y, Yamamoto T.
4	Reliability of various diastasis measurement methods on weightbearing radiographs in patients with subtle Lisfranc injuries.	Skeletal Radiol.	2022 Apr; 51(4):801-806. doi:10.1007/s00256-021-03892-8.	Sugino Y, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Nagatomo M, Yamamoto T.
5	Biological insights into systemic lupus erythematosus through an immune cell-specific transcriptome-wide association study.	Ann Rheum Dis.	2022 May 24; 81(9):1273-80. doi:10.1136/annrheumdis-2022-222345.	Yin X, Kim K, Suetsugu H, Bang SY, Wen L, Koido M, Ha E, Liu L, Sakamoto Y, Jo S, Leng RX, Otomo N, Kwon YC, Sheng Y, Sugano N, Hwang MY, Li W, Mukai M, Yoon K, Cai M, Ishigaki K, Chung WT, Huang H, Takahashi D, Lee SS, Wang M, Karino K, Shim SC, Zheng X, Miyamura T, Kang YM, Ye D, Nakamura J, Suh CH, Tang Y, Motomura G, Park YB, Ding H, Kuroda T, Choe JY, Li C, Niiro H, Park Y, Shen C, Miyamoto T, Ahn GY, Fei W, Takeuchi T, Shin JM, Li K, Kawaguchi Y, Lee YK, Wang YF, Amano K, Park DJ, Yang W, Tada Y, Lau YL, Yamaji K, Zhu Z, Shimizu M, Atsumi T, Suzuki A, Sumida T, Okada Y, Matsuda K, Matsuo K, Kochi Y; Japanese Research Committee on Idiopathic Osteonecrosis of the Femoral Head, Yamamoto K, Ohmura K, Kim TH, Yang S, Yamamoto T, Kim BJ, Shen N, Ikegawa S, Lee HS, Zhang X, Terao C, Cui Y, Bae SC.

6	Suspension arthroplasty using the palmaris longus tendon with a suture button for thumb trapeziometacarpal arthritis: a retrospective observational study.	J Orthop Sci.	2022 Jun 8:S0949-2658 (22)00124-5. doi:10.1016/j. jos.2022.05.004.	Tanaka H, Muraoka K, Tanaka Y, Yamamoto T.
7	Computational Analysis of Strength and Fracture Location of Different Types of Femurs under Falling Condition using CT-Image based Finite Element Method	Int. J. of Orth.	2022 June 28;9(3): 1669-1675	Zaw Linn Htun, Mitsugu Todo, Manabu Tsukamoto, Takuaki Yamamoto, Masaaki Mawatari, Yasuharu Nakashima
8	The 2021 Association Research Circulation Osseous Classification for Early-Stage Osteonecrosis of the Femoral Head to Computed Tomography-Based Study.	J Arthroplasty.	2022 Jun;37(6): 1074-1082. doi:10.1016/j. arth.2022.02. 009.	Koo KH, Mont MA, Cui Q, Hines JT, Yoon BH, Novicoff WM, Lee YJ, Cheng EY, Drescher W, Hernigou P, Kim SY, Sugano N, Zhao DW, Ha YC, Goodman SB, Sakai T, Jones LC, Lee MS, Yamamoto T, Lee YK, Kang Y, Burgess J, Chen D, Quinlan N, Xu JZ, Park JW, Kim HS.
9	Combined use of beta-tricalcium phosphate with different porosities can accelerate bone remodelling in open-wedge high tibial osteotomy.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol.	2022 Jul 5:29:30-34. doi:10.1016/j. asmart. 2022.05.004.	Sasaki S, Maeyama A, Kiyama T, Kamada S, Kobayashi T, Ishii S, Yamamoto T.
10	Prognostic Factors of Pulmonary Metastasectomy for Soft Tissue Sarcomas Arising in the Trunk Wall and Extremities.	Cancers (Basel).	2022 Jul 8;14(14):3329. doi:10.3390/ cancers14143329.	Nakayama S, Kobayashi E, Nishio J, Toda Y, Yotsukura M, Watanabe SI, Yamamoto T, Kawai A.
11	Evaluation of the hindfoot alignment before and after total knee arthroplasty.	J Clin Orthop Trauma.	2022 Jul 9:31:101947. doi:10.1016/j. jcot.2022. 101947.	Yamasaki Y, Maeyama A, Miyazaki K, Ishimatsu T, Yoshimura I, Yamamoto T.
12	Mechanical Influence of Pubic Nonunion on the Stress Distribution After Curved Periacetabular Osteotomy: Patient-Specific Three-Dimensional Finite Element Analysis.	J Arthroplasty.	2022 Jul; 37(7):1390-1395. doi:10.1016/j. arth.2022. 02.071.	Doi K, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Matsunaga T, Yamamoto T.
13	Traumatic cervical spinal cord injury after cervical laminoplasty for ossification of posterior longitudinal ligament: a case series.	Spinal Cord.	2022 Aug; 60(8):701-705. doi:10.1038/ s41393-022- 00769-y.	Kaneyama H, Morishita Y, Kawano O, Yamamoto T, Maeda T.
14	Utility of anterior wall of greater trochanter in predicting femoral anteversion angle: a three-dimensional computed tomography-based simulation study.	J Orthop Surg Res.	2022 Sep 10;17(1):412. doi:10.1186/ s13018-022- 03313-z.	Suzuki M, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Kinoshita S, Yoshimura I, Yamamoto T.

15	Changes in patellar baja progress until 3 months after medial open-wedge high tibial osteotomy.	J Orthop Surg (Hong Kong).	2022 Sep-Dec; 30(3): 10225536221128615. doi:10.1177/ 10225536221128615.	Kudo Y, Maeyama A, Ishimatsu T, Matsunaga T, Hara J, Arima H, Yamamoto T.
16	Clinical outcomes of hybrid closed wedge high tibial osteotomy for advanced osteoarthritis of the knee compared with total knee arthroplasty.	J Orthop Surg (Hong Kong).	2022 Sep-Dec; 30(3): 10225536221137754. doi:10.1177/ 10225536221137754.	Ishimatsu T, Takeuchi R, Ishikawa H, Maeyama A, Osawa K, Kimura N, Yamamoto T.
17	Effect of the posterior sagging control device to the posterior tibial translation during posterior-stabilized total knee arthroplasty with modified gap technique.	J Orthop Surg (Hong Kong).	2022 Sep-Dec; 30(3): 10225536221144715. doi:10.1177/ 10225536221144715.	Maeyama A, Asayama I, Ishimatsu T, Yamamoto T.
18	Ankle bone morphology affects the size of non-trauma related osteochondral lesions of the talus in skeletally immature children.	J Orthop Sci.	2022 Nov 30:S0949-2658 (22)00329-3. doi:10.1016/j. jos.2022.11.016.	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, Hagio T, Minokawa S, Nagatomo M, Sugino Y, Yamamoto T.
19	The influence of bone marrow edema for the assessment of the boundaries of necrotic lesions in patients with osteonecrosis of the femoral head.	Sci Rep.	2022 Nov 4;12(1):18649. doi:10.1038/ s41598-022-23427-y.	Ikemura S, Motomura G, Yamaguchi R, Utsunomiya T, Hamai S, Fujii M, Kawahara S, Sato T, Hara D, Shiomoto K, Yamamoto T, Nakashima Y.
20	Excessively High Repair Tension Decreases Microvascular Blood Flow Within the Rotator Cuff.	Am J Sports Med.	2022 Nov;50(13): 3643-3648. doi:10.1177/ 03635465221125939.	Miyake S, Izaki T, Arashiro Y, Kobayashi S, Shibata Y, Shibata T, Yamamoto T.
21	Predicting motor function recovery in cervical spinal cord injury-induced complete paralysis with reflex response.	Spinal Cord.	2022 Nov;60(11): 1020-1022. doi:10.1038/ s41393-022-00821-x.	Kaneyama H, Kawano O, Morishita Y, Yamamoto T, Maeda T.
22	Femoral morphology affects postoperative alignment of the lower extremities in hybrid closed-wedge high tibial osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg.	2022 Dec; 142(12): 3675-3685. doi:10.1007/ s00402-021-03974-1.	Ishimatsu T, Takeuchi R, Ishikawa H, Maeyama A, Osawa K, Yamamoto T.
23	Soft tissue stabilization of the hinge position in medial closed wedge distal femoral osteotomy: an anatomical study.	BMC Musculoskelet Disord.	2022 Dec 19;23(1):1105. doi:10.1186/ s12891-022-06078-y.	Oda T, Maeyama A, Yoshimura I, Ishimatsu T, Miyazaki K, Tachibana K, Yoshimitsu K, Yamamoto T.
24	Computational Analysis of Femoral Strength and Fracture Location of Normal, Osteoarthritis and Avascular Necrosis Femurs using CT-Image based Finite Element Method	Research Article of American Journal of Orthopedic Research and Reviews	2022, 5: 32	Zaw Linn Htun, Mitsugu Todo, Manabu Tsukamoto, Takuaki Yamamoto, Masaaki Mawatari, Yasuharu Nakashima

25	Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects.	Foot Ankle Surg.	2023 Jan 7:S1268-7731 (23)00004-8. doi:10.1016/j. fas.2023.01.003.	Sugino Y, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Nagatomo M, Yamamoto T.
26	Influence of hindfoot alignment on postoperative lower limb alignment in medial opening wedge high tibial osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg.	2023 Jan; 143(1):81-90. doi:10.1007/ s00402-021- 04001-z.	Miyazaki K, Maeyama A, Yoshimura I, Kobayashi T, Ishimatsu T, Yamamoto T.
27	Femoral nerve status during the anterolateral approach for total hip arthroplasty: Motor-evoked potential analysis and an influencing factor	J Orthop Sci.	2023 Jan; 28(1):152-155. doi:10.1016/j. jos.2021.09.007.	Kinoshita S, Ishimatsu T, Suzuki M, Seo H, Sakamoto T, Kinoshita K, Yamamoto T.
28	GLUT-1 expression is helpful to distinguish myxofibrosarcoma from nodular fasciitis.	Histol Histopathol.	2023 Jan; 38(1):47-51	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Koga K, Nabeshima K, Yamamoto T.
29	The reproducibility of MTV and TLG of soft tissue tumors calculated by FDG-PET: Comparison between the lower limit by the fixed value SUV 2.5 and that value by 30% of SUVmax.	Jpn J Radiol.	2023 Jan 13. doi:10.1007/ s11604-022- 01378-8.	Iwasa H, Nagamachi S, Nakayama S, Yamamoto T, Yoshimitsu K.
30	Clinical Outcomes for Total Hip Arthroplasty with and without Previous Curved Periacetabular Osteotomy.	J Clin Med.	2023 Jan 15;12(2):694. doi:10.3390/ jcm12020694.	Kinoshita K, Seo H, Matsunaga T, Doi K, Yamamoto T.
31	Short-term outcomes of curved periacetabular osteotomy and factors influencing patient dissatisfaction	Journal of Hip Preservation Surgery	2023, 00, 1-7 Doi:https://doi. org/10.1093/ jhps/hnac054 Published: 25 January 2023	Suzuki, M., Kinoshita, K., Sakamoto, T., Seo, H., Yoshimura, I., & Yamamoto, T.
32	Efficacy of bone marrow stimulation for arthroscopic knotless suture bridge rotator cuff repair: A prospective randomized controlled trial.	J Shoulder Elbow Surg.	2023 Feb 13:S1058-2746 (23)00080-0. doi:10.1016/j. jse.2023.01.016.	Shibata T, Izaki T, Miyake S, Shibata Y, Yamamoto T.
33	The role of torsional stress in the development of subchondral insufficiency fracture of the femoral head: A finite element model analysis.	J Orthop Sci.	2023 Feb 21:S0949-2658 (23)00023-4. doi:10.1016/j. jos.2023.02.004.	Fujita J, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Doi K, Yamamoto T.
34	Side-to-side variability in the femoral neck anteversion angle: A study of the Japanese population with osteonecrosis of the femoral head.	J Orthop Sci.	2023 Mar 4:S0949-2658 (23)00059-3.	Suzuki M, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Doi K, Yoshimura I, Yamamoto T.
35	Minimum two-year results of total hip arthroplasty using a short tapered-wegde stem.	福岡大学医学紀要 (Med. Bull. Fukuoka Univ.)	2022, 49(1): 5-9	Kinoshita S, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Suzuki M, Fujita J, Doi K, Yamamoto T.
36	Retern to sports and physical activities after minimally invasive disital linear matatarsal osteotomy for hallux valgus.	福岡大学医学紀要 (Med. Bull. Fukuoka Univ.)	2022, 49(1): 11-17	Nagatomo M, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Yamamoto T.

37	The efficacy of add-on iguratimod for patients with rheumatoid arthritis who inadequately responded to methotrexate.	福岡大学医学紀要 (Med. Bull. Fukuoka Univ.)	2022, 49(1): 19–28	Yamasaki Y, Maeyama A, Ishikawa K, Ishikawa J, Muraoka K, Hagio T, Miyake K, Himuro N, Yamamoto Y.
38	Factors associated with scapular notching in revers shoulder arthroplasty.	福岡大学医学紀要 (Med. Bull. Fukuoka Univ.)	2022, 49(1): 29–32	Arashiro Y, Izaki T, Miyake S, Kobayashi S, Yoshimura I, Yamamoto T.
39	Clinical Results of Two-Stage Surgery for Intra-Articular Fractures of the Distal 3 Tibia Using Temporary Fixation with a Simplified Ilizarov External Fixator	福岡大学医学紀要 (Med. Bull. Fukuoka Univ.)	50(1): 11–16, 2023	Ishibashi T, Kinoshita K, Nakamura A, Onoue H, Yamamoto T
40	Relationship Between Early Postoperative Activities of Daily Living and Bony Contact of the Anteromedial Bone Cortex Following Femoral Trochanteric Fracture	福岡大学医学紀要 (Med. Bull. Fukuoka Univ.)	50(1): 1–9, 2023	Tokura S, Kanazawa K, Maeyama A, Izumi H, Urata K, Imakiire K, Yamamoto T.
41	50歳未満の若年者に対する人工股関節全置換術の長期成績	整形外科と災害外科	2022, 71(1): 1–3	木下　浩一, 坂本　哲哉, 瀬尾　　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明
42	100歳以上の超高齢者における大腿骨近位部骨折手術症例の術後調査	整形外科と災害外科	2022, 71(1): 89–90	千々岩芳朗, 金澤　和貴, 戸倉　　晋, 泉　　秀樹
43	Medial pivot 型 TKA 術後の大腿骨位置と術後の伸展制限の関連	整形外科と災害外科	2022, 71(2): 229–233	横手龍一郎, 白石　浩一, 渡邊　伸彦, 城石　達光, 武田　　研, 西島　毅志, 安永　　博
44	大腿骨転子部骨折に対し術中にラグスクリューのスライディングをロックした症例の検討	整形外科と災害外科	2023, 72(2): 247–251	倉光　正憲, 井田　敬大, ファン・ジョージ, 森本　浩之, 山崎　　慎
45	85歳以上の高齢者に対するリバース型人工肩関節全置換術の短期成績	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 66–69	大森　治希, 伊﨑　輝昌, 三宅　　智, 新城　安原, 小林　駿介, 山本　卓明
46	不安定型大腿骨転子部骨折に対する一期的人工骨頭置換術の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 367–370	相良　智之, 中島　　圭, 弓場　久嗣, 長松晋太郎, 平井　伸幸, 浅山　　勲, 白濱　正博
47	内側開大式高位脛骨骨切り術における外反 Laxity の臨床成績への影響	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 410–414	永田　旺也, 石松　哲郎, 藤　　悠貴, 中山　鎭秀, 松永　大樹, 前山　　彰, 山本　卓明
48	膝蓋大腿関節軟骨変性と相関する術前画像検査所見の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 415–419	長尾俊二郎, 中山　鎭秀, 工藤　悠貴, 松永　大樹, 石松　哲郎, 前山　　彰, 山本　卓明
49	全身関節弛緩を有する ACL 損傷患者の X 線学的評価	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 431–433	塩見　　涼, 松永　大樹, 宮崎弘太郎, 中山　鎭秀, 石松　哲郎, 前山　　彰, 山本　卓明
50	INHERITOR Stem を用いた人工股関節全置換術の短期成績	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 468–470	榊　　純平, 瀬尾　　哉, 木下　浩一, 坂本　哲哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明

51	仰臥位前外側アプローチ人工股関節全置換術におけるカップ前捻角指標テンプレートの有用性の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 471-473	福原　聡, 木下　浩一, 坂本　哲哉, 瀬尾　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明
52	肥満患者におけるナビゲーションを用いたTHAの検討	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 491-493	清水　黎玖, 坂本　哲哉, 木下　浩一, 瀬尾　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明
53	遠位脛骨斜め骨切り術前後における足関節鏡視所見の比較	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 571-575	島内　諒, 吉村　一朗, 萩尾　友宣, 石松　哲郎, 長友　雅也, 杉野　裕記, 山本　卓明
54	徒手矯正不可能な外反母趾に対する第一中足骨遠位直線状骨切り術（DLMO）の治療成績	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 576-579	今田　優, 萩尾　友宣, 吉村　一朗, 石松　哲郎, 長友　雅也, 杉野　裕記, 山本　卓明
55	脊椎内視鏡手術における除圧操作の違いが手術に与える影響の比較	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 615-617	藤村　省太, 田中　潤, 塩川　晃章, 柴田　遼, 山本　卓明
56	小児橈骨頸部骨折に対する経皮的鋼線固定術Kirschner鋼線固定期間の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 638-641	大串美紗子, 尾上　英俊, 中村　厚彦, 稲光　秀明, 秀島　義章, 重田　幸一, 深川　遼, 市川　賢
57	関節リウマチに対するバリシチニブの治療成績	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 686-689	松元健太郎, 前山　彰, 山崎裕太郎, 小田　大嘉, 村岡　邦秀, 萩尾　友宣, 山本　卓明
58	手根管症候群と心アミロイドーシスの関連性	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 690-692	立花　悠, 村岡　邦秀, 廣田　高志, 田中　秀明, 山本　卓明
59	母指CM関節症に対する関節形成術において母指列短縮が関係する因子の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 706-709	永田　直哉, 廣田　高志, 田中　秀明, 村岡　邦秀, 山本　卓明
60	血管平滑筋腫の臨床・画像的特徴の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 721-724	古賀　幹朗, 西尾　淳, 中山　鎭秀, 山本　卓明
61	当院における TFNA cement augmentation system の使用経験	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 832-834	今給黎洸志, 金澤　和貴, 戸倉　晋, 浦田　健児, 泉　秀樹
62	新型拘束型ライナーであるLongevity Constrained linerを用いた人工股関節再置換術の短期成績	日本人工関節学会誌	2022, 52: 111-112	戸田　慎, 井上　正弘, 安部　聡弥, 三上　貴司, 本多　孝行, 木村　正一
63	ロボット支援システムを用いて行ったModified Gap法によるPS-TKAの短期経験	日本人工関節学会誌	2022, 52: 251-252	長松晋太郎, 浅山　勲, 平井　伸幸, 中島　圭, 相良　智之, 弓場　久嗣, 白濱　正博
64	電気メスを用いた鏡視下手根管開放術の治療成績	日手会誌（J Jpn Soc Surg Hand）	2023, 39(2): 60-62	橋野　悠也, 飯田　博幸, 廣田　高志

65	短時間の鎮静とターニケットを併用した Wide awake hand surgery の有用性について	日手会誌 (J Jpn Soc Surg Hand)	2023, 39(3): 382-385	橋野　悠也, 飯田　博幸, 田中　祥継, 久木﨑　航
66	壮年男性の進行期母指 CM 関節症に対する靭帯再建関節形成術（Ligament Reconstruction Suspencion Arthroplasty：LRSA）の術後成績	日手会誌 (J Jpn Soc Surg Hand)	2023, 39(5): 726-729	赤須　優希, 田中　秀明, 副島　　修

〈症例報告〉

1	t(1;2)-Positive Localized Tenosynovial Giant Cell Tumor With Bone Invasion.	In Vivo.	2022 Sep-Oct; 36(5): 2525-2529.	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Nabeshima K, Yamamoto T.
2	Arthroscopic Excision of Intra-articular AHRR-NCOA2- positive Angiofibroma of Soft Tissue of the Knee: A Case Report.	Cancer Diagn Progn.	2022 Sep 3;2(5):592-597. doi:10.21873/cdp.10147.	Nakayama S, Nishio J, Nagao S, Aoki M, Nabeshima K, Yamamoto T.
3	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib.	Mod Rheumatol Case Rep.	2022 Dec 26:rxac098. doi:10.1093/mrcr/rxac098.	Shimada T, Maeyama A, Hagio T, Muraoka K, Shibata T, Yamasaki Y, Oda T, Hamasaki M, Yamamoto T.
4	Superficial angiomyxoma of the wrist: case report and literature review	In Vivo	2023, 37(1): 503-505	Chijiiwa Y, Nagano T, Nishio J
5	上腕二頭筋長頭腱内ガングリオンの発生源の検討	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 374-377	迫　　教晃, 北村　歳男, 田中　　光, 小笠原正宣
6	転位のある肩甲骨下角骨折は翼状肩甲骨を生じる	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 390-393	渋田祐太朗, 北村　歳男, 小笠原正宣, 田中　　光, 迫　　教晃
7	両側同時に関節鏡視下骨釘移植術を行った両膝離断性骨軟骨炎の一例	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 434-437	藤原　　紘, 花田　弘文, 石松　哲郎, 野村　耕平, 阿南　亨弥, 千々岩芳朗, 大島由貴子, 山口　史彦, 久保　勝裕, 藤原　　明, 原　　道也
8	歯突起後方偽腫瘍に伴う外傷性非骨傷性環軸椎後方脱臼及び中下位頸髄損傷の一例	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 535-539	佐々木颯太, 森下雄一郎, 大迫　浩平, 伊藤田　慶, 横田　和也, 久保田健介, 林　　哲生, 益田　宗彰, 坂井　宏旭, 河野　　修, 前田　　健
9	びまん性特発性骨増殖症に伴う胸椎骨折に肋間動脈損傷による血胸を合併した１例	整形外科と災害外科	2022, 71(3): 549-552	瀬尾　智史, 清水　建詞, 大友　　一, 大茂　壽久, 濱田　賢治, 松永　　慶, 上田　章貴, 長田　宗大, 畑　　直文, 草場　宣宏, 田原　尚直
10	小児の環指基節骨変形癒合に対して矯正骨切り術を施行した１例	整形外科と災害外科	2022, 71(4): 647-650	秀島　義章, 尾上　英俊, 中村　厚彦, 稲光　秀明, 重田　幸一, 大串美紗子, 深川　　遼, 市川　　賢

11	三角繊維軟骨複合体（TFCC）損傷を伴う反復性尺側手根伸筋腱脱臼の１例	整形外科と災害外科	2022，71(4)：693-695	畑　直文，大茂　壽久
12	両側母指 CM 関節症に対して左関節固定術・右関節形成術後５年以上観察中の１例	整形外科と災害外科	2022，71(4)：702-705	赤須　優希，副島　修，塚本　和代，榎田　真吾
13	大腿骨転子部粉砕骨折術後転位に対し NCBDF にて再手術を行った１例	整形外科と災害外科	2022，71(4)：829-831	生田　拓也，小笠原正宣，田中　光，迫　教晃
14	肘関節内粉砕骨折に対する創外固定術後に医原性橈骨神経麻痺を来した一例	整形外科と災害外科	2022，71(4)：872-874	佐々木颯太，松下　優，塚本　伸章，倉員　太志，北出　一季，貴島　賢，馬場　覚，岡　和一朗，小宮　紀宏，林田　光正，前　隆男

〈総説〉

1	The Effectiveness of An Arthroscopic Procedure Combined with High Tibial Osteotomy in Decreasing the Levels of Knee Osteoarthritis Biomarkers.	J Invest Surg.	2022 Apr；35(4)：898-899. doi：10.1080/08941939.2021.1954269.	Maeyama A, Ishimatsu T, Yamasaki Y, Yamamoto T.
2	Angiofibroma of soft tissue: Current status of pathology and genetics.	Histol Histopathol.	2022 Aug；37(8)：717-722. doi：10.14670/HH-18-444.	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Koga K, Nabeshima K, Yamamoto T.
3	An Update on Clinicopathological, Imaging, and Genetic Features of Angioleiomyoma.	Cancer Diagn Progn.	2023 Mar 3；3(2)：145-150. doi：10.21873/cdp.10193.	Koga M, Nishio J, Koga T, Koga K, Nakayama S, Yamamoto T.
4	リハビリテーションスタッフがかかわるチーム医療最前線　福岡大学病院におけるリハビリテーションスタッフがかかわるチーム医療および多職種連携	Journal of clinical rehabilitation	2022，31(5)：476-479	鎌田　聡，塩田　悦仁，藤見　幹太
5	特集：関節拘縮の予防と治療　私の流儀【足関節】足関節脱臼骨折と複合靭帯損傷	Orthopaedics	2022，35(3)：1-6	萩尾　友宣，吉村　一朗
6	特集：全身性エリテマトーデス－診断・治療の最新動向－	日本臨牀	2022，80(5)：852-857	山本　卓明
7	【外来頻用薬の選択のポイント】各種治療薬における上手な薬剤選択 NSAID・慢性疼痛治療薬	臨床と研究	2022，99(2)：184-190	田中　潤，山本　卓明
8	邦文：新しい医療技術　ステロイド関連大腿骨頭壊死症の発生に関わる遺伝子	整形・災害外科	2022，65(10)：1335-1338	末次　弘征，池川　志郎，山本　卓明，中島　康晴，寺尾知可史
9	特集　骨粗鬆症と運動器疾患　股関節疾患と骨粗鬆症	整形・災害外科	2023，66(3)：289-293	山本　卓明

10	【医工連携と腰痛】 Hybrid Assistive Limb 腰タイプを用いた慢性腰痛・フレイル患者に対するバイオフィードバック療法	脊椎脊髄ジャーナル	2022, 35(5): 327-332	小谷　尚也, 森下　登史, 安部　　洋, 井上　　亨, 鎌田　　聡

〈著書〉

1	臨床と研究 私の診療経験から－リウマチ性疾患におけるレントゲンの見方	大道学館	2022, 99(1): 127-132	前山　　彰
2	関節外科 Curved periacetabular osteotomy 後の THA	(株)メジカルビュー社	2022, 41(2): 15-19	木下　浩一, 山本　卓明
3	整形外科 Surgical Technique 股関節骨切りセミナー 成人に対する寛骨臼側骨切り術 Curved periacetabular osteotomy の手技と工夫	メディカ出版	2022, 12(3): 381-386	木下　浩一, 山本　卓明
4	整形・災害外科 Curved periacetabular osteotomy 後の早期回復と合併症低減の工夫	金原出版	2022, 65: 1655-1661	木下　浩一
5	整形外科看護 【できるナースが術前術後におさえているポイントはここ！整形外科の STEP 1 疾患・STEP 2 手術・STEP 3 ケア】 （3章）股関節～大腿 （STEP 1）疾患　大腿骨頭壊死症（解説）	メディカ出版	2022, 秋季増刊号: 125-126	木下　浩一, 山本　卓明
6	実践　足の保存療法　手術の前にすべきこと Ⅰ-3　距骨骨軟骨損傷	文光堂	2023, 130-133	吉村　一朗
7	足のスポーツ外傷・障害の診かた 足関節外側靱帯損傷　慢性足関節不安定症：手術療法：修復術および補強術 日本足の外科学会（監修）	全日本病院出版会	2023, 207-2013	吉村　一朗
8	人工股関節置換術 13章　臨床成績　4．ONFH 編集：日本人工関節学会	南江堂	2023, 361-365	木下　浩一, 山本　卓明
9	人工股関節置換術 15章　合併症対策　7．神経麻痺対策 編集：日本人工関節学会	南江堂	2023, 440-443	石松　哲郎

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Prognostic factors and clinical features in metacarpophalangeal joint hyperextension after ligament reconstruction with trapeziectomy.	2022 IFSSH-IFSHT-FESSH Combined Congress (Hybrid)	London, UK (hybrid), June 6-10, 2022	Hideaki Tanaka, Osamu Soejima, Kunihide Muraoka, Takuaki Yamamoto.
2	（シンポジウム） 足関節外側靱帯損傷に対する鏡視下足関節外側靱帯修復術 －鏡視下 Brostrom 法の利点と欠点－	JOSKAS-JOSSM 2022 第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 （オンデマンド）	札幌市 2022/6/16-18	萩尾　友宣, 吉村　一朗, 蓑川　　創, 石松　哲郎, 長友　雅也, 杉野　裕記, 山本　卓明

3	（教育研修講演４） 股関節における関節温存術	JOSKAS-JOSSM 2022 第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 （オンデマンド）	札幌市 2022/6/16-18	山本　卓明
4	（招待講演） Session 2 “Is there still a place for radiography in OA research?” Insufficiency fracture	16th International Workshop on Osteoarthritis Imaging	東京都 2022/7/6-8	山本　卓明
5	（招待講演　フェニックスセミナー15） 軟骨下脆弱性骨折から見えてきたこと	第37回日本整形外科学会基礎学術集会（Web）	宮崎市 2022/10/13-14	山本　卓明

〈国内研究助成金〉

1	寛骨臼形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術における術中エコーを用いた股関節不安定性の評価	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団 「旭化成ファーマ賞」	令和４年度	瀬尾　　哉（代表）
2	変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術のサイトカイン関与の解明	令和４年度推奨研究プロジェクト 公的研究費獲得支援Ⅱ	令和４年度	前山　　彰（代表）
3	臼蓋形成不全に対する骨盤骨切り術の偽関節発生率減少を目的とした多角的検討	臨床研究奨励基金	令和４年度	木下　浩一（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	整形外科疾患の病診連携セミナー ～足関節疾患の最適治療を目指して～	WEB	2022/5/10	山本　卓明
2	第143回西日本整形・災害外科学会学術集会	福岡市	2022/6/11-12	山本　卓明
3	内科・整形連携セミナー －脳神経内科領域での骨粗鬆症治療を考える－	福岡市/ハイブリッド	2022/6/20	山本　卓明，坪井　義夫
4	第８回九州足の外科研究会	福岡市	2022/7/2	吉村　一朗
5	福岡足の外科・骨疾患カンファレンス	WEB	2022/8/26	吉村　一朗
6	第43回福岡運動器カンファレンス（FLOC）	WEB	2022/9/9	山本　卓明
7	第50回福岡大学医学部整形外科学教室開講記念会	福岡市	2022/9/17	山本　卓明
8	第27回 Fukuoka Knee Society	福岡市	2022/10/15	山本　卓明
9	整形外科学疾患の病診連携セミナー	福岡市	2022/11/1	山本　卓明
10	関節リウマチ治療を考える会	WEB	2022/11/2	前山　　彰
11	第73回七隈ハンドカンファレンス	福岡市	2022/11/4	村岡　邦秀
12	七隈骨粗鬆症研究会	福岡市/ハイブリッド	2022/12/2	山本　卓明
13	第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会	福岡市	2022/12/3	山本　卓明
14	第２回整形外科疾患の Total Pain Online Seminar～肩疾患の疼痛治療を再考する～	WEB	2023/1/17	三宅　　智
15	第22回福岡整形外科研究会（FOC）	WEB	2023/1/21	山本　卓明

16	第21回七隈整形外科懇話会	福岡市	2023/2/1	山本　卓明
17	ジクトールテープ75mg 効能追加祈念 Web 講演会	WEB	2023/2/9	山本　卓明
18	福岡骨粗鬆講演会	福岡市/ハイブリッド	2023/2/10	山本　卓明
19	リクラクト web 講演会 in 福岡	WEB	2023/2/22	萩尾　友宣
20	第135回福岡リウマチ懇話会	福岡市	2023/2/24	山本　卓明

〈学会活動〉

1	厚生労働省	医道審議会専門委員 医師分科会員，第117回医師国家試験 試験委員	2022	山本　卓明
2	公益社団法人日本整形外科学会	代議員，学術研究企画委員会委員，特発性大腿骨頭壊死症 診療ガイドライン策定委員会委員	2022	山本　卓明
3	公益社団法人日本整形外科学会	リウマチ委員会委員	2022	前山　　彰
4	一般社団法人日本関節病学会	評議員	2022	山本　卓明
5	一般社団法人日本股関節学会	理事，股関節温存治療レジストリー委員会委員，国際委員会委員	2022	山本　卓明
6	一般社団法人日本股関節学会	評議員	2022	山本　卓明，木下　浩一
7	公益社団法人日本リハビリテーション医学会	代議員	2022	山本　卓明，鎌田　　聡
8	一般社団法人日本リウマチ学会	評議員	2022	山本　卓明，前山　　彰
9	一般社団法人日本リウマチ学会	専門医資格認定委員会 新専門医制度症例審査委員	2022	前山　　彰
10	日本リハビリテーション医学会九州地方会	幹事	2022	山本　卓明，鎌田　　聡
11	西日本整形・災害外科学会	理事，評議員	2022	山本　卓明
12	西日本整形・災害外科学会	編集委員	2022	山本　卓明，前山　　彰
13	福岡市	MICE アンバサダー	2022	山本　卓明
14	股 Osteotomy を語る会	世話人	2022	山本　卓明
15	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団	選考委員会委員	2022	山本　卓明
16	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門委員	2022	山本　卓明
17	福岡スポーツ研究会	世話人	2022	山本　卓明
18	福岡地方裁判所	医療関係専門委員部会員	2022	山本　卓明
19	福岡県集団検診協議会	骨粗鬆症検診部会委員会委員	2022	山本　卓明
20	福岡県整形外科医会	理事	2022	山本　卓明
21	福岡労働局	労災診療指導委員会委員	2022	山本　卓明
22	Clinical in Orthopedics Surgery	編集委員（国際）	2022	山本　卓明

23	臨床整形外科	編集委員	2022	山本　卓明
24	九州・山口スポーツ医・科学研究会	事務局長	2022	山本　卓明
25	Fukuoka Knee Society	事務局長	2022	山本　卓明
26	一般社団法人日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	評議員	2022	前山　　彰
27	九州リウマチ学会	運営委員会	2022	前山　　彰
28	日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会	幹事，ホームページ作成委員会	2022	前山　　彰
29	第51回日本リウマチの外科学会	若手奨励セッション審査員	2022	前山　　彰
30	福岡リウマチ懇話会	世話人	2022	前山　　彰
31	九州 Knee Osteotomy 研究会	世話人	2022	前山　　彰
32	福岡生活習慣病運動療法研究会	世話人	2022	前山　　彰
33	福岡県専門研修プログラム委員会	調整委員	2022	前山　　彰
34	Asia-Pacific Journal of Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation and Technology（AP-SMART）Editorial Board	Editorial Board	2022	前山　　彰
35	第２回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会	査読委員	2022	前山　　彰
36	九州 MISt（最小侵襲脊椎治療学会）	世話人	2022	田中　　潤
37	西日本脊椎研究会	世話人	2022	田中　　潤
38	九州足の外科研究会	幹事	2022	萩尾　友宣
39	一般社団法人日本肩関節学会	代議員	2022	三宅　　智

〈研究に関係した賞〉

1	ナノバブルによる Ewing 肉腫の IGF-1R 抗体－shRNA 治療の開発研究	第57回がん研究助成金 奨励賞	令和４年度	山﨑裕太郎
2	Leg length change after curved periacetabular osteotomy and its impact on the clinical outcomes	福岡大学医学部同窓会烏帽子会 奨励賞優秀賞	令和４年度	鈴木　正弘，木下　浩一， 坂本　哲哉，瀬尾　　哉， 木下　　栄，山本　卓明
3	The Efficacy of Add-on Iguratimod for Patients with Rheumatoid Arthritis Who Inadequately Responded to Methotrexate	福岡大学医学会 第87回例会 福岡大学医学紀要49巻 優秀論文賞	令和４年度	山﨑裕太郎
4	Return to Sports and Physical Activities after Minimally Invasive Distal Linear Metatarsal Osteotomy for Hallux Valgus	福岡大学医学会 第87回例会 福岡大学医学紀要49巻 優秀論文賞	令和４年度	長友　雅也，吉村　一朗， 萩尾　友宣，石松　哲郎， 杉野　裕記，山本　卓明
5	Leg length change after curved periacetabular osteotomy and its impact on the clinical outcomes	第１回福岡大学医学部整形外科教室同門会 学術奨励賞	令和４年度	鈴木　正弘，木下　浩一， 坂本　哲哉，瀬尾　　哉， 木下　　栄，山本　卓明

6	Closed wedge HTO における術中運動誘発電位に基づいた腓骨神経への影響	第２回 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会 優秀演題賞	令和４年度	石松　哲郎
7	非脂肪性軟部腫瘍の良悪性鑑別における超音波検査の有用性の検討	第50回福岡大学医学部整形外科学教室開講記念会 最優秀演題賞	令和４年度	大串　秀仁，中山　鎭秀，山本　卓明
8	低緊張での腱板修復術の治療成績	第50回福岡大学医学部整形外科学教室開講記念会 優秀演題賞	令和４年度	橋本貴美子，三宅　智，柴田　光史，小林　駿介，松永　慶，山本　卓明
9	大腿骨頚部骨折患者における足部形態学的特徴	第50回福岡大学医学部整形外科学教室開講記念会 優秀演題賞	令和４年度	酒井　政彦，金澤　和貴，秋穂　俊輔，市川　賢，泉　秀樹
10	実臨床下におけるバリシチニブの RA 治療成績 ～福岡 JAK 研究会における多施設共同研究～	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会 秀逸ポスター賞	令和４年度	前山　彰
11	外傷歴のない骨端線閉鎖前症例における OLT サイズへの影響因子	第９回九州足の外科研究会 優秀演題賞	令和４年度	石松　哲郎

形成外科学

〈原著〉

1	Contribution of Topical Agents such as Hyaluronic Acid and Silver Sulfadiazine to Wound Healing and Management of Bacterial Biofilm.	Medicina (Kaunas)	58(6)：835，2022	De Francesco F, Riccio M, Jimi S.
2	ECMO 管理を必要とする COVID-19患者の腹臥位療法時の褥瘡予防への取り組みと課題	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	26(Supplement 号)：S27-S31，2022	西田　薫，冨田美和子，直海　倫子，髙木　誠司

〈症例報告〉

1	遊離腹直筋皮弁後24年で皮弁壊死を認めた１例	創傷	13(2)：89-93，2022	吉村　希，井上　真衣，大山　拓人，西　建剛，髙木　誠司，大慈弥裕之
2	二分脊椎症患者の長期にわたる難治性坐骨部褥瘡の治療経験	創傷	13(2)：94-99，2022	森田　愛，髙木　誠司，大慈弥裕之
3	外傷性仮性動脈瘤により生じた脛骨神経麻痺症状の１例	日本形成外科学会会誌	43(2)：89-93，2023	前山　徹，吉村　希，鈴木翔太郎，西　建剛，大山　拓人，髙木　誠司
4	右耳下腺全摘出術（顔面神経合併切除）に対し腓腹神経によるループ型神経移植に咬筋神経による付加を行った１例	FACIAL NERVE RESEARCH JAPAN	42：157-158，2023	三浦　真由，木村　翔一，打田　義則，末田　尚之，森田　愛，髙木　誠司，坂田　俊文

〈総説〉

1	【顔面骨骨折の診断と治療】 上顎骨骨折	形成外科	65(8)：936-942，2022	髙木　誠司，吉村　希
2	【乳癌診療の最新の知識】 リンパ浮腫に対する複合的理学療法・外科療法	臨牀と研究	99(8)：960-963，2022	髙木　誠司，小柳　俊彰

3	境界領域 知っておきたい 形成外科からみた創処置に関する基本と禁忌	臨床整形外科	57(9): 1158-1161, 2022	髙木　誠司
4	【新規創傷治療材料をいかに活かすか】 エピフィックスの使用経験	形成外科	65(10): 1177-1186, 2022	大山　拓人，髙木　誠司， 秋田　定伯

〈著書〉

1	『キズ・キズ痕』を治す専門家をご存知ですか？	朝日新聞	pp.20, 2022.04.28	髙木　誠司

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 陳旧性鼻骨骨折における自作 3D 軟部組織モデルを用いた術前シミュレーションの検討	第65回日本形成外科学会総会・学術集会	大阪 4/20-22 2022	前岡　尚憲，西　　建剛， 鈴木翔太郎，岡本　理沙， 森田　　愛，髙木　誠司
2	（シンポジウム） 新規マウス腹壁瘢痕モデルの作製：コラーゲン由来ペプチドによる瘢痕抑制効果と筋肉再生	第17回瘢痕・ケロイド治療研究会	熊本 10/23 2022	自見　至郎
3	（シンポジウム） 頭蓋縫合早期癒合症に対する頭蓋形状誘導療法を用いた形態改善	第40回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	愛知 11/17-18 2022	髙木　誠司，鈴木翔太郎
4	（シンポジウム） マイクロサージャリー支援ロボットの開発 ～即応性の高さを目指して～	第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会	静岡 12/1-2 2022	小栗　　晋，門田　英輝， 髙木　誠司，辛川　　領， 矢野　智之，下村　景太， 江藤　正俊
5	（特別講演） 「一度っきりの人生，ワクワク生きようぜ」 第１部　阪大形成での14年　第２部　福大形成での12年（クラニオ，唇顎口蓋裂，漏斗胸，）	第49回大阪形成外科医会	大阪 4/23 2022	髙木　誠司
6	（パネルディスカッション） 現時点におけるわれわれの標準的 Nuss 法手術	第21回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	神奈川 11/12 2022	髙木　誠司

〈学会活動〉

1	日本形成外科学会	評議員	2022	髙木　誠司
2	日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会	評議員	2022	髙木　誠司
3	日本頭蓋顎顔面外科学会	代議員	2022	髙木　誠司
4	日本美容外科学会（JSAPS）	評議員	2022	髙木　誠司
5	日本シミュレーション外科学会	評議員	2022	髙木　誠司
6	Craniofacial Center	理事	2022	髙木　誠司
7	日本形成外科手術手技学会	理事	2022	髙木　誠司
8	日本フットケア・足病医学会	評議員	2022	髙木　誠司
9	日本手外科学会	代議員	2022	髙木　誠司
10	Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	世話人	2022	髙木　誠司

眼科学

〈原著〉

1	Relationship among total tear IgE, specific serum IgE, and total serum IgE levels in patients with pollen-induced allergic conjunctivitis	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	260, 281–287, 2022	Yamana Y, Yamana S, Uchio E.
2	Analysis of cytokine producing profiles in local and systemic lymphocytes in sick building syndrome compared with ocular allergy	J Asthma Allergy	15, 1115–1124, 2022	Izaki R, Kobayashi A, Fujita H, Harada H, Ozaki H, Kadonosono K, Uchio E.
3	ステロイドパルス療法を行った Vogt －小柳－原田病患者の病型別検討	臨床眼科	76, 997–1002, 2022	近藤　千尋，川村　朋子，小林　彩加，原田　一宏，上野　智弘，内尾　英一
4	2017年度日本眼科アレルギー学会アレルギー性結膜疾患実態調査	日本眼科学会雑誌	126, 625–635, 2022	岡本　茂樹，藤島　　浩，福島　敦樹，宮崎　　大，庄司　　純，深川　和己，佐竹　良之，南場　研一，内尾　英一，高村　悦子，大橋　裕一，海老原伸行
5	Angiogenesis and anastomosis on graft retina after autologous retinal transplantation	Ophthalmol Retina	6, 972–974, 2022	Kitahara S, Inoue M, Yanagi Y, Tanaka S, Inoue T, Yamakawa T, Uchio E, Kadonosono K
6	Adhesion of Asian dust particles to verofilcon a soft contact lenses	Clin Optom (Auckl)	14, 215–221, 2022	Mimura T, Fujishima H, Uchio E, Fukagawa K, Inoue Y, Kawashima M, Kitsu K, Mizota A.
7	進行性網膜外層壊死の僚眼にサイトメガロウイルス網膜炎を発症した１例	臨床眼科	76: 1296–1301, 2022	髙橋　理恵，松本　　拓，尾崎　弘明，小林　彩加，内尾　英一
8	手術が著効した外傷性視神経損傷の一例	眼科臨床紀要	15巻7号 460–465, 2022	安武　朋寛，原田　一宏，内尾　英一，三橋　泰仁，坂田　俊文

〈総説〉

1	オミデネパグイソプロピル点眼液の１年後治療成績	臨床眼科	76(10): 1380–1386, 2022	尾崎　弘明，小林　彩加，横尾　葉子，加藤　博彦，尾崎　恵子，内尾　英一
2	人間社会と病因との関わりからみた結膜炎の病態の解明	臨床眼科	76, 413–423, 2022	内尾　英一
3	動物の進化とアレルギー疾患，特に眼アレルギーとの関わり	アレルギーの臨床	42, 741, 2022	内尾　英一
4	エンテロウイルス	臨床眼科	76, 1520–1524, 2022	内尾　英一
5	眼科の立場から	アロスエルゴン	2, 752–754, 2022	内尾　英一

6	ウイルス性結膜炎診療ガイドライン	眼科	64: 1271-1275, 2022	内尾　英一
7	Executive summary: Japanese guidelines for allergic conjunctival diseases 2021	Allergol Int	71, 459-471, 2022	Miyazaki D, Fukushima A, Uchio E, Shoji J, Namba K, Ebihara N, Takamura E, Fukuda K, Matsuda A, Okamoto S, Fukagawa K, Fujishima H, Ohno S, Ohashi Y.
8	感染性結膜炎	小児内科	13: 1038-1042, 2022	内尾　英一

〈著書〉

1	眼科・その他／ Pocket Drugs2022	医学書院	854-871, 2022	内尾　英一
2	眼感染症／感染症最新の治療 2022-2024	南江堂	95-98, 2022	内尾　英一
3	目が赤い（充血）／眼科疾患最新の治療 2022-24	南江堂	41-42, 2022	内尾　英一
4	アデノウイルス，AHC ウイルス検査・眼科検査ガイド第３版	文光堂	41-42, 2022	内尾　英一
5	結膜嚢胞／眼病変一発診断100	文光堂	30-31, 2022	内尾　英一
6	単純ヘルペスウイルス結膜炎／眼病変一発診断100	文光堂	14-15, 2022	内尾　英一
7	アデノウイルス結膜炎／今日の眼疾患治療指針第４版	医学書院	379-380, 2022	内尾　英一
8	急性出血性結膜炎／今日の眼疾患治療指針第４版	医学書院	381-382, 2022	内尾　英一
9	免疫クロマトグラフィ／今日の眼疾患治療指針第４版	医学書院	78-81, 2022	内尾　英一
10	ウイルス性結膜炎の院内感染予防／すぐ見て・すぐわかり・すぐ使える 眼科薬剤処方	文光堂	79-82, 2022	内尾　英一
11	アレルギー性結膜疾患／アレルギー総合ガイドライン2022	協和企画	171-179, 2022	内尾　英一

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 春季カタル	第９回総合アレルギー講習会	3/18 2023，大阪	内尾　英一

〈国内研究助成金〉

1	アデノウイルス眼感染症の細胞生物学的解析と治療薬剤開発の研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	内尾　英一（代表）
2	新型アデノウイルスの比較増殖解析と，治療薬・予防薬への反応性の検討	研究推進部：若手・女性研究基盤構築支援事業	2022	川村　朋子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第48回福岡大学眼科研究会	福岡大学メディカルホール	5/21/2022	内尾　英一
2	西日本オキュラーサーフェスクラブ2022	WEB 開催	6/25/2022	内尾　英一
3	第49回福岡眼科研究会	電気ビル共創館	7/23/2022	内尾　英一

〈学会活動〉

1	日本眼科学会	評議員	2022	内尾　英一
2	Japanese Journal of Ophthalmology	Editor	2022	内尾　英一
3	日本眼炎症学会	評議員	2022	内尾　英一
4	日本アレルギー学会	代議員	2022	内尾　英一
5	日本眼感染症学会	監事，評議員	2022	内尾　英一
6	日本眼科アレルギー学会	理事	2022	内尾　英一

耳鼻咽喉科学

〈原著〉

1	Real-world Experience With Pembrolizumab for Advanced-stage Head and Neck Cancer Patients: A Retrospective Multicenter Study.	Anticancer research	42(7): 3653-3664 2022	Nakano T, Yasumatsu R, Hashimoto K, Kuga R, Hongo T, Yamamoto H, Matsuo M, Wakasaki T, Jiromaru R, Manako T, Toh S, Masuda M, Yamauchi M, Kuratomi Y, Taura M, Takeuchi T, Nakagawa T
2	Cancer Spheroid Proliferation Is Suppressed by a Novel Low-toxicity Compound Pyra-Metho-Carnil in a Context-independent Manner	Anticancer research	42(8): 3993-4001 2022	Yoshida K, Nishi K, Ishikura S, Nakabayashi K, Yazaki R, Ohshima T, Suenaga M, Shirasawa S, Tsunoda T
3	Epipharyngeal Abrasive Therapy Down-regulates the Expression of Cav1.2: A Key Molecule in Influenza Virus Entry	in vivo	36(5): 2357-2364 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Nishi T, Nishi R, Tsunoda T, Morita H, Tanaka H, Hotta O, Yasumasu S, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Yamano T
4	Epipharyngeal Abrasive Therapy (EAT) Reduces the mRNA Expression of Major Proinflammatory Cytokine IL-6 in Chronic Epipharyngitis	International Journal of Molecular Sciences	23(16): 9205-9205 2022	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Nishi T, Nishi R, Tanaka T, Tsunoda T, Imai K, Tanaka H, Hotta O, Tanaka A, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Yamano T
5	Epipharyngeal Abrasive Therapy (EAT) Has Potential as a Novel Method for Long COVID Treatment	Viruses	14(5): 907-907 2022	Imai K, Yamano T, Nishi S, Nishi R, Nishi T, Tanaka H, Tsunoda T, Yoshimoto S, Tanaka A, Hiromatsu K, Shirasawa S, Nakagawa T, Nishi K

6	Employment Quotas for Adults who Stutter: A Preliminary Study.	Int Arch Commun Disord	DOI:10.23937/2643-4148/1710020 2022	Kikuchi Y, Umezaki T, Adachi K, Sawatsubashi M, Taura M, Yamaguchi Y, Tsuchihashi N, Murakami D, Nakagawa T
7	内視鏡下咽喉頭手術（ELPS）術後の嚥下機能とリハビリテーションについての検討	嚥下医学	11(2):196-202 2022	大津　舞，山野　貴史，濱本　郁，打田　義則，三橋　泰仁，木村　翔一，速水　菜帆，田浦　政彦，坂田　俊文
8	問診票を活用した花粉症に対する抗ヒスタミン療法の患者満足度と治療効果－診療所における検討－	耳鼻と臨床	68(3):141-152 2022	西　龍郎，梅野　悠太，武末　淳，速水　菜帆，前原　宏基，澤津橋基広，坂田　俊文
9	好酸球性副鼻腔炎に対するステロイド療法の検討	耳鼻と臨床	68(3):153-162 2022	佐藤　晋，澤津橋基広，坂田　俊文
10	入院加療を行った扁桃周囲膿瘍について	耳鼻と臨床	68(4):258-265 2022	宮城　司道，宮本　雄介，甲斐　智朗，村上　一索
11	当科における異物症例の臨床的検討	耳鼻と臨床	68(6):394-402 2022	速水　菜帆，田浦　政彦，三橋　泰仁，宮﨑　健，妻鳥敬一郎，末田　尚之，坂田　俊文

〈症例報告〉

1	A Rare Case of Tracheal Crystal-Storing Histiocytosis Associated with Marginal Zone Lymphoma of Mucosa-Associated Lymphoid Tissue	International Journal of Surgical Pathology	30(5):543-550 2022	Kimura S, Oyama Y, Ziyao W, Waseda R, Nishino N, Sakata T, Takeshita M
2	治療方針に苦慮した動眼神経麻痺の１例	耳鼻と臨床	68(3):196-202 2022	梅野　悠太，西　憲祐，西平　弥子，山野　貴史
3	胃酸逆流により発症したまれな急性多発性咽喉頭潰瘍の１例	耳鼻と臨床	68(3):216-220 2022	西　憲祐，梅野　悠太，西平　弥子，山野　貴史
4	Ramsay Hunt 症候群による右迷走神経麻痺に甲状軟骨形成術Ⅰ型と頬杖位での嚥下が有効であった１例	耳鼻と臨床	68(6):429-435 2022	大森　史隆，和田佳央理，西　憲祐，西平　弥子，山野　貴史
5	早期診断に苦慮した喉頭結核の一例	日本気管食道科学会会報	73(6):369-374 2022	坂田健太郎，妻鳥敬一郎，三橋　泰仁，坂田　俊文
6	手術が著効した外傷性視神経損傷の一例	眼科臨床紀要	15(7):460-465 2022	（共著）安武　朋寛，原田　一宏，内尾　英一，三橋　泰仁，坂田　俊文
7	右耳下腺全摘出術（顔面神経合併切除）に対し腓腹神経によるループ型神経移植に咬筋神経による付加を行った一例	Facial Nerve Research Japan	42:157-158 2022	三浦　真由，木村　翔一，打田　義則，末田　尚之，森田　愛，高木　誠司，坂田　俊文

〈総説〉

1	特集・ここまで進化した補聴器と人工内耳診療「耳鳴治療用補聴器」	JOHNS	38(2):169-171 2022	坂田　俊文

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	シンポジウム１「上咽頭擦過両方の臨床」:新型コロナ後遺症（Long COVID）に対する上咽頭擦過療法（EAT）の有効性解析，及びその機序に関する組織学的検討	第10回病巣疾患研究会学術集会	東京 9.11 2022	西　　憲祐

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第191回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会福岡県地方部会	福大病院メディカルホール	12.10 2022	坂田　俊文

〈学会活動〉

1	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	代議員	2022	坂田　俊文
2	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会福岡県地方部会	副部会長	2022	坂田　俊文
3	日本聴覚医学会	代議員	2022	坂田　俊文
4	日本頭頸部外科学会	評議員	2022	坂田　俊文
5	日本嚥下医学会	評議員	2022	坂田　俊文
6	日本喉頭科学会	評議員	2022	坂田　俊文
7	耳鼻咽喉科臨床学会	運営委員	2022	坂田　俊文

腎泌尿器外科学

〈原著〉

1	Risk Factors for Sexual Dysfunction in Japanese Testicular Cancer Survivors as Evaluated by Patient-Reported Questionnaire.	J. Cancer Rehabil.	Vol.5:62-68, 2022	S. Ogawa, R. Honda-Takinami, K. Matsuoka, S. Hoshi, T. Koguchi, J. Hata, Y. Sato, H. Akaihata, M. Kataoka. N. Haga, Y. Kojima
2	Serum IgG4 Concentration is a Potential Predictive Biomarker in Glucocorticoid Treatment for Idiopathic Retroperitoneal Fibrosis.	J. Clin. Med.	11(12):3538, 2022	S. Mukai, N. Sakamoto, H. Kakinoki, T. Shibuya, R. Moriya, K. Nishihara, M. Noguchi, T. Shin, N. Fujimoto, T. Igawa, T. Ishii, N. Haga, H. Enokida, M. Eto, T. Kamba, H. Sakai, S. Saito, N. Terada and T. Kamoto
3	Low Risk of Venous Thromboembolism After Robot-assisted Radical Prostatectomy Through Systemic Image Assessment: A Prospective Study	In vivo	36(5):2384-2391, 2022	S. Meguro, M. Kataoka, Y. Endo, K. Yaginuma, A. Hasegawa, S. Makabe, Y. Harigane, K. Matsuoka, S. Hoshi, J. Hata, Y. Sato, H. Akaihata, S. Ogawa, I. Shirou, N. Haga, H. Ito, Y. Kojima.

4	Efficacy of the opened legs position for protecting against postoperative rhabdomyolysis after robot-assisted radical prostatectomy: A propensity score-matched analysis of perioperative outcomes	Int. J. Urol.	29(10): 1132-1138, 2022	K. Tsubouchi, N. Gunge, K. Tominaga, H. Matsuzaki, A. Fujikawa, T. Emoto, T. Miyazaki, Y. Okabe, N. Nakamura, M. Kataoka, S. Ogawa, H. Akaihata, Y. Sato, J. Hata, H. Matsuoka, Y. Kojima, N. Haga
5	Equivalence of Immunological Response to COVID-19 Vaccination in Prostate Cancer Patients.	Austin J Urol	8(1): 1077, 2022	Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Nakamura N, Nabeshima S, Haga N.
6	Drugs Showing Real-world Efficacy for Nocturia in Patients With Bladder Storage Symptoms	Anticancer Res.	43: 455-461, 2022	K. Tsubouchi, N. Gunge, W. Matsuoka, T. Emoto, T. Miyazaki, K. Tominaga, Y. Okabe, H. Matsuzaki, S. Aso, M. Tachibana, C. Nakagawa, A. Fujikawa, N. Nakamura, H. Matsuoka, N. Haga.
7	Exacerbation of urinary storage symptoms by the psychological stress induced by the COVID-19 pandemic.	In vivo	36(6): 2800-2805, 2022	T. Miyazaki, S. Aso, M. Tachibana, C. Nakagawa, A. Fujikawa, N. Gunge, Y. Okabe, K. Tsubouchi, H. Matsuzaki, N. Nakamura, H. Matsuoka, N. Haga.
8	令和３年度福岡市における前立腺がん検診	福岡市医報	64(1): 64-68, 2023	古賀　寛史，中村　元信，横溝　　晃，角田　雄一，阿部　裕典，野瀬　清孝，猪口　淳一，古屋隆三郎，松﨑　洋吏，御厨　　学，後藤　　健，江藤　正俊，田中　正利，内藤　誠二，羽賀　宣博，山口　秋人

〈症例報告〉

1	腹腔鏡下で摘出しえた副腎悪性腫瘍との鑑別が困難であった巨大 Extragastrointestinal Stromal Tumor（EGIST）の一例	西日泌	85(3): 83-88, 2023	藤川　愛子，入江慎一郎，宮﨑　　健，江本　大紀，冨永　光将，郡家　直敬，岡部　　雄，坪内　和女，松﨑　洋吏，中村　信之，松岡　弘文，羽賀　宣博

〈総説〉

1	Comprehensive approach for preserving cavernous nerves and erectile function after radical prostatectomy in the era of robotic surgery.	Int. J. Urol.	28(4): 360-368, 2021	N. Haga, T. Miyazaki, K. Tsubouchi, Y. Okabe, K. Shibayama, D. Emoto, W. Matsuoka, H. Maruta, C. Aoyagi, H. Matsuzaki, S. Irie, N. Nakamura, H. Matsuoka.
2	特集　泌尿器科領域における腎機能障害治療－保存期から移植まで AYA 世代以降での逆流性腎症の問題点とその対策	泌尿器科	15(5): 520-527, 2022	松岡　弘文，羽賀　宣博

3	特集　もう悩まない！小児泌尿器科疾患へのファーストタッチ 膀胱尿管逆流症 有熱性尿路感染症に対するファーストタッチ	臨床泌尿器科	77(1)： 20-26， 2023	松岡　弘文，宮﨑　　健， 羽賀　宣博
4	過活動膀胱診療　新時代を迎えて	臨床泌尿器科	77(3)： 209-216， 2023	羽賀　宣博，坪内　和女， 中川　千鶴，立花　昌寛， 麻生信太郎，藤川　愛子， 郡家　直敬，宮﨑　　健， 岡部　　雄，松﨑　洋吏， 中村　信之，松岡　弘文

〈著書〉

1	Ⅲ尿細管間質性腎症 ７.膀胱尿管逆流による腎実質障害（逆流性腎症） 別冊　日本臨牀　領域別症候群シリーズ No.22　腎臓症候群（第３版）Ⅰ －その他の腎臓疾患を含めて－	日本臨床社	156-160， 2022	松岡　弘文， 羽賀　宣博（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） フレイル・サルコペニアと泌尿器がんに対する外科治療	第35回日本老年泌尿器科学会	山梨 6/10-11 2022	羽賀　宣博
2	（シンポジウム） ［小児泌尿器科；Next 10 Years］ 泌尿器科領域における小児ロボット支援下手術の今後の展望－ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術を中心に－	第74回西日本泌尿器科学会総会	福岡 11/3-5 2022	宮﨑　　健
3	（イブニングセミナー） 過活動膀胱治療　－新時代－	第74回西日本泌尿器科学会総会	福岡 11/3-5 2022	羽賀　宣博
4	（卒後教育プログラム） 前立腺肥大症と過活動膀胱・低活動膀胱	第74回西日本泌尿器科学会総会	福岡 11/3-5 2022	羽賀　宣博
5	（スポンサードセッション） 鉄代謝の観点から見た貧血治療戦略	第56回日本臨床腎移植学会	東京 2/10-12 2023	中村　信之
6	（国際学会） Efficacy of the Opened Legs Position for Preventing Postoperative Rhabdomyolysis after Robot-Assisted Radical Prostatectomy (RARP)	Ernest N. Morial Convention Center （ハイブリッド開催）	New Orleans, USA 5/13-16 2022	H. Matsuzaki, K. Tsubouchi, N. Gunge, T. Miyazaki, Y. Okabe, N. Nakamura, H. Matsuoka, N. Haga.
7	（国際学会） Exacerbation of urinary storage symptoms by the psychological stress induced by the COVID-19 pandemic.	The 16th Pan-Pacific Continence Society Meeting （ハイブリッド開催）	Seoul, Korea 9/3-4 2022	T. Miyazaki, S. Aso, M. Tachibana, C. Nakagawa, A. Fujikaw, N. Gung, Y. Okab, K. Tsubouchi, H. Matsuzaki, N. Nakamura, H. Matsuoka, N. Haga.
8	（国際学会） The Efficacy of Switch from ESA to HIF-PHI for Anemia in RT Patients	Transplantation Science Symposium Asian Regional Meeting 2022	Kyoto, Japan 11/25-26 2022	N. Nakamura, S. Aso, C. Nakagawa, M. Tachibana, A. Fujikawa, K. Tsubouchi, N. Gunge, T. Miyazaki, Y. Okabe, H. Matsuzaki, H. Matsuoka, K. Ito, T. Yasuno, K. Masutani, N. Haga

〈国内研究助成金〉

1	内臓脂肪の機能低下に伴う前立腺肥大症発症機序の解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2022	羽賀　宣博
2	一般住民における過活動膀胱，夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2022	坪内　和女
3	逆流性腎症を有する患者における腎障害発症メカニズムの解明と腎機能予測モデルの開発	日本学術振興会 基盤研究(C)	2022	松岡　弘文
4	一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2022	中村　信之
5	マイクロ RNA を用いた低活動膀胱診断に対する超低侵襲診断方法の開発	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団 第16回ふくおか「臨床医学研究賞」	2022	羽賀　宣博

〈学会活動〉

1	日本排尿機能学会	理事	2022	羽賀　宣博
2	日本排尿機能学会	代議員	2022	羽賀　宣博
3	日本泌尿器科学会	代議員	2022	羽賀　宣博，松岡　弘文
4	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	代議員	2022	羽賀　宣博
5	日本腎泌尿器疾患予防医学研究会	世話人	2022	羽賀　宣博
6	泌尿器科再建再生研究会	世話人	2022	羽賀　宣博
7	日本小児泌尿器科学会	代議員	2022	松岡　弘文
8	日本移植学会	評議員	2022	中村　信之
9	日本臨床腎移植学会	評議員	2022	中村　信之
10	腎移植血管外科研究会	世話人	2022	中村　信之

〈研究に関係した賞〉

1	膀胱	第121回九州泌尿器科連合地方会学術集会 優秀演題賞	2022	藤川　愛子
2	SuccessfulFlower-Stephens orchiopexy for an abdominal testis associated with continuous type of splenogondal fusion: A case report. (UROLOGY 156: e137–e140，2021.10)	第31回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学術集会優秀論文賞（症例部門）	2022	C. Aoyagi, H. Matsuoka, N. Gunge, K. Tominaga, K. Tsubouchi, S. Irie, N. Haga.

産科婦人科学

〈原著〉

1	Trophic and Immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis	Scientific Reports	doi.org/10.1038/s41598-022-11891-5	Hirakawa T, Yotsumoto F, Shirasu N, Kiyoshima C, Urushiyama D, Yoshikawa K, Miyata K, Kurakazu M, Koga A K, Aoki M, Nabeshima K, Koga K S, Osuga Y, Komatsu H, Taniguchi F, Harada T, Yasunaga S, Miyamoto S

2	当院における早期子宮体癌に対するロボット支援下子宮全摘術の臨床成績	医学紀要	49(2): 85-93, 2022	四元　房典, 伊東　智宏, 宮原　大輔, 吉川　賢一, 重川浩一郎, 宮本　新吾

〈総説〉

1	Ⅰ．早産　早産と妊娠高血圧腎症：病因・病態生理－私はこうみる ４．細菌叢の観点から	産科と婦人科	89(2): 127-131, 2022	漆山　大知, 秦　健一郎, 宮本　新吾
2	近未来に適合した妊婦の子宮内感染予知診断薬の開発	化学工業	73(7): 436-443, 2022	宮本　新吾, 漆山　大知, 柴田　磨己, 伊見　詩織, 秦　健一郎
3	Problems and Solutions in the Perinatal Management of Intrauterine Infection/Inflammation	J Infect Dis Ther	10: 509, 2022	Urushiyama D, Shibata M, Hata K, Miyamoto S

〈国際学会または国内学会シンポジウム及び招待講演での発表〉

1	シンポジウム　周産期医療のマイクロバイオーム	第38回日本産婦人科感染症学会	2022年5月7-8日, 東京 （ハイブリッド）	漆山　大地, 秦　健一郎, 宮本　新吾

〈国内研究助成金〉

1	マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の神経発達障害に関わる分子の同定	令和４年度文部科学若手	2022	漆山　大知（代表）
2	子宮内感染の予測と羊水穿刺の適応を診断する方法の開発	令和２年度文部科学若手	2022	倉員　正光
3	不妊症を克服する再生医療研究	福岡大学領域別研究	2022	四元　房典
4	母乳免疫機構の解析	福岡大学領域別研究	2022	倉員　正光
5	胚細胞の分化誘導研究	福岡大学領域別研究	2022	平川　豊文
6	腟内細菌叢 NGS 検査による子宮内感染スクリーニング法の開発	公益財団法人柿原科学技術研究財団	2022	清島　千尋
7	ナノポアシークエンス法を用いた感染症の発症リスクを診断する自己学習型アプリケーションの開発	公益財団法人臨床研究奨励基金令和４年度臨床研究助成	2022	漆山　大知
8	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	公益財団法人臨床研究奨励基金令和４年度臨床研究助成	2022	平川　豊文
9	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	公益財団法人今井精一記念財団2022年度助成事業	2022	平川　豊文
10	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	第16回ふくおか「臨床医学研究賞」	2022	平川　豊文
11	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	一般財団法人　貝原守一医学振興財団	2022	平川　豊文
12	次世代シーケンシング解析による子宮内膜再生 microRNA の同定と創薬基盤開発	令和４年度文部科学若手研究	2022	柴田　磨己

〈学会活動〉

1	福岡県集団検診協議会子宮がん検診部会委員会	委員	2022	宮本　新吾
2	福岡県すこやか健康事業団学術専門部会	婦人科がん専門部会委員	2022	宮本　新吾

3	NPO 法人「環瀬戸内自然免疫ネットワーク」	理事	2022	宮本　新吾
4	バイオ治療法学会	幹事	2022	宮本　新吾
5	バイオ治療法学会	運営委員	2022	宮本　新吾
6	福岡母性衛生学会	理事	2020	宮本　新吾
7	日本産科婦人科学会	代議員	2022	宮本　新吾
8	福岡県すこやか健康事業団学術専門部会	婦人科がん専門部会委員	2022	四元　房典
9	日本産科婦人科学会	代議員	2022	四元　房典
10	バイオ治療法学会	運営委員	2022	四元　房典
11	福岡母性衛生学会	評議員	2022	井槌　大介
12	福岡母性衛生学会	幹事	2022	倉員　正光

〈研究に関係した賞〉

1	Trophic and Immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis	福岡大学医学部令和４年度研究奨励賞	2022年	平川　豊文
2	Vaginal microbiome as a tool for prediction of chorioamnionitis in preterm labor: a pilot study	第24回福岡大学医学会賞（金賞）	2022年	漆山　大知
3	Vaginal microbiome as a tool for prediction of chorioamnionitis in preterm labor: a pilot study	福岡県医学会賞（奨励賞）	R5.2.5	漆山　大知

麻酔科学

〈原著〉

1	Registry report of initial 50 cases at fukuoka university lung transplant program	福岡大医紀	49(2)：77-84，2022	Miyahara S, Waseda R, Nishino N, Midorikawa K, Abe S, Iwanaka T, Ueda Y, Moroga T, Iwashita K, Shigematsu K, Akiyoshi K, Hayashida Y, Minematsu N, Wada H, Hirano R, Fujita M, Kushima H, Ishi H, Inoue M, Nishimura S, Iwaki R, Hiratsuka M, Toubou E, Sato T, Shiraishi T
2	Detection of carbon dioxide embolism by transesophageal echocardiography during transanal/perineal endoscopic surgery: a pilot study	Sci Rep	12：20487，2022	Matsumoto Y, Hasegawa S, Ohno R, Kajitani R, Munechika T, Nagano H, Komono A, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshida Y, Murayama K, Shigematsu K, Akiyoshi K
3	Diagnostic meaning of urinary ethyl glugoside concentrations in relationship to alcoholic beverage consumption	Legal Medicine	59：102142，2022	Nakano R, Waters B, Hara K, Takayama M, Matsusue A, Kashiwagi M, Kubo S

4	エネルギー分散型蛍光 X 線分析による白骨化死体の青緑色着色物質の解析	法医学の実際と研究	65: 23–27, 2022	柏木　正之，辻田　　明， 高山　みお，松末　　綾， Brian Waters，中野　涼子， 久保　真一
5	Relationship between minute-to-minute variability of intraoperative arterial blood pressure and postoperative acute kidney injury in patients undergoing noncardiac surgery	福岡大医紀	50(1): 29–34, 2023	Mimata R, Yamanokuchi T, Maeda T, Arima H, Akiyoshi K

〈総説〉

1	術後出血モニタリング	臨床麻酔	46(7): 929–936, 2022	中森絵里砂，秋吉浩三郎
2	麻酔科医が知っておくべき産科危機的出血	臨床麻酔	46(9): 1159–1166, 2022	佐藤　聖子，秋吉浩三郎
3	産後神経障害の評価と治療	臨婦産	77(1): 127–132, 2023	佐藤　聖子，秋吉浩三郎

〈著書〉

1	手術患者の術前使用薬コントロール	克誠堂出版	P91–95, 2022	南原菜穂子, 秋吉浩三郎（分担）
2	麻酔科トラブルシューティング A to Z 第 2 版	文光堂	374–375, 2022	秋吉浩三郎（分担）
3	麻酔科トラブルシューティング A to Z 第 2 版	文光堂	386–387, 2022	秋吉浩三郎（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 無痛分娩，帝王切開後の末梢神経障害への対応	日本産科麻酔学会第 2 回 WEB セミナー（Web 開催）	4/27–5/23 2022	佐藤　聖子
2	（招待講演） 術後疼痛とその管理は老年患者の予後に影響を与えるか？	第35回日本老年麻酔学会	東京 3/3–4 2023	秋吉浩三郎
3	（ワークショップ） 産科麻酔に必要な超音波ハンズオン	第 2 回日本周産期麻酔科学会	福岡 3/25–26 2023	岩下　耕平

〈国内研究助成金〉

1	複合性局所疼痛症候群の機序解明に基づく新規治療戦略の開発	文部科学省 基盤研究 C	2022	柴田　志保（代表）

〈学会活動〉

1	NPO 法人　ABCD sonography	理事	2022	秋吉浩三郎
2	日本麻酔科学会	代議員	2022	秋吉浩三郎，重松　研二
3	日本心臓血管麻酔学会	理事	2022	秋吉浩三郎
4	日本ペインクリニック学会	評議員	2022	秋吉浩三郎，柴田　志保

5	日本医療ガス学会	常任理事	2022	秋吉浩三郎
6	日本集中治療医学会	評議員	2022	重松　研二
7	日本循環制御医学会	評議員	2022	秋吉浩三郎
8	日本神経麻酔集中治療学会	評議員	2022	秋吉浩三郎
9	小児麻酔学会	評議員	2022	秋吉浩三郎

歯科口腔外科学

〈原著〉

1	Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph node metastasis model	Scientific reports	12(1):13208 [DOI:10.1038/s41598-022-15926-9]), 2022	Ryosuke Mano, Tomoko Tanaka, Shiho Hashiguchi, Hiroyuki Takahashi, Naoaki Sakata, Seiji Kondo, Shohta Kodama
2	Relationship between motor dysfunction and chewing movement in patients with Parkinson's disease: A transversal study	Front Neurol.	9;13:1062134.[DOI:10.3389/fneur.2022.1062134.eCollection]), 2022	Taisei Sano, George Umemoto (Corresponding Author), Shinsuke Fujioka, Yuki Iwashita, Yuriko Dotsu, Naohisa Wada, Yoshio Tsuboi
3	福岡大学病院歯科口腔外科における下顎埋伏智歯抜歯術後感染予防抗菌薬の使用実態と手術部位感染発生状況　～ガイドライン発行前後の推移～	福岡大学医学紀要	49(2), 71-76, 2022	中村　真輔，喜多　涼介，吉野　　綾，石田晋太郎，眞野　亮介，橋口　志保，青柳　直子，嶋村　知記，瀬戸　美夏，近藤　誠二

〈症例報告〉

1	Submental tracheal intubation in a school-age child with maxillofacial trauma: Our techniques and devices.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	34(6):769-771 [DOI:10.1016/j.ajoms.2022.05.004]), 2022	Shintaro Ishida, Ryosuke Kita, Shiho Hashiguchi, Ryosuke Mano, Shinsuke Nakamura, Aya Yoshino, Naoko Aoyagi, Tomoki Shimamura, Seiji Kondo.
2	舌に発生したCD4-CD8-ダブルネガティブT細胞性メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の１例	日本口腔外科学会誌	68(8):346-351, 2022	中村　真輔，吉野　　綾，石田晋太郎，眞野　亮介，橋口　志保，近藤　誠二
3	福岡大学病院における過去５年間の慢性硬膜下血腫発生動向の後ろ向き調査と顎顔面外傷後に発症した慢性硬膜下血腫の１例	福岡大学医学紀要	49(2), 95-100 2022	中村　真輔，喜多　涼介，吉野　　綾，石田晋太郎，眞野　亮介，橋口　志保，青柳　直子，嶋村　知記，瀬戸　美夏，近藤　誠二

〈総説〉

1	福岡大学病院摂食嚥下センター開設後１年間の実態調査	老年歯科医学	36(4):335-342, 2022	道津友里子，梅本　丈二，佐野　大成，芥川　礼奈，岩下　由樹，溝江　千花，梅田　愛里

〈著書〉

1	Methods in molecular biology	Springer	pp.127–155, 2023	近藤　誠二（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 大学病院における口腔ケア　福岡大学病院ECM センターでの口腔衛生管理	第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会／第２回国際口腔ケア学会総会・学術大会	大阪 4/23 2022	近藤　誠二
2	（シンポジウム） 歯科から見た舌機能・舌位置制御の可能性	日本睡眠学会第47回定期学術集会	京都 6/30 2022	梅本　丈二
3	（国際学会） Assessment of energy expenditure using doubly labeled water and reported dietary intake in patients with myotonic dystrophy type 1: A preliminary study	the 13th International Myotonic Dystrophy Consortium Meeting	Osaka, Japan June 23 2022	梅本　丈二
4	（国際学会） Resazurin Disk Test for Quantitative Oral Hygiene Assessment in Isolation Wards	第35回台湾口腔顎面外科学会学術大会	Taipei, Taiwan March 12 2023	Aya Yoshino

〈国内研究助成金〉

1	神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	梅本　丈二（代表）
2	神経筋疾患の嚥下障害が栄養障害に及ぼす影響に関する研究	文部科学省 基盤研究 C	2022	梅本　丈二（代表）
3	重症感染症の重篤化と口腔－腸連関の関連性解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	吉野　　綾（代表）
4	口腔－腸内性菌叢と人工呼吸器関連肺炎（VAP）	文部科学省 基盤研究 C	2022	喜多　涼介（代表）
5	人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔-腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	文部科学省 基盤研究 C	2022	眞野　亮介（代表）
6	動脈硬化性疾患患者の口腔-腸内細菌叢の微物相解析	文部科学省 基盤研究 C	2022	石田晋太郎（代表）
7	パーキンソン病患者の嚥下機能と服薬状況に関する調査研究	日本老年歯科医学会研究助成	2022	梅本　丈二（代表）
8	ECMO センター管理を要する新型コロナウイルス感染症患者の口腔内衛生状況の評価	公益財団法人臨床研究奨励基金　臨床研究助成	2022	吉野　　綾（代表）
9	Oral microbiome	福岡大学研究推進部：領域別研究助成金	2022	近藤　誠二（代表）
10	神経疾患による睡眠障害	福岡大学研究推進部：領域別研究助成金	2022	梅本　丈二（代表）
11	要介護者のためのファインバブル技術を活用したマウスピース型口腔洗浄器のデザイン	開発戦略的基盤技術高度化支援事業	2022	梅本　丈二 （代表者：小河原　悟）

〈学会活動〉

1	日本口腔外科学会	代議員	2022	近藤　誠二
2	日本口腔科学会	評議員	2022	近藤　誠二

3	日本口腔感染症学会	理事	2022	近藤　誠二
4	日本口腔感染症学会	代議員	2022	近藤　誠二
5	日本有病者歯科医療学会	代議員	2022	近藤　誠二
6	日本神経摂食嚥下・栄養学会	理事	2022	梅本　丈二
7	日本睡眠学会	評議員	2022	梅本　丈二
8	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	評議員	2022	梅本　丈二
9	日本老年歯科医学会	代議員	2022	梅本　丈二
10	日本歯科麻酔学会	代議員	2022	瀬戸　美夏

〈研究に関係した賞〉

1	CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin α v β5-ERK pathway and regulated by DUSP6	福岡大学医学部同窓会 令和４年度研究奨励賞	2022	橋口　志保

臨床検査医学

〈症例報告〉

1	Angiographic findings and treatment of coronary sinus spasm during left ventricular lead placement	J Cardiol Cases	26(5): 367-370, 2022	Komaki T, Shibata Y, Mine K, Mohri N, Tashiro K, Miura SI, Ogawa M

〈総説〉

1	不整脈医からみた高血圧・心不全治療	臨牀と研究	99(12): 113-117, 2022	小川　正浩
2	心電学の進歩と不整脈治療	日本臨床検査医学会誌	71(3): 179-182, 2023	小川　正浩
3	福岡大学病院におけるがんゲノム医療の現状と取り組み　－がんゲノム医療コーディネーターの立場から－	福岡大学医学紀要	49(2): 107-113, 2022	常光　好美，大久保久美子，田中　俊裕，吉田陽一郎，井上　博之，山田　哲平，松﨑　洋吏，倉員　正光，濵﨑　　慎，鍋島　一樹，高松　　泰

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（国内学会招待講演） 臨床心電学の進歩と不整脈治療	第69回日本臨床検査医学会学術集会	宇都宮 11/17-20 2022	小川　正浩

〈国内研究助成金〉

1	循環器疾患領域における多剤併用（polypharmacy）の実態とその問題把握に関する研究	日本医療研究開発機構 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	2022	小川　正浩 （代表者：安田　　聡）
2	禁煙に伴う腸内細菌叢を介したHDL機能制御のメカニズムの解明	日本学術振興会，研究活動スタート支援	2022	髙田　耕平（代表）
3	情報通信技術を用いた遠隔栄養指導有用性の検討	日本学術振興会，若手研究	2022	髙田　耕平（代表）

4	超音波組織弾性イメージング技術を用いた家族性高コレステロール血症早期診断へのアプローチ	福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業	2022	髙田　耕平（代表）

〈学会活動〉

1	日本循環器学会	社員，FJCS，循環器専門医資格認定審査診療 実績表評価者	2022	小川　正浩
2	日本不整脈心電学会	評議員，情報広報委員会委員，倫理委員会 利益相反部会 部会員	2022	小川　正浩
3	臨床心臓電気生理研究会	幹事	2022	小川　正浩
4	日本臨床検査医学会	評議員	2022	大久保久美子
5	日本内分泌学会	評議員	2022	大久保久美子

〈研究に関係した賞〉

1	福岡大学病院における高 LDL-C 血症に対するアプローチの現状	ポスター優秀賞	2023年	髙田　怜花

救命救急医学

〈原著〉

1	Mitochondrial surface coating with artificial lipid membrane improves the transfer efficacy	COMMUNICATIONS BIOLOGY	doi.org/10.1038/s42003-022-03719-9	Takafumi Nakano, Yoshihiko Nakamura, Ji-Hyun Park, Masayoshi Tanaka, Kazuhide Hayakawa
2	Glial fibrillary acidic protein level on admission can predict severe traumatic brain injury in patients with severe multiple trauma: A single-center retrospective observational study	Current Research in Neurobiology	doi.org/10.1016/j.crneur.2022.100047	Yoshihiko Nakamura, Taisuke Kitamura, Yasumasa Kawano, Kota Hoshino, Yuhei Irie, Kentaro Muranishi, Mitsutoshi Iwaasa, Hiroyasu Ishikura
3	High-dose methylprednisolone versus dexamethasone therapy for hospitalized patients with severe COVID-19: a retrospective analysis	Signa Vitae.	2022. doi:10.22514/sv.2022.065.	Yasumasa Kawano, Yusuke Osaki, Hiroshi Yatsugi, Tatsuya Hashimoto, Naoko Inoshima, Shuji Hayashi
4	新型コロナウイルス抗体迅速測定キット One Step Novel Coronavirus（IgM/IgG）Antibody Test（Artron，Canada）の診断精度検証　単施設の調査報告	日本臨床救急医学会雑誌	25(3)：568-574，2022	水沼真理子，仲村　佳彦，坂本　篤彦，吉村　芳修，入江　悠平，酒井麻巳子，丸山　隼一，野明　純汰，鍋島　茂樹，石倉　宏恭
5	重症 COVID-19患者におけるレムデシビルの安全性の検討	日本病院薬剤師会雑誌	58(7)：795-799，2022	森脇　典弘，宮崎　元康，野田　航平，高崎　晴稀，仲村　佳彦，石倉　宏恭，兼重　　晋，神村　英利
6	Early recognition of sepsis-induced coagulopathy using the C2PAC index: a ratio of soluble type C lectin-like receptor 2 (sCLEC-2) level and platelet count.	Platelets	2022 Aug 18;33(6)：935-944.	Ishikura H, Irie Y, Kawamura M, Hoshino K, Nakamura Y, Mizunuma M, Maruyama J, Nakashio M, Suzuki-Inoue K, Kitamura T.

7	DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19.	Nature	2022 Sep; 609(7928): 754-760	The Japan COVID-19 Task Force (JCTF), Nakamura Y., Hoshino K., Maruyama J., Ishikura H. (275-278番目)
8	The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force.	Nature Communications	2022 Aug 22;13(1): 4830	The Japan COVID-19 Task Force (JCTF), Nakamura Y., Hoshino K., Maruyama J., Ishikura H. (251-254番目)
9	Antiplatelet therapy for standalone coiling of ruptured intracranial aneurysms: a systematic review and meta-analysis.	J Neurointerv Surg	2022 Dec; 14(12): 1207-1212	Takase H, Tatezuki J, Salem MM, Tayama K, Nakamura Y, Burkhardt JK, Yamamoto T.
10	Clinical Results of Two-Stage Surgery for Intra-Articular Fractures of the Distal Tibia Using Temporary Fixation with a Simplified Ilizarov External Fixators	Med. Bull. Fukuoka Univ.	50(1): 11-16, 2023	Takuya Ishibashi, Koichi Kinoshita, Atsuhiko Nakamura, Hidetoshi Onoue, Takuaki Yamamoto
11	Daily combined measurement of platelet count and presepsinconcentration can predict in-hospital death of patients with severe coronavirus disease 2019 (COVID-19)	International Journal of Hematology	Published Online 15 March, 2023 https://doi.org/10.1007/s12185-023-03555-5	Hiroyasu Ishikura, Junichi Maruyama, Maiko Nakashio, Kota Hoshino, Shinichi Morimoto, Yoshito Izutani, Junta Noake, Takahiro Yamagaito, Maho Yoshida, Taisuke Kitamura, Yoshihiko Nakamura
12	Association of the quantitative oral health status of patients with COVID-19 with their organ status and immunity: A single-centre observational study	Intensive & Critical Care Nursing	Available online 27 March 2023 https://doi.org/10.1016/jiccn.2023.103433	Aya Yoshino, Yoshihiko Nakamura, Aki Kusu, Mari Fukushima, Yasuhiro Yotsui, Tohru Takata, Hiroyasu Ishikura, Seiji Kondo
13	COVID-19患者に対する ECMO 管理中の出血性合併症と Thromboelastography の関連：単施設後方視研究	日本集中治療医学会雑誌	30(1): 113-119, 2023	山﨑慎太郎，城尾　和司，山内　和也，鳩本　広樹，秋吉浩三郎，星野　耕大，仲村　佳彦，石倉　宏恭

〈症例報告〉

1	人工呼吸器関連肺炎を併発し veno venous ECMO 再導入が必要であった coronavirus disease 2019肺炎の１例	日本集中治療医学会雑誌	29: 287-289, 2022	森本　紳一，泉谷　義人，野明　純太，酒井麻巳子，丸山　隼一，山﨑　玲子，鯉江めぐみ，石倉　宏恭

〈総説〉

1	Ⅲ．特有の病態と治療 １．COVID-19の病態と治療	集中治療医学レビュー 最新腫瘍文献と解説 2022-'23	228-234, 2022	石倉　宏恭，仲村　佳彦
2	COVID-19に対する急性血液浄化法の役割	日本アフェレシス学会雑誌	41(2): 126-130, 2022	仲村　佳彦

3	特集　DIC・関連疾患・COVID-19と臨床検査 Part3　COVID-19と凝固異常，DIC ② COVID-19と凝固・線溶異常，DIC	Land-Mark in Thrombosis & Haemostasis	2: 102-106, 2022	石倉　宏恭
4	特集・日々変化する新型コロナウイルス感染症とその管理 COVID-19と ECMO	ICU と CCU	46(5): 293-300, 2022	石倉　宏恭，星野　耕大
5	特集　新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のすべて 治療　ネーザルハイフローから ECMO まで	呼吸器ジャーナル	70(3): 397-404, 2022	星野　耕大，竹田　晋浩
6	特集　徹底ガイド DIC のすべて2022-'23 X．類似病態，鑑別すべき病態 73．機械的補助循環と後天性フォン・ヴィレブランド症候群	救急・集中治療	34(2): 959-965, 2022	石倉　宏恭
7	◆トピックス◆ 新型コロナウイルス関連シリーズ 救急の現場から－ ECMO センターにおける COVID-19診療の現状－	日本血栓止血学会誌	33(4): 426-432, 2022	石倉　宏恭，泉谷　義人， 星野　耕大
8	事例 PICK UP　敗血症診断とバイオマーカー（解説）	SRL 宝函	43(3): 40-43, 2022	石倉　宏恭
9	Pineal parenchymal tumor of intermediate differentiation: a systematic review and contemporary management of 389 cases reported during the last two decades.	Neurosurg Rev	2022 Apr; 45(2): 1135-1155	Takase H, Tanoshima R, Singla N, Nakamura Y, Yamamoto T.
10	【心肺蘇生は“わかっていないこと”だらけ⁉】 ECPR に関する“わかっていないこと”.	救急医学	2022; 46(9): 1080-1085	仲村　佳彦
11	特集　外傷性凝固障害と外傷性 DIC 外傷患者に対する Hemostatic resuscitation と輸血戦略	Thrombosis Medicine	13(1): 31-38, 2023	石倉　宏恭
12	最重症新型コロナウイルス肺炎患者に対する体外式膜型人工肺（ECMO）による救命治療と ECMO センターの設立	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団 第15業績集	5-7, 2023	石倉　宏恭

〈著書〉

1	今日の治療指針 私はこう治療している 救急医療：治療「ショック－緊急検査と処置」	医学書院	14, 2023	石倉　宏恭（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	モーニングセミナー(2)： 外科医も知っておくべき DIC の新展開	第122回日本外科学会定期学術集会	熊本市 2022/04/16	石倉　宏恭
2	救急科領域講習 6 重症 COVID-19の救命率向上には Team 医療が不可欠である ～特に ECMO 管理について～	第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会	大阪/Web 2022/05/27	石倉　宏恭
3	シンポジウム２：他職種連携で救急医療の危機に挑む 重症 COVID-19の ECMO 管理を通して他職種連携を考える	第26回日本救急医学会九州地方会	熊本市 2022/06/24	高山　和之，星野　耕大， 丸山　隼一，鳩本　広樹， 山崎慎太郎，大木　伸泰， 矢次　　彩，川鍋　智子， 石倉　宏恭

4	パネルディスカッション３：知と実践「多発外傷に伴う各種重症外傷の治療戦略　頭部外傷編」 頭部外傷を伴う多発外傷における頭蓋内血腫の増大と線溶系マーカーの関係	第36回日本外傷学会総会・学術集会	大阪 2022/07/01	入江　悠平，星野　耕大，村西謙太郎，高山　和之，仲村　佳彦，喜多村泰輔，石倉　宏恭
5	ECMO セッション「ECMO センターでの COVID-19管理から再認識したチーム医療の重要性」 「基調講演：ECMO センター開設の経緯と重症 COVID-19に対する Team 医療」	日本集中治療医学会第６回関西支部学術集会	大阪 2022/07/16	石倉　宏恭
6	ECMO セッション「ECMO センターでの COVID-19管理から再認識したチーム医療の重要性」 「呼吸 ECMO 管理における医療安全確保のための多職種でのタスク・シェア」	日本集中治療医学会第６回関西支部学術集会	大阪 2022/07/16	丸山　隼一
7	ECMO セッション「ECMO センターでの COVID-19管理から再認識したチーム医療の重要性」 「重症 COVID-19の V-V ECMO 管理を経験して ― ECMO とチーム医療 ― 」	日本集中治療医学会第６回関西支部学術集会	大阪 2022/07/16	星野　耕大
8	ハンズオンセミナー３／ ECMO 腹臥位・リハビリ講習会	第44回日本呼吸療法医学会学術集会	横浜市 2022/08/06	星野　耕大
9	シンポジウム３／ COVID-19総括：次のパンデミックに活かすために	第44回日本呼吸療法医学会学術集会	横浜市 2022/08/07	星野　耕大，丸山　隼一，石倉　宏恭
10	シンポジウム１「ECPR と ECMO 治療：病院前導入と搬送の Tips」；ドクターカーと ECMO カーを活用した効率的な ECMO 搬送体制の確立を目指して	第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会	東京都 2022/11/27	星野　耕大
11	てんかん外科・定位機能神経外科合同シンポジウム ［機能神経外科とてんかん外科を学ぶ人のために ― 適応と手技を学ぶ ― ］難治性てんかん患者に対する新たなる緩和治療：視床正中中心核凝固術	第62回日本定位・機能神経外科学会	山口市 2023/01/27	田中　秀明
12	１．DIC 部会 「DIC 診療ガイドライン（仮）の構想と進捗状況」 ５　急性膵炎・慢性肝不全	第17回日本血栓止血学会学術標準化委員会 SSC シンポジウム	オンライン開催 2023/02/18	石倉　宏恭，真弓　俊彦，田村　利尚，西尾　健治
13	教育セミナー10： ECMO・LVAD 管理中の Pitfall ～後天性 von Willebrand 症候群の恐怖～	第50回日本集中治療医学会学術集会	京都市 2023/03/02	石倉　宏恭

〈国内研究助成金〉

1	トロンボモジュリン製剤を用いた新たな脳梗塞治療戦略の検証	日本学術振興会 科学研究費　若手研究	2022	仲村　佳彦（代表）
2	脳梗塞新規治療薬開発	福岡大学 推奨研究プロジェクト助成金	2022	仲村　佳彦（代表）

〈学会活動〉

1	日本救急医学会九州地方会	幹事	2022	石倉　宏恭
2	日本救急医学会	評議員	2022	石倉　宏恭，喜多村泰輔

3	日本臨床救急医学会	評議員	2022	石倉　宏恭，喜多村泰輔
4	日本救命医療学会	評議員	2022	喜多村泰輔
5	日本 Shock 学会	評議員	2022	石倉　宏恭
6	日本外傷学会	評議員	2022	石倉　宏恭，星野　耕大
7	日本腹部救急医学会	評議員	2022	石倉　宏恭
8	日本病院前救急診療医学会	評議員	2022	石倉　宏恭
9	日本救急医学会九州地方会	評議員	2022	石倉　宏恭
10	日本 Acute Care Surgery	評議員	2022	石倉　宏恭
11	日本航空医療学会	評議員	2022	喜多村泰輔
12	日本救命医療学会	監事	2022	石倉　宏恭
13	日本集中治療医学会	評議員	2022	石倉　宏恭，仲村　佳彦
14	福岡救急医学会	評議員	2022	喜多村泰輔，仲村　佳彦

福岡大学病院病理部・病理診断科

〈原著〉

1	Challenges and limitation of MTAP immunohistochemistry in diagnosing desmoplastic mesothelioma/sarcomatoid pleural mesothelioma with desmoplastic features.	Ann Diagn Pathol.	60：152004，2022	Prakasit Sa-Ngiamwibool, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, Shinji Matsumoto, Ayuko Sato, Tohru Tsujimura, Takahiko Kasai, Kenzo Hiroshima, Kei Kushitani, Yukio Takeshima, Kunimitsu Kawahara, Akinori Iwasaki, Kazuki Nabeshima
2	肺腫瘍の術中迅速穿刺吸引細胞診	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	53，19-25，2022	松本　慎二，角谷　優子，鍋島　一樹，西中村恵輔，秋吉　梨江，高橋　祥子，小山　　逸，佐藤　寿彦，濱崎　　慎
3	Standardized Methods Using EUS-guided Fine-needle Biopsy and a Minimal Medium Creates Three Pancreatic Cancer Organoids	Anticancer Res.	42(8)：4103-4109，2022	Toshiyuki Tsunoda, Yoshihiro Hamada, Naoaki Tsuchiya, Takehiko Koga, Takanori Kitaguchi, Keisuke Matsumoto, Shinji Matsumoto, Takahide Sasaki, Ryo Nakashima, Fuminori Ishii, Masatoshi Kajiwara, Senji Shirasawa, Suguru Hasegawa, Fumihito Hirai
4	Update of pathological diagnosis of pleural mesothelioma using genomic-based morphological techniques, for both histological and cytological investigations	Pathology International	72(8)：389-401，2022	Kazuki Nabeshima, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, Shinji Matsumoto, Prakasit Sa-ngiamwibool

5	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study	Lung Cancer	175： 27–35， 2023	Prakasit Sa-ngiamwibool， Makoto Hamasaki， Yoshiaki Kinoshita， Shinji Matsumoto， Ayuko Sato， Tohru Tsujimura， Kunimitsu Kawahara， Takahiko Kasai， Kei Kushitani， Yukio Takeshima， Kenzo Hiroshima， Akinori Iwasaki， Kazuki Nabeshima
6	全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000における Atyp.C と尿細胞診，尿沈渣の比較検討	医学検査	72(2)， 210–215， 2023	酒井瑠美子，石川　道子， 松本　慎二，嶋田　裕史， 小川　正浩

〈症例報告〉

1	左側脳室発生 myxoid glioneuronal tumor の１例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	53， 83–88， 2022	西中村恵輔，松本　慎二， 角谷　優子，秋吉　梨江， 高橋　祥子，小山　　逸， 井上　　亨，濵﨑　　慎， 鍋島　一樹
2	小細胞神経内分泌癌との鑑別に苦慮した子宮体部低分化類内膜癌の２例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	53， 45–50， 2022	高橋　祥子，松本　慎二， 角谷　優子，大石　朋子， 西中村恵輔，秋吉　梨江， 小山　　逸，四元　房典， 濵﨑　　慎，鍋島　一樹
3	成人発生膀胱原発横紋筋肉腫の１例	日本臨床細胞学雑誌	61(6)， 413–418， 2022	小山　　逸，松本　慎二， 林　　博之，角谷　優子， 高橋　祥子，秋吉　梨江， 西中村恵輔，辻　　雅子， 大石　朋子，鍋島　一樹

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（ワークショップ） 中皮腫診断における 9p21(CDKN2A)-FISH と免疫化学	第61回日本臨床細胞学会秋期大会	仙台 11/5 2022	松本　慎二，西中村恵輔， 角谷　優子，濵﨑　　慎， 鍋島　一樹
2	（ワークショップ） 体腔液細胞診の現状と今後の課題	第61回日本臨床細胞学会秋期大会	仙台 11/5 2022	濱崎　　慎，角谷　優子， 松本　慎二，鍋島　一樹
3	胸水細胞診における鑑別診断フロー　～鑑別に有用な免疫細胞マーカーの特性と Pitfall～（教育講演）	第47回　和歌山県臨床細胞学会学術集会	和歌山 2/4 2023	松本　慎二

〈国内研究助成金〉

1	悪性胸膜中皮腫細胞診診断の精度向上に関する研究：新規良悪性鑑別マーカーの探索	文部科学省 基盤研究 C	2022	濵﨑　　慎（代表）
2	Emmprin と CD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究 研究課題	文部科学省 基盤研究 C	2022	濵﨑　　慎，濵田　義浩 （代表者：青木光希子）

〈学会活動〉

1	日本臨床衛生検査技師会	細胞診精度管理ワーキング委員	2022	松本　慎二
2	日本臨床細胞学会 九州連合会学会	理事 （教育委員会）	2022	松本　慎二
2	日本臨床細胞学会 九州連合会学会	編集委員	2022	松本　慎二，角谷　優子
3	日本臨床細胞学会 福岡県臨床細胞学会	理事	2022	松本　慎二
4	日本臨床細胞学会細胞検査士会	理事 （学術委員長）	2022	松本　慎二
5	日本臨床細胞学会 福岡県細胞検査士会	理事 （総務委員長）	2022	松本　慎二
6	日本臨床細胞学会	評議員・国際委員・情報処理委員	2022	松本　慎二
10	中皮腫細胞診研究会	幹事	2022	濵﨑　　慎，松本　慎二
11	日本病理学会	学術評議員	2022	濵﨑　　慎，濵田　義浩，古賀　佳織
12	日本病理学会	センター調査個別調査部会部会員	2022	濵﨑　　慎
13	日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ 体腔液小委員会委員	2022	濵﨑　　慎
14	環境省	中央環境審議会専門委員	2022	濵﨑　　慎
15	環境省	環境保健部会所属専門委員	2022	濵﨑　　慎
16	環境省	保健部会石綿健康被害判定小委員会所属専門委員	2022	濵﨑　　慎
17	日本石綿・中皮腫学会（JAMIC）	中皮腫取扱い規約第２版作成委員	2022	濵﨑　　慎，松本　慎二
18	日本肺癌学会	評議員	2022	濵﨑　　慎
19	日本肺癌学会	病理委員会委員	2022	濵﨑　　慎
20	日本肺癌学会	ガイドライン胸膜中皮腫小委員会委員	2022	濵﨑　　慎
21	日本肺癌学会	アドホック胸部腫瘍改訂小委員会委員	2022	濵﨑　　慎
22	日本皮膚病理組織学会	理事	2023	古賀　佳織

福岡大学病院輸血部

〈原著〉

1	International forum on transfusion education for healthcare professionals who administer blood to patients in hospitals and health services:Responses	Vox Sanguinis	1-18, 2023	Arwa Z. Al-Riyami, Linley Bielby, Rachel Moss, Naomi Rahimi-Levene, Aine O'Kane, John R. Hess, Noor e Saba, Kyeong-Hee Kim, Satyam Arora, Seema Dua, Claire L. Barrett, Carlos A. Gonzalez, David Martin Ferrari, Paula V. Cini, Midori Kumagawa, Claire O'Reilly, Liz Thrift, Silvano Wendel, Roberta Fachini, Lara Faria Souza Dias, Dung Tran, Christine T. Steinsvag, Nancy Dunbar
2	International forum on transfusion education for healthcare professionals who administer blood to patients in hospitals and health services: Summary	Vox Sanguinis	1-9, 2023	Arwa Z. Al-Riyami, Linley Bielby, Rachel Moss, Naomi Rahimi-Levene, Aine O'Kane, John R. Hess, Noor e Saba, Kyeong-Hee Kim, Satyam Arora, Seema Dua, Claire L. Barrett, Carlos A. Gonzalez, David Martin Ferrari, Paula V. Cini, Midori Kumagawa, Claire O'Reilly, Liz Thrift, Silvano Wendel, Roberta Fachini, Lara Faria Souza Dias, Dung Tran, Christine T. Steinsvag, Nancy Dunbar

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（パネルディスカッション） 九州支部における合同活動の紹介	第70回日本輸血・細胞治療学会学術総会 （ハイブリッド開催）	名古屋 5/27-29, 2022	熊川みどり

〈国内研究助成金〉

1	輸血搬送装置（ATR）を用いた輸血基幹病院とクリニック間の連携による在宅輸血医療の均てん化を図る研究	厚生労働省 血液製剤使用適正化方策調査研究事業	2022	熊川みどり（代表）

〈学会活動〉

1	日本輸血・細胞治療学会	理事，評議員	2022	熊川みどり
2	日本自己血輸血・周術期輸血学会	評議員	2022	熊川みどり

福岡大学病院リハビリテーション部

〈原著〉

1	The Influence of Discontinuation of Cardiac Rehabilitation for outpatients by Pandemic of COVID-19	Journal of Cardiovascular Development and Disease	2022，9(194)：1-10 https://doi.org/10.3390/jcdd9060194	Mouri N, Suematsu Y, Yano Y, Morita K, Shirosaki M, Fujita M, Matsuda T, Matsuo S, Tazawa R, Fujimi K, Miura S
2	The moderate-intensity continuous exercise maintains renal blood flow and does not impair the renal function	Physiological Reports.	2022，10(15)：1-13 https://doi.org/10.14814/phy2.15420	Kawakami S, Yasuno T, Kawakami S, Ito A, Fujimi K, Matsuda T, Nakashima S, Masutani K, Uehara Y, Higaki Y, Michishita R
3	A case of sport rehabilitation through the Endoscopic Placement of an Internal Brace for the Ankle Lateral Ligaments that had Re-Ruptured after Reconstruction Surgery.	Mega J case Rep	2022，1：2001-2007	Kyosuke G, Yutaka S, Tomonobu H, Hiroshi F, Muneyuki T, Syunnya O, Taijiro H
4	Survey on Sports-Related Concussions among Japanese University Students.	Brain Sci	2022，Nov 16；12(11)：1557	Otsubo S, Shigemori Y, Fukushima H, Tachihara M, Goto K, Terada K, Tsurusaki R, Yamaguchi K, Otsuka N
5	大学ラクロス競技における頭部外傷の実態と問題点の検討	日本臨床スポーツ医学会誌	2022，30(3)：714-723	重森　裕，寺田　光輝，福島　洋，大坪　俊矢，後藤　恭輔，館原　宗幸，安高　駿，鶴崎　梨乃，山口　継太
6	2019-2020福岡大学トレーナーズルーム利用状況報告	福岡大学スポーツ科学部研究	2022，52(2)：141-153	秀　泰二郎，後藤　恭輔，西田　智，重森　裕，岩本　英明

〈総説〉

1	実践できる，継続できる，運動療法	月間　糖尿病	14(5)：25-32，2022	松田　拓朗
2	福岡大学病院におけるリハビリテーションスタッフがかかわるチーム医療および多職種連携	Journal of clinical rehabilitation	31：476-479，2022	鎌田　聡，塩田　悦仁，藤見　幹太

〈著書〉

1	A Novel Method to Determine Plasma Noradrenaline Threshold During Exercise by Using Heart Rate Variability	The 2022 ACSM Annual Meeting, World Congress on Exercise is Medicine®, and World Congress on the Basic Science of Exercise and Vascular Health	The San Diego Convention Center（San Diego, CA）5/31-6/4 2022	Tanoue Y, Komatsu T, Nakashima S, Matsuda T, Michishita R, Higaki Y, Uehara Y.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	A Novel Method to Determine Plasma Noradrenaline Threshold During Exercise by Using Heart Rate Variability	The 2022 ACSM Annual Meeting, World Congress on Exercise is Medicine®, and World Congress on the Basic Science of Exercise and Vascular Health	The San Diego Convention Center (San Diego, CA) 5/31–6/4 2022	Tanoue Y, Komatsu T, Nakashima S, Matsuda T, Michishita R, Higaki Y, Uehara Y.
2	（シンポジウム） 効率的なエネルギー消費を促す運動療法のポイント	第60回日本糖尿病学会九州地方会	福岡国際会議場（福岡県） 10/7–8 2022	松田　拓朗
3	（市民公開講座） 自宅で簡単にできるエクササイズ	第４回日本フットケア・足病医学会　九州・沖縄地方会　学術集会	第４回日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会学術集会	松田　拓朗
4	（講演） 作業療法士　現職者研修講義　職業倫理	福岡県作業療法士協会 主催	福岡大学病院よりリモート開催 2022/10/15	百武　光一

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第14回福岡生活習慣病運動療法研究会	web 配信	９月２日， 2022年	下野　　大， 鎌田　　聡（当番責任者）， 藤見　幹太， 藤原　裕矢（当番責任者）， 二田　哲博，松田　拓朗， 赤木　慎作，伊﨑　輝昌， 馬渡　太郎，田邉真紀人
2	第15回福岡生活習慣病運動療法研究会	福岡大学病院 メディカルホール	３月６日， 2023年	下野　　大（当番責任者）， 田邉真紀人（当番責任者）， 鎌田　　聡，藤見　幹太， 松田　拓朗，前山　　彰， 藤原　裕矢，二田　哲博， 松田　拓朗，赤木　慎作， 末永　幸洋，馬渡　太郎

〈学会活動〉

1	日本リハビリテーション医学会	代議員	2022～	鎌田　　聡
2	日本急性期リハビリテーション医学会	代議員	2022～	鎌田　　聡
3	日本リハビリテーション医学会・九州地方会	幹事	2022～	鎌田　　聡
4	福岡生活習慣病運動療法研究会	世話人	2012～	松田　拓朗
5	NPO 法人 足もと健康サポートネット 会報誌【FOOT LIFE GOOD LIFE】	編集長	2016～	松田　拓朗
6	福岡心臓リハビリテーション研究会	世話人	2018～	松田　拓朗
6	日本臨床運動療法学会	評議員	2021～	松田　拓朗

福岡大学病院総合診療部

〈原著〉

1	Ephedrae Herba and Cinnamomi Cortex interactions with G glycoprotein inhibit respiratory syncytial virus infectivity	Commun Biol	5(94): 1-11, 2022	Fujikane A, Sakamoto A, Fujikane R, Nishi A, Ishino Y, Hiromatsu K & Nabeshima S.
2	Diagnostic error rates and associated factors for lower gastrointestinal perforation	Sci Rep	12(1028): 1-7, 2022	Harada T, Watari T, Watanuki S, Hiroshige J, Kushiro S, Miyagami T, Syusa S, Suzuki S, Hiyoshi T, Hasegawa S, Nabeshima S, Aihara H, Yamashita S, Tago M, Yoshimura F, Kunitomo K, Tsuji T, Hirose M, Tsuchida T & Shimizu T.
3	Maoto, a traditional herbal medicine, for post-exposure prophylaxis for Japanese healthcare workers exposed to COVID-19: A single center study	J Infect Chemother	28(7): 907-911, 2022	Nabeshima A, Sakamoto A, Iwata K, Kitamura Y, Masui S, Inomata S, Iida M, Iida T & Nabeshima S.
4	新型コロナウイルス抗体迅速測定キット One Step Novel Coronavirus (IgM/IgG) Antibody Test (Artron, Canada) の診断精度検証：単施設の調査報告	日本臨床救急医学会雑誌	25: 568-574, 2022	水沼真理子，仲村　佳彦， 坂本　篤彦，吉村　芳修， 入江　悠平，酒井麻巳子， 丸山　隼一，野明　純汰， 鍋島　茂樹，石倉　宏恭
5	Longitudinal dynamics of SARS-CoV-2 IgG antibody responses after the two-dose regimen of BNT162b2 vaccination and the effect of a third dose on health care workers in Japan	Vaccines	10(6): 1-16, 2022	Sakamoto A, Yoshimura M, Itoh R, Ozuru R, Ishii K, Sechi Y, Nabeshima S & Hiromatsu K.

〈症例報告〉

1	Acute myocarditis with severe fever and thrombocytopenia syndrome	Intern Med	61: 1779-1784, 2022	Okutsu S, Futami M, Arimura T, Ohki K, Hiyoshi T, Sakihara E, Kato Y, Ueda Y, Yano M, Takeshita M, Ishikura H, Suzuki T, Kato S, Miura S & Nabeshima S.

〈総説〉

1	インフルエンザ	ALPHA CLUB	451: 4, 2022	鍋島　茂樹
2	麻黄湯	月刊薬事	64(3): 151-154, 2022	鍋島　茂樹
3	福岡大学病院総合診療部 ～内科診断学の継承と発展～	福岡県医報	1550: 22-23, 2022	鍋島　茂樹
4	腰痛を主訴とする重篤な内科・外科疾患	臨床と研究	99(12): 1451-1455, 2022	日吉　哲也，鍋島　茂樹

〈著書〉

1	お薬立ち BOOK 2022	南山堂	pp.209-214, 2022	鍋島　茂樹（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（ワークショップ） 診断学/診断エラー学に関する学会活動の啓発 「診断クリニカルパールズ－診断エラー症例から良質な真珠を手に入れよう」	第25回日本病院総合診療医学会学術総会 （Web 開催）	岩手 8/19-20 2022	日吉　哲也

〈国内研究助成金〉

1	感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	鍋島　茂樹（代表）
2	高感度 CRP と冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	文部科学省 若手研究	2022	加藤　禎史（代表）

〈学会活動〉

1	日本病院総合診療医学会	理事	2022	鍋島　茂樹
2	日本感染症学会	評議員	2022	鍋島　茂樹
3	日本プライマリ・ケア連合学会	評議員	2022	鍋島　茂樹
4	日本東洋医学会	評議員	2022	鍋島　茂樹
5	日本病院総合診療医学会	評議員	2022	坂本　篤彦

福岡大学病院薬剤部

〈原著〉

1	口腔カンジダ症におけるミコナゾール付着錠の使用実態調査	薬理と治療	50(6): 977-982, 2022	萩原　大樹，東　　惠理， 伊藤　弥紀，釜田　充浩， 兼重　　晋，神村　英利
2	重症 COVID-19患者におけるレムデシビルの安全性の検討	日本病院薬剤師会雑誌	58(7): 795-799, 2022	森脇　典弘，宮崎　元康， 野田　航平，高崎　晴稀， 仲村　佳彦，石倉　宏恭， 兼重　　晋，神村　英利
3	病院実務実習の満足度調査－薬学生の進路希望による比較－	福岡大学教育開発支援機構紀要	5: 49-62, 2023	安高　勇気，緒方憲太郎， 神村　英利
4	Liver toxicity of intravenous heparin treatment in patients with acute ischemic stroke	Clinical Neurology and Neurosurgery	DOI: https://doi.org/10.1016/j.clineuro.2023.107630, 2023	Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, Yoshio Tsuboi, Kohei Oyabu, Hirotomo Shibaguchi, Hidetoshi Kamimura

〈症例報告〉

1	鉄製剤と茵ちん蒿湯の併用により乳児の歯牙着色を生じた１例	小児内科	54(12): 2023-2027, 2022	佐々木知美，池内　忠宏， 兼重　　晋，神村　英利

〈総説〉

1	アナモレリン塩酸塩は非小細胞肺がんおよび消化器がんによる悪液質の治療選択肢	ふくおか県薬会報	35(3)：227-230，2022	神村　英利
2	古くて新しい薬剤師レジデント制度～レジデント共に歩んだ軌跡と未来～	日本病院薬剤師会雑誌	58(8)：980-981，2022	池内　忠宏，兼重　　晋，神村　英利
3	合併症をどう聞き出し，どのように投与の按配をしたらいいでしょうか？	JOHNS	38(9)：1102-1107，2022	神村　英利
4	下剤	薬局	74(1)：73-79，2023	神村　英利
5	福岡県薬剤師会の Virtual Pharmacy Computer System（VPCS）を活用して薬薬連携を進めよう	ふくおか県薬会報	36(1)：49-52，2023	神村　英利
6	ARB	臨床と研究	100(1)：24-28，2023	三浦江里香，神村　英利，三浦伸一郎

〈著書〉

1	医薬品副作用・安全性ガイドブック	南山堂	77-105，2022	安高　勇気（分担）
2	当直医療従事者のためのパニックマニュアル薬剤版	大道学館	全300頁，2023	神村　英利，他69名

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	七隈薬物療法連携セミナー	WEB	6/23，2022	神村　英利

〈学会活動〉

1	日本医薬品安全性学会	社員	2022	神村　英利，安高　勇気
2	日本医薬品安全性学会	広報委員	2022	安高　勇気
3	日本医療薬学会	評議員	2022	神村　英利
4	日本医療薬学会	診療行為に関連した脂肪の調査分析モデル事業協力薬剤師	2022	神村　英利
5	日本精神薬学会	理事 学術委員長	2022	神村　英利
6	日本老年薬学会	理事	2022	神村　英利
7	日本フォーミュラリ学会	評議員	2022	神村　英利

福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科

〈原著〉

1	Inhibition of NR5A1 Phosphorylation Alleviates a Transcriptional Suppression Defect Caused by a Novel NR0B1 Mutation.	J Endocr Soc.	2022;6(6):bvac068.	Abe I*, Tanaka T*, Ohe K, Fujii H, Nagata M, Ochi K, Senda Y, Takeshita K, Koga M, Kudo T, Enjoji M, Yanase T, Kobayashi K. (*: equally contributed first)
2	Association of serum total bilirubin levels with progressive renal decline and end-stage kidney disease: 10-year observational cohort study in Japanese patients with diabetes.	PLoS One	2022 Jul 12;17(7):e0271179	Eto E, Maeda Y, Sonoda N, Nakashima N, Kobayashi K, Takayanagi R, Ogawa Y, Inoguchi T.
3	Clinical investigation of a unique type of hypothalamic adrenal insufficiency.	Medicine (Baltimore)	2022 Oct 14;101(41):e30597	Takeshita K, Abe I, Nagata M, Ochi K, Senda Y, Koga M, Ohe K, Abe M, Kudo T, Kobayashi K.
4	A simplified prediction model for end-stage kidney disease in patients with diabetes	Sci Rep	2022 Jul 21;12(1):12482	Inoguchi T, Okui T, Nojiri C, Eto E, Hasuzawa N, Inoguchi Y, Ochi K, Takashi Y, Hiyama F, Nishida D, Umeda F, Yamauchi T, Kawanami D, Kobayashi K, Nomura M, Nakashima N
5	Clinical evaluations of pituitary apoplexy in incidental nonfunctional pituitary adenomas	Medicine (Baltimore)	2023 Feb 10;34:100960.	Takeshita K*, Abe I*, Kameda W, Ishii K, Fujita Y, Nagata M, Ochi K, Senda Y, Koga M, Kudo T, Hada Y, Takase K, Morinaga Y, Ito M, Abe M, Ishizawa K, Kobayashi K. (*: equally contributed first)

〈症例報告〉

1	A novel homozygous missense mutation in PNPLA2 in a patient manifesting primary triglyceride deposit cardiomyovasculopathy.	Mol Genet Metab Rep.	2023 Feb 10;34:100960.	Hara Y, Ikeda Y, Kimura H, Shimamoto S, Ishikawa M, Kobayashi K, Nagasaka H, Shimoyama H, Hirano KI.

〈総説〉

1	Assessment of Papillary Thyroid Carcinoma with Ultrasound Examination.	Methods Mol Biol.	2022;2534:17–28.	Abe I, Lam AK.
2	Fine-Needle Aspiration Under Guidance of Ultrasound Examination of Thyroid Lesions.	Methods Mol Biol.	2022;2534:29–37.	Abe I, Lam AK.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	難治性内分泌腫瘍である甲状腺未分化癌と褐色細胞腫及び paraganglioma（PPGL）の updated perspectives	第43回日本内分泌学会東北地方会	山形 10/1 2022	阿部　一朗

2	Current perspectives of aGHD～新たな weekly 製剤の知見を中心に	第48回日本神経内分泌学会学術総会	栃木 10/29-30 2022	阿部　一朗
3	糖尿病におけるスティグマとアドボカシー活動	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会	沖縄 12/2-3 2022	小林　邦久，安西　慶三
4	甲状腺未分化癌の最新の治見～WHO 分類，Staging の改訂と Genomics，治療の進歩	日本耳鼻咽喉科学会福岡県地方部会・第191回耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会・第551回九州地方会	福岡 12/10 2022	阿部　一朗
5	重症成人成長ホルモン分泌不全症の updated perspectives	第34回間脳・下垂体・副腎系研究会	東京 3/10 2023	阿部　一朗

〈国内研究助成金〉

1	中性脂肪蓄積心筋血管症の医療水準と患者 QOL の向上に資する研究（22FC1009）	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業	2022	小林　邦久 （代表者：平野　賢一）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	中性脂肪学会第５回学術集会	福大メディカルホール	10/15, 2022	小林　邦久

〈学会活動〉

1	日本糖尿病学会	学術評議員	2022	小林　邦久
2	日本内分泌学会	学術評議員	2022	小林　邦久
3	中性脂肪学会	副代表理事	2022	小林　邦久
4	日本老年医学会	代議員	2022	小林　邦久
5	日本糖尿病学会	学術評議員	2022	阿部　一朗
6	日本内分泌学会	学術評議員	2022	阿部　一朗
7	日本臨床内分泌病理学会	学術評議員	2022	阿部　一朗
8	日本間脳下垂体腫瘍学会	学術評議員	2022	阿部　一朗

福岡大学筑紫病院呼吸器内科

〈原著〉

1	Limited efficacy of nintedanib for idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	Respir. Investig	60(4): 562-569, 2022	Kinoshita Y, Miyamura T, Ikeda T, Ueda Y, Yoshida Y, Kushima H, Ishii H.
2	Association between disease severity according to “MN criteria” and 30-day mortality in patients with Clostridioides difficile infection.	J. Infect. Chemother	28(6): 757-761, 2022.	Yamada Y, Miyazaki M, Kushima H, Komiya Y, Matsuo K, Uchiyama M, Nakashima A, Kamata M, Ishii H, Imakyure O.
3	Lung involvement during the prediagnostic phase of idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	ERJ. Open. Res	8(2): 00548-2021, 2022.	Miyamura T, Kinoshita Y, Kushima H, Mukae H, Ishii H.

4	Association of severe COVID-19 outcomes with radiological scoring and cardiomegaly: findings from the COVID-19 inpatients database, Japan.	Jpn. J. Radiol	40(11): 1138-1147, 2022.	Kanayama A, Tsuchihashi Y, Otomi Y, Enomoto H, Arima Y, Takahashi T, Kobayashi Y, Kaku K, Sunagawa T, Suzuki M, Ajishi Y, Ishii H, Ishikawa S, Iwagoe H, Kaneko Y, Kasahara K, Kawaguchi Y, Masuda M, Mawatari M, Mishima Y, Nagasaki Y, Ohmagari O, Okada K, Satoh H, Terai Y, Tsujie K, Watase H.
5	Evaluation of Remdesivir for Mildly to Moderately Ill Patients with COVID-19 : A Single-Arm, Single-Center, Retrospective Study.	Medicina	58(8): 1007-1007, 2022.	Miyazaki M, Yanagida R, Nakashima A, Matsuo K, Moriwaki N, Uchiyama M, Yamada Y, Hirata H, Kushima H, Kinoshita Y, Ishii H, Imakyure O.
6	Clinical impact of amrubicin monotherapy in patients with relapsed small cell lung cancer: a multicenter retrospective study.	Transl. Lung Cancer Res	11(9): 1847-1857, 2022.	Uda S, Yamada T, Yoshimura A, Goto Y, Yoshimine K, Nakamura Y, Shiotsu S, Yokoi T, Tamiya N, Kimura H, Chihara Y, Umeda Y, Izumi M, Takeda T, Yamada T, Hibino M, Hiranuma O, Ito K, Okada A, Osugi S, Takemura Y, Ishii H, Chibana K, Hasegawa I, Morimoto Y, Iwasaku M, Tokuda S, Takayama K.
7	The Limited Effect of a History of COVID-19 on Antibody Titers and Adverse Reactions Following BNT162b2 Vaccination: A Single-Center Prospective Study.	J. Clin. Med	11(18): 5388, 2022.	Kushima H, Ishii H, Kinoshita Y, Koide Y, Komiya Y, Kato J, Umehara M, Sakata M, Miyazaki M, Ikuta M.
8	Changes in body weight reflect disease progression in pleuroparenchymal fibroelastosis.	Respir. Med. Res	83: 100980, 2022.	Kinoshita Y, Utsunomiya T, Koide Y, Wada K, Ueda Y, Yoshida Y, Kushima H, Ishii H.
9	Efficacy and Safety of Sitafloxacin in Treating Low-risk Febrile Neutropenia in Patients with Lung Cancer	JMA. J	5(3): 334-340, 2022.	On R, Matsumoto T, Ebi N, Doi S, Ishii H, Furugen M, Fujita J, Ide M, Kishimoto J, Okamoto I, Fujita M; Lung Oncology Group in Kyushu (LOGIK).
10	Registry report of initial 50 cases at Fukuoka university lung transplant program.	Med. Bull. Fukuoka Univ	49(2): 77-84, 2022.	Miyahara S, Waseda R, Nishino N, Midorikawa K, Abe S, Iwanaka T, Ueda Y, Moroga T, Iwashita K, Shigematsu K, Akiyoshi K, Hayashida Y, Minematsu N, Wada H, Hirano R, Fujita M, Kushima H, Ishii H, Inoue M, Nishimura S, Iwaki R, Hiratsuka M, Toubou E, Sato T, Shiraishi T.

11	Impact of Nucleic Acid Amplification Test on Clinical Outcomes in Patients with Clostridioides difficile Infection.	Antibiotics	12(3)：428–428，2023.	Yamada Y, Miyazaki M, Kushima H, Komiya Y, Nakashima A, Ishii H, Imakyure O.
12	Challenges and limitation of MTAP immunohistochemistry in diagnosing desmoplastic mesothelioma/sarcomatoid pleural mesothelioma with desmoplastic features.	Ann. Diagn. Pathol	60：152004，2022.	Sagiamwibool P, Hamasaki M, Kinoshita Y, Matsumoto S, Sato A, Tsujimura T, Kasai T, Hiroshima K, Kushitani K, Takeshima Y, Kawahara K, Iwasaki A, Nabeshima K.
13	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study.	Lung Cancer	175：27–35，2023.	Sa-Ngiamwibool P, Hamasaki M, Kinoshita Y, Matsumoto S, Sato A, Tsujimura T, Kawahara K, Kasai T, Kushitani K, Takeshima Y, Hiroshima K, Iwasaki A, Nabeshima K.
14	Update of pathological diagnosis of pleural mesothelioma using genomic-based morphological techniques, for both histological and cytological investigations.	Pathol. Int	72(8)：389–401，2022.	Nabeshima K, Hamasaki M, Kinoshita Y, Matsumoto S, Sa-Ngiamwibool P.

〈症例報告〉

1	Basal lung cysts in Birt-Hogg-Dubé syndrome.	Intern. Med	61(24)：3755，2022.	Kinoshita Y, Miyamura T, Kushima H, Ishii H.
2	Idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	BMJ. Case Rep	15(7)：e251483，2022.	Kinoshita Y, Kushima H, Ishii H.
3	A case of welder's pneumoconiosis treated with corticosteroid followed by nintedanib.	Respir. Med. Case Rep	39：101729，2022.	Kaida H, Utsunomiya T, Koide Y, Ueda Y, Wada K, Yoshida Y, Kinoshita Y, Kushima H, Ishii H.
4	過敏性肺炎様の画像所見を呈した自己免疫性肺胞蛋白症の１例	気管支学	44(4)：295–299，2022.	吉田　祐士，木下　義晃，池田　貴登，宮村　拓人，上田　裕介，原川　政彦，串間　尚子，石井　　寛
5	Familial pleuroparenchymal fibroelastosis: an entity to be recognized.	Respir. Med. Res	82：100954，2022.	Kinoshita Y, Utsunomiya T, Koide Y, Wada K, Ueda Y, Yoshida Y, Kushima H, Ishii H, Miyamura T, Matsuzaki M.
6	Bilateral pneumothoraces with apical consolidations.	Respirol. Case Rep	10(12)：e01066，2022.	Kinoshita Y, Utsunomiya T, Kushima H, Ishii H.
7	A case of pericarditis in a middle-aged woman with COVID–19.	Clin. Case Rep	10(12)：e6769，2022.	Kushima H, Shimizu S, Koide Y, Kawamura A, Ishii H.
8	無色透明の気管支肺胞洗浄液を呈した自己免疫性肺胞蛋白症の診断経験.	日肺サーファクタント界面医会誌	53：48，2022.	木下　義晃，吉田　祐士，池田　貴登，宮村　拓人，上田　裕介，串間　尚子，石井　　寛

〈総説〉

1	Pleuroparenchymal fibroelastosis（二次性も含めて）	日本臨牀	80(9)：1480-1484，2022.	木下　義晃，石井　　寛
2	Pleuroparenchymal fibroelastosis（PPFE）	週刊医学のあゆみ	283(1)：101-105，2022.	石井　　寛

〈著書〉

1	肺クリプトコックス症とその他の真菌症：呼吸器疾患最新の治療2023-2024	南江堂	pp.246-249，2023.	串間　尚子，石井　　寛（分担）

〈国内研究助成金〉

1	PPFE（上葉優位型肺線維症）の多面的研究	文部科学省基盤研究 C	2022	石井　　寛（代表）
2	上葉優位型肺線維症の新規バイオマーカーとしての血清 LTBP-4の意義	文部科学省若手研究	2022	木下　義晃（代表）
3	アスペルギルスと非結核性抗酸菌の細胞間コミュニケーションを介した難治化機序の解明	文部科学省基盤研究 C	2022	串間　尚子（代表者：泉川　公一）
4	肺線維症患者の真菌マイクロバイオーム解析と真菌が上皮間葉転換に与える影響の検討	文部科学省若手研究	2022	串間　尚子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	筑紫呼吸器疾患勉強会学術講演	（Web 開催）	1/16，2023.	石井　　寛

〈学会活動〉

1	日本呼吸器学会	代議員	2022	石井　　寛，串間　尚子
2	日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会	評議員	2022	石井　　寛
3	日本肺癌学会九州支部	評議員	2022	石井　　寛
4	日本感染症学会	評議員	2022	串間　尚子
5	日本化学療法学会	評議員	2022	串間　尚子
6	日本医真菌学会	代議員	2022	串間　尚子
7	日本臨床微生物学会	評議員	2022	串間　尚子

福岡大学筑紫病院消化器内科・内視鏡部

〈原著〉

1	A comparative study of demarcation line diagnostic performance between non-magnifying observation with white light and non-magnifying observation with narrow band light for early gastric cancer	Gastric Cancer	25(4)：761-769，2022	Kojima T, Yao K, Ohtsu K, Kuan C, Tanabe H, Imamura K, Kanemitsu T, Miyaoka M, Nagahama T, Ueki T, Iwashita A.

2	Assessment of outcomes from 1-year surveillance after detection of early gastric cancer among patients at high risk in Japan	JAMA Netw Open	5(8): e2227667, DOI:10.1001/jamanetworkopen.2022.27667, 2022	YamamotoY, Yoshida N, Yano T, Horimatsu T, Uedo N, Kawata N, Kanzaki H, Hori S, Yao K, Abe S, Katada C, Yokoi C, Ohata K, Doyama H, Yoshimura K, Ishikawa H, Muto M.
3	Clinicopathological characteristics of colorectal serrated polyposis syndrome (SPS): results of a multicenter study by the SPS Study Group in Japan	J Gastroenterol	57(4): 300-308, 2022	Shimohara Y, Urabe Y, Oka S, Hisabe T, Yamada A, Matsushita H, Kato B, Sakamoto H, H J, Watanabe D, Eda H, Nakamura F, Chino A, Yamamoto H, Takayama T, Matsumoto T, Ishikawa H, Tanaka S.
4	Characteristics of colorectal neuroendocrince tumors in patients prospectively enrolled in a Japanese multicenter study: a first report from the C-NET STUDY	J Gastroenterol	57(8): 547-558, 2022	Sekiguchi M, Hotta K, Takeuchi Y, Tanaka S, Yamamoto H, Shinmura K, Harada K, Uraoka T, Hisabe T, Sano Y, Kondo H, Horimatsu T, Kikuchi H, Kawamura T, Nagata S, Yamamoto K, Tajika M, Tsuji S, Kusaka T, Okuyama Y, Yoshida N, Moriyama T, Hasebe A, So S, Kobara H, Kashida H, Miyanaga R, Kato S, Hayashi Y, Sada M, Fukuzawa M, Kato H, Takayama T, Konishi J, Matsushita H, Narasaka T, Ohata K, Togashi K, Nakamura H, Moriichi K, Oda Y, Kanda N, Kuwai T, Terai S, Makoto S, Kitamura S, Miyamoto H, Kiriyama S, Mizuno C, Saito Y, Sekine S, Ito S, Nakahira H, Oka S, Hayashi Y, Yoshimura K, Ishikawa H, Matsuda T, The C-NET STUDY Group.
5	Adrenomedullin for biologic-resistant Crohn's disease: A randomized, double-blind, placebo-controlled phase 2a clinical trial	J Gastroenterol Hepatol	Online first article DOI:https://doi.org/10.1111/jgh.15945, 2022	Kita T, Ashizuka S, Takeda T, Matsumoto T, Ohmiya N, Nakase H, Motoya S, Ohi H, Mitsuyama K, Hisamatsu T, Kanmura S, Kato N, Ishihara S, Nakamura M, Moriyama T, Saruta M, Nozaki R, Yamamoto S, Inatsu H, Watanabe K, Kitamura K.

6	Thiopurine naivety at tacrolimus induction is a predictor of long-term remission in patients with intractable ulcerative colitis who responded to tacrolimus.	J Gastroenterol Hepatol	38(1): 52-60, 2022	Takatsu N, Hisabe T, Kishi M, Takeda T, Yasukawa S, Koga A, Kinjo K, Hirai F, Ueki T, Yao K.
7	Magnifying endoscopy with narrow-band imaging for diagnosis of subtype of gastric intestinal metaplasia	J Gastroenterol Hepatol	38(1): 94-102, 2022	Kanemitsu T, Uedo N, Ono T, Nimura S, Hasegawa R, Imamura K, Ohtsu K, Ono Y, Miyaoka M, Ueki T, Tanabe H, Ohta A, Iwashita A , Yao K.
8	Small and large intestinal cancer in patients with Crohn's disease studied by surgeons	Surg Today	Online first article DOI:https://doi.org/10.1007/s00595-022-02605-5, 2022	Higashi D, Irie H, Maki T, Kusaba H, Koreeda N, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Komono A, Takahashi H, Sakamoto R, Shibata R, Miyasaka Y, Hisabe T, Nimura S, Watanabe M.
9	Characteristics of adult patients newly diagnosed with Crohn's disease: interim analysis of the nation-wide inception cohort registry study of patients with Crohn's disease in Japan (iCREST-CD)	J Gastroenterol	57(11): 867-878, 2022	Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Shinzaki S, Murata Y, Yoshigoe S, Sasaki A, Yajima T, Hisamatsu T.
10	Does endoscopic sphincterotomy contribute to the prevention of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis after endoscopic biliary stenting for malignant biliary obstruction? A multicenter prospective cohort study	Surg Endosc	Online first article DOI:https://doi.org//10.1007/s00464-022-09823-5, 2022	Nebiki H, Fujita K, Yazumi S, Takenaka M, Maruo T, Matsumoto K, Asada M, Eguchi T, Matsubara T, Yasumura S, Matsumoto H, Tamura T, Marui S, Hasegawa K, Mitoro A, Masuda A, Takada R, Minami R, Ogura T, Hoki N, Funatsu E, Kurita A, Onoyama T, Tomoda T, Ueki T, Yamasaki T, Sakata Y, Katayama T, Kawamura T, Kawamoto H.
11	Efficacy of endoscopy under general anesthesia for the detection of synchronous lesions in oro-hypopharyngeal cancer.	Clin Endosc	Epub ahead of print. DOI:https://doi.org/10.5946/ce.2022.072, 2023	Ono Y, Yao K, Takaki Y, Ishikawa S, Imamura K, Koga A, Ohtsu K, Kanemitsu T, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Ota A, Tanabe H, Haraoka S, Nimura S, Iwashita A, Sato S, Wakasaki R.

12	Non-atrophic gastric mucosa is an independent associated factor for superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors: a multicenter, matched, case-control study.	Clin Endosc	Epub ahead of print. DOI:https://doi.org/10.5946/ce.2022.059, 2023	Kawasaki A, Tsuji K, Uedo N, Kanesaka T, Miyamoto H, Gushima R, Minoda Y, Ihara E, Amano R, Yao K, Naito Y, Aoyagi H, Iwasaki T, Uchita K, Arima H, Doyama H.
13	Anxiety and behavioral changes in Japanese patients with inflammatory bowel disease due to COVID-19 pandeminc: a national survey.	J Gastroenterol	Epub ahead of print. DOI:https://doi.org/10.1007/s00535-022-01949-6, 2023	Nakase H, Wagatsuma K, Nojima M, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Takeuchi K, Tamura S, Kinjo F, Ueno N, Naganuma M, Watanabe K, Moroi R, Nishimata N, Motoya S, Kurahara K, Takahashi S, Maemoto A, Sakuraba H, Saruta M, Tominaga K, Hisabe T, Tanaka H, Terai S, Hiraoka S, Takedomi H, Narimatsu K, Endo K, Nakamura M, Hisamatsu T.
14	Multi-institutional questionnaire on treatment strategies for superficial entire circumferential esophageal squamous cell carcinoma.	DEN Open	3(1):e206 DOI:https://doi.org/10.1002/deo2.206, 2023	Kadota T, Ishihara R, Hatta W, Yoshida M, Kanzaki H, Kikuchi D, Ono Y, Abe S, Yamamoto Y, Yoshio T, Urabe Y, Yamaguchi N, Nagami Y, Iizuka T, Takahashi H, Oyama T, Yano T.
15	Long-term survival after endoscopic resection for gastric cancer: Real-world evidene from a multicenter prospective cohort.	Clin Gastroenterol Hepatol	21(2):307-318 DOI:https://doi.org/10.1016/j.cgh.2022.07.029, 2023	Suzuki H, Ono H, Hirasawa T, Takeuchi Y, Ishido K, Hoteya S, Yano T, Tanaka S, Toya Y, Nakagawa M, Toyonaga T, Takemura K, Hirasawa K, Matusuda M, Yamamoto H, Tsuji Y, Hashimoto Y, Yuki M, Oyama T, Takenaka R, Yamamoto Y, Naito Y, Yamamoto K, Kobayashi N, Kawahara Y, Hirano M, Koizumi S, Hori S, Tajika M, Hikichi T, Yao K, Yokoi C, Ohnita K, Hisanaga Y, Sumiyoshi T, Kitamura S, Tanaka H, Shimoda R, Shimazu T, Takizawa K, Tanabe S, Kondo H, Iishi H, Ninomiya M, Oda I, on behalf of the J-WEB/EGC group.

16	Intensive systematic “Train-the-Trainer” Course as an effective strategy to improve detection of early gastric cancer: a multicenter retrospective study.	J Gastrointest Surg	DOI:https://doi.org/10.1007/s11605-023-05640-w, 2023	Luo X, Yao K, Lin X, Lin B, Zhu C, Huang S, Chen Z, Li A, Wang J, Huang Y, Li Z, Liu S, Han Z.
17	高齢潰瘍性大腸炎患者における白血球系細胞除去療法の有効性予測因子の検討 ～単施設後ろ向き研究～	日本アフェレシス学会雑誌	42(1):53-60, 2023	古賀　章浩，高津　典孝，安川　重義，武田　輝之，金城　　健，久部　高司，植木　敏晴，八尾　建史

〈症例報告〉

1	A case of early gastric cancer in a patient with gastric juvenile polyposis diagnosed by magnifying endoscopy and resected by endoscopic submucosal dissection	Clin J Gastroenterol	15(5):864-868, 2022	Kanemitsu T, Yao K, Nimura S, Imamura K, Miyaoka M, Ohtsu K, Ono Y, Ueki T, Tanabe H, Ohta A, Iwashita A, Takahashi H.

〈総説〉

1	【特集　胆石症の診療方針】 4　胆管結石症の治療方針	臨床消化器内科	37(5):507-514, 2022	植木　敏晴，丸尾　　達，土居　雅宗，永山林太郎，立川　勝子，田中　利幸
2	Use of magnifying endoscopy with narrow-band imaging can change the clinical practice of screening endoscopy for early upper gastrointestinal neoplasia	Dig Endosc	Epub ahead of print. DOI:10.1111/den.14321, 2022	Yao K
3	白色光通常内視鏡による系統的観察法（SSS）	胃と腸	57(5):502-503, 2022	八尾　建史
4	拡大観察（倍率と分解能，観察法）	胃と腸	57(5):504-505, 2022	八尾　建史
5	brownish area, metallic silver sign	胃と腸	57(5):524, 2022	小野陽一郎，八尾　建史
6	多発性白色扁平隆起	胃と腸	57(5):542, 2022	長谷川梨乃，八尾　建史
7	正常胃：拡大観察に必要な解剖用語	胃と腸	57(5):545, 2022	八尾　建史
8	demarcation line（DL）	胃と腸	57(5):546, 2022	八尾　建史
9	microvascular pattern	胃と腸	57(5):547, 2022	八尾　建史
10	microsurface pattern	胃と腸	57(5):548, 2022	八尾　建史

11	VEC pattern（円形上皮内血管パターン）	胃と腸	57(5)：549，2022	金光　高雄，八尾　建史
12	WOS（white opaque substance）	胃と腸	57(5)：552，2022	八尾　建史
13	アフタ，アフタ様潰瘍	胃と腸	57(5)：561，2022	高津　典孝，八尾　建史
14	薬剤起因性食道炎	胃と腸	57(5)：592，2022	小野陽一郎，八尾　建史
15	CMSEP （colonic muco-submucosal elongated polyp）	胃と腸	57(5)：629，2022	高津　典孝，八尾　建史， 二村　　聡
16	拡大内視鏡分類（VS classification system）	胃と腸	57(5)：700-701，2022	八尾　建史
17	小腸疾患－診断・治療の最新動向－ Ⅳ．各論 消化管アミロイドーシス	日本臨牀	80(Suppl 7)：473-477，2022	安川　重義，久部　高司， 植木　敏晴，小野　貴大， 二村　　聡
18	特集　炎症性腸疾患の治療戦略と手術 Ⅲ．クローン病 ５）癌を合併したクローン病症例に対する外科治療	手術	76(7)：1085-1089，2022	東　大二郎，森下麻理奈， 上床　崇吾，久部　高司， 二村　　聡，渡部　雅人
19	特集　肝内結石症はこう診てこう治す 肝内結石症に対する内視鏡的アプローチ （経皮経肝胆道鏡：PTCS）	胆と膵	43(7)：667-671，2022	植木　敏晴，丸尾　　達， 土居　雅宗，永山林太郎， 立川　勝子，伊原　　諒， 平塚　裕晃，田中　利幸， 後野　徹宏，松岡　大介， 江崎　　薫，野間栄次郎
20	Guidelines for colorectal cold polypectomy （supplement to “Guidelines for colorectal endoscopic submucosal dissection/ endoscopic mucosal resection”）	Dig Endosc	34(4)：668-675，2022	Uraoka T, Takizawa K, Tanaka S, Kashida H, Saito Y, Yahagi N, Yamano H, Saito S, Hisabe T, Yao T, Watanabe M, Yshida M, Saitoh Y, Tsuruta O, Igarashi M, Toyonaga T, AjiokaY, Fujimoto K, Inoue H.
21	A review on the current status and definitions of activity indices in inflammatory bowel disease: how to use indices for precise evaluation	J Gastroenterol	57(4)：246-266，2022	Kishi M, Hirai F, Takatsu N, Hisabe T, Takada Y, Beppu T, Takeuchi K, Naganuma M, Ohtsuka K, Watanabe K, Matsumoto T, Esaki M, Koganei K, Sugita A, Hata K, Futami K, Ajioka Y, Tanabe H, Iwashita A, Shimizu H, Arai K, Suzuki Y, Hisamatsu T.

22	自己免疫性膵炎１型と２型の臨床	胆と膵	43(臨時増刊特大号)：1107-1112，2022	植木　敏晴，丸尾　　達，永山林太郎，土居　雅宗，立川　勝子，伊原　　諒，平塚　裕晃，田中　利幸，松岡　大介，江崎　　薫，野間栄次郎，久部　高司，八尾　建史
23	【特集　表在型食道扁平上皮癌－内視鏡診断と治療 update－】〈Note〉表在型食道扁平上皮癌の拡大観察－Type B1とそのバリエーション	消化器内視鏡	34(11)：1817-1821，2022	小野陽一郎，石川　智士，植木　敏晴，八尾　建史，二村　　聡
24	【胃型形質を示す胃・十二指腸上皮性腫瘍】胃型形質を示す胃上皮性腫瘍の内視鏡的特徴胃固有粘膜型腫瘍（胃底腺粘膜型，胃底腺・幽門腺粘膜混合型）	胃と腸	57(12)：1527-1541，2022	今村健太郎，八尾　建史，田邉　　寛，高橋　晴彦，金光　高雄
25	肝内結石の診断をどのように進め，どのように治療方針を立てるか	肝胆膵	86(1)：75-80，2023	植木　敏晴，丸尾　　達，土居　雅宗，永山林太郎，立川　勝子，平塚　裕晃，田中　利幸，後野　徹宏，江崎　　薫，野間栄次郎
26	【連載】「胃炎の京都分類」の使い方　第８回 腸上皮化生の内視鏡診断（NBI）	臨床消化器内科	38(2)：233-237，2023	金光　高雄，上堂　文也，二村　　聡，長谷川梨乃，八尾　建史
27	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）　令和４年度分担研究報告書	潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和４年度改訂版）	http://www.ibdjapan.org/pdf/doc15.pdf	田邉　　寛，東　大二郎，久部　高司（難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班，研究代表者：久松　理一）

〈著書〉

1	Part I　Bowel Cancer Associated with IBD: Overview Development and course of inflammatory bowel disease-associated intestinal cancer／Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine	Springer	pp.23-31，2022	Hisabe T（分担，T Matsui ほか編）
2	Part II　Cases of UC Associated Cancers Early Cancer: 9 cases with various features／Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine	Springer	pp.35-53，2022	Hisabe T, Tanabe H, Kawasaki K, Eizuka M, Sugai T, Matsumoto T（分担，Matsui T ほか編）
3	Part II　Cases of UC Associated Cancers Advanced Cancers: 12 cases with various features／Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine	Springer	pp.55-79，2022	Hisabe T, Tanabe H, Kawasaki K, Eizuka M, Sugai T, Matsumoto T（分担，Matsui T ほか編）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（パネルディスカッション）１型自己免疫性膵炎のステロイド無治療例の長期予後	第108回日本消化器病学会総会（ハイブリッド開催）	東京，4/21-23，2022	丸尾　　達，土居　雅宗，植木　敏晴

2	（ワークショップ） 潰瘍性大腸炎関連上部消化管病変の自然史に関する後ろ向き観察研究	第108回日本消化器病学会総会 （ハイブリッド開催）	東京， 4/21-23， 2022	宇野駿太郎，久部　高司， 二村　　聡
3	（シンポジウム） 総胆管結石・肝内結石症に対する電気水圧衝撃波結石破砕術治療成績	第103回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	京都， 5/13-15， 2022	松岡　大介，丸尾　　達， 植木　敏晴
4	（シンポジウム） 多発性白色扁平隆起とプロトンポンプ阻害薬内服の関連について	第103回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	京都， 5/13-15， 2022	長谷川梨乃，金光　高雄， 八尾　建史
5	（ポスタープレゼンテーション） Diagnostic imaging of type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis	ENDO2022 （ハイブリッド開催）	京都， 5/13-15， 2022	Maruo T, Ueki T, Doi M, Nagayama R, Tachikawa K, Tanaka T, Matsuoka D, Atono T, Noma E
6	（ポスタープレゼンテーション） Magnifying endoscopy with narrow-band imaging for diagnosis of subtype of gastric intestinal metaplasia	DDW2022 （ハイブリッド開催）	San Diego， 5/21-24， 2022	Kanemitsu T, Uedo N, Ono T, Nimura S, Hasegawa R, Imamura K, Ohtsu K, Ono Y, Miyaoka M, Ueki T, Tanabe H, Ohta A, Iwashita A, Yao K
7	（講演） Novel findings of white opaque substance (WOS) visualized M-NBI in the gastroduodenal mucosa.	2022南方消化疾病及消化内鏡国際学会 （Web 開催）	China， 7/8-9， 2022	Yao K
8	（講演） 胆膵内視鏡と超音波	第104回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	福岡， 10/27-30， 2022	植木　敏晴
9	（ワークショップ） 術後再建腸管における胆管結石症に対する経皮的経肝胆管ドレナージ（PTBD）の有用性	第104回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	福岡， 10/27-30， 2022	土居　雅宗，植木　敏晴， 丸尾　　達
10	（ワークショップ） 表在型咽頭扁平上皮癌に対する全身麻酔下内視鏡観察は同時性多発癌の検出に有用である	第104回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	福岡， 10/27-30， 2022	小野陽一郎，石川　智士， 八尾　建史
11	（ワークショップ） 急性下部消化管出血のマネージメント：BSG ガイドラインの妥当性	第104回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	福岡， 10/27-30， 2022	金城　　健，青木　智則， 永田　尚義
12	（パネルディスカッション） 膵石症に対する内視鏡治療の進歩と限界	第104回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	福岡， 10/27-30， 2022	田中　利幸，丸尾　　達， 植木　敏晴
13	（シンポジウム） 白色不透明物質 white opaque substance (WOS)：消化管上皮内に集積した微小な脂肪滴の拡大内視鏡による視覚化	中性脂肪学会第５回学術集会 （ハイブリッド開催）	福岡， 10/15， 2022	八尾　建史
14	（パネルディスカッション） 潰瘍性大腸炎患者の経口5-ASA 製剤の服薬遵守に関するアンケート調査	第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会 （ハイブリッド開催）	大阪， 11/25-26， 2022	別府　剛志，平井　郁仁， 大津　健聖，武田　輝之， 安川　重義，高津　典孝， 久部　高司，植木　敏晴， 八尾　建史

15	（シンポジウム） AI colonoscopy の有用性を評価するための前向き研究（中間解析結果）	第120回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	熊本， 12/2-3， 2022	平塚　裕也，大津　健聖， 久部　高司，八坂　達尚， 天野　良祐，武田　和大， 宮岡　正喜，小野陽一郎， 金光　高雄，石川　智士， 長谷川梨乃，麻生　頌， 髙野　恵輔，髙橋　篤史， 市岡　正敏，加治　拓朗， 樋脇　久美，筒井　章弘， 八尾　建史，植木　敏晴
16	（シンポジウム） 膵癌遺伝子パネル検査に関する生検検体採取法の検討	第120回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	熊本， 12/2-3， 2022	田中　利幸，江崎　薫， 後野　徹宏，平塚　裕晃， 立川　勝子，永山林太郎， 土居　雅宗，丸尾　達， 野間栄次郎，植木　敏晴， 二村　聡
17	（ワークショップ） 当科の潰瘍性大腸炎患者におけるベドリズマブの長期使用成績の検討	第120回日本消化器病学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	熊本， 12/2-3， 2022	古賀　章浩，髙津　典孝， 久部　高司，植木　敏晴， 八尾　建史
18	（ワークショップ） Helicobacter pylori 未感染胃癌の臨床病理学的特徴と内視鏡所見の特徴について	第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 （ハイブリッド開催）	熊本， 12/2-3， 2022	今村健太郎，八尾　建史， 二村　聡，田邉　寛， 金光　高雄
19	（教育講演） 早期胃癌内視鏡診断の基本と最先端の知見	第95回日本胃癌学会総会	札幌， 2/23-25， 2023	八尾　建史

〈国内研究助成金〉

1	大腸憩室出血に対する黄連解毒湯の止血効果に関する研究	令和４年度 AMED 事業名：「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業	2022	久部　高司 （代表者：金城　健）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第27回九州胃拡大内視鏡研究会 （Web 開催）	—	8/6， 2022	八尾　建史
2	第22回福岡肝胆膵懇話会 （ハイブリッド開催）	TKP ガーデンシティ博多新幹線口	9/10， 2022	植木　敏晴
3	第104回日本消化器内視鏡学会総会 （ハイブリッド開催）	福岡国際センターほか	10/27-30， 2022	植木　敏晴
4	第28回九州胃拡大内視鏡研究会 （Web 開催）	—	2/11， 2023	八尾　建史

〈学会活動〉

1	日本消化器内視鏡学会	理事	2022	植木　敏晴
2	日本消化器内視鏡学会	社団評議員	2022	八尾　建史，植木　敏晴， 久部　高司
3	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2022	宮岡　正喜，大津　健聖， 金光　高雄
4	日本消化器内視鏡学会九州支部	支部長	2022	八尾　建史
5	日本消化器内視鏡学会九州支部	支部幹事	2022	植木　敏晴

6	日本消化器内視鏡学会九州支部	評議員	2022	八尾　建史，植木　敏晴， 久部　高司，宮岡　正喜， 髙津　典孝，小野陽一郎， 大津　健聖，金光　高雄， 古賀　章浩，石川　智士， 丸尾　　達，金城　　健， 武田　輝之，八坂　達尚， 天野　良祐，伊原　　諒
7	日本消化器病学会	財団評議員	2022	植木　敏晴
8	日本消化器病学会	評議員	2022	八尾　建史，久部　高司， 金光　高雄
9	日本消化器病学会九州支部	支部幹事	2022	八尾　建史，植木　敏晴
10	日本消化器病学会九州支部	評議員	2022	八尾　建史，植木　敏晴， 久部　高司，宮岡　正喜， 髙津　典孝，大津　健聖， 金光　高雄，丸尾　　達， 金城　　健，立川　勝子
11	日本カプセル内視鏡学会	代議員	2022	久部　高司
12	日本大腸肛門病学会	評議員	2022	久部　高司
13	日本大腸肛門病学会九州支部	支部幹事	2022	久部　高司
14	日本大腸肛門病学会九州支部	評議員	2022	久部　高司
15	日本大腸検査学会	評議員	2022	久部　高司
16	日本胃癌学会	代議員	2022	八尾　建史
17	日本消化管学会	代議員	2022	八尾　建史，久部　高司
18	日本消化器関連学会機構（JDDW）	社員	2022	植木　敏晴
19	日本超音波医学会	代議員	2022	植木　敏晴
20	日本肝臓学会西部会	評議員	2022	植木　敏晴
21	日本膵臓学会	評議員	2022	植木　敏晴
22	日本胆道学会	理事	2022	植木　敏晴
23	世界消化器内視鏡学会（OMED）“画像診断の標準化”プロジェクト	プロジェクト委員	2022	八尾　建史
24	世界消化器病学会	内視鏡ワーキンググループメンバー	2022	八尾　建史
25	九州 ERCP-EUS 研究会	代表世話人	2022	植木　敏晴
26	九州胃拡大内視鏡研究会	代表世話人	2022	八尾　建史
27	福岡肝胆膵懇話会	代表世話人	2022	植木　敏晴
28	福岡消化管懇話会	代表世話人	2022	八尾　建史
29	九州胃と腸大会	代表世話人	2022	八尾　建史
30	臨床消化器病研究会（肝胆膵の部）	世話人	2022	植木　敏晴

31	臨床消化器病研究会（消化管の部）	世話人	2022	八尾　建史
32	拡大内視鏡研究会	世話人	2022	八尾　建史
33	日本消化器画像診断研究会	世話人	2022	植木　敏晴
34	膵癌早期診断研究会	世話人	2022	植木　敏晴
35	大腸研究会	世話人	2022	久部　高司
36	九州大腸肛門懇談会	世話人	2022	久部　高司
37	早期胃癌研究会	運営委員	2022	八尾　建史

〈研究に関係した賞〉

1	portal sandwich sign を契機に診断された特発性門脈圧亢進症の一例	日本超音波医学会 第32回九州地方会学術集会 新人賞	2022	黒岩　俊志

福岡大学筑紫病院小児科

〈原著〉

1	Newborn screening for Gaucher disease in Japan.	Mol Genet Metab Rep	2022 Feb 18;31:100850. doi:10.1016/j.ymgmr.2022.100850.	Sawada T, Kido J, Sugawara K, Yoshida S, Matsumoto S, Shimazu T, Matsushita Y, Inoue T, Hirose S, Endo F, Nakamura K.

〈国内研究助成金〉

1	「ライソゾーム病，ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを含む）における良質かつ適切な医療の実現に向けた体制の構築とその実装に関する研究」	厚労科研費 難治性疾患政策研究事業	2022	研究協力者：井上　貴仁 （研究代表者：奥山　虎之）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本子ども虐待防止学会 第28回学術集会ふくおか大会	福岡国際会議場	2022年 12月10日～11日	小川　　厚

〈学会活動〉

1	日本小児科学会	代議員	2022	小川　　厚
2	日本小児科学会 子どもの生活環境改善委員会	委員	2022	小川　　厚
3	日本小児科学会 健やか親子21委員会	委員	2022	小川　　厚
4	日本小児神経学会	評議員	2022	小川　　厚
5	日本てんかん学会	評議員	2022	小川　　厚
6	日本子ども虐待医学会	評議員・副理事長	2022	小川　　厚
7	九州学校保健学会	評議員	2022	小川　　厚
8	日本小児科学会	代議員	2022	井上　貴仁
9	日本小児科学会小児慢性特定疾病委員会	委員	2022	井上　貴仁

10	日本小児科学会新生児マススクリーニング検討小委員会	委員	2022	井上　貴仁
11	日本小児神経学会	評議員	2022	井上　貴仁
12	日本小児神経学会小慢・指定難病に関する委員会	委員長	2022	井上　貴仁
13	日本小児神経学会九州地方会	世話人	2022	井上　貴仁
14	九州小児科学会	運営委員	2022	井上　貴仁
15	福岡臨床と脳波懇話会 （日本臨床神経生理学会認定）	世話人	2022	井上　貴仁

福岡大学筑紫病院外科

〈原著〉

1	Endoplasmic stress-inducing variants in CPB1 and CPA1 and risk of pancreatic cancer: A case-control study and meta-analysis.	Int J Cancer.	150(7): 1123-1133, 2022.	Kawamoto M, Kohi S, Abe T, Dbouk M, Macgregor-Das A, Koi C, Song KB, Borges M, Sugimine R, Laheru D, Hruban RH, Roberts N, Klein AP, Goggins M.
2	Small and large intestinal cancer in patients with Crohn's disease studied by surgeons.	Surg Today.	Online ahead of print. 2022.	Higashi D, Irie H, Maki T, Kusaba H, Koreeda N, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Komono A, Takahashi H, Sakamoto R, Shibata R, Miyasaka Y, Hisabe T, Nimura S, Watanabe M.
3	BCG vaccinations drive epigenetic changes to the human T cell receptor: Restored expression in type 1 diabetes.	Sci Adv.	Online ahead of print. 2022.	Takahashi H, Kühtreiber WM, Keefe RC, Lee AH, Aristarkhova A, Dias HF, Ng N, Nelson KJ, Bien S, Scheffey D, Faustman DL.
4	Endoplasmic stress-inducing variants in carboxyl ester lipase and pancreatic cancer risk.	Pancreatology.	22(7): 959-964, 2022.	Kawamoto M, Yoshida T, Tamura K, Dbouk M, Canto MI, Burkhart R, He J, Roberts NJ, Klein AP, Goggins M.
5	Comparison of oncological outcomes between low anterior resection and abdominoperineal resection for rectal cancer: A retrospective cohort study using a multicenter database in Japan.	Eur J Surg Oncol.	48(12): 2467-2474, 2022.	Nagano H, Kajitani R, Ohno R, Munechika T, Matsumoto Y, Takahashi H, Aisu N, Kojima D, Yoshimatsu G, Hasegawa S, Kobayashi H, Sugihara K.
6	A Prospective Multicenter Phase II Trial of Neoadjuvant Chemotherapy with Gemcitabine Plus Nab-Paclitaxel for Borderline Resectable Pancreatic Cancer with Arterial Involvement.	Ann Surg Oncol.	30(1): 193-202, 2023.	Ikenaga N, Miyasaka Y, Ohtsuka T, Nakata K, Adachi T, Eguchi S, Nishihara K, Inomata M, Kurahara H, Hisaka T, Baba H, Nagano H, Ueki T, Noshiro H, Tokunaga S, Ishigami K, Nakamura M; Kyushu Study Group of Treatment for Pancreatobiliary Cancer.

7	ASO Author Reflections: Novel Evidence on Neoadjuvant Chemotherapy for Borderline Resectable Pancreatic Cancer with Arterial Involvement.	Ann Surg Oncol.	30(1): 203-204, 2023.	Ikenaga N, Miyasaka Y, Ohtsuka T, Nakamura M.
8	ASO Visual Abstract: A Prospective, Multicenter, Phase II, Trial of Neoadjuvant Chemotherapy with Gemcitabine Plus Nab-Paclitaxel for Borderline Resectable Pancreatic Cancer with Arterial Involvement.	Ann Surg Oncol.	30(1): 205-206, 2023.	Ikenaga N, Miyasaka Y, Ohtsuka T, Nakata K, Adachi T, Eguchi S, Nishihara K, Inomata M, Kurahara H, Hisaka T, Baba H, Nagano H, Ueki T, Noshiro H, Tokunaga S, Ishigami K, Nakamura M; Kyushu Study Group of Treatment for Pancreatobiliary Cancer.
9	C4orf47 contributes to the dormancy of pancreatic cancer under hypoxic conditions.	J Cancer.	14(2): 306-317, 2023.	Nagao S, Onishi H, Kawamoto M, Masuda S, Na L, Morisaki S, Iwamoto N, Yamada Y, Koga S, Ichimiya S, Nakayama K, Imaizumi A, Nakashima K, Oda Y, Nakamura M.

〈症例報告〉

1	Laparoscopic splenic vessel-preserving distal pancreatectomy after laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy: A case report.	Asian J Endosc Surg.	15(4): 859-862, 2022	Miyasaka Y, Irie H, Maki T, Kusaba H, Koreeda N, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Komono A, Takahashi H, Sakamoto R, Shibata R, Higashi D, Watanabe M.
2	胃癌術後に腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術を施行した残胃 GIST の 1 例.	日本内視鏡 外科学会雑誌	27(3): 109-114, 2022	甲斐田大貴，森下麻理奈， 是枝　寿彦，柴田　亮輔， 宮坂　義浩，渡部　雅人

〈総説〉

1	【炎症性腸疾患の治療戦略と手術】 クローン病　癌を合併したクローン病症例に対する外科治療	手術	76(7): 1085-1089, 2022.	東　大二郎，森下麻理奈， 上床　崇吾，久部　高司， 二村　　聡，渡部　雅人
2	【ここまで進んだ鏡視下手術】 鏡視下手術の歴史と現況	臨牀と研究	99(6): 665-670, 2022.	宮坂　義浩，中村　雅史
3	【ラパ胆を極める！】 困難症例に対するラパ胆　高齢者（亀背）に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術を行う際の留意点	臨床外科	77(6): 733-735, 2022.	宮坂　義浩，森下麻理奈， 是枝　寿彦，平野　陽介， 甲斐田大貴，大宮　俊啓， 上床　崇吾，川元　　真， 鷹野　　晃，坂本　良平， 柴田　亮輔，東　大二郎， 渡部　雅人
4	膵体尾部がんに対する手術術式 ②腹腔鏡下尾側膵切除術の立場から	膵・胆道癌 FRONTIER	8(2): 11-14, 2022.	宮坂　義浩，大塚　隆生， 中村　雅史
5	【IPMN up to date】 IPMN 切除後の長期予後	膵臓	37(4): 150-160, 2022.	宮坂　義浩，川元　　真

6	【膵癌・胆道癌2023(上) 膵癌編－基礎・臨床の最新研究動向－】上皮性腫瘍　嚢胞性膵腫瘍　膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN） 治療　術後経過観察法	日本臨床	81(増刊２膵癌・胆道癌2023(上)膵癌編): 316-321，2023	宮坂　義浩，川元　　真， 中村　雅史
7	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）令和４年度分担研究報告書	潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和４年度改訂版）	http://www.ibdjapan.org/pdf/doc15.pdf	田邉　　寛，東　大二郎， 久部　高司 (難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班，研究代表者：久松　理一)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	(国際学会) Long-term outcomes after pancreatic resection for IPMN.	第53回日本膵臓学会大会・第26回国際膵臓学会	国立京都国際会館(ハイブリッド開催)，7/9，2022	Miyasaka Y, Kawamoto M, Ueki T.
2	(国際学会) Updates of minimally invasive esophagectomy for thoracic esophageal cancer.	IASGO-CME 2022	九州大学医学部百年講堂，10/26，2022	Watanabe M
3	(国際学会) Endoplasmic stress-inducing variants in Carboxyl Ester Lipase (CEL) increase pancreatic cancer risk??	IASGO-CME 2022	九州大学医学部百年講堂，10/26，2022	Kawamoto M, Miyasaka Y, Watanabe M, Nakamura M, Goggins M.
4	(サージカルフォーラム) 腹腔鏡下直腸癌手術後縫合不全と術後早期排便量との関連	第122回日本外科学会定期学術集会	Web 開催，4/14，2022	薦野　　晃，坂本　良平， 上床　崇吾，渡部　雅人， 長谷川　傑
5	(サージカルフォーラム) 新規膵癌治療法開発のための膵癌におけるC4orf47の生物学的意義の解析	第122回日本外科学会定期学術集会	Web 開催，4/14，2022	長尾晋次郎，大西　秀也， 岩本　直也，古賀　智子， 川元　　真，中村　雅史
6	(シンポジウム) Endoplasmic stress-inducing variants in CPB1 and CPA1 and risk of pancreatic cancer.	第34回日本肝胆膵外科学会・学術集会	愛媛県県民文化会館，6/11，2022	Kawamoto M, Kaida H, Miyasaka Y.
7	(ワークショップ) クローン病の治療経過から外科治療の介入時期を考える	第122回日本外科学会定期学術集会	Web 開催，4/15，2022	東　大二郎，森下麻理奈， 是枝　寿彦，平野　陽介， 甲斐田大貴，大宮　俊啓， 上床　崇吾，川元　　真， 薦野　　晃，坂本　良平， 柴田　亮輔，宮坂　義浩， 渡部　雅人
8	(要望演題（ビデオ)) T4b/再発骨盤内腫瘍に対する経肛門/会陰内視鏡(Ta/Tp)アプローチの有用性	第77回日本消化器外科学会総会	パシフィコ横浜(ハイブリッド開催)，7/22，2022	松本　芳子，佐藤　誠也， 梶谷　竜路，大野　　龍， 棟近　太郎，長野　秀紀， 髙橋　宏幸，小島　大望， 吉松　軍平，長谷川　傑

〈国内研究助成金〉

1	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業	2022	東　大二郎 (代表者：久松　理一)
2	炎症性腸疾患における BCG 治療の可能性	日本学術振興会 研究活動スタート支援	2022	髙橋　宏幸
3	臓器相関に着目した膵切除後の２次性サルコペニアの病理解明と予防法の開発	中冨健康科学振興財団	2022	川元　　真

〈学会活動〉

1	日本食道学会	評議員	2022	渡部　雅人
2	日本胃癌学会	評議員	2022	渡部　雅人
3	日本大腸肛門病学会	評議員 健康保険検討委員 規約検討委員	2022	東　大二郎
4	日本臨床外科学会	評議員	2022	東　大二郎
5	日本消化器病学会	評議員	2022	東　大二郎
6	日本病態栄養学会	評議員	2022	東　大二郎
7	日本内視鏡外科学会	評議員選考委員 国際委員	2022	渡部　雅人
8	日本内視鏡外科学会	評議員	2022	宮坂　義浩
9	日本肝胆膵外科学会	評議員	2022	宮坂　義浩
10	日本炎症性腸疾患学会	代議員	2022	東　大二郎
11	膵臓内視鏡外科研究会	幹事	2022	宮坂　義浩
12	日本バイオ治療法学会	運営委員	2022	東　大二郎
13	日本消化器病学会九州支部	評議員	2022	東　大二郎
14	日本大腸肛門病学会九州地方会	評議員	2022	東　大二郎
15	九州内視鏡・ロボット外科手術研究会	世話人	2022	渡部　雅人
16	九州代謝・栄養研究会	幹事	2022	東　大二郎
17	九州外科学会	評議員	2022	東　大二郎
18	福岡 NST 研究会	世話人	2022	東　大二郎

福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科

〈原著〉

1	Combination of DYRK2 and TERT Expression Is a Powerful Predictive Marker for Early-stage Breast Cancer Recurrence.	Anticancer Res	42(4)：2079-2085，2022	Tanaka M, Yamashita SI, Yoshinaga Y, Enomoto Y, Nohara Y, Ono S, Nabeshima K, Iwasaki A, Sato T.

〈症例報告〉

1	［Paclitaxel plus Bevacizumab Therapy plus Surgical Resection Results in Local Control of Stage Ⅲ C Breast Cancer］	Gan To Kagaku Ryoho	48(11)：1393-1395，2021	Tanaka M, Ono S, Nohara Y, Yoshinaga Y, Sato T, Yamashita S, Morita A, Takagi S.

〈総説〉

1	【マイナーエマージェンシー　外来診療・一人当直に強くなる！いざというときの対処法】耳鼻咽喉科的 minor emergency　魚骨のど刺傷（解説）	Medical Practice	39：221-223，2022	澤津橋基広，山下　眞一

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	右気管支および肺動脈管状切除を施行した右肺門部転移性肺癌の１例	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	東京 5/20-5/21 2022	山下　眞一，上原美由紀， 吉田　康浩，佐藤　寿彦
2	All ports による胸腔鏡手術時の出血に対していかに対応するか	第75回日本胸部外科学会定期学術集会	横浜 10/5-10/8 2022	山下　眞一，上原美由紀， 吉田　康浩，佐藤　寿彦

〈学会活動〉

1	日本呼吸器外科学会	評議員	2021	山下　眞一
2	日本胸部外科学会	評議員	2021	山下　眞一
3	日本肺癌学会	評議員	2021	山下　眞一
4	単孔式胸腔鏡手術研究会	幹事	2021	山下　眞一

福岡大学筑紫病院整形外科

〈原著〉

1	Efficacy of bone marrow stimulation for arthroscopic knotless suture bridge rotator cuff repair: A prospective randomized controlled trial	J Shoulder Elbow Surg.	32(5): 909-916, 2023	Terufumi Shibata, Teruaki Izaki, Satoshi Miyake, Yozo Shibata, Takuaki Yamamoto
2	Are there differences in arthroscopic and histological features between traumatic and degenerative rotator cuff tears in elderly patients? A prospective dual-center analysis	J Orthop Surg Res	17(1): 206, 2022	Terufumi Shibata, Teruaki Izaki, Jun Nishio, Satoshi Miyake, Yasuhara Arashiro, Tomohiko Minamikawa, So Minokawa, Yozo Shibata, Takuaki Yamamoto
3	Excessively High Repair Tension Decreases Microvascular Blood Flow Within the Rotator Cuff.	Am J Sports Med	50(13): 3643-3648, 2022	Satoshi Miyake, Teruaki Izaki, Yasuhara Arashiro, Shunsuke Kobayashi, Yozo Shibata, Terufumi Shibata, Takuaki Yamamoto
4	Ankle bone morphology affects the size of non-trauma related osteochondral lesions of the talus in skeletally immature children.	J Orthop Sci	(22)00329-3, 2022	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, Hagio T, Minokawa S, Nagatomo M, Sugino Y, Yamamoto T
5	An Update on Clinicopathological, Imaging and Genetic Features of Angioleiomyoma	Cancer Diagnosis & Prognosis	3(2): 145-150, 2023	Mikiro Koga, Jun Nishio, Takamasa Koga, Kaori Koga, Shizuhide Nakayama and Takuaki Yamamoto
6	85歳以上の高齢者に対するリバース型人工肩関節全置換術の短期成績	整形外科と災害外科	71(3): 398-401, 2022	大森　治希，伊﨑　輝昌， 三宅　　智，新城　安原， 小林　駿介，山本　卓明
7	血管平滑筋腫の臨床・画像的特徴の検討	整形外科と災害外科	71(4): 721-724, 2022	古賀　幹朗，西尾　　淳， 中山　鎭秀，山本　卓明

〈総説〉

1	上腕骨軟骨下脆弱性骨折へのリバース型人工肩関節置換術の応用	新 OS NEXUS	(2)：103-116，2022	伊﨑　輝昌

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Reverse total shoulder arthroplasty in massive rotator cuff tears: Japanese perspectives	The 8th Annual Busan Shoulder and Elbow Symposium	korea，3/11，2023	Teruaki Izaki

〈学会活動〉

1	日本肩関節学会	理事・代議員	2022	伊﨑　輝昌
2	九州肩関節研究会	世話人	2022	伊﨑　輝昌
3	福岡県国民健康保険団体連合会	審査委員	2022	伊﨑　輝昌
4	Journal of Orthopaedic Science	reviewer	2022	伊﨑　輝昌
5	日本整形外科学会	代議員	2022	柴田　陽三
6	日本整形外科スポーツ医学会	監事，代議員	2022	柴田　陽三
7	JOSKAS	評議員	2022	柴田　陽三
8	Korean Shoulder and Elbow Society	Honorary member	2022	柴田　陽三
9	九州足の外科研究会	幹事	2022	蓑川　　創

福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳卒中センター・脳神経内科

〈原著〉

1	Analysis of cerebrovascular events after coil embolization of unruptured cerebral aneurysms in patients taking anticoagulants	JNET	17(3)：73-79，2023	Hanada H, Nii K, Sakamoto K, Inoue R, Hirata Y, Matsuda K, Tsugawa J, Takeshita S, Shirakawa S, Higashi T.
2	Early enhancement with contrast-enhanced ultrasonography relates to the number of small-diameter neovessels in the carotid plaque.	Cerebrovascular Diseases	52(1)：1-8，2022	Takeshita S, Ogata T, Uesugi N, Nabeshima K, Shimada H, Arima H, Inoue T, Tsuboi Y.
3	Pooled blood volume measured by final flat-panel detector computed tomography predicts outcome after endovascular thrombectomy for acute ischemic stroke	World Neurosurgery X	19(1)：100178，2023	Kawano D, Fukuda K, Takeshita S, Fukumoto H, Horio Y, Ogata T, Higashi T, Inoue T, Abe H.

〈症例報告〉

1	A case of non-rheumatoid retro-odontoid pseudotumor in Klippel-Feil syndrome with C1 occipitalization.	Surg Neurol Int	2022 Oct 21；13：480. doi：10.25259/SNI_891_2022. eCollection 2022.	Sakamoto K, Uchikado H, Hanada H, Inoue R, Nii K, Higashi T.
2	脳血管造影3D イメージの fusion により造影剤を使用せずに頸動脈ステント留置術を行った 1 例.	臨床神経学	2022；62：801-804	山田　美穂，津川　　潤，新居　浩平，井上　律郎，坪井　義夫，東　登志夫

3	HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature.	eNeurologicalSci	2023 Feb 20;31:100453. doi:10.1016	Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, Mera H, Ogura H, Tsugawa J, Fujioka S, Takamatsu Y, Tsuboi Y.

〈総説〉

1	Ⅱ 出血性病変　破裂脳動脈瘤（適応と成績編），新時代を迎えた脳血管内治療，文献レビューで学ぶ進歩とトレンド	脳神経外科	51(2)，2023	東　登志夫

〈著書〉

1	6．前交通動脈瘤（ステントなし），症例５，未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術100のテクニック	中外医学社	p140-142，2023	井上　律郎，東　登志夫
2	7．前交通動脈瘤（ステントあり），症例５，未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術100のテクニック	中外医学社	p162-165，2023	井上　律郎，東　登志夫
3	14．脳底動脈本幹部動脈瘤，症例２，未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術100のテクニック	中外医学社	p265-267，2023	井上　律郎，東　登志夫
4	18．中大脳動脈瘤（ステントなし），症例３，未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術100のテクニック	中外医学社	p329-332，2023	井上　律郎，東　登志夫
5	19．中大脳動脈瘤（ステントあり），症例５，未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術100のテクニック	中外医学社	p348-351，2023	井上　律郎，東　登志夫

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Angioarchitecture and clinical features of spinal extradural arteriovenous shunts: a nationwide retrospective cohort study.	The 16th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology	Kyoto, Japan 2022.8.24	Nii Kouhei, Kiyosue Hiro, Niimi Yasunari, Matsumaru Yuji, Tanoue Shunichi, Hiramatsu Masafumi, Nakahara Ichiro, Tsuruta Wataro, Endo Toshiki, Srivatanakul Kittipong, Akioka Naoki, Ide Satomi, Fukumoto Hironori, Higashi Toshio
2	Angioarchitecture and Clinical Features of Spinal Extradural Arteriovenous Shunts in JSNET retrospective cohort study.	Oriental Conference of Interventional Neuroradiology 2022	Shanghai, China 2022.12.15（Web site）	Nii Kouhei
3	Technical consideration for secure carotid artery stenting	The 16th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology	Kyoto, Japan 2022.8.21	Toshio Higashi
4	Singo DynaCT Multiphase による RAPID の使用経験と脳卒中ワンストップマネージメント	第81回日本脳神経外科学会学術集会	京都，2022.9.30	東　登志夫
5	The Future of Neuroendovascular Therapy - Perspective and Experiences from Japan	Medical Symposium “Neurovascular Intervention - New&Diverse Perspectives”, Radiological Society of Ho Chi Minh City	Ho Chi Min City, Vietnum 2022.12.17	Toshio Higashi

6	The Future of Neuroendovascular Therapy - Perspective and Experiences from Japan	Medical Symposium “Neurovascular Intervention - New&Diverse Perspectives”, Vietnamese Society of Radiology and Nuclear Medicine	Hanoi, Vietnum 2022.12.18	Toshio Higashi

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第35回日本脳神経血管内治療学会九州地方会	オンライン開催	2022.1.29	東　登志夫，廣畑　優
2	第36回日本脳神経血管内治療学会九州地方会	福岡国際会議場 ハイブリッド開催	2022.7.30	東　登志夫，廣畑　優
3	第37回日本脳神経血管内治療学会九州地方会	福岡国際会議場 ハイブリッド開催	2023.1.28	東　登志夫，廣畑　優

〈学会活動〉

1	日本脳神経血管内治療学会	理事	2022	東　登志夫
2	日本脳神経血管内治療学会	専門医指導医認定委員	2022	東　登志夫
3	日本脳神経血管内治療学会	倫理委員長	2022	東　登志夫
4	日本脳神経血管内治療学会	機関誌副編集長	2022	東　登志夫
5	日本脳神経外科学会	代議員	2022	東　登志夫

福岡大学筑紫病院泌尿器科

〈原著〉

1	Serum IgG4 Concentration Is a Potential Predictive Biomarker in Glucocorticoid Treatment for Idiopathic Retroperitoneal Fibrosis.	J. Clin. Med.	11：3358，2022.	Shoichiro Mukai, Naotaka Sakamoto, Hiroaki Kakinoki, Tadamasa Shibuya, Ryosuke Moriya, Kiyoaki Nishihara, Mitsuru Noguchi, Toshitaka Shin, Naohiro Fujimoto, Tsukasa Igawa, Tatsu Ishii, Nobuhiro Haga, Hideki Enokida, Masatoshi Eto, Tomomi Kamba, Hideki Sakai, Seiichi Saito

〈学会活動〉

1	日本泌尿器科学会西日本支部	評議員	2022	石井　龍，平　浩志

福岡大学筑紫病院眼科

〈原著〉

1	Circulating inflammatory monocytes oppose microglia and contribute to cone cell death in retinitis pigmentosa	PNAS Nexus.	2022;1(1):pgac003.	Jun Funatsu, Yusuke Murakami, Shotaro Shimokawa, Shunji Nakatake, Kohta Fujiwara, Ayako Okita, Masatoshi Fukushima, Kensuke Shibata, Noriko Yoshida, Yoshito Koyanagi, Masato Akiyama, Shoji Notomi, Shintaro Nakao, Toshio Hisatomi, Atsunobu Takeda, Eleftherios I Paschalis, Demetrios G Vavvas, Yasuhiro Ikeda, Koh-Hei Sonoda
2	Increased vitreous levels of B cell activation factor (BAFF) and soluble interleukin-6 receptor in patients with macular edema due to uveitis related to Behçet s disease and sarcoidosis	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.	2022;260(8):2675-2686.	Atsunobu Takeda, Eiichi Hasegawa, Nobuyo Yawata, Shoji Notomi, Keijiro Ishikawa, Yusuke Murakami, Toshio Hisatomi, Kazuhiro Kimura, Koh-Hei Sonoda
3	TNFRSF10A downregulation induces retinal pigment epithelium degeneration during the pathogenesis of age-related macular degeneration and central serous chorioretinopathy	Hum Mol Genet.	2022;31(13):2194-2206.	Kenichiro Mori, Keijiro Ishikawa, Yosuke Fukuda, Rui Ji, Iori Wada, Yuki Kubo, Masato Akiyama, Shoji Notomi, Yusuke Murakami, Shintaro Nakao, Satoshi Arakawa, Satomi Shiose, Toshio Hisatomi, Shigeo Yoshida, Ram Kannan, Koh-Hei Sonoda
4	Identifying Hyperreflective Foci in Diabetic Retinopathy via VEGF-Induced Local Self-Renewal of CX3CR1+ Vitreous Resident Macrophages	Diabetes	2022;71(12):2685-2701.	Muneo Yamaguchi, Shintaro Nakao, Iori Wada, Tetsuya Matoba, Mitsuru Arima, Yoshihiro Kaizu, Mariko Shirane, Keijiro Ishikawa, Takahito Nakama, Yusuke Murakami, Masaharu Mizuochi, Wataru Shiraishi, Ryo Yamasaki, Toshio Hisatomi, Tatsuro Ishibashi, Masabumi Shibuya, Alan W Stitt, Koh-Hei Sonoda

5	ICG-mediated photodisruption of the inner limiting membrane enhances retinal drug delivery.	J Control Release.	2022;349:315-326.	Peynshaert K, Vanluchene H, De Clerck K, Minnaert AK, Verhoeven M, Gouspillou N, Bostan N, Hisatomi T, Accou G, Sauvage F, Braeckmans K, De Smedt S, Remaut K.
6	Longer Interscan Times in OCT Angiography Detect Slower Capillary Flow in Diabetic Retinopathy	Ophthalmol Sci	2022 Jun 13;2(3):100181.	Yoshihiro Kaizu, Shintaro Nakao, Tomomi Soda, Juun Horie, Iori Wada, Muneo Yamaguchi, Atsunobu Takeda, Koh-Hei Sonoda
7	Hyperreflective Membrane at the Vitreoretinal Interface in Diabetic Macular Edema: A Finding in Ultra-High-Resolution Optical Coherence Tomography	Transl Vis Sci Technol.	2022 Sep 1;11(9):21.	Wada I, Nakao S, Arima M, Ishikawa K, Yamaguchi M, Kaizu Y, Sekiryu H, Mori K, Kiyohara K, Takeda A, Ishibashi T, Sadda SR, Sonoda KH.
8	Morphology and fluorescein leakage in diabetic retinal microaneurysms: a study using multiple en face OCT angiography image averaging	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	2022 Nov;260(11):3517-3523.	Fukuda Y, Nakao S, Kaizu Y, Arima M, Shimokawa S, Wada I, Yamaguchi M, Takeda A, Sonoda KH.

〈症例報告〉

1	視神経脊髄炎スペクトラム障害加療中にCOVID-19を発症した１例（原著論文）	臨床眼科	114号 Page63-71, 2022	岡　あゆみ, 永吉　美月, 高木　宣典, 鈴木　脩司, 海津　嘉弘, 津川　　潤, 衛藤　　聡, 池田　貴登, 石井　　寛, 久冨　智朗

〈総説〉

1	【知らないでは済まされない眼病理】網膜剥離，増殖性硝子体網膜症の病理	OCULISTA	114号 Page63-71	久冨　智朗
2	未来からの提言　Medical Frontline	JMS	Sep-22	久冨　智朗

〈著書〉

1	RYAN'S RETINA, SEVENTH EDITION Surgical Retina. Retinal Reattachment: General Surgical Principles and Techniques	Elsevier	page, 107-1, 2022	Keijiro Ishikawa, Toshio Hisatomi, Taiji Sakamoto

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	糖尿病黄斑浮腫の病態と治療戦略	治療マネジメントセミナー鹿児島	2022/11/12, 鹿児島	久冨　智朗
2	インストラクションコース 黄斑手術自由自在－黄斑前膜－	臨床眼科学会総会	2022/10/13, 東京	久冨　智朗
3	眼科領域におけるバイオシミラーの現状と未来	日本バイオシミラー協議会主催 web 講演会	2022/12/09, 福岡	久冨　智朗

〈国内研究助成金〉

1	OCTA を用いた糖尿病網膜症眼における網膜血流速度低下領域の検出とその臨床的意義	文部科学省 若手研究	2021-2022	海津　嘉弘（代表）
2	網膜黄斑浮腫への硝子体中遊離 ATP の関与と BBG 投与による治療戦略	文部科学省 基盤研究 C	2019-2022	久冨　智朗（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	インストラクションコース 黄斑手術自由自在－黄斑前膜－	臨床眼科学会 soukai	2022/10/13, 東京	久冨　智朗

〈学会活動〉

1	博多眼科セミナー	世話人	2022	久冨　智朗
2	眼科神経保護研究会	世話人	2022	久冨　智朗
3	日本臨床眼科学会	査読委員	2022	久冨　智朗

福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科

〈原著〉

1	当科における異物症例の臨床的検討	耳鼻と臨床	68(6): 394-402, 2022	速水　菜帆，田浦　政彦， 三橋　泰仁，宮崎　　健， 妻鳥敬一郎，末田　尚之， 坂田　俊文
2	内視鏡下咽喉頭手術（ELPS）術後の嚥下機能とリハビリテーションについての検討	嚥下医学	11(2): 196-202, 2022	大津　　舞，山野　貴史， 濱本　　郁，打田　義則， 三橋　泰仁，木村　翔一， 速水　菜帆，田浦　政彦， 坂田　俊文
3	問診表を活用した花粉症に対する抗ヒスタミン療法の患者満足度と治療効果　診療所における検討	耳鼻と臨床	68(3): 141-152, 2022	西　　龍郎，梅野　悠太， 武末　　淳，速水　菜帆， 前原　宏基，澤津橋基広， 坂田　俊文

〈症例報告〉

1	早期診断に苦慮した喉頭結核の１例	日本気管食道科学会会報	73(6): 369-374, 2022	坂田健太郎，妻鳥敬一郎， 三橋　泰仁，坂田　俊文

福岡大学筑紫病院麻酔科

〈原著〉

1	Soluble ACE2 Is Filtered into the Urine.	Kidney360	9(12): 2086-2094, 2022	Nelson JW, Ortiz-Melo DI, Mattocks NK, Emathinger JM, Prescott J, Xu K, Griffiths RC, Wakasaki R, Piehowski PD, Hutchens MP, Coffman TM, Gurley SB.
2	Renal injury in cardiorenal syndrome type 1 is mediated by albumin.	Physiol Rep.	10(3): e15173, 2022	Funahashi Y, Ikeda M, Wakasaki R, Chowdhury S, Groat T, Zeppenfeld D, Hutchens MP.

〈国内研究助成金〉

1	心肺停止蘇生後の記憶障害に対する TNF-α 阻害薬による治療効果の検討	文部科学省 基盤研究 C	2018	若崎るみ枝（代表）
2	遠位尿細管特異的遺伝子改変マウスを駆使した急性腎障害機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	若崎るみ枝 （代表者：根本　隆行）

〈学会活動〉

1	日本麻酔科学会	代議員	2019	若崎るみ枝

福岡大学筑紫病院病理部・病理診断科

〈原著〉

1	A comparative study of demarcation line diagnostic performance between non-magnifying observation with white light and non-magnifying observation with narrow band light for early gastric cancer	Gastric Cancer	25(4): 761-769, 2022	Kojima T, Yao K, Ohtsu K, Kuan C, Tanabe H, Imamura K, Kanemitsu T, Miyaoka M, Nagahama T, Ueki T, Iwashita A.
2	Small and large intestinal cancer in patients with Crohn's disease studied by surgeons	Surgery Today	53(6): 675-680, 2023	Higashi D, Irie H, Maki T, Kusaba H, Koreeda N, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Komono A, Takahashi H, Sakamoto R, Shibata R, Miyasaka Y, Hisabe T, Nimura S, Watanabe M
3	Efficacy of endoscopy under general anesthesia for the detection of synchronous lesions in oro-hypopharyngeal cancer	Clinical Endoscopy	56(3): 315-324, 2023	Ono Y, Yao K, Takaki Y, Ishikawa S, Imamura K, Koga A, Ohtsu K, Kanemitsu T, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Ota A, Tanabe H, Haraoka S, Nimura S, Iwashita A, Sato S, Wakasaki R
4	Magnifying endoscopy with narrow-band imaging for diagnosis of subtype of gastric intestinal metaplasia	Journal of Gastroenterology and Hepatology	38(1): 94-102, 2023	Kanemitsu T, Uedo N, Ono T, Nimura S, Hasegawa R, Imamura K, Ohtsu K, Ono Y, Miyaoka M, Ueki T, Tanabe H, Ota A, Iwashita A, Yao K
5	Phosphoglyceride crystal deposition disease in the intestine	Pathology International	73(1): 55-57, 2023	Tsutsumi N, Haraoka S, Ishikawa R, Ichikawa S, Jogo T, Kono M, Maekawa S

〈症例報告〉

1	HHV-8陰性 PEL like lymphoma が疑われた１例	日本臨床細胞学会雑誌	61(5): 361-364, 2022	山田　静佳，林田　　涼，原川　政彦，二村　　聡
2	A case of early gastric cancer in a patient with gastric juvenile polyposis diagnosed by magnifying endoscopy and resected by endoscopic submucosal dissection	Clinical Journal of Gastroenterology	15(5): 864-868, 2022	Kanemitsu T, Yao K, Nimura S, Imamura K, Miyaoka M, Ohtsu K, Ono Y, Ueki T, Tanabe H, Ota A, Iwashita A, Takahashi H

3	Familial primary biliary cholangitis with different clinical courses based on Anti-gp210 antibody positivity: A report of two cases	Cureus	15(1): e34275. doi: 10.7759/ cureus.34275, 2023	Nagata T, Takeyama Y, Shakado S, Hirai F, Nimura S
4	剖検により被嚢性腹膜硬化症と診断した若年透析患者の1例	九州人工透析研究会誌	6: 9-14, 2022	重本　佳奈，渡邉　廉也， 氷室　尚子，安野　哲彦， 安野　泰弘，三宅　勝久， 笹冨　佳江，寺町　昌史， 新居見和彦，吉村　雅代， 二村　　聡，中島　　衡， 升谷　耕介
5	膵石症を契機に診断された副甲状腺機能亢進症の1例	胆と膵	44(3): 299-303, 2023	眞田　雄市，吉村　雅代， 田邉　　寛，吉村　寛志， 二村　　聡
6	有茎性の回腸末端原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例	胃と腸	58(3): 348-351, 2023	宇賀治良平，長浜　隆司， 外山　雄三，西澤　秀光， 浅原　新吾，宍倉　有里， 二村　　聡

〈総説〉

1	A review on the current status and definitions of activity indices in inflammatory bowel disease: how to use indices for precise evaluation	J Gastroenterol	57(4): 246-266, 2022	Kishi M, Hirai F, Takatsu N, Hisabe T, Takada Y, Beppu T, Takeuchi K, Naganuma M, Ohtsuka K, Watanabe K, Matsumoto T, Esaki M, Koganei K, Sugita A, Hata K, Futamiz K, Ajioka Y, Tanabe H, Iwashtia A, Shimizu H, Arai K, Suzuki Y, Hisamatsu T
2	図説「胃と腸」画像診断用語集2022 疾患　下部消化管 CMSEP(colonic muco-submucosal elongated polyp)	胃と腸	57(5): 629, 2022	髙津　典孝，八尾　建史， 二村　　聡
3	図説「胃と腸」画像診断用語集2022 病理 parietal cell hyperplasia/protrusion	胃と腸	57(5): 729, 2022	二村　　聡
4	図説「胃と腸」画像診断用語集2022 病理 類上皮細胞肉芽腫 epithelioid cell granuloma	胃と腸	57(5): 731, 2022	二村　　聡
5	［炎症性腸疾患の治療戦略と手術］ クローン病　癌を合併したクローン病症例に対する外科治療	手術	76(7): 1085-1089, 2022	東　大二郎，森下麻理奈， 上床　崇吾，久部　高司， 二村　　聡，渡部　雅人
6	胃のカルチノイド腫瘍と内分泌細胞癌の病理学的特徴　病理診断医の立場から	胃と腸	57(7): 888-898, 2022	二村　　聡，田邉　　寛， 太田　敦子
7	小腸疾患－診断・治療の最新動向－ 消化管ポリポーシス von Recklinghausen 病	日本臨牀	80(7): 252-256, 2022	石橋　英樹，二村　　聡， 平井　郁仁

8	小腸疾患－診断・治療の最新動向－ IV．各論 消化管アミロイドーシス	日本臨牀	80(7)： 473-477， 2022	安川　重義，久部　高司， 植木　敏晴，小野　貴大， 二村　　聡
9	鑑別の森（第12回） 食道上皮の反応性異型と扁平上皮内腫瘍 （Answer 1）(Q&A)	病理と臨床	40(9)： 919-923， 2022	二村　　聡
10	【胃疾患アトラス　改訂版】 隆起を呈する病変 非上皮性隆起病変 腫瘍性 非上皮性病変 胃 MALT リンパ腫（隆起例）	消化器内視鏡	34(増)： 124-125， 2022	石橋　英樹，二村　　聡， 平井　郁仁
11	【表在型食道扁平上皮癌－内視鏡診断と治療 update －】Note 表在型食道扁平上皮癌の拡大観察 Type B1とそのバリエーション	消化器内視鏡	34(11)： 1817-1821， 2022	小野陽一郎，石川　智士， 植木　敏晴，八尾　建史， 二村　　聡
12	【胃型形質を示す胃・十二指腸上皮性腫瘍】 胃型形質を示す胃上皮性腫瘍の内視鏡的特徴 胃固有粘膜型腫瘍（胃底腺粘膜型，胃底腺・幽門腺粘膜混合型）	胃と腸	57(12)： 1527-1541， 2022	今村健太郎，八尾　建史， 田邉　　寛，高橋　晴彦， 金光　高雄
13	「胃炎の京都分類」の使い方 腸上皮化生の内視鏡診断（NBI）	臨床消化器内科	38(2)： 233-237， 2023	金光　高雄，上堂　文也， 二村　　聡，長谷川梨乃， 八尾　建史
14	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」 （久松班）　令和４年度分担研究報告書	潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和４年度改訂版）	http://www.ibdjapan.org/pdf/doc15.pdf	田邉　　寛，東　大二郎， 久部　高司 （難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班，研究代表者：久松理一）

〈著書〉

1	Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine	Springer	2022	Matsui T, Iwashita A, Matsumoto T, Hisabe T, Futami K, Tanabe H (Editors)
2	Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine Clinicopathological Features and Pathological Diagnosis of Inflammatory Bowel Disease-Associated Cancer	Springer	P19-21， 2022	Iwashita A, Tanabe H
3	Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine Early Cancer: 9 Cases with Various Features	Springer	P35-53， 2022	Hisabe T, Tanabe H, Kawasaki K, Eizuka M, Sugai T, Matsumoto T
4	Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine Advanced Cancers: 12 Cases with Various Features	Springer	P55-79， 2022	Hisabe T, Tanabe H, Kawasaki K, Eizuka M, Sugai T, Matsumoto T
5	Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine Small Intestinal Cancer: 5 Cases	Springer	P83-97， 2022	Futami K, Tanabe H, Kawasaki K, Ikegami K, Fujiwara M, Matsumoto T

6	Atlas of Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: Examining the Macroscopic Images of Small and Large Intestine Colorectal Cancer with Various Features: 15 Cases	Springer	P99–133, 2022	Futami K, Tanabe H
7	非腫瘍性疾患病理アトラス　消化管 各論２　胃　胃炎・胃症 ７　肉芽腫性胃炎	文光堂	P102–107, 2023	田邉　　寛, 二村　　聡（分担執筆）
8	非腫瘍性疾患病理アトラス　消化管 各論２　胃 II　胃の血管異常	文光堂	P122–126, 2023	二村　　聡, 田邉　　寛（分担執筆）
9	非腫瘍性疾患病理アトラス　消化管 各論３　腸　IV．その他の炎症性腸疾患 ３　セリアック病	文光堂	P215–219, 2023	二村　　聡, 田邉　　寛（分担執筆）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（臓器系統別ワークショップ） セリアック病の病理診断（Celiac disease and its histopathological diagnosis）	第111回日本病理学会総会（ハイブリッド開催）	神戸 4/14 2022	二村　　聡，田邉　　寛
2	（臓器別病理診断講習会） 小腸の上皮性腫瘍	第111回日本病理学会総会（オンデマンド）	神戸 4/14–6/15 2022	田邉　　寛，二村　　聡
3	（ワークショップ） 潰瘍性大腸炎関連上部消化管病変の自然史に関する後ろ向き観察研究	第108回日本消化器病学会総会（ハイブリッド開催）	東京 4/21–23 2022	宇野駿太郎，久部　高司， 二村　　聡
4	（基調講演） Gastric pT1 cancer detected after Helicobacter pylori eradication-Histopathological features and their diversity	Japan Digestive Disease Week 2022（ハイブリッド開催）	福岡 10/27 2022	二村　　聡
5	（ワークショップ） Helicobacter pylori 未感染胃癌の臨床病理学的特徴と内視鏡所見の特徴について	第120回日本消化器病学会九州支部例会/第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（ハイブリッド開催）	熊本 12/2–3 2022	今村健太郎，八尾　建史， 二村　　聡，田邉　　寛， 金光　高雄
6	（シンポジウム） 膵癌遺伝子パネル検査に関する生検検体採取法の検討	第120回日本消化器病学会九州支部例会/第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（ハイブリッド開催）	熊本 12/2–3 2022	田中　利幸，江崎　　薫， 後野　徹宏，平塚　裕晃， 立川　勝子，永山林太郎， 土居　雅宗，丸尾　　達， 野間栄次郎，植木　敏晴， 二村　　聡
7	（基調講演） Gastric pT1 cancer detected after Helicobacter pylori eradication-Histopathological features and their diversity（ヘリコバクター・ピロリ除菌後発見胃癌の粘膜内癌巣表層部の病理組織像とその多様性）	Zhejiang Sino-Japan Seminar on Endoscopic Diagnosis and Treatment of Early Gastrointestinal Cancer（浙江省中日消化道早癌内鏡診治沙龍）（オンライン開催）	浙江省， 中国 12/18 2022	Nimura S
8	（特別講演） 肉眼写真の撮り方の基本－消化管切除検体の肉眼所見を理解するために	第96回日本病理学会関東支部学術集会（Web 開催）	東京 1/21 2023	二村　　聡

9	（Special Program） Practical Points on Processing and Recording of Endoscopically resected specimens	第95回日本胃癌学会総会	北海道 2/24 2023	Nimura S

〈学会活動〉

1	日本病理学会	認定評議員	2022	二村　聡
2	日本病理学会	Pathology International Editorial Board	2022	二村　聡
3	日本病理学会	コンサルテーションシステム領域別コンサルタント	2022	二村　聡
4	日本消化器内視鏡学会	胃癌に対する ESD/EMR ガイドライン作成委員	2022	二村　聡
5	日本胃癌学会	学術評議員	2022	二村　聡
6	日本食道学会	学術評議員	2022	二村　聡
7	日本食道学会	病理規約委員	2022	二村　聡
8	日本大腸肛門病学会	学術評議員	2022	二村　聡
9	日本消化管学会	代議員	2022	二村　聡
10	臨床消化器病研究会（病理系）	世話人	2022	二村　聡
11	大腸癌研究会	施設代表者	2022	二村　聡
12	大腸癌研究会	世話人	2022	二村　聡
13	拡大内視鏡研究会	世話人	2022	二村　聡
14	大腸 IIc 研究会	世話人	2022	二村　聡

福岡大学西新病院循環器内科

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第32回九州トランスラディアル研究会	福岡大学西新病院	2/11， 2023	西川　宏明

〈学会活動〉

1	日本循環器学会	九州支部代議員	2022-2023	西川　宏明
2	日本心血管インターベンション治療学会	九州支部代議員	2022-2023	西川　宏明
3	日本肺循環学会	評議員	2022-2023	西川　宏明

Ⅱ．医学部看護学科

1．学科主任挨拶

看護学科主任　　宮　城　由美子

全国の看護系大学は令和４年度303校、入学定員は26.517人、福岡県内では、15校、入学定員1388人の中、医学部看護学科は、熾烈な学生獲得競争の中で、高い受験競争率を維持し、令和３年度は新入生105名を迎えスタートしました。

少子高齢化の進行や、それに伴う患者像の複雑化に対応するため、地域包括ケアシステムの構築が、急がれ看護職に求められる役割や活動の場はこれまで以上に拡大していることから、令和４年４月より「厚生労働省　看護師養成所指定規則」が変更されました。看護学科では、この動向を踏まえ令和３年４月から新カリキュラムを開始し、２年目の新カリキュラム対応年度となりました。看護学科のカリキュラムの特色は、これからの社会の変遷に対応した看護を創造する能力を備える人材育成、臨床判断能力をつけるための専門基礎科目の充実、演習科目の強化、臨地実習科目の新設及び変更、横断科目の新設などです。

新型コロナウイルスの感染による影響は少なくなりつつも、８月には教員が多数感染者・濃厚接触者となったものの、全員で「早期看護体験実習」「基礎看護学実習Ⅱ」を乗り切ることができました。

また令和３年度に採択された文部科学省の「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」については、令和４年度本格的に活動し、VR を用いた学習教材を福岡大学病院看護部と共同開発を行っています。さらに医療研究開発革新基盤事業（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）・株式会社ジョリーグッド）への実証研究に参画することとなり、今後３年間のなかでさらに充実したコンテンツ作成を行い、看護基礎教育の課題解決にむけさらに躍進していけるように努力していきます。

福岡大学病院、福岡大学筑紫病院とは例年に引き続き看護研究支援、臨地実習指導者研修支援、各科目における専門知識教授のためのゲストスピーカなどの連携を図ることができてきました。令和４年度より人事交流が開始し、福岡大学病院看護部の看護師を助手として迎え、FD 委員会が作成した２年間の教育プログラムに準じて看護基礎教育を学んでいます。２年後には病院に戻り現任教育及び学生への教育指導を行い、より質の高い看護師を看護部と協力しながら育成していきたいと思っております。

私ども看護学科教職員は、福岡大学の一員であることを自覚し、大学の他学部・医学科・病院との関係を大切にしながら、今後も努力を継続してまいります。

関係各位の更なるご協力・ご支援をお願い申し上げます。

2．令和４年度　医学部看護学科年譜

年月日	行　　事	付　　記
4.4.1	令和４年度　学年始め、入学式	
	看護学科16回生　105名入学（男子１名　女子 104名）	
4.8	新入生オリエンテーリング	於：看護学科棟他
6.2	単独進学説明会	
6.18	父母懇談会	於：看護学科棟
7.29	看護学科第１回 FD 研修会（ハイブリット）	於：看護学科棟
8. 7	オープンキャンパス	於：看護学科棟
8.19	看護学科第２回 FD 研修会（ハイブリット）	於：看護学科棟
8.31	秋季大学院入学試験	
9.12	第1回大学院 FD 講演会	於：看護学科棟
10.22	医学部慰霊祭	於：ユウベル積善社福岡斎場
11.12	市民公開講座	於：看護学科棟
11.20	帰国生徒選抜	
11.27	学校推薦型選抜（A 方式）	
〃	学校推薦型選抜（附属）	
5.1.14、15	共通テスト利用型（Ⅰ期）、（Ⅱ期）	
2.2	一般選抜（系統別日程）	
2.6、11	一般選抜（前期日程）、前期日程・共通テスト併用型	
2.9	第109回保健師国家試験	
2.11	第112回看護師国家試験	
2.14	春季大学院入学試験	
3.7	一般選抜（後期日程）	
3.9	看護学科第３回 FD 研修会	於：看護学科棟
3.19	卒業式　学位記授与	
3.31	学年終了	

3．看護学科教員組織

A．教員構成　　令和４年４月１日現在

科　目	教授〈10名〉	准教授〈6名〉	講師〈8名〉	助教〈8名〉	助手〈2名〉
専門基礎学	大倉義文				蘭　美彩 掛田　遥
基礎看護学	末次典恵	宗正みゆき 吉川千鶴子	坂梨左織	藤　理絵 春田京子	
小児看護学	○宮城　由美子		松本祐佳里	藤原悠香	
成人看護学	緒方久美子	岩永和代 浦　綾子	大田　博 牧　香里	鮫島由紀子	
老年看護学	久木原博子		有田久美	上野珠未	
母性看護学	佐久間良子		藤木久美子	古賀　綾	
精神看護学	中島充代		黒髪　恵	池田　智	
公衆衛生看護学	江藤真紀	長谷川珠代 馬場みちえ			
在宅看護論	木村裕美		古賀佳代子	松村友紀子	
学校保健	小柳康子				

○学科主任

B．看護学科常設委員会　　令和４年４月１日現在

委員会	委員長	委員			
教務・実習委員会	江藤真紀 (本学オブザーバー出席)	中島充代 (副委員長)	末次典恵 (副委員長)	大倉義文	緒方久美子
		小柳康子	佐久間良子	宗正みゆき	有田久美
		古賀佳代子	藤木久美子	松本祐佳里	蘭　美彩
		掛田　遥			
FD委員会	久木原博子	小柳康子 (副委員長)	中島充代	坂梨左織	鮫島由紀子
		藤原悠香	松村友紀子		
入試委員会	大倉義文 (本学オブザーバー出席)	宗正みゆき (副委員長) (若葉高等学校一貫教育委員会委員)	木村裕美	牧　香里	古賀　綾
		藤原悠香			
学生委員会 (3NP含む)	長谷川珠代 (本学オブザーバー出席)	大倉義文 (副委員長)	大田　博	坂梨左織	松本祐佳里
		池田　智	上野珠未	古賀　綾	蘭　美彩
総務・広報委員会	馬場みちえ	浦　綾子 (副委員長)	池田　智	上野珠未	鮫島由紀子
国際交流委員会	木村裕美	末次典恵 (副委員長)	岩永和代	有田久美	黒髪　恵
		藤木久美子	春田京子		
研究推進委員会	佐久間良子 (本学オブザーバー出席)	久木原博子 (副委員長)	末次典恵	大田　博	黒髪　恵
		藤　理絵	松村友紀子		
図書委員会	小柳康子 (分館図書小委員会) (医学情報センター運営委員会)	木村裕美 (副委員長)	大倉義文 (分館図書小委員会) (医学情報センター運営委員会)	中島充代	浦　綾子
		春田京子			
国試・就職進路委員会	吉川千鶴子	佐久間良子 (副委員長)	久木原博子	馬場みちえ	古賀佳代子
		牧　香里	藤　理絵	掛田　遥	

4．入学試験・教育活動・国家試験、進路支援

A：入学試験

1．令和４年度入学受験・入学者状況

⑴ 令和４年度入学年度別学生在籍数

令和４年４月１日現在

	１年	２年	３年	４年	在籍	入学	卒業	退学	除籍	転部
22台	105				105	105				
21台	1	105			106	106				
20台	1	3	101		105	106		1		
19台			4	103	107	108				1
18台				7	7	109	97	4		1
計	107	108	105	110	430	534	97	5		2
男子	1	1	3	2	7					

⑵ 令和４年（令和５年度）入試制度別入学試験科目・配点

	入試制度	選考方法		科　目		配点
学校推薦型選抜	A 方式	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）		50点
		国語		国語（国語総合）		50点
		面接		面接は，提出書類・評価項目に基づいて行い，段階評価したうえで点数化する		20点
一般選抜	系統別日程	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）		100点
		数学		数学Ⅰ，Ⅱ，数学 A，数学 B（数列，ベクトル）		100点
		理科		化学（化学基礎・化学），生物（生物基礎・生物）：高得点の１科目を採用し、200点に換算		200点
	前期試験	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）		100点
		国語		国語（国語総合：現代文・古文）		100点
		理科		化学（化学基礎・化学），生物（生物基礎・生物）から１科目選択		100点
	前期日程・共通テスト併用型	前期日程	国語	国語（国語総合）		100点
			理科	化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択		100点
		共通テスト	外国語	英語（リーディング・リスニング）		100点
			数学	数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学 B から1科目		100点
	共通テスト利用型Ⅰ期	外国語		英語（リーディング・リスニング）		100点
		国語		国語（近代以降の文章）		100点
		数学		数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学 B から1科目		100点
		理科		化学，生物から１科目		100点
	共通テスト利用型Ⅱ期	外国語		英語（リーディング・リスニング）		200点
		国語		国語（近代以降の文章）	高得点１科目	200点
		数学		数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学 B から1科目		
		理科		化学，生物から１科目		200点
		国語（近代以降の文章），数学，理科は100点を200点に換算				
	後期日程	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）		100点
		国語		国語（国語総合：現代文・古文）		100点
特別選抜	帰国生徒	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）		100点
		小論文				100点
	学部留学生選抜	筆記試験		日本留学試験（独立行政法人日本学生支援機構），英語		―
		面接		試験，および書類審査により総合的に選考		
		小論文				

⑶ 令和４年（令和５年度） 医学部看護学科入学試験状況

志願方法	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者
学校推薦型選抜（A方式）	80	80	27	3.0	0
学校推薦型選抜（附属校）	7	7	5		0
学校推薦型選抜（指定校）	14	14	14		0
帰国生徒選抜	0	0	0	−	
学部留学生選抜	0	0	0	−	
一般選抜（系統別日程）	106	101	23	4.4	0
一般選抜（前期日程）	656	638	120	5.3	41
前期日程・共通テスト併用型	215	211	49	4.3	0
共通テスト利用型Ⅰ期	106	95	32	3.0	0
共通テスト利用型Ⅱ期	58	55	20	2.8	0
一般選抜（後期日程）	34	31	13	2.4	0
計	1292	1248	308	4.1	41

以上の入試形態の合格者のうち入学者数は110名である。

２．入試委員会活動

⑴ 活動内容：

福岡大学の中長期目標に基づき、入試委員会の業務である看護学科入学者の募集および入学に係る取組を充実させた。

・入学センター運営関連事項（入学センター運営委員会からの情報提供・審議依頼事項）
・各種関連委員会への協議参加（入学センター運営委員会と附属若葉高校一貫教育委員会（高大連携））
・質の高い学生募集のための取組〔①出張模擬講義・学部説明会の取組（５件の依頼）、②オープンキャンパスの企画・運営（令和４年８月７日(日)に３年ぶりに対面参加形式で開催）、③看護学科入試・広報冊子関連業務（学生募集・入試関連の情報発信の検討）、④日本看護系大学協議会（JANPU）へのオープンキャンパス情報、⑤看護学科のブランド力向上のための取組の検討（特別推薦指定校の検討を含む）など〕
・入試業務担当の配置・調整（令和５年度入試の面接者・監督者・小論文・生物の作題者）
・ウィズコロナ・ポストコロナ時代の多様な入試形態の検討（新・学部留学生選抜に関する検討など）
・入学前教育の支援（特別連携指定校からの入学予定者の入学前課題レポート）

特に、①多様な学生の受入れ、②附属学校等との接続・連携強化、③質の高い入学生確保の観点から、以下の３項目を看護学科入試委員会の『重点目標』として掲げ、それらの達成のために2022年度の計画と評価のための具体的目標を設定した。

１）多様な学生を受け入れるための広報誌「大学案内2024」「学部ガイド2024」の掲載内容の充実

【評価指標と目標設定】 医学部看護学科の受験者数 前年比５％増

【活動概要と評価】

今年度は対面形式のオープンキャンパスを３年ぶりに実施（令和４年８月７日）できたことも関連したのか、志願者は前年比7.9%増であった。また、広報委員会が管理・運用している学科ホームページが積極的に更新されていることも志願者増につながった可能性が考えられた。また、次年度の学生募集につながるよう「学部ガイド2024」の学科掲載頁を６頁から10頁に増頁し、内容充実を図っている。なお、目標設定時には評価指標を「受験者数」としていたが、後述のように大学全体の取り組みとしての『志願者確保目標値の設定及び取り組みについて』の中で「志願者数」が目標値として扱われたこともあり、今回の評価では「志願者数」を目標値として評価した。

２）入学センターと連携した附属学校等との接続・連携強化のための指定校推薦高校の新規開拓

【評価指標と目標設定】

福岡県立修猷館高校,福岡高校,筑紫丘高校等の学校推薦型選抜（特別連携指定校）の新規開拓 １校以上

【活動概要と評価】

今年度は、入学センター職員と同伴する高校訪問の機会がなかったこともあり、上記の学校推薦型選抜（特別連携指定校）枠を新規開拓することができなかった。本学薬学部では３校とも指定枠があることもあり、令和５

年度は指定枠が新規開拓できるよう、大学全体の取り組みとして提出した『志願者確保目標値の設定及び取り組みについて』の中でも目標の一つとして設定した。また、直近４年間の出身高校別入学者数と在学時 GPA 値のデータを取り纏めたとともに、新規開拓先として筑前高等学校等の意見が挙がっていることを入学センターに伝えた。

３）質の高い入学生確保のためのオープンキャンパスにおける PR 提示資料の充実

【評価指標と目標設定】　医学部看護学科の一般入試合格者の「出身高校偏差値」の平均値　前年比増

【活動概要と評価】

前述のように、今年度は対面形式のオープンキャンパスを３年ぶりに実施（令和４年８月７日）し、その中で学科紹介の PowerPoint 提示資料や MP4動画資料やイベント内での掲示資料等の充実を図った。

目標設定時には評価指標を「一般入試合格者」の「出身高校偏差値」の平均値としていたが、データ取り纏めのタイミングを考慮し、「一般入試（前期日程）合格者」のデータを比較検討した。

「一般入試（前期日程）合格者」の「出身高校偏差値」の平均値は、令和４年度（125名）の62.3から令和５年度（120名）の63.2へと前年比増を認めたものの、その変化は軽微であった。

なお、偏差値は「みんなの高校情報」（https://www.minkou.jp/hischool/）を参考にして算出したものの、私立高校等では複数の学科に対応した偏差値があり正確な合格者の卒業学科の偏差値の把握は困難であった。

B：教育活動

１．教務・実習委員会活動

《活動計画》

１）旧カリキュラム２学年と新カリキュラム２学年の円滑な平行開講を実施する。

⑴　単位認定（進級および卒業）や復学、休学に関する事柄

・進級・卒業判定、復学・休学の資料作成と委員会での承認

⑵　授業形態と水準に関する事柄

・授業形態と水準名称の検討実施

⑶　非常勤講師・ゲストスピーカーに関する事柄

・教授会議に諮り、公文書等の作成と回答書の管理

⑷　新カリキュラムの評価に関する事柄

・教員評価、モデル・コア・カリキュラムコアコンピテンシー調査の実施

⑸　教職課程に関する事柄

・教職課程教育センターからの依頼の対応

２）実習環境を整えながら実習施設と連携し、看護学実習の充実を図る。

⑴　福大病院、筑紫病院および西新病院との実習施設連絡会議に関する事柄

・実習施設連絡会議開催時の計画と運営

⑵　実習開講に関する事柄

・要項（共通編の見直しと各科目群）、配置表案の作成、３年次後期の実習オリエンテーション計画と実施、看護技術自己評価のまとめ、福岡大学病院統合医療情報システム利用と電子カルテ利用、依頼公文書作成と発送、実習のまとめ作成、ルーブリック態度評価の検討、学生関連（情報共有・ユニフォーム等）、実習中の感染対策と発生時・復帰時の対応

⑶　臨地実習指導者研修における協力に関する事項

・ファシリテーターの選出

３）教育・実習の質向上に向けた企画・運営・評価を実施する。

⑴　履修状況と成績把握、留年者減少を目指した学修指導に関する事柄

・COVID-19を含めた感染症の対応、修学指導における集団・個別の対応、保護者への対応、身分異動学生への対応と指導

⑵　令和４年度履修ガイダンスと履修登録に関する事柄

・４，９，３月のガイダンスと履修登録指導の実施、令和5年度のガイダンススケジュールの調整と作成

⑶　その他

①　父母懇談会

・担当者の選出と実施

②　特待生の選考

・特待生候補者案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会で審議

③　後期授業開始日変更申請

・案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会で審議

④　その他

《活動評価》

１）旧カリキュラム２学年と新カリキュラム２学年の円滑な平行開講を実施する。

５つの計画内容に沿った活動が実施できた。新カリキュラムの評価については、完成年度まで計画している教員評価とモデル・コア・カリキュラムとコアコンピテンシー調査を継続して実施する。

２）実習環境を整えながら実習施設と連携し、看護学実習の充実を図る。

コロナ禍により、実習施設連絡会議は中止となった。

実習開講に関する事柄および臨地実習指導者研修における協力に関する事項については、問題なく遂行した。ただし、ルーブリック態度評価の検討は、今後も継続課題とする。

R6年度の円滑な実習展開を鑑み、福岡大学系列３病院の看護部長と合同の打ち合わせ会議を実施した。

３）教育の質向上に向けた企画・運営・評価を実施する。

いずれの計画も滞りなく、遂行した。４月と９月のガイダンスは、対面実施とし、３月のガイダンスについては、実施時期や必要性等を鑑みオンデマンドでの実施とした。

その他

父母懇談会は、七隈会場のみ実施となり、地方会場については、看護学科からの参加はなかった。

他は、滞りなく業務を遂行することができた。

C：FD 活動

１．FD 委員会活動

１）大学教育・研究についての招聘講演・学習会の企画・運営

⑴　教育の質向上を目指した講師招聘講演会

第１回：「シミュレーション教育で問題解決力を高める授業設計」

講　師：令和健康科学大学　増山　純二 先生

日　時：令和４年７月29日（金）17：00～18：30

参加人数：福岡大学医学部看護学科教員33名、福岡大学病院３名：合計36人

第２回：「モラル・ジレンマとケアの倫理」

講　師：福岡大学教育開発支援機構 IR 室　須長　一幸 先生

日　時：令和４年８月19日（金）15：00～16：30

参加人数：福岡大学医学部看護学科教員29名

⑵　次世代を担う若手教員のための学習会

教員の自主的な学びとアカデミックな交流を促し、教育能力と研究能力を開発・醸成するための支援を行うために、学習会を抄読会形式３回/年、研究と教育に関するテーマで実施した。

第１回：令和４年４月27日（水）15：00～16：00　「新カリキュラムのコトハジメ」　参加者：13名

第２回：令和４年８月18日（木）15：00～16：00　「Recent trends in Research」　参加者：11名

第３回：令和５年３月９日（木）10：30～11：30　「Recent trends in Education」　参加者：９名

2）学外研修会の参加支援

学外で開催される研修会の情報を継続的に収集し、目的達成に資する研修への参加を適宜情宣した。

第１回：日本私立看護系大学協会 新任教員向け研修会「大学教育とは」オンデマンド配信

令和４年８月14日（日）10：00～15：00　参加者３名

第２回：大学コンソーシアム京都　FD フォーラム　オンライン開催

令和５年２月18日（日）～２月25日（日）：参加者１名

3）卒業前アンケートの実施

教育の質評価の一環として、４年生を対象として、コアコンピテンシーと卒業時到達度調査を2022年11月、Microsoft Forms を使用して実施した。

達成度の傾向は昨年度と変化なかった。結果は教授会で報告し、資料は FD 委員会のファイルに格納した。

4）助手・助教の教育プログラムの検討

計画を立案し、内容は看護学科教授会議で報告した。

5）FD 活動報告

看護学科教授会で報告した。２回の講師招聘講演会実施について HP に掲載した。

D：国家試験・進路支援

Ⅰ．国家試験に関する事項

1．国家試験支援システムの強化

1）クラス担任との情報共有

2．国家試験に関する学習支援

1）学生の学習会の支援

①業者の講師による講義開催

②学習会

2）学習環境の整備

3．国家試験模擬試験

1）模擬試験結果分析と対策

2）学生の国試対策委員との連携、調整

3）低学年への支援

4．国家試験後の自己採点支援

1）看護師国家試験

2）保健師国家試験

5．国家試験結果発表後の不合格者への支援

評価１：学習会に対するアンケート調査の分析

学習会の回数（週１回）は82％の学生が適切とし、開催時期（９月以降）については92％の学生が適切と回答していた。12月に行っている激励会と抱き合わせで行っている先輩からのアドバイスについては、適切が54％、もっと早い時期が41％であった。11月の看護研究が終った時期を希望する学生が多かった。

評価２：国家試験対策に対するアンケート調査の分析

１）国家試験対策ガイダンスは年３回（５月、８月、12月）に行い、92％の学生が適切と答えていた。開催時期は、90％が適切とし、９％がもっと早い時期が良いと答えていた。早い時期というのは、最初のガイダンスを５月ではなく４月とする案である。次年度は、学生と相談し検討する必要がある。

２）模擬試験に関しては、３年次生は年２回（８月、２月）に行い、91％の学生が適切と答えていた。開催時期も、91％の学生が適切と答えていた。４年次生は、年６回（８月～１月まで毎月）実施し、93％の学生が適切と答えていた。回数について少数ではあるが、年４～５回や年７回以上を希望する学生もいた。実施時期は97％の学生が適切と答えていた。もっと早い時期として６月を希望する学生が少数いた。自由記述では、模擬試験業者の違いによる利点、欠点が幾つか挙げられていた。

評価３：看護師国家試験、保健師国家試験合格率

３月24日の国家試験合格発表の結果、既卒生２名を含め全員合格であった。

既卒生（昨年度不合格者２名）に対しては、１年間の支援をすることになっている。担任と事務が連絡を取っているが、模擬試験や大学の支援に対して望まない状況であった。国家試験受験手続に関しては事務と連絡を取り受験場所や受検番号を確認、支援している。

Ⅱ．就職・進路に関する事項

１．就職・進路関連対策

１）４年次生の就職相談と内定の確認、就職・進路に関する情報提供・相談

２）就職支援センターとの連携

３）クラス担任との連携

４）求人・施設案内目的の来学者の対応

５）コンピテンシーテスト活用に関する検討

２．キャリア形成・国試対策支援プログラム－就職ガイダンス＆「先輩と語る」の計画・実施・評価

１）ガイダンススケジュール

３．推薦による就職支援に関する事項

１）推薦制度の周知（福岡大学病院、慶応義塾大学病院、東京医科大学病院）

評価１：就職ガイダンス＆「先輩と語る」に対するアンケート調査の分析

キャリア支援・国家試験対策講座として、2023年２月４日(土）に「先輩と語る―大学と社会」を開催した。開催時期は93% の学生が適切とし、開催時間（10：40～15：30）についても96%が適切としていた。マイナビ講師による就職ガイダンス（90分)、卒業生６名による講演（60分)、卒業生と新４年次生との懇談会（80分）のプログラムに対して、95%の学生が「よかった」と答えていた。新４年次生は、「就職活動や国家試験対策についてイメージが明確になり今後の自分の行動や見通しを立てるのに役立った」と答えていた。卒業生からは、「将来に向かって頑張る学生の姿を見て、自分も頑張ろうとパワーをもらった」と答えていた。

評価２：進路・就職内定率

１）令和４年度３月卒業生（100名）の就職確定一覧表（看護師89名、養護教諭５名、保健師１名、保健師進学１名、助産進学３名、未就職１名）を教授会議で配布し教員間で共有した。

２）令和５年３月卒業生（110名）の進路調査の結果、進路決定は100%であった。進路の内訳は、看護師96名、養護教諭６名、保健師４名、助産進学４名であった。就職先の内訳は、福岡県内が63名、福岡以外の九州圏内が３名、中部地区１名、関西地区８名、関東地区21名であった。昨年と比較すると、福岡県内が９名減り、関東地区が12名増えていた。

４．令和４年度就職状況

⑴　職種別・地域別就職決定状況

職種	就職先地域	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
看護師	福岡大学	31	39	44	36
	福岡県内	63	29	20	31
	九州内	3	5	4	2
	関西以西	9	5	4	4
	関東圏	21	9	11	11
保健師		4	3	3	0
養護教諭		6	5	3	8（助教諭１含む）
進学		4	4	5	5
受験準備		0	0	1	3
合計		110	99	95	100

過去４年間のデータを掲載する。

Ⅲ．卒業後のキャリア支援に関する事項

１．卒業生支援のための卒後動向の把握および支援ニーズ調査（9月実施）

１）卒後動向の把握

２）卒後支援ニーズ調査

評価１：卒業生の動向調査結果の分析

福岡大学病院に勤務する本校の卒業生（１回生～12回生）270名の動向は、10年以上が18%、５～10年が40%、３～５年が18%、１～３年が24%であった。毎年40名程度が福岡大学病院に就職するので、480名のうち270名が在籍していると考えると56%に相当する。25～29歳（３～７年）の中堅看護師が42%、30～34歳（８年～12年）の熟練看護師が28%と計70%を占めており、医療・看護の中核を担う存在として本校卒業生が基幹病院で活躍していると言える。

評価２：支援ニーズ調査結果の分析

看護師１年目で経験した困難な事柄は、「看護技術不足」「医療機械使用未経験」が上位を占め、次いで、「医療者や職場でのコミュニケーション、人間関係」であった。自由記載による困難な事柄は、「多重課題・優先順位の決定」「実習と現場のギャップ」「不慣れな看護技術・処置介助、手技の確立」であった。卒後支援として大学に期待することは、「看護トピックスの共有」「転職相談」「メンタルサポートが上位を占め、その他、自由記述では、「卒業生同志・教員との交流の場」「１・２年目への支援」「技術練習の場」を挙げていた。大学と病院の往来がしやすい利点を生かして、次年度は、メンタルサポート体制の整備と HP を利用した卒業生へのキャリア支援体制整備が望まれる。

5．学生の指導・課外活動

《活動計画》

目標１．学生の学修活動の継続に向けた企画・運営・評価を行う。

１）学生の安定的な学習生活環境の維持を目指し、以下の活動を行う。

・看護学科棟学内利用における COVID-19感染症対策検討の年２回以上の実施
・安定した学習生活開始および維持に向けたガイダンスの年１回以上の実施
・大学行事・式典（慰霊祭、学位記授与式など）の円滑な実施に向けた運営支援
・学修活動の維持・促進に向けた特待生および各種表彰候補者の推薦
・看護学科学生委員会規約の見直し
・学生部委員会との連携体制維持のための学生部委員会参加と教授会議報告の実施

２）学生の健康生活環境の維持を目指し、以下の活動を行う。

・クラス担任制度の円滑な実施に向けた企画・調整の実施
・ワクチン接種計画に基づく、安全で円滑なワクチン接種運営の維持
・令和５年度以降のワクチン接種に関わる課題の明確化と対策の検討
・保健室の利用状況把握と安定的な運用に向けた支援

目標２．学生の学校生活の充実に向けた企画・運営・評価を行う。

１）学生の継続的な正課・正課外活動実践の促進を目指し、以下の活動を行う。

・ポートフォーリオ開始と継続に向けた学生指導企画の年１回以上の実施
・看護学科初年次教育プログラムの実施と評価、評価を反映した次年度企画の検討
・新入生オリエンテーリングの実施と評価、評価を反映した次年度企画の検討
・その他、学生の自発的な看護技術演習等に関する学生への情報提供

２）学生の主体的な正課外活動参加の維持と促進を目指し、以下の活動を行う。

・年１回以上の学生自治会や学生自主サークル活動状況の把握と活動促進に向けた情報提供
・年２回以上の社会貢献活動の実践支援と成果発信環境の整備

３）多様な学生が共に活動できる場の創出と定着を目指し、以下の活動を行う。

・年１回以上の学生間交流（FUN 共創カフェ）の開催と活動定着に向けた調整

《活動評価》

目標１．学生の学修活動の継続に向けた企画・運営・評価を行う。

学生の安定的な学習生活環境および健康生活環境の維持を目指した計画について、計画内容に沿って実施することができた。看護学科におけるワクチン接種および抗体検査について、令和５年度からは全て個人接種の方針になった。COVID-19に伴う看護学科棟利用についての検討は、社会情勢を鑑みながら、他委員会と連携して対応する。

目標２．学生の学校生活の充実に向けた企画・運営・評価を行う。

下位目標としていた、学生の継続的な正課・正課外活動実践の促進、学生の主体的な正課外活動参加の維持と促進、多様な学生が共に活動できる場の創出と定着の、それぞれを目指した計画については概ね、計画内容に沿って実施することができた。学生の正課外活動支援については、COVID-19の感染状況に依るところがあったため、適宜、支援体制を見直しながら実施する必要がある。

6．国 際 交 流

1．看護学科の国際交流活動を学生およびその保護者に情宣し、学生の活動参加を促進する。
・国際交流プログラム（パンフレット）・ポスターの見直しにより内容を充実させて、学生に配布し国際交流委員会の活動を情宣した。
・2022年度の新１年生ガイダンス時に、在学生が英語にてプレゼンテーションを行い、国際交流活動の紹介を実施した。
・学生を募集し、国際交流プロジェクトチームとして2023年度新入学生ガイダンス時の英語によるプレゼンテーションと今後の短期留学参加に向けての学習会を実施した。

2．ウオッシュバン大学（WU）および啓明大学（KU）との国際交流活動に向けた計画・準備・事後評価を行う。
・５月に予定されていた WU の来学について、計画を立案し国際センターと調整をしたが、新型コロナ感染症拡大により中止となった。
・８月に予定の KU への派遣は、新型コロナ感染症拡大により中止となった。
・WU・KU とのオンラインでの交流を模索した。
・WU・KU と、頻回にメール交換にて交流関係の維持に努めた。
・新規交流大学の開拓については、今後も慎重に検討を重ねることとなった。

3．学内外で募集された海外研修支援金の獲得に向けた活動を行う。
・海外研修支援金（福岡県）は、採択されたが、WU への派遣は新型コロナ感染症拡大により中止となったため辞退した。

4．その他
・学科教員の国際活動支援として、12月８日開催された啓明大学国際学会にて講演を池田先生、ポスター発表を大田先生にしていただくための情報提供と調整を行った。

7．総務・広報・図書・研究推進活動

1．総務・広報委員会

1）2022年度予算の適正な執行

⑴ 実験実習費の適正使用

①看護学科予算（実験実習費支出項目、実験実習費の使用について、2022年度機械器具要望、等）と予算執行方法の確認

②看護学科予算執行通知の確認：2022年度教員実験実習費、2022年度要望された機械器具

③９月、１月実験実習費予算執行状況の確認と周知

④今年度から予算外要望の適用不可と次年度への繰り越し金可能性について周知
実験実習費（共通・予算）の残額提示と繰越金の検討

⑵ 2023年度予算編成と要望の集約

①2023年度予算決定額を事務に確認

②予算要望調査の実施：教授会で看護学科予算と予算執行方法の説明

③実験実習費の予算要望書作成：教授会で予算執行に関して審議

⑶ 2023年度機械器具・什器要望調査

①各分野・科目群の予算要望書（実験実習費含む）をとりまとめて予算要望書(案)を作成
（経年劣化器具要望の確認）

②機器器具・什器要望調査のヒヤリング実施・優先順位決定

③機械器具・什器の納品確認

評価１：2022年度予算執行について

①令和４年度の予算に関する看護学科配分額（30,705,000円）および大学院看護学専攻配分額（1,520,000円）が決定した。機械器具費、実験実習費、保守費を除いた残額3,312,700円を共通経費の予備費とした。今年度より予算外要望が適用されず、配分額内で執行することと次年度繰り越しも可能であることを教授会で説明した。
次年度から機械器具、保守契約に充当する可能性についても考慮することとなった。

②2022年度より科研費配分額（申請：0.5ポイント、採択１ポイント）が各教員の実験実習費に上乗せされる（令和４年度は0.5ポイント＝17,167円）。なお、実験実習費の運用が予算配分方式に変更になったことを受け、消耗品の購入対象を広げることを周知した。

②年度初めに看護学科予算について、科目、内容やその具体的内容、要望方法と時期、執行方法等について、教授会で周知し、教授会で説明した。定期的に執行状況を確認した。

③実験実習費の予算執行状況を事務に確認し、予算額の有効な執行に向け総務委員で検討、教員へ適正な執行を依頼した。

④実習室等の整備は予算執行状況をみて適宜補充予定である。

⑤委員長は、注文時と納品時に事務から報告を受けて確認し、納品時にはその都度検収印を押印した。

評価２：次年度機械器具費は、ヒヤリング後、委員会後に教授会で、妊婦外診モデル一式、万能型看護実習モデル「八重」２体（要望４体）、義歯装着口腔衛生模型２台（要望３台）、すやすやコット１台（要望２台）、呼吸音聴取シミュレーター「ラング」１台の予算が承認され、納品された。要望に満たなかった分は次年度優先順位を高めて検討することとなった。

評価３：令和４年度医学部看護学科実験実習費の共通予算の残額（417,814円）で、ノートPC ２台（中１、中２講義室）、小会議室の椅子と机を購入（568,400円）した。学科内の壁面収納の整理を行い、使いやすい配置を行った。

2）学科内施設・実習室等の整備

⑴ 実習室・講義室等の整備

廃棄処分品や有効利用物品の整備。

⑵ 学科内・外からの施設利用・物品管理のシステム化（事務室・資料室・各教員）

①施設利用届、物品利用届の整備

評価１：実習室や講義室等は、適宜整理し問題は生じなかった。１階中講義室１と２のパソコンを入れ替えた。
３階実習室の特殊浴槽を廃棄した。次年度に壁面の撤去を要望している。
２階小講義室２に６階小会議室の椅子と机を搬入し、さらに演習室としての利用価値が高まった。
４階、５階、６階にある各領域の壁面収納の空き状況を確認し、要望のある領域に分配した。

評価２：学科内・外からの施設利用・物品管理については、FuBox に様式を格納した。手順についても整理し、事務室 → 学科教員あるいは資料室 → 総務・広報委員長の流れとなった。施設利用に関して提出された書類は事務室で保管されている。

3）危機管理事項

⑴ 災害時の危機管理について

①災害時の自衛防災組織の役割と必要物品の確認

②危機管理マニュアルやヘルメット等の配備の確認

③危機管理マニュアルやヘルメット等の配備について検討（部屋移動に伴う）

⑵ 消防訓練

2022年度に訓練はないものの物品等の確認と整備を行った。

評価：各マニュアルとヘルメットの配置（各室）
例年通り、各教員室・研究室のメンバー変更に伴い、「緊急事態対応マニュアル」と折り畳み式ヘルメット一式の配置状況を確認し、災害時の配備について過不足がないか年１回の点検を行った。特に問題はなかった。

《広報に関する事項》

1）ホームページリニューアルと管理

⑴ リニューアルへの検討

医学情報センターと D-Zero との打ち合わせに参加、８月初旬にオープンした。

⑵ ホームページ管理

リニューアルと同時に、年度毎の更新に向けたシステムづくり（資料室との連携）の構築を実施した。

評価１：ホームページリニューアル
８月にリニューアルオープンした。新着情報として、学科スケジュールや学科の活動のアップ方法について、周知した。
ホームページの評価では、D-zero の報告からトップページがリニューアル前12秒からリニューアル後は52秒と大幅に閲覧時間が増え、ユーザーがしっかりページを読み込んでくれていた。サイトでは、取得資格・免許と卒後進路、教員一覧、カリキュラム、キャンパスライフ、学科の特色と学びなどのページがよく見られていた。新着情報も多くの方に見られており、「３年生看護学領域実習が始まります」「１年生が早期看護体験実習を行いました」がよく閲覧されていた。リニューアルは、新しい情報の掲載とユーザーが分かりやすいサイトにしていくことであったため、引き続き、更新や発信を続けていく必要がある。

評価２：ホームページ内の教員情報や写真の情報の変更については、資料室教育技術職員が適宜対応できるように D-zero から引継ぎを受けた。バナー切りなど難しい場合は、10月と３月に D-zero に医学部として依頼することとなった。
医学情報センター（大久保氏）、D-zero、資料室等と連携することとなった。

2）公開講座の推進

⑴ 社会連携センターと時期、方法について基盤看護学分野に通知した。

評価：2022年度福岡大学市民カレッジにて、基盤看護学分野が2022年11月12日（土）14：00～16：00「With コロナ時代を生きる－新型コロナウイルスと向き合う」を実施した。事前予約で参加費が1500円の徴収であったことから、講座参加者10名であった。参加者は、With コロナ時代をどのように過ごすか有意義なヒントが得ることができた等の評価を得ることができた。

《学科職員の親睦に関する事項》

1）学科職員の親睦会等に関する事項

⑴ 2022年度教員親睦会等の開催の当番表作成・周知

⑵ 定年退職者の最終講義の実施

評価：令和４年度教員親睦会等の開催は、感染防止の観点からすべて中止となった。今後令和5年度教員親睦会の当番表については適宜教授会で周知予定である。なお、定年退職者の最終講義は辞退されたことにより本年の開催はなかった

2）教員費の管理等

⑴ 教員費（2022年４月～2023年３月まで）

①2022年４月に１人3000円の徴収し、運用。

②2023年３月末時点で収支決算し、学科主任の監査後、教授会で報告

③余剰金があれば、2023年３月に返却・繰り越し

④医学科教授の最終講義と花束贈呈

看護学科にかかわられた歴代の学部長または研究科長とすることを昨年度の教授会で決定する。

評価：慶弔費支出は２件、退職時の支出7件であり、規定に則って実施した。

２月末時点で教員費残金は、60,667円である。３月末に最終的な収支決算を行う。教員一人あたり300円返還し、本年度50,467円が繰越金となる。なお、医学科教授の最終講義と花束贈呈については該当者がなかった。

2．研究推進委員会

《活動計画》

1）看護研究活動における研究倫理・コンプライアンスの確保・推進を図る

⑴ 研究推進部委員会へ参加し、看護学科教員の研究活動に必要な情報（研究倫理教育、コンプライアンス教育、競争的研究資金獲得に関する情報 他）について情宣する

⑵ 倫理審査申請に関する手続きについてのマニュアルの作成・整備を行い、研究活動を推進する

・学部生の西新病院での研究実施手続きの調整・整備

⑶ 研究を推進していくうえでのコンプライアンスの確保のため、問題および要因の把握とその排除に努め、学科における研究活動の活性化を図る

2）看護学科ジャーナル（仮名）発刊準備を整える

⑴ 雑誌の概要を決定する

⑵ 運営・管理組織を構成する（編集委員会・運営事務局）

⑶ 投稿規定を作成する

⑷ 投稿・掲載システムを作成する

⑸ 関連規定（倫理や法規）、広報、予算を決定する（８月　予算申請）

⑹ 投稿受付を開始する

3）福岡大学病院、筑紫病院、西新病院との共同研究および研究支援体制の整備
⑴ 研究支援手続きマニュアルの整備
⑵ 研究支援及び共同研究に関する課題の把握と改善

《活動評価》
1）看護研究活動における研究倫理・コンプライアンスの確保・推進を図る
⑴ 研究推進部委員会は、2022年度は2023.3.20まで、通常会議12回、臨時会議１回を含め、計13回/年開催された。委員長がオブザーバーとして出席した。会議にて教授会議等で周知を案内された内容については、学科教授会議にて配布資料を用いて情宣した。（研究倫理教育、コンプライアンス教育、競争的研究資金獲得に関する情報 含）

⑵ 倫理審査申請に関する手続きについてのマニュアルの作成・整備を行い、研究活動を推進する
2021年度､医に関する倫理委員会の申請システム変更に伴って､倫理審査申請に関する手続きについてのマニュアルの内容を検討し､「研究倫理審査のための手引書」の2022年度改訂版を作成し、４月に教員・院生に配布した。
また、福岡大学西新病院における、学部生（４年生）の看護研究における研究実施に向けて依頼・調整を行った。結果､2023年度より実施協力が得られることとなった。したがって､「研究倫理審査のための手引書」の学部生の手続きを修正し、2023年度４月に改訂版を配布する予定である。

⑶ 研究を推進していくうえでのコンプライアンスの確保においては、研究推進部委員会からの案内や周知事項を情宣した。また、倫理審査日の案内資料を毎月全教員へ配布し、利用しやすい環境調整に努めた。

2）看護学科ジャーナル（仮名）発刊準備を整える
2023年度発刊の予定で計画を立案したが、今年度にあらためて実施した教員アンケートでの意見より、再度丁寧な説明が必要と判断し、発刊に向けて引き続き次年度の検討課題とすることになった。

3）福岡大学病院、筑紫病院、西新病院との共同研究および研究支援体制の整備
今年度の支援件数は、福岡大学病院11件、筑紫病院８件であった。
また、今年度は、３病院での研究支援実施に向け調整した。また、手続きの流れ・支援依頼書を３病院共通で運営できるように、看護部長・教育副看護部長と協議・検討した。作成した手続き及び依頼書は、１月の看護学科教授会議にて承認を得、２月より運用開始とした。
研究支援の実施においては、教員のこれまでの研究支援状況および進行中の研究支援について確認を行い、支援状況一覧表を作成した。これにより教員の支援の実情を踏まえた検討ができるようになり、スムーズな支援体制を整えることができた。今後は支援状況の課題を把握し、その改善に向けての整備を進めていく。

3．図書委員会

1）看護学科図書活用の課題やニーズを明らかにし、図書利用を促進するために、以下を計画した。
⑴ 図書館活用、図書購入利用の促進を図る。
・必要な図書購入を勧め、予算額を適正に執行する。
・学生希望図書についてグーグルフォーム等を活用して学生の要望に応える。
・教員及び学生が、必要な図書を購入するよう、決算時期だけではなく決算期前より図書購入利用の広報活動を行う。

《1）-⑴の実施と評価》

・令和４年度の図書予算執行：医学部分館の協力により Fu-Box にて資料の紹介を行った。
・予算凍結のため、決算期に教員に購入希望を取り洋書を除く書籍についてほぼ希望通りに購入。学生の借用予約の多い６タイトル、スポーツ科学部に学生から借用依頼の多い１タイトルも購入。
・課題：学生希望図書の調査、決算期前からの広報活動ができなかった。

⑵ 看護学科管理である看護教育視聴覚教材（ナーシングチャンネル）の活用の実態を明確にし、課題とニーズを明らかにする。

・新入生、新任教員の利用登録と卒業生、退職者の退出の管理を徹底し、利用の促進を図る。

・利用ルール等の利用方法に関するメール配信及び学生掲示を行いナーシングチャンネル担当者で指導を行う。また、学生によって利用時間に差があったため、教材活用の実態を把握する。

・ナーシングチャンネル活用に関するアンケート調査を適宜実施し、活用の現状と課題等について検討する。

⑶ 教員や学部生・院生のニーズをもとに視聴覚電子媒体や図書の電子化とデータベースの活用を促進し、教育研究環境を整える。

・ナーシングチャンネル以外の視聴覚教材、電子媒体等について、看護学科に導入してほしい希望はないか、情報収集して活用の可能性について検討する。

《1)-⑵⑶の実施と評価》

・ナーシングチャンネルの利用状況及び新たな電子資料（EVO）の希望に関するアンケート調査を実施した。調査結果を基に図書委員会で検討し、令和５年度はナーシングチャンネルの継続とEVO（希望11タイトル）の両方の講読に決定した。なおナーシングチャンネルの登録については、次年度は利用する科目の担当者に学生への登録指導をお願いする旨、教授会で報告をした。
・図書予算の残金より、２～３月も講読予定のEVOタイトルの利用が可能となった。
・課題：今後の予算削減を勘案し、電子資料について次年度以降も継続して検討する必要がある。

２）削減された図書予算の適正な執行を行うために、以下を計画した。

・ナーシングチャンネルの利用枠について、学生利用のみではなく教員も活用できるよう利用人数拡大の予算を図書館に要望する。

・委員会内に広報担当係を設置して計画的な図書購入と活用の促進を図り、図書費の執行率100％を目指す。

《2)の実施と評価》

・ナーシングチャンネルの利用申請枠（450人まで）を最大枠（451～500人）に拡大した。
→学科教員の協力により（若干のオーバーはあったものの）【図書費の執行率は、ほぼ100％】となった。

8．医学研究科看護学専攻（修士課程）

1．看護学専攻委員

令和４年４月１日現在

組織	長（議長）	委員			
修士課程小委員会	（研究科長） 松永　　彰	平井　郁仁	江藤　真紀	緒方久美子	木村　裕美
		久木原博子	小柳　康子	佐久間良子	末次　典恵
		中島　充代	馬場みちえ		
研究指導教員会議 教員資格予備審査委員会 出願資格審査会議メンバー	（専攻長） 緒方久美子	江藤　真紀	木村　裕美	久木原博子	小柳　康子
		佐久間良子	末次　典恵	中島　充代	馬場みちえ
大学院専攻会議	（専攻長） 緒方久美子	江藤　真紀	大倉　義文	木村　裕美	久木原博子
		小柳　康子	佐久間良子	末次　典恵	中島　充代
		宮城由美子	岩永　和代	浦　　綾子	長谷川珠代
		馬場みちえ	宗正みゆき	吉川千鶴子	有田　久美
		大田　　博	黒髪　　恵	坂梨　左織	牧　　香里
		松本祐佳里	池田　　智	（上野　珠未）	（鮫島由紀子）
学務委員会	佐久間良子	末次　典恵	中島　充代	有田　久美	大田　　博
		坂梨　左織	牧　　香里	（専攻長） 緒方久美子	（学科主任） 宮城由美子
		（鮫島由紀子）			
入試委員会	小柳　康子	長谷川珠代	黒髪　　恵	（専攻長） 緒方久美子	（上野　珠未）

2．令和５年度入試の実施　秋季入試２名受験、春季入試２名受験、合格者４名

令和４年度在籍者　５名

専門領域	１年次	２年次	長期履修*
母子健康支援領域（特別研究）	０名	０名	０名
地域健康支援領域（特別研究）	０名	１名	１名
成人療養支援領域（特別研究）	０名	０名	０名
看護教育・管理領域（特別研究）	０名	０名	０名
高齢者療養支援領域（特別研究）	０名	０名	０名
精神健康支援領域（特別研究）	２名	０名	０名
クリティカルケア看護領域（課題研究）	０名	２名	２名
合計	２名	３名	

＊：長期履修者数は、１年次在籍者数、あるいは２年次在籍者数に重複

3．専門領域及び研究指導教員

専門領域	研究指導教員
母子健康支援領域	教授　小柳康子、教授　佐久間良子
地域健康支援領域	教授　江藤真紀、准教授　馬場みちえ
成人療養支援領域	教授　緒方久美子
看護教育・管理領域	教授　末次典恵
高齢者療養支援領域	教授　木村裕美、教授　久木原博子
精神健康支援領域	教授　中島充代
クリティカルケア看護領域	教授　緒方久美子

4．活動内容

【修士課程小委員会】

1）委員：

4月1日～3月31日；

◎松永　彰　研究科長、平井郁仁　大学院学務委員

研究指導教員（Ⓜ）：緒方久美子、江藤真紀、木村裕美、久木原博子、小柳康子、佐久間良子、末次典恵、中島充代、馬場みちえ（◎　委員長、以下同じ）

2）活動内容（議事）：

上記の構成員により10回開催した。

①令和5年度入試要項について

②令和3年度自己点検・評価を踏まえた「問題点」への対応について

③令和4年度自己点検・評価について

④令和4年度教職課程自己点検・評価について

⑤令和4年度新入生の研究仮テーマ、研究指導教員、研究指導補助教員の承認

⑥令和4年度3つのポリシー確認シートについて

⑦令和5年度秋季入試の合否判定（受験者2名合格者2名）

⑧令和4年度研究計画発表会について

⑨令和4年度修了生の修士論文発表会について

⑩令和4年度修士論文審査の主査・副査の承認

⑪大学院授業科目の履修年次変更について

⑫看護学専攻教育職員資格審査について（研究指導教員1名と研究指導補助教員3名の資格審査を実施、大学院教育職員資格審査委員会に上程）

⑬福岡大学大学院学則の一部改正について

⑭修士学位申請論文合否判定及び修士課程修了判定

⑮令和5年度学年暦および時間割の決定

⑯令和5年度科目担当者の決定

⑰令和5年度大学院シラバスの作成・点検について

⑱非常勤講師採用の決定

⑲令和5年度春季入試の合否判定（受験者2名合格者2名）

⑳看護学専攻申し合わせ事項の修正について

㉑医学研究科臨床看護講師称号付与について

修士課程小委員会の下に、申し合わせにより専攻長の諮問会議として研究指導教員会議（Ⓜ会議）を、内規により教員資格予備審査委員会を設置している。

【研究指導教員会議】は研究指導教員9名（上記）で構成し、専攻長を議長として1回開催した。

令和3年度自己点検・評価を踏まえた「問題点」への対応について審議した。

【教員資格予備審査委員会】は研究指導教員9名（上記）で構成し、専攻長を議長として4回開催した。

審議の結果、Ⓜ教員1名、M教員（医学科・薬学部教員含）3名の推薦を決定し修士課程小委員会に上程した。医学研究科臨床看護講師称号付与について所属先の病院長から推薦された看護師2名について審議・決定し、修士課程小委員会に上程した。

【専攻会議】

1）委員：◎緒方久美子、江藤真紀、大倉義文、木村裕美、久木原博子、小柳康子、佐久間良子、末次典恵、中島充代、宮城由美子、岩永和代、浦　綾子、長谷川珠代、馬場みちえ、宗正みゆき、吉川千鶴子、有田久美、大田　博、黒髪　恵、坂梨左織、牧　香里、松本祐佳里、池田　智、（上野珠未、鮫島由紀子）

2）活動内容：構成員23名により12回開催した。

⑴　入試に係る事項の検討・協議

①令和5年度入学試験要項の作成

②令和4年度入学試験の作題および入試業務の役割分担決定

③志願者募集のための広報活動：募集ポスターとリーフレットの作成

④秋季入学試験の実施（受験者2名）

⑤春季入学試験の実施（受験者2名）
⑥大学院ホームページの改訂
⑵　学務に関する事項の検討・協議
①令和４年度修士課程ガイダンスの実施
②令和４年度新入生の仮テーマ、研究指導教員、研究指導補助教員の確認
③研究計画発表会の実施について
④令和５年度修士論文審査の主査・副査の確認
⑤令和５年度学年暦と時間割の編制
⑥令和５年度科目担当者の検討
⑦令和５年度シラバスの作成・点検
⑧令和５年度大学院履修の手引きの作成
⑨課程修了者１名（修士論文コース１名）の修士論文公開発表会と学位審査の実施
⑩学位授与式を看護学科と合同で実施
⑶ 大学基準協会による第３認証評価受審に係る対応
⑷ 令和４年度予算執行と令和５年度予算要望

【学務委員会】
４月１日～３月31日：◎佐久間良子、緒方久美子（専攻長）、宮城由美子（学科主任）、末次典恵、中島充代、有田久美、大田　博、坂梨左織、牧　香里、（鮫島由紀子）

【入試委員会】
４月１日～３月31日：◎小柳康子、緒方久美子（専攻長）、長谷川珠代、黒髪　恵、（上野珠未）

9．社 会 活 動

1．市民公開講座

新型コロナウイルス感染症対策に留意し、対面参加形式で、基礎看護分野が下記の通り担当した。

1）日　　時：2022年11月12日(土)（対面参加形式）

2）受講者数：10名（アンケート回答者数９名）

3）講座到達目標：

⑴　新型コロナ感染症の対策や治療法について最新の知識を得ることができる。

⑵　公衆衛生の立場から新型コロナ感染症を理解することができる。

⑶　日常生活における感染予防行動を身につけることができる。

4）テーマ・講座内容及び担当講師

「With コロナ時代を生きる」

第１講「新型コロナウイルスと向き合うためのポイント」　　看護学科教授　大倉　義文

第２講「新型コロナ感染症の理解」　　看護学科准教授　馬場みちえ

第３講「日常生活に生かせる病院内感染予防」　福岡大学病院 感染管理認定看護師　宮﨑　里紗

第４講・演習「日常生活における感染予防行動」　　看護学科准教授　吉川千鶴子

5）総括

・コロナ感染が未だ収束しない中のタイムリーなトピックスではあったが、参加費を有料に変更した初年度であったこともあり、講座の申込者数が少なく、開講が危ぶまれた。募集時期次第ではさらに申込者が多かったかもしれない。

・看護学科の企画は、年配者の参加者が多いため、これまで定期的に参加されていた知的好奇心を持っておられる年配層が、感染リスクと参加費とのバランスを考え参加されなかった可能性もあり、今後の受講者の見積もりが難しい状況である。参加費が無料の講座もあるため、有料・無料の選択も合わせ、社会貢献の意義も考え合わせ受講者がより集まるような講座となるようにしたい。

・演習補助等で学生（アルバイト）も予定していたが、上記の状況で受講者数が少なかったことから学生補助はなくなった。

・講座の内容は、医師の立場から「新型コロナウイルスと向き合うためのポイント」、公衆衛生看護学の立場から「新型コロナ感染症の理解」、感染管理認定看護師の立場から「日常生活に生かせる病院内感染予防」、基礎看護学の立場から「日常生活における感染予防行動」と幅広く、多方面から理解ができる内容であり、参加者対象のアンケートや当日の質疑応答や終了後のコメントでも「今の時期だから話を聴けてよかった」旨の声をいただいた。

2．高校生への模擬授業および看護学科紹介

講義日	対象校	テーマ	担当者
令和４年７月12日	佐賀東高等学校	考えてみよう！保健学	木村　裕美
令和４年７月13日	福岡工業大学附属城東高等学校	ストレスと看護	黒髪　　恵
令和４年７月19日	福岡大学附属大濠高等学校・中学校	医学部アカデミア講座 「子どもらしく生きるための看護」	宮城由美子
令和４年７月28日	宮崎県立富島高等学校	健康なまちづくりと看護の役割	長谷川珠代
令和４年９月17日	附属大濠高校および福岡市立高校	ICT を活用した在宅看護の発展	古賀佳代子
令和４年10月8日	若葉高等学校	災害から命を守る	岩永　和代
令和４年12月14日	福岡大学附属若葉高等学校	医療や看護における情報	大田　　博

10. 研 究 業 績

令和４年４月より令和５年３月までの１年間における研究業績の主なものを，ここに記載する。

講座名 No.	論文題名	発表雑誌	発行の巻（号） 頁・年	著者及び演者
専門基礎				
〈原著〉				
1	Intra-oral gingival massage activates human cerebral prefrontal cortex and enhances cognitive performance	Oral Science International	1-10，2023 https://doi.org/10.1002/osi2.1175	Rikimaru T, Okura Y
〈国内研究助成金〉				
1	介護要因の主要病態に潜在する歯周病原菌と認知機能低下・フレイルとの探索的関連解析	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	大倉　義文（代表）， 力丸　哲也，中園　栄里
2	口腔機能向上効果プログラムが有する大脳認知機能局在部位との機能的結合の探索的解析	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	力丸　哲也（代表）， 大倉　義文
3	骨質低下を制御するビタミンＢ群摂取による新たな骨粗鬆症骨折予防の探索的解析	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	中園　栄里（代表）， 末松美保子，力丸　哲也， 貴島　聡子，大倉　義文
4	壮年期からの骨粗鬆症予防と口腔機能向上を目指した食事レシピ開発	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2022	中園　栄里（代表）， 力丸　哲也，大倉　義文， 南　レイラ，古野みはる
〈学会活動〉				
1	日本動脈硬化学会	評議員	2022	大倉　義文
2	日本動脈硬化学会	第54回日本動脈硬化学会総会・学術集会　公募演題査読委員	2022	大倉　義文
基礎看護学				
〈原著〉				
1	教員と臨床看護師が連携する２年次と４年次の採血技術演習 －学習到達状況の推移と学生による演習評価－	日本シミュレーション医療教育学会雑誌	10： 42-49， 2022	加藤沙弥佳，未次　典恵， 吉永　砂織，鶴田　来美， 金子　政時
2	臨地実習において特別な教育的支援が必要な学生への教員の関わり －看護専門学校の教員を対象とした質的研究－	日本看護科学会誌	42： 391-400， 2022	宇都　ルミ，末次　典恵
3	子育て中の労働者がワーク・ライフ・バランスを実現するための職場環境に関する検討 －宮崎市の若年労働者への質問紙調査から－	南九州看護研究誌	21(1)： 1-8， 2023	田邉　綾子，久留　　葵， 山本　明佳，末次　典恵， 金子　政時
4	外来がん化学療法を受ける患者の口腔粘膜炎と日常生活への影響 －３つの標準レジメンにおける解析－	日本口腔ケア学会雑誌	18(1)： 2023	吉川千鶴子

〈総説〉

1	利き手と作業への影響に関する文献検討 －左手利き者への看護技術習得支援の考察	宮崎県立看護大学研究紀要	23(2)： 1-9， 2022	川西　幸広，末次　典恵

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	地域特性に沿った事例で展開したシミュレーション教育の取り組み	日本看護学教育学会 第32回学術集会	WEB 開催 8/6-7， 2022	草原　麻紀，小倉　裕香， 山中　真弓，末次　典恵， 稲田真菜実
2	Risk factors for the development of mucositis in patients who receive cancer chemotherapy identified by intergroup comparisons	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference	Taiwan April 21-22， 2022	Yoshikawa C
3	Oral mucositis and its influences on daily life in patients receiving outpatient cancer chemotherapy	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Yoshikawa C

〈国内研究助成金〉

1	地域包括ケアを支える ICT を活用した看護リカレント教育プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	末次　典恵（代表）， 鶴田　来美，吉永　砂織， 久保　江里
2	緊急に人工呼吸器を装着した患者へのコミュニケーション支援に関する国際比較	文部科学省 基盤研究(C)	2022	緒方久美子（代表）， 佐藤　禮子，末次　典恵， 佐藤まゆみ
3	造血幹細胞移植患者に対する運動支援プログラム開発に関する基礎的研究	文部科学省 基盤研究(C)	2022	久保　江里（代表）， 末次　典恵
4	がん化学療法における口腔粘膜炎予防のセルフマネジメントプログラムの開発と検証	文部科学省 基盤研究(C)	2022	吉川千鶴子（代表）， 高松　　泰
5	働き盛り世代の仕事と認知症介護の両立への備えを促す VR 学習プログラムの開発と検証	文部科学省 基盤研究(C)	2022	坂梨　左織（代表）， 西尾美登里，大田　　博， 藤田　君支，合馬　慎二

〈学会活動〉

1	日本看護研究学会 九州・沖縄地方会	役員	2022	末次　典恵
2	日本看護科学学会	代議員	2022	末次　典恵
3	日本手術看護学会	専任査読者	2022	坂梨　左織

成人看護学

〈原著〉

1	Efforts of healthcare professionals providing self-care support to patients with myocardial infarction.	インターナショナル Nursing Care Research	21(2)： 11-20， 2022	Inagaki M, Takeshita H, Inagaki N, Tanaka Y, Nagasawa M, Ota H, Okada A

〈総説〉

1	VR を用いた高度実践看護師教育の実践	新しい医学教育の流れ	22(3)： 81-84， 2022	大田　　博

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	Basic Research on the Lifestyle and Frailty of Older Adults with Heart Diseases	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference	Taiwan April 21-22 2022	Ogata K, Nakashima E, Sakanashi S, Samejima Y
2	Cross-Cultural Nursing Education in Critical Care : The Reality and the Perceptions of Nurse Managers	26th East Asian Forum of Nursing Scholars	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Ogata K, Sato R
3	Long-term time course of quality of life evaluated SF36v2® among head and neck cancer patients who received chemoradiotherapy	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference	Virtual Event, April 21-22 2022	Iwanaga K, Arima H, Ishibashi Y, Maki K, Ura A, Kotake K, Haba K
4	Changing Daily Life of Total Laryngectomized Patients Three Months After Hospital Discharge	33th Sigma Theta Tau International Research Congress	Edinburgh, Scotland July 21-25 2022/ Virtual Event, August 3-4 2022	Kotake K, Kinoshita Y, Haba K, Kurita M, Iwanaga K, Suzukamo Y, Kai I, Takahashi A, Ishibashi Y, Hara Y, Arata Y, Uemura H
5	Reasons for Participation, Discontinuation and Non-participation in Self-help Groups among LaryngectomizedPatients in Japan	33th Sigma Theta Tau International Research Congress	Edinburgh, Scotland July 21-25 2022/ Virtual Event, August 3-4 2022	Haba K, Kotake K, Kinoshita Y, Kurita M, Iwanaga K, Kai I, Suzukamo Y, Takahashi A, Ishibashi Y, Hara Y, Arata Y, Ota I, Uemura H, Taniguchi H
6	看護シミュレーションラーニングと VR	第４回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会交流集会	兵庫 2/18, 2022	大田　博，坂梨　左織，鮫島由紀子，掛田　遥
7	Association between frailty and psychosocial status in patients undergoing hemodialysis	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（EAFONS）	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Maki K, Kukihara H, Tamura Y, Ishimoto Y, Uemura C
8	Changes in the Coping Strategies of Families Caring for People with Dementia after an Education Program	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（EAFONS）	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Baba M, Yamamoto Y, Okura M, Ueno T, Maki K, Tsuboi Y
9	Interventional Effects of an Education Program to Reduce Caregiving Burdens on Families Caring for People with Dementia	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（EAFONS）	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Okura M, Baba M, Yamamoto Y, Ueno T, Maki K, Tsuboi Y, Ayaka S

〈国内研究助成金〉

1	緊急に人工呼吸器を装着した患者へのコミュニケーション支援に関する国際比較	文部科学省 基盤研究(C)	2022	緒方久美子（代表），佐藤　禮子，末次　典恵，佐藤まゆみ
2	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(B)	2022	大川　宣容（代表），緒方久美子，佐藤まゆみ，森本紗磨美，平尾　明美
3	冠動脈血行再建術後患者の HL 向上を目指した在宅遠隔セルフケア支援システムの開発	文部科学省 基盤研究(B)	2022	稲垣　美紀（代表），緒方久美子，小堀　栄子，岡田　彩子，竹下　裕子，大田　博，長沢美和子，瀬戸奈津子，稲垣　範子

4	頭頸部がんで化学放射線療法を受ける患者の栄養状態改善のための介入プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	岩永　和代（代表）， 石橋　曜子，小竹久実子， 羽場　香織，浦　　綾子， 牧　　香里，宮林　郁子
5	喉頭全摘出者の QOL 向上へつなげる看護体制の構築：RCT による縦断的介入	文部科学省 基盤研究(B)	2022	小竹久実子（代表）， 岩永　和代（分担）
6	喉頭全摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	石橋　曜子（代表）， 岩永　和代，小竹久実子， 浦　　綾子，宮林　郁子
7	発達障害傾向看護学生のコミュニケーション力育成プログラムの試行	文部科学省 基盤研究(C)	2022	宮林　郁子（代表）， 岩永　和代（分担）
8	急性期看護学における TBL のためのシミュレーション教育用電子カルテシステムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	大田　　博（代表）， 稲垣　美紀，藤原　尚子， 岩瀬　和恵，東　ますみ
9	新たなクリティカルケア Simulation Learning モデルの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2022	大田　　博（代表）， 緒方久美子，稲垣　美紀， 長沢美和子，東　ますみ， 藤原　尚子
10	周手術期看護における臨床判断能力を高める学生版分岐型ストーリー VR 教材の開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	長沢美和子（代表）， 稲垣　美紀，竹下　裕子， 稲垣　範子，大田　　博
11	大腸がん検診における組織型検診をめざした受診行動サポートシステムの有効性の検証	文部科学省 基盤研究(C)	2022	藤原　尚子（代表）， 稲垣　美紀，大田　　博， 山本　兼右，木山　昌彦
12	ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業	文部科学省， 令和３年度補正予算事業	2022	大田　　博 （福岡大学事業責任者）
13	認知症初期の人の介護者支援の介入研究 － integrated care の視点から	文部科学省 基盤研究(C)	2022	馬場みちえ，山本八千代， 有馬　久富，大城　知子， 牧　　香里（分担）， 大倉　美鶴，坪井　義夫

〈学会活動〉

1	千葉看護学会	査読者	2022	緒方久美子
2	一般社団法人日本看護業務研究会	HC books 作成員， 調査研究委員	2022	大田　　博
3	日本看護シミュレーションラーニング学会	選挙管理委員	2022	大田　　博

〈研究に関係した賞〉

1	Basic Research on the Lifestyle and Frailty of Older Adults with Heart Diseases	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference Best Paper Award	2022	Ogata K, Nakashima E, Sakanashi S, Samejima Y

老年看護学

〈原著〉

1	Development of Anger Management Mindfulness program and effects on mental health and fatigue of psychiatric nurses	Open Journal of Social Sciences	10(5)： 488-495， 2022	Ando M, Kukihara H, Kurihara H

2	Comparison of Concept about Good Death and View of Life and Death among Japanese, Korean, and American at COVID-19	World Journal of Nursing Research	1(1): 46-52, 2022	Ando M, Kukihara H, Maruyama M, Ilhak Lee, Yamawaki N
3	Efficacy of Mindfulness Yoga on Subjective Happiness, Mood, Fatigue, and Mindful Attention Awareness of Parents Raising Preschool Children	Open Journal of Social Sciences	10(13): 208-216, 2022	Ando M, Ito S, Matsuo Y, Kukihara H
4	行動心理症状を表出するアルツハイマー認知症高齢者に対する身体的・情緒的介入によるストレスへの影響	日本農村医学会雑誌	71(1): 12-21, 2022	木村　裕美，古賀佳代子，久木原博子，西尾美登里
5	パラレル・チャートを用いた老年看護学教育プログラムの有用性の検討	高齢者ケア実践科学研究誌	2(1): 1-9,（未定） 2023	久木原博子，上野　珠未，有田　久美

〈総説〉

1	サクセスフル・エイジングと高齢者の QOL	キャリアと看護研究	12(1): 1-17,（未定） 2023	久木原博子

〈著書〉

1	「看護者に期待されるもの」シリーズ第４巻「聴く力」	ふくろう出版	2022	久木原博子（分担）

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	Sleep Quality, Mental Health, Resilience, and Quality of Care among Elderly Facility Employees	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars 2023)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Kukihara H, Kimura H, Nishio M, Koga K, Ando M
2	Examination of the Usefulness of a Gerontological Nursing Education Program Using Parallel Charts	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars 2023)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Kukihara H, Ueno T, Arita K
3	Association between frailty and psychosocial status in patients undergoing hemodialysis	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Maki K, Kukihara H, Tamura Y, Ishimoto Y, Uemura C
4	Care Needs of Caregivers of the Elderly with Early-Stage Dementia :Comparison between Young Caregivers and Old Caregivers	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Kimura H, Koga K, Nishio M, Kukihara H
5	Health needs of seniors living alone with dementia − Visiting nurses consider support −	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Kimura H, Koga K, Nishio M, Kukihara H
6	Factors associated with Post-traumatic Stress Disorder (PTSD) in workers affected by the Kumamoto earthquakes	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Koga K, Kimura H, Ikeda S, Nishio M, Kukihara H
7	A Value of Online Medical Care as Perceived by Families of People with Dementia	26th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Nishio M, Sakanashi S, Koga K, Kukihara H
8	The possibility of using a company's employees as a resource to assist the local elderly in disasters	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)	Online April 21-22 2022	Ueno T, Iwanaga K, Omura Y, Baba M, Yoshikawa C, Maki K, Ura Ayako, Munemasa M

9	Examination of the Usefulness of a Gerontological Nursing Education Program Using Parallel Charts	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)	Tokyo, Japan March 10-11, 2023	Kukihara H,Ueno T, Arita K
10	Interventional Effects of an Education Program to Reduce Caregiving Burdens on Families Caring for People with Dementia	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)	Tokyo, Japan March 10-11, 2023	Okura M, Baba M, Yamamoto Y, Maki K, Ueno T, Suda A, Tuboi Y

〈国内研究助成金〉

1	高齢者施設職員のケアの質向上のためのレジリエンストレーニングプログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	久木原博子（代表), 安藤　満代, 木村　裕美, 西尾美登里
2	軽度認知症高齢者の独居生活を支援する感性AIロボットの実践的検証と実用化に向けて	文部科学省 基盤研究(C)	2022	木村　裕美（代表), 村田　　伸, 古賀佳代子, 西尾美登里, 久木原博子, 岩村　誠人
3	後期高齢者の医療費適正化に向けた日本流コンコーダンスのモデル構築	文部科学省 基盤研究(C)	2022	有田　久美（代表), 久木原博子, 岡﨑美智子, 矢野ゆう子, 上野　珠未
4	婦人科がん術後患者のリンパ浮腫自己アセスメントが受診行動に与える影響	文部科学省 基盤研究(C)	2022	矢野ゆう子（代表), 有田　久美, 佐藤真由美

〈学会活動〉

1	全国看護管理・教育・地域ケアシステム学会	査読委員	2022	久木原博子
2	高齢者ケア実践学研究会	理事	2022	久木原博子
3	インターナショナル看護哲学研究会	査読委員	2022	久木原博子
4	日本看護福祉学会	査読委員	2022	有田　久美

母性看護学

〈原著〉

1	胎児の存在を意識することによる妊婦の内面的変容とバースプランの変化～身体感覚活性化マザークラス参加前後の比較から～	福岡大学医学紀要	50(1), 17-28, 2023	藤木久美子, 佐藤　香代

〈国内研究助成金〉

1	神経管閉鎖障害リスク低減のための葉酸の摂取行動に関する褥婦の振り返り調査（全国調査）	文部科学省 基盤研究(C)	2022	佐久間良子（代表), 有田　久美

〈主催した学会，シンポジウム，研究会〉

1	第30回 福岡母性衛生学会学術集会	Web 開催 (完全オンデマンド配信)	7/3～7/9, 2022	宮本　新吾, 倉員　正光, 佐久間良子, 長谷川まどか

〈学会活動〉

1	福岡母性衛生学会	理事 幹事	2022	佐久間良子
2	福岡母性衛生学会	幹事	2022	藤木久美子

小児看護学

〈原著〉

1	Factors associated with intention to evacuate to a public shelter among family caregivers of home-based patients with special healthcare needs: a cross-sectional study	International Journal of Envronmental Research and Public Health	192, 2022	松本祐佳里，中井　寿雄，古賀　裕美，長谷川珠代，宮城由美子
2	Disaster Evacuation for Home-Based Patients with Special Healthcare Needs: A Cross-Sectional Study	International Journal of Environmental Research and Public Health	19(22) 15356, 2022	Matsumoto Y, Nakai H, Koga Y, Hasegawa T, Miyagi Y

〈著書〉

1	小児看護；【臨床場面における倫理的なモヤモヤを考える】小児看護の現場における“モヤモヤ”情報収集と子どものケア　正しい情報と子どもの利益のためのメディアとの付き合い方	へるす出版	pp829-833, 2022	松本祐佳里

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	Not a Light Burden-Oral Food Challenge (OFC) among Adolescents	East Asian Forum of Scholars2023	Tokyo, Japan, March 10-11 2023	Yokoo M, Miyagi Y, Aika S, Fujiwara Y
2	小児看護の基礎教育・臨床教育について語ろう－こどもと家族の反応と行動の意味を考えることと実践をつなぐ－「子どもと家族の反応を捉える」演習の展開～赤ちゃん先生の演習を通して～	日本小児看護学会第32回学術集会　シンポジウム２	福岡 7/10，2022	松本祐佳里

〈国内研究助成金〉

1	除去食療法を経験している学童・思春期患児の療養行動と支援プログラム	文部科学省 基盤研究(C)	2022	宮城由美子（代表），横尾美智代，秋鹿　都子，藤原　悠香
2	食物アレルギー児が将来を見据えた生活を再構築するための教育プログラムの作成	文部科学省 基盤研究(C)	2022	宮城由美子（代表），横尾美智代，秋鹿　都子
3	新型コロナウイルス感染症の流行がワクチン忌避保護者に与えた影響について	文部科学省 基盤研究(C)	2022	横尾美智代（代表），宮城由美子，早島　　理
4	食物除去過程の幼児家族教育プログラム 家族実践型プレパレーションツールの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	秋鹿　都子（代表），山本八千代，，宮城由美子
5	福岡市におけるすべての医療的ケア児と地域の専門職による災害への備え体制構築	文部科学省 基盤研究(C)	2022	松本祐佳里，中井　寿雄，長谷川珠代，宮城由美子
6	産前から子育て期までの継続的な孫育て支援プログラムの構築	文部科学省 若手研究	2022	藤原　悠香（代表）

〈学会活動〉

1	日本小児臨床アレルギー学会	査読委員	2022	宮城由美子
2	日本小児看護学会第32回学術集会	企画委員	2022	宮城由美子
3	日本小児看護学会第32回学術集会	実行委員	2022	松本祐佳里
4	日本家族看護学会第29回学術集会	実行委員	2022	松本祐佳里
5	日本小児看護学会第32回学術集会	実行委員	2022	藤原　悠香

精神看護学

〈原著〉

1	Wandering Notification System for Caregivers of People with Dementia	2022 IEEE 65th International Midwest Symposium on Circuits and Systems (MWSCAS)	9859342, 2022 DOI10.1109/mwscas54063.2022.	Akaike H, Katsuta S, Aramaki S, Moshnyaga V, Hashimoto K, Ikeda S
2	特定機能病院に勤務する新卒看護師のストレス対処力 SOC，職業性ストレス，組織風土，アイデンティティおよび精神健康度の関連	日本看護研究学会雑誌	45(4)：855-868, 2022	池田　智
3	熊本地震５年後における被災就労者の精神的健康の経時的変化	日本災害医学会雑誌	28(1)：28-37, 2023	古賀佳代子，木村　裕美，池田　智，西尾美登里，久木原博子

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	（協賛セミナー） リカバリーに向けた共同創造　リカバリーカレッジの取り組み	SST 普及協会第26回学術集会	オンライン 11/20, 2022	黒髪　恵，坂本　明子
2	Relationship between organizational justice, psychological distress, and turnover intention of hospital nursing staff during the COVID-19 pandemic in Japan	26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Ikeda S, Masumitsu M, Aomoto S, Yamashita M, Tsutsumi K, Kakeda H, Tashiro E, Yaji A, Kiyota Y, Matsueda M, Hori H
3	Occupational stress and work performance of hospital nursing staff during the COVID-19 pandemic in Japan	26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Ikeda S, Masumitsu M, Aomoto S, Yamashita M, Tsutsumi K, Kakeda H, Tashiro E, Yaji A, Kiyota Y, Matsueda M, Hori H
4	Five-year Longitudinal Changes in Mental Health of Workers affected by the Kumamoto Earthquakes	26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Koga K, Kimura H, Ikeda S, Nishio M, Kukihara H
5	Joint Research and Development through Collaboration between Nursing and Engineering -Development of the “KURUXA” App and “IKUXA” System-	The 29th International Nursing Conference, Keimyung University, South Korea	Korea, December 2022 (online)	Ikeda S
6	精神科領域における共同研究の工夫と課題－医学・看護学・工学連携の共同研究－	第118回日本精神神経学会学術総会	福岡, 2022年6月	堀　輝，池田　智，岸本泰士郎，小笠　昌秋，加藤　正樹

〈国内研究助成金〉

1	自閉スペクトラム症を有する人の支援者への多職種型教育プログラムの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2022	中島充代（代表），黒髪　恵，池田　智，大重　育美，原田　春美，倉知　延章，中山　政弘
2	妊娠期の交代制勤務看護職の睡眠健康プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2022	大重　育美，山口　多恵，中島　充代（分担），飛奈　卓郎，永松　美雪，倉岡有美子，木村　涼平

3	乳がん女性のサポート・ニーズとサポート・グループ傘下バリアの経時的変化の検証	文部科学省 基盤研究(C)	2022	山内　圭子, 中島　充代（分担), 原　　頼子
4	日本型リカバリープログラムを活用した精神科病棟でのリカバリー支援モデルの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2022	黒髪　　恵（代表), 坂本　明子, 中島　充代, 畑中　聡仁, 原田　康平
5	特別な支援を要する看護学生への養育力育成プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(B)	2022	安酸　史子（代表), 松浦　賢長, 北川　　明, 中嶋恵美子, 山住　康恵, 日高　艶子, 太田　祐子, 西村優紀美, 上山千恵子, 中西　　愛, 黒髪　　恵
6	①在宅ケアスタッフ間連携システム KURUXA（クルサ） ②離院・徘徊検出システム IKUXA（イクサ）	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金	2022	池田　　智（代表）
7	認知症徘徊防止システム IKUXA（イクサ）の導入効果	福岡大学領域別研究	2022	池田　　智（代表), 古賀佳代子, 大田　　博, 堀　　輝
8	訪問看護スタッフ間支援要請システム KURUXA（クルサ）の導入効果 若手研究	文部科学省 若手研究	2022	池田　　智（代表）
9	日本版 Moral Injury 尺度の作成と信頼性・妥当性の検証	文部科学省 基盤研究(C)	2022	池田　　智（分担), 松枝美智子, 安保　寛明, 児玉　有子, 増満　　誠, 高野　　歩, 中本　　亮, 光永　憲香, 脇崎　裕子, 安藤　　愛, 高橋　葉子
10	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	文部科学省 基盤研究(C)	2022	池田　　智（分担), 掛田　　遥, 大田　　博, 古賀佳代子, V.G Moshnyaga, 橋本　浩二, 堀　　輝

〈学会活動〉

1	一般社団法人日本精神科看護協会 福岡県支部	教育委員 査読委員	2022	池田　　智

〈研究に関係した賞〉

1	Relationship between organizational justice, psychological distress, and turnover intention of hospital nursing staff during the COVID-19 pandemic in Japan	Outstanding Poster Presentation Award	2023	Ikeda S, Masumitsu M, Aomoto S, Yamashita M, Tsutsumi K, Kakeda H, Tashiro E, Yaji A, Kiyota Y, Matsueda M, Hori H

在宅看護学

〈原著〉

1	Validation of Care That Brings Positive Emotions to the Cognitive Function of the Elderly Requiring Community Support	Asian Pacific Journal of Disease Management	10(1): 33-39, 2022	木村　裕美, 古賀佳代子, 西尾美登里, 久木原博子
2	行動・心理症状を表出するアルツハイマー認知症高齢者に対する身体的・情緒的介入によるストレスへの影響	日本農村医学会	71(1): 12-21, 2022	木村　裕美, 古賀佳代子, 西尾美登里, 久木原博子

3	熊本地震５年後における被災就労者の精神的健康の経時的変化	日本災害医学会	28(1)：28–37，2023	古賀佳代子，木村　裕美，池田　　智，西尾美登里，久木原博子
4	Association of appendicular extracellular-to-intracellular water ratio with age, muscle strength, and physical activity in 8,018 community-dwelling middle-aged and older adults	Archives of Gerontology and Geriatrics	108：1–8，2023	Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K
5	Dose-response relationship between daily step count and prevalence of sarcopenia: A cross-sectional study.	Experimental gerontology	175：112–135，2023	Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K
6	Moderate-to-vigorous physical activity and sedentary behavior are independently associated with renal function: a cross-sectional study.	J Epidemiol.	1–9，2022 https://doi.org/10.2188/jea.JE20210155	Hara M, Nishida Y, Tanaka K, Shimanoe C, Koga K, Furukawa T, Higaki Y, Shinchi K, Ikezaki H, Murata M, et al.

〈著書〉

1	「看護者に期待されるもの」シリーズ④聴く力	ふくろう社	pp.63–6，2022	木村　裕美（分担）
2	「看護職に期待されるもの」シリーズ④聴く力	ふくろう社	pp.85–90，2022	古賀佳代子（分担）

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	寄り添う暮らしと，歩む明日へ	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域大会	福岡 2/14，2022	木村　裕美
2	The PX of family members in online medical care for persons with dementia was clarified	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023	Tokyo, Japan 3/10，2023	Nishio M, Kimura H, Koga K, Kukihara H
3	Health needs of seniors living alone with dementia － Visiting nurses consider support －	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023	Tokyo, Japan 3/10，2023	Kimura H, Koga K, Nishio M, Kukihara H
4	Care Needs of Caregivers of the Elderly with Early Stage Dementia: Comparison between Young Caregivers and Old Caregivers	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023	Tokyo, Japan 3/10，2023	Kimura H, Koga K, Nishio M, Kukihara H
5	Association of stress coping strategies and job satisfaction in the community general support center nursing staff	25th East Asian Forum of nursing Scholars 2022	Taiwan April 21–22 2022	Koga K, Yamada S, Kimura H
6	Factors associated with Post-traumatic Stress Disorder (PTSD) in workers affected by the Kumamoto earthquakes	25th East Asian Forum of nursing Scholars 2022	Taiwan April 21–22 2022	Koga K, Kimura H, Ikeda S, Nishio M, Kukihara H

7	（ワークショップ） つながろう！地域包括支援センター保健師職〜コロナに負けない！地域における工夫を通して〜	日本地域看護学会第25回学術集会	富山 8/28， 2022	保母　　恵，古賀佳代子， 藤本　公恵，岡野　明美， 曽我　智子，永井　潤子， 森永　郎子，小林奈緒子， 志村いづみ
8	Five-year longitudinal changes in mental health of workers affected by the Kumamoto earthquakes	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Kayoko Koga, Hiromi Kimura, Satoshi Ikeda, Midori Nishio, Hiroko Kukihara
9	Sleep Quality, Mental Health, Resilience, and Quality of Care among Elderlu Facility Employees	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023	Tokyo, Japan March 10-11 2023	Kukihara H, Kimura H, Nishio M, Koga K, Ando M

〈国内研究助成金〉

1	軽度認知症高齢者の独居生活を支援する感性AIロボットの実践的検証と実用化に向けて	文部科学省 基盤研究(C)	2022	木村　裕美（代表）， 村田　　伸， 古賀佳代子（分担）， 西尾美登里，久木原博子， 岩村　誠人
2	高齢者施設職員のケアの質向上のためのレジリェンス	文部科学省 基盤研究(C)	2022	久木原博子，木村　裕美， 古賀佳代子，西尾美登里
3	熊本地震に被災した就労者支援のためのプログラム開発	文部科学省 若手研究	2022	古賀佳代子（代表）
4	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	文部科学省 基盤研究(C)	2022	掛田　　遥， 古賀佳代子（分担）， V.G モシニャガ，池田　　智， 堀　　輝，大田　　博， 橋本　浩二
5	認知症徘徊防止システム「IKUXA（イクサ）」の導入効果	文部科学省 基盤研究(C)	2022	池田　　智， 古賀佳代子（分担）， V.G モシニャガ，橋本　浩二， 大田　　博，堀　　輝

〈主催した学会，シンポジウム，研究会〉

1	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域大会	福岡	2/15， 2023	木村　裕美

〈学会活動〉

1	日本認知症ケア学会	代議員	2022	木村　裕美
2	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域	地域統括委員	2022	木村　裕美
3	日本認知症ケア学会九州・沖縄１部会	部会長	2022	木村　裕美
4	日本認知症ケア学会	査読委員	2022	木村　裕美
5	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域部会	監事	2022	古賀佳代子
6	日本認知症ケア学会九州・沖縄ブロック大会	プログラム委員	2022	古賀佳代子
7	日本看護福祉学会	査読委員	2022	古賀佳代子

〈研究に関係した賞〉

1	Factors associated with Post-traumatic Stress Disorder (PTSD) In workers affected by the Kumamoto earthquakes	Best Paper Award	2022	Koga K, kimura H, Ikeda S, Nisio M, Kukihara H
2	Factors associated with Post-traumatic Stress Disorder (PTSD) in workers affected by the Kumamoto earthquakes	Best Paper Award (25th East Asian Forum of nursing Scholars)	2022	Koga K, kimura H, Ikeda S, Nisio M, Kukihara H
3	熊本地震１年後における就労者の精神的健康に関する研究－車中泊の特性と精神的健康に与える影響	奨励賞 （日本農村医学会）	2022	古賀佳代子

学校保健

〈国内研究助成金〉

1	保健室経営計画の実践経験を学習に転換する健康課題解決力向上プログラムの開発	文部科学省 基盤研究（c）	2022	小柳　康子（代表），原田　広枝，池田佐知子
2	教育学研究	領域別研究	2022	勝山　吉章（代表），高妻紳二郎，小柳　康子 他

Ⅲ．福岡大学病院

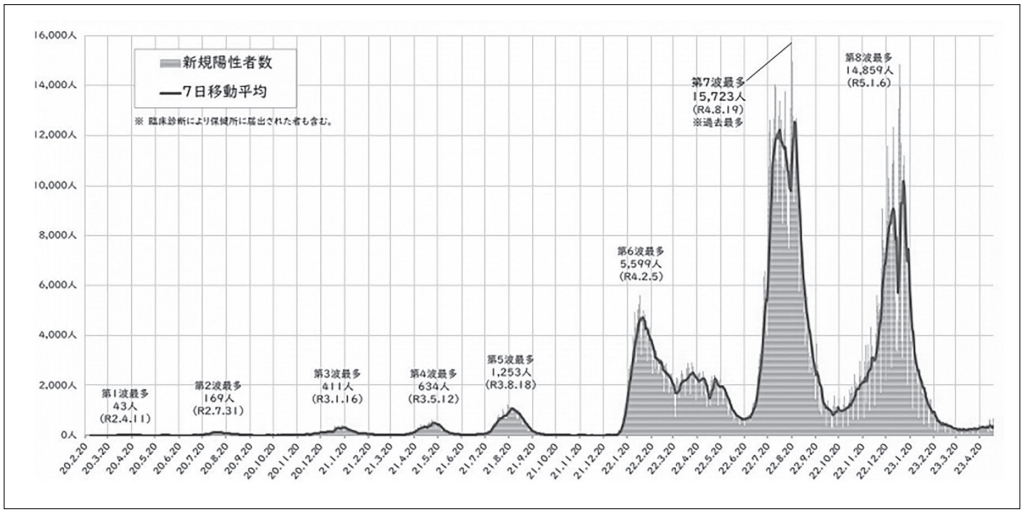
令和４(2022)年度の「福岡大学病院」について

病院長　岩　﨑　昭　憲

学校法人福岡大学の病院群は３ hospitals, One team を掲げ、福岡大学病院、筑紫病院、西新病院との連携を強化し発展していく必要があります。病院の収支改善や職員の人事交流、医療の取り組みを進めており、これまで学校法人福岡大学全体で着実な成果をあげています。以下に令和４年度の福岡大学病院の活動報告をまとめていますのでご覧いただければと思います。

診療活動の状況－コロナ対策を中心に―（図１）

令和４年度は、長引くコロナ禍において、引き続き医療提供体制や行動制限など職員一丸となって取り組みました。福岡県では８月に新型コロナウイルス感染の第７波が訪れ、過去最多の感染者数を更新し、さらに翌年１月には第８波が拡大しました。オミクロン株の流行に伴い院内でも対応に追われました。従来株とオミクロン株の２種類の遺伝子を含んだワクチン（２価ワクチン）が開発され、当院でも患者および職員向けの接種を行いました。またトルコ・シリア地震の被災地に看護師を派遣し医療活動に貢献しました。



＊福岡県ホームページより引用

福岡県新型コロナウイルス感染症新規陽性者数発生状況（図１）

患者動向（図２、３）

外来取扱患者数は延326,257人（前年度比100.05％）と微増しました。再診患者数が303,385人（前年度比99.93％）、新たに当院を受診した患者数は17,140人（前年度比101.14％、193人増）となり、院内の感染対策もあり、患者の受診行動が戻りつつあると考えられます。また、入院取扱患者数は223,922人（前年度比93.97％、14,364人減少）、病床稼働率79.0％と前年を下回る結果となりました。これは、７月、８月、11月、12月、１月、２月に多くのクラスター発症が大きく影響したものと思われます。また新入院患者数も17,064人（前年度比96.56％、607人減）と下回り、コロナ患者の受け入れによる病床数の減少もあり、病床稼働率が伸びませんでした。

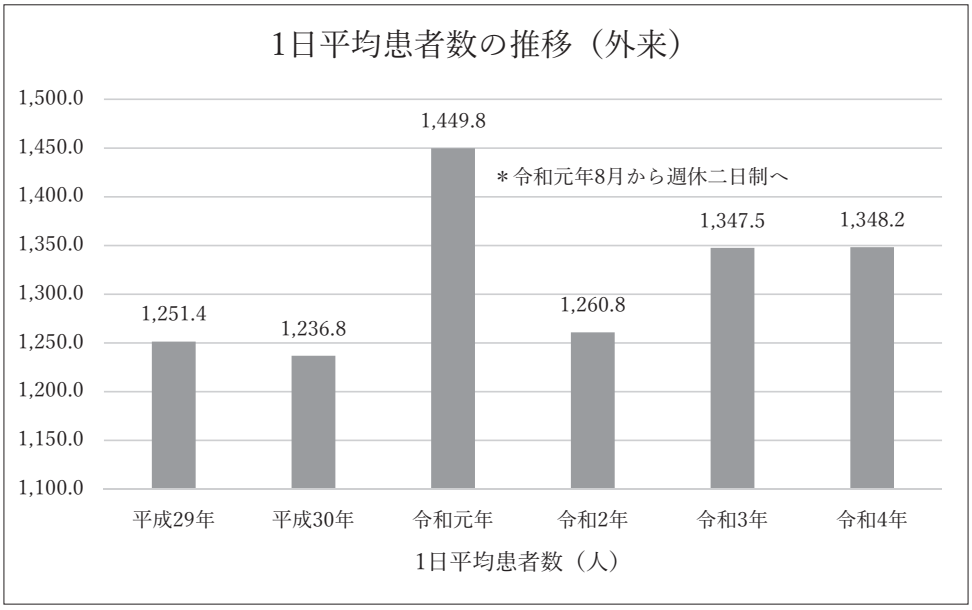


図２

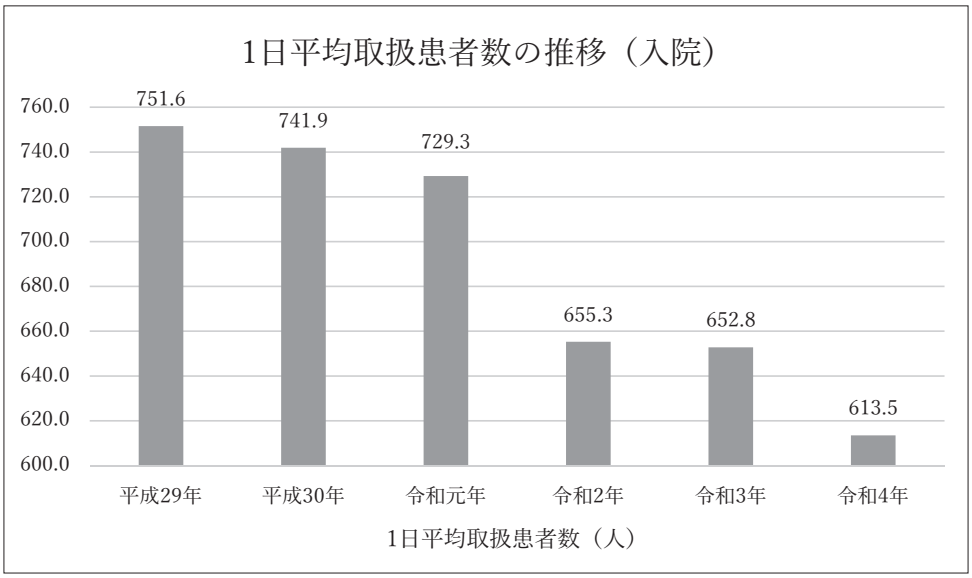


図３

診療収入の状況

令和４年度もコロナ禍ではありますが、職員皆さんの奮闘と補助金により昨年と同様に良好な収支状況でした。すなわち３年連続の黒字収支になり、学校法人福岡大学の決算に大きな貢献ができました。参考として入院・外来の単価状況をグラフ（図４）に示しています。

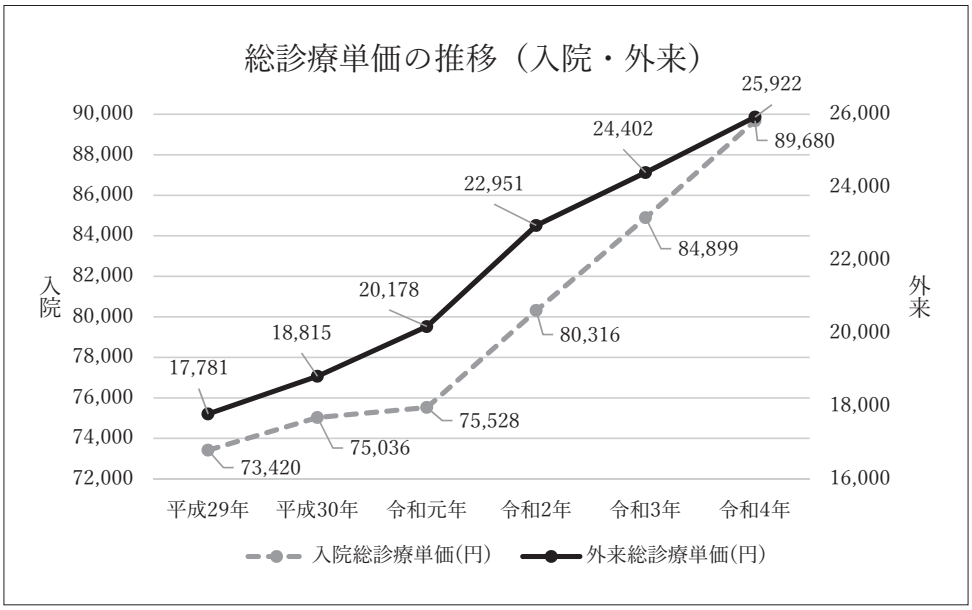
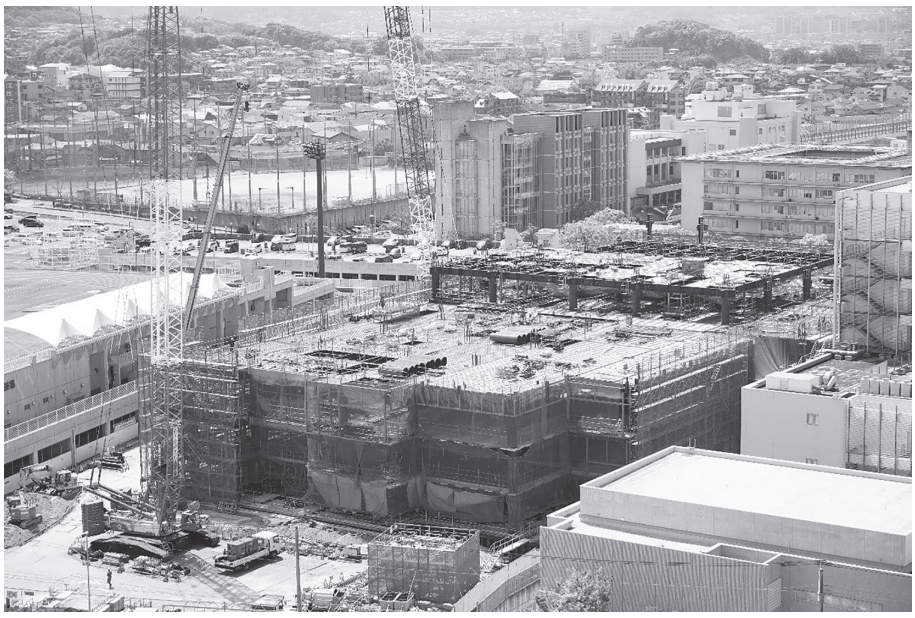


図４

病院新本館建設

令和３年10月から病院新本館建設が始まり、現在順調に進んでいます。令和５年12月に竣工予定です。感染症患者診療から今回学んだ知見も活かして、あらゆる機能を新病院建設に盛り込んでいます。令和５年８月に病院は創立50周年を迎えます。より安全な医療の提供と患者さんに優しい病院づくりができるよう、引き続き地域中核拠点病院としての役割を果たしていきたいと思います。

今後も皆様からのご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。



＊令和５年６月撮影

Ⅳ．福岡大学筑紫病院

令和4年度「福岡大学筑紫病院」の実績報告

病院長　河　村　　彰

1．地域医療支援病院としての機能評価

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、地域の医療機関との連携の目安となる紹介率は80.7%（昨年度比2.9%増）、逆紹介率は81.8%（昨年度比3.8%減）となった。地域医療支援病院の実績を評価する指標のうち、救急搬送件数は3,615件（昨年度比281件増）、地域医療従事者に対する研修会の開催数66回（昨年度比７回減）、院外参加者3,911人（昨年度比12人増）となった。なお、病床稼働率は、95.3%（昨年度比1.5%減）と昨年度より減少した。平均在院日数は9.5日（昨年度比0.6日短縮）であった。

2．将来計画の推進

令和３(2021）年に策定した将来計画に基づき、クリニカルパス適用率上昇、平均在院日数短縮、病床回転率上昇、DPC のⅡ期間内の退院率上昇等に取り組んだ。入院診療単価、外来患者数が目標値を大きく上回り、医療収入について令和４年度予算を達成した。また、材料部委員会の活動を強化し、低価格材料の採用や逆ざや品の新規採用の停止等により、医療材料費の削減効果を得た。

3．乳がん、肺がんの手術件数の増加

令和３(2021）年度から呼吸器・乳腺外科を新設し、医師を配置するとともに乳房撮影装置を更新しており、症例数が少なかった乳がんの手術件数は81件（昨年度比23件増）、肺がんの手術件数は56件（昨年度比17件増）となり増加傾向が続いている。

4．脳神経内科の新設

筑紫医療圏の病診・病院連携において、脳神経内科疾患の紹介患者数が増加傾向にあることから、令和４年10月１日より脳神経内科を新設し、脳神経内科疾患の診療強化と更なる地域医療貢献のための体制を構築した。

5．医師の働き方改革の推進

福岡県から特例水準医療機関として指定を受けるため、令和５年４月末の医療機関勤務環境評価センターへの評価受審申請に向け、働き方改革委員会において、令和６年度福岡大学筑紫病院医師労働時間短縮計画の策定を進めた。また、三病院（福大病院、筑紫病院、西新病院）合同の勤怠管理システムの導入に向け業者選定を行った。

Ⅴ．福岡大学西新病院

福岡大学西新病院の計画・成果報告（2022年度）

病院長　三　浦　伸一郎

【計画１】診療体制見直しとリハビリテーション部門の拡充

2021年度末の小児科閉床と健診部門廃止に伴い、内科診療部として、医師の再配置や病床の再配分を行い、機能的・効率的な診療体制を目指す。入院の病床稼働率の目標を85％とする。また、循環器部門のデバイス関連治療件数の前年度比10％増を目標としている。外来では、1日当たりの患者数100名を目標とし、健診で行っていた内視鏡検査枠を診療による検査や治療枠として、近隣の医療機関からの依頼に迅速に対応できるような体制を整備したい。更に、健康寿命延伸に寄与すべくリハビリテーションの拡充を行う。2021年12月には、心臓リハビリ室の移転を行い増患に対応できる施設を整備しており、地域包括ケア病床におけるリハビリテーションも充実させるとともに、心臓・呼吸器外来リハビリテーションおよび嚥下障害のリハビテーション実施件数の目標を前年度比10％増とする。

【成果１】

2022年度は、内科診療部として、日本専門医機構内科領域専門医研修施設に認定され、内科診療プログラムの充実を図った。入院の病床稼働率は、新型コロナ禍の影響もあり67％と目標を下回った。循環器部門のデバイス関連治療件数は、前年度比７％増で、外来患者数は86名/日程度で推移した。内視鏡検査については、９月に旧式の大腸検査用内視鏡カメラの更新や新たに小腸カプセル内視鏡を導入し検査や治療体制の充実を図ったが、前年度比で44％減となり、健診枠の減少分を埋めるまでの成果を上げられなかった。

リハビリテーションは、新型コロナ禍の影響で患者数が相対的に伸び悩んだこともあり、全体の実施件数に影響が出たが、心臓リハビリテーションについては、心臓リハビリ室の移転設置により、実施件数（単位数）は前年度を30％上回った。また、2022年６月には、当院が全国で40施設目の日本心臓リハビリテーション学会の研修施設の認定を受けたこともあり、更に充実したものとしたい。

【計画２】地域ニーズに基づく医療機能の充実

2021年度に地域包括ケア病床16床を新設し、地域包括ケア入院管理料２を届け出た。2022年度では、更なる増収を目指し、地域包括ケア入院医療管理料１の届出により在宅訪問診療を開始し、地域医療連携センターの整備と介護施設などとの連携を強化したい。また、救急医療の強化のため、診療体制を整備し、救急搬送件数を前年度比較で10％増を目指し、更に地域医療機関などとの連携を深める。

【成果２】

2022年６月から開始した在宅訪問診療は週一回の活動で定着し、10月には、地域包括ケア入院医療管理料１及び在宅療養支援病院の届出を行った。また、地域包括ケア病床の稼働率向上対策として、個室を２室設置する等、利用者ニーズの把握や適切なベッドコントロールを目標として増患への取り組みも行った。なお、救急搬送の受け入れ件数は、前年度比10％増を目指したが３％増に留まったため、引き続き、地域との連携強化に努めていきたい。

Ⅵ. 付属施設・組織

1）福岡大学図書館医学部分館

図書館医学部分館では、医学・看護学分野の学習・教育・研究を支援するための資料の整備・充実に努めており、令和５年３月31日現在の蔵書数は282,461冊、学術雑誌は4,333種類を所蔵している（表１）。また、DVD・CD-ROM 等の視聴覚資料5,148件を保有し、医学情報センター４階 AV 資料室で活用されている。

令和４年度の年間受け入れ状況は、図書615冊、製本雑誌635冊、継続購入雑誌285種類、視聴覚資料17点、電子資料18点(*)となった。今年度は為替レートの変動による円安に伴い、洋雑誌及び電子ジャーナルが高騰したため、医学部では雑誌等の購読継続の見直しを行い、また、大学執行部に洋雑誌及び電子ジャーナルの予算超過分の補填を要望し、最終的には予算超過分の約830万円が補填された。

令和４年度の利用状況に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ、盆休・年末年始の休館日の７日及び台風のため休館した2日の計９日間以外は８時50分から22時まで開館とした。但し、特定機能病院である大学病院に隣接する医学図書館という特性上、学外者の利用は制限し、１日平均入館者数268人（前年度比43人減）、１日平均貸出冊数33冊（前年度比１冊減）となった。学内の年間文献複写件数については、1,762件（前年度比610件減）となり、新型コロナウイルス感染症が影響しているように思われる。また、他大学との ILL（文献複写・貸借）サービスによる複写受付件数は1,629件（前年度比226件減）、学外への複写依頼件数は745件（前年度比111件減）であった。

施設面では、引き続き新型コロナ感染に対応するための換気、手指消毒用のアルコールや清拭用除菌シートの配布、カウンターや情報サービス室に飛沫防止のためのパーティションの設置の他、閲覧室の使用可能座席数を減らし座席の間隔を確保する等の感染対策を講じた。

図書館情報システム（NEC：E-Cats）はリプレイス３年目を迎え、安定した稼働を続けており、利用者の利便性を図るための情報サービス室の利用者用パソコン（16台）は学内のパソコン教室と同じ環境になっている。その他館内では、学内者向けの高速 Wi-Fi の整備により、個人のスマートフォンから図書館資料の検索や利用が可能となっている。

図書館ユーザのウェブ活用が進み、図書館資料についても紙媒体（図書・雑誌）から電子媒体（電子ジャーナル・データベース・電子ブック）への推移の傾向が見られるが、新型コロナ禍の中、遠隔授業や課外学習の中での電子媒体の活用が広がっており、その傾向は今後もさらに加速するように思われる。

また、九州の医学系図書館で持ち回り開催している『九州地区医学図書館員セミナー』（第30回）を令和４年11月17日（木）にオンライン形式で本学が当番校として実施し、本学を含む計14大学が参加した。「図書館のカビ被害現場から－原因と対策－」（株式会社明治クリックス 文化財 IPM 事業部・課長　井上　桃子 氏）と「絵本や図書を題材にした医学教育」（本学医学部医学科教授　安元　佐和 氏）の２つの基調講演と質疑応答を行うことで、コロナ禍の夏場等の外気を取り入れる換気による図書館内のカビ被害の傾向と対策や医学教育の視点からの絵本や図書の活用効果等について新たな知見が得られ、同セミナー開催の意義があったと評価している。

表１　蔵書数

（令和５年３月31日現在）

資料 / 種類	単行書	製本雑誌	計	雑　誌
和　書	85,963冊	45,204冊	131,167冊	1,581種
洋　書	50,579	100,715	151,294	2,752
計	136,542	145,919	282,461	4,333

※蔵書数には、筑紫病院図書室を含む

＊電子資料費内訳：医中誌 Web，系統別看護師国家試験問題・保健師国家試験問題 WEB，今日の診療 WEB，最新看護索引 Web，メディカルオンライン，ナーシングチャンネル，CINAHL Plus，LWW Fixed 50，MedicalFinder，Springer Nature（Nature 関連誌18誌＋ Academic Journals 11誌），Ovid EBMR, Health & MedicalCollection with MEDLINE, Science Direct, Science Signaling, Science Translational Medicine, Wiley Online Library，Educational Video OnLine

福岡大学図書館では、学外からアクセス可能な図書館ウェブサイト上から図書の予約・取寄せ、福岡大学蔵書検索（OPAC）から電子ジャーナルのフルテキストへのリンク、医中誌 Web や PubMed（福大専用）等のデータベース検索結果から学内で契約している電子ジャーナルのフルテキストへのリンク、各データベースの検索結果から書誌情報を取り込み ILL（文献複写・貸借）依頼が可能となっているが、なお一層のウェブを介したサービスの拡充に努めたい。現在、電子ジャーナル・電子ブックは無料提供を含め、全学で約117,000種類の利用が可能である。

令和４年度の主なパッケージ型電子ジャーナルの利用件数は、メディカルオンライン44,062件（前年度比1,541件減）、Science Direct103,588件（前年度比12,224件減）、Wiley Online Library 33,269件（前年度比4,467件増）であった。

令和５年度は､医学科および看護学科学生を対象とする臨床研修等に必要な知識･情報を効率良く入手するためのデータベースや電子ジャーナルの利用説明会の開催など、医学部、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院との連携を図りつつ、今後も引き続き利用者のニーズに合った図書館サービスを充実させていきたい。

（図書館医学部分館長　大　倉　義　文）

２）アニマルセンター

令和４年度のアニマルセンター利用者は、延べ6,763名（理学部14名、医学部4,701名、薬学部122名、スポーツ科学部1,830名、筑紫病院２名、膵島研究所94名）でした。

利用者カードの取得者数は145名（理学部２名、医学部100名、薬学部５名、スポーツ科学部36名、膵島研究所２名となっています。

主たる使用動物ではマウス2,577匹、ラット410匹、モルモット65匹、イヌ８匹、ブタ５頭、カエル５頭の搬入がありました。

動物実験実施者講習会は令和４年度もコロナ禍であったため、Zoom による Web 方式にて開催し、121名（理学部８名、医学部46名、薬学部31名、スポーツ科学部18名、アニマルセンター18名）が受講しました。

『第45回実験動物慰霊祭』は令和４年９月21日（水）午後４時30分から開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アニマルセンター長・動物実験委員長・アニマルセンター所属職員の合計18人で執り行いました。なお、アニマルセンター利用者の方々には、午後１時から４時までの間、随時、慰霊できるように準備し、47人が供養に訪れました。

機器備品関係では高精度電子天秤、作業台、ズーム式実体顕微鏡、Wi-Fi タブレットカメラ、バイオマルチクーラーといった２、３階で使用される実験機器のほか、免疫不全動物の飼育などに使用する個別喚気方式飼育システム本体ラックを買い入れました。また、施設工事では３階マウス室⑹の飼育ラック移動に伴う工事が行われました。

今後も利用者に対するより一層のサービス向上に努めて参りますので、何卒ご理解・ご協力の程をよろしくお願いいたします。

（アニマルセンター長　立　花　克　郎）

３）医学部 RI 施設

令和４年度の業務従事者登録者数は57名（年度内退職1名含む）、実際の利用者は21名で、RI 利用件数は368件であった。予防規程第36条による教育及び訓練として、令和４年５月９日に⑴放射性同位元素等または放射線発生装置の安全取扱い⑵放射線の人体に与える影響⑶放射線障害防止に関する法令及び予防規程の項目で、新規登録者対象の教育訓練講習会を行った。また、更新登録者の教育訓練講習会は令和４年５月10日に実施した。予防規程第37条による健康診断受診者は56名であった。また、大学組織再編と引用法律名変更および目の水晶体被ばく線量限度引き下げに伴い、放射線障害予防規程の改正を行い令和４年４月１日に施行した。

施設関連では、動物飼育室の温度管理用として空調装置を設置した。また、排水設備の移送用ポンプ２台のチャッキ弁交換を行った。放射線計測用として最新の GM サーベイメータとシンチレーションサーベイメータを購入し、操作性が格段に向上し高感度な放射線管理が簡便に行えるようになった。

（医学部 RI 施設長　吉　満　研　吾）

4）福岡大学医学会

令和４年度は第45回総会と、第86回・第87回例会とが行われた。

A）第45回総会

1．日　時：令和４年９月28日(水) 17：30～19：15
　場　所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F　大講堂
　議　事：１）報告事項
　　２）令和３年度会計報告および令和４年度予算案

2．令和４年度の役員は下記のとおり承認された。

会　長		小　玉　正　太	医学部長
副会長		髙　松　　泰	大学協議員
顧　問		朔　　啓二郎	学長
		岩　﨑　昭　憲	福岡大学病院長
		河　村　　彰	福岡大学筑紫病院長
		宮　城　由美子	看護学科主任
幹事	庶務幹事	鍋　島　茂　樹	総合診療部
	会計幹事	松　永　　彰	総合医学研究センター
	集会幹事	川　浪　大　治	内分泌・糖尿病内科学
	編集幹事	小　川　正　浩	研究推進部委員
会計監事		羽　賀　宣　博	腎泌尿器外科学
		升　谷　耕　介	腎臓・膠原病内科学
評議員	人体生物系	藤　田　孝　之	生理学
		白　澤　専　二	細胞生物学
	生体制御系	廣　松　賢　治	微生物・免疫学
		髙　木　誠　司	形成外科学
	病態構造系	濵　﨑　　慎	病理学
		安　部　　洋	脳神経外科学
	病態機能系	山　本　卓　明	整形外科学
		和　田　秀　一	心臓血管外科学
	先端医療科学系	永　光　信一郎	小児科学
		安　永　晋一郎	生化学
	社会医学系	有　馬　久　富	衛生・公衆衛生学
		川　嵜　弘　詔	精神医学
	講師・助教	田　中　智　子	再生・移植医学
	大学院生	森　永　絵　理	生体制御系

3．令和３年度会計報告ならびに令和４年度予算案は承認された。

B）第86回例会

日　時：令和４年９月28日（水）17：30～19：15

場　所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F　大講堂

内　容：

１．第24回福岡大学医学会賞受賞論文講演

金賞（1名）

①講演者…漆山　大知　　座長…宮本　新吾

「Vaginal microbiome as a tool for prediction of chorioamnionitis in preterm labor: a pilot study」

銀賞（２名）

②講演者…山内　　涼　　座長…平井　郁仁

「Elobixibat, an ileal bile acid transporter inhibitor, ameliorates non-alcoholic steatohepatitis in mice」

③講演者…胡　　耀鵬　　座長…藤田　孝之

「Theoretical Investigation of the Mechanism by which A Gain-of-Function Mutation of the TRPM4 Channel Causes Conduction Block」

２．新任教授講演

講演者…永光信一郎（小児科学）　　座長…小玉　正太

「ICT と医療・健康・生活情報を活用した“次世代型子ども医療支援システム”の構築に関する研究」

３．第24回福岡大学医学会賞授賞式

C）第87回例会

日　時：令和５年２月15日（水）18：00～19：00

場　所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F　大講堂

内　容：

１．新任教授講演

講演者…小川　正浩（臨床検査医学）　　座長…小玉　正太

「臨床心臓電気生理と不整脈治療」

２．福岡大学医学紀要第49巻優秀論文賞授与式

受賞者：山﨑裕太郎（整形外科）

長友　雅也（整形外科）

３．医学生業績報告書「JAMeS」優秀賞授与式

牧野響香，鍵本千紘，家木駿介，清水颯希，篠原麻紀，池田諭治

糖尿病治療薬と COVID-19には関係があるのか？　JAMeS 5(1)：19-38，2022

４．受賞論文の要旨講演

講演者…山﨑裕太郎　　座長…山本卓明

「The Efficacy of Add-on Iguratimod for Patients with Rheumatoid Arthritis who Inadequately Responded to Methotrexate」

講演者…長友　雅也　　座長…山本卓明

「Return to Sports and Physical Activities after Minimally Invasive Distal Linear Metatarsal Osteotomy for Hallux Valgus」

（庶務幹事　**鍋　島　茂　樹**）

福岡大学医学部年報　令和４年度

令和５年10月６日発行

編　集　　福　岡　大　学　医　学　部
福岡市城南区七隈七丁目45番１号

発　行　　福　岡　大　学　医　学　部　事　務　課
福岡市城南区七隈七丁目45番１号

印刷所　　福　岡　印　刷　株　式　会　社
福岡市中央区天神三丁目４番３号